

兵庫県立 こども病院

# 年報

2005 VOL.36



HYOGO PREFECTURAL

KOBE CHILDREN'S HOSPITAL ANNUAL REPORT 05 VOL.36



## 基本理念

周産期医療および小児医療専門施設として、母と子どもへの総合的、高度専門的な医療を通じて、親と地域社会と一体になって子どもたちの健やかな成育を目指します。

## 基本方針

1. 子どもの権利を重視した医療の実践
2. 安心と信頼の医療の遂行
3. 専門的な高度医療の推進
4. 地域医療・保健・福祉機関との連携
5. 親と子の健康啓発活動への貢献
6. 子どもへの愛とまことに満ちた医療人育成





## 患者権利宣言

1. あなたは、ひとりの人間として尊重され、おもいやりのある医療を受ける権利があります。
2. あなたとご家族は、理解しやすい言葉や方法で十分な説明と情報を得て、治療計画に参加する権利があります。
3. あなたとご家族は、医療について同意や拒否の権利があります。
4. あなたとご家族のプライバシーは守られます。

みなさまと私たち職員がお互いを尊重しあい良質な医療を実現していけるよう次のことにご協力下さい。

病気について理解し、安心して医療が受けられるよう、今までの経過・病状の変化や問題について詳しく正確にお知らせ下さい。  
病院のきまりや約束ごとをお守り下さい。



# 目 次

## 病 院 概 要

1 兵庫県立こども病院の設立目的 .....	3
2 沿 革 .....	3
3 業 務 図 .....	6
(1) 機構一覧表 .....	6
(2) 担当医師表 .....	7
(3) 外来診療スケジュール表 .....	8
4 職 員 .....	9
(1) 職種別人員表 .....	9
(2) 看護単位別看護職員等配置状況 .....	10
5 各種委員会 .....	11

## 教育研修活動

1 カンファレンス・勉強会 .....	21
2 看護研修 .....	40
3 研修医・専攻医 指導記録 .....	67

## 学 術 活 動

1 書 籍 .....	75
2 雑誌発表 .....	76
3 口述発表 .....	85

診 療 統 計 .....	113
---------------	-----

ボランティア部門の動き .....	195
-------------------	-----

一年のあゆみ .....	199
--------------	-----

# は じ め に

兵庫県立こども病院

病院長 中 村 肇

本院は、昭和45年に県政100年記念事業として開設され、以後兵庫県の小児医療の中核病院としての役割を果たしてきた。平成16年10月には周産期医療センターが開設され、胎児から思春期までの一貫した医療の展開、さらに、平成14年10月には暫定三次小児救急医療の拠点として救急医療室が開設され、小児救急への県民のニーズに応えてきた。搬送されてくる最重症小児救急患者の急増から、平成19年度開設を目指してPICUをも併設した本格的な三次小児救急医療の拠点病院となる予定である。このように、兵庫県においては絶えず時代のニーズを先取りする形で小児医療への行政的施策が展開されてきた。

平成17年度のわが国の人口統計では、合計特殊出生率が1.25、出生数も最低の102万人台なり、また65歳以上の高齢者が20%を占めるという世界の少子高齢社会へと加速している。若い夫婦が安心して妊娠・出産・子育てができる社会づくりの少子化対策がとられてはいるが、一向に改善の兆しがみられない。それどころか、出産数・出生数の減少以上に、産科医、小児科医の不足がより著しく、全国各地で産科・小児科の閉鎖が相次ぎ、周産期医療・小児医療は深刻な事態を招いている。かかる状況下で、本院に課せられた使命として診療サービスとともに、産科医、小児科医をはじめとして小児医療に関わっている看護師、臨床検査技師、保育士、栄養士などあらゆる職種の医療者の小児に関する教育実習施設としての場の提供がある。

本院は、平成16年度からスタートした新臨床医学研修制度においては、産科・小児科のない管理型研修施設の補完のための協力施設として、また、初期研修を修了した後に小児医療への従事を志す医師たちのために専攻医の受け入れを積極的に図り、兵庫県下の産科医・小児科医の確保を目指している。専攻医受け入れのためのプログラムも総合診療科を中心に内科系各科、麻酔科、放射線科などの複数診療科をローテーションし、小児科専門医を目指すものとなっている。

いま、こども病院が小児専門医療施設として求められる役割は、各診療科が協力し合っ  
て行う集学的医療とともに、指導相談部を中心に地域保健所・児童相談所・児童福祉施  
設・教育機関・地域医療機関等との連絡調整を行い、退院後の治療・療養が円滑に進む  
ことを支援するだけでなく、一人一人の個性を尊重しながら、お子さまの地域生活がよ  
りよいものとなるように活動を行っている。

本年報を通じて、兵庫県立こども病院についてご理解いただき、より一層のご支援・  
ご指導を賜りたくお願い申し上げます。最後に、本年報の編纂にあたり、多大なご努力  
を頂いた大橋正伸周産期医療センター長、総務部次長今井 明氏をはじめとするスタッ  
フの方々に厚く感謝申し上げます。

平成18年6月6日

# 病 院 概 要

## 1. 兵庫県立こども病院の設立目的

こども病院は、小児治療が内科疾患を除いては、成人と同じ環境で診療が行われている現状と、ますます進展しつつある専門化、細分化した医学を基礎とした小児特有の検査、診断、治療を行いうる小児専門病院の設置を望む社会的要請に応えて、県政100年の記念事業の一環として、昭和45年に開設されました。これは、小児病院の業務に加え、異常児の出生予防、小児の精神保健、各科医療に伴う訓練部門等の医療行政もあわせて行う、小児メディカルセンターでもあります。

具体的には、

- (1) 近代小児医療の進歩、在り方に則し、小児疾患の診断と治療に関する高度に専門化、細分化した機能を総合的に発揮できること。
- (2) 小児に関する医療相談機関であること。
- (3) 小児の保健衛生に関する行政分野に対して、あらゆる面で協力機関であること。
- (4) 小児医療従事者の育成研修期間であること。

などであります。

平成6年10月には、ハイリスク母子の救命を図ることを目的とし、ハイリスク母子の24時間体制受け入れ、妊産婦、胎児、新生児の管理を連続かつ一体的に行うことのできる周産期医療センターをオープンしました。また平成14年10月より県下の第3次小児救急の拠点として救急医療室が開設されました。

## 2. 沿 革

- |             |   |
|-------------|---|
| (1) 名 称     | 兵庫県立こども病院   |
| (2) 開 設     | 昭和45年4月1日 (現管理者 中村 肇)   |
| (3) 所 在 地   | 神戸市須磨区高倉台1丁目1-1 TEL 078-732-6961 (代表)   |
| (4) 診 療 科 目 | 小児科 (一般、脳神経、血液・腫瘍、腎臓、循環器、アレルギー、遺伝、代謝内分泌、未熟児・新生児)、精神科、神経科、小児外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、小児歯科、産科、内科 (母性) |
| (5) 病 床 数   | 一般290床 (稼働260床)   |
| (6) 沿 革     |   |
|             | 昭和45年4月1日 病院開設 (管理者 平田 美穂)  |
|             | 昭和45年4月30日 病院本館完成   |
|             | 昭和45年5月8日 診療開始  |
|             | 昭和45年7月23日 基準寝具実施 (寝第295号)  |
|             | 昭和45年9月17日 基準給食実施 (食第307号) 基準看護実施 (看第130号)  |
|             | 昭和46年12月28日 母と子の指導教室完成 現在は母と子の教室と呼称   |
|             | 昭和47年2月1日 基準看護一般特類変更承認 (険第98号)  |
|             | 昭和47年12月1日 基準看護精神特類変更承認 (険第219号)  |
|             | 昭和49年10月1日 基準看護一般特二類変更承認 (険第108号) 基準看護精神特一類変更承認 (険第108号)  |

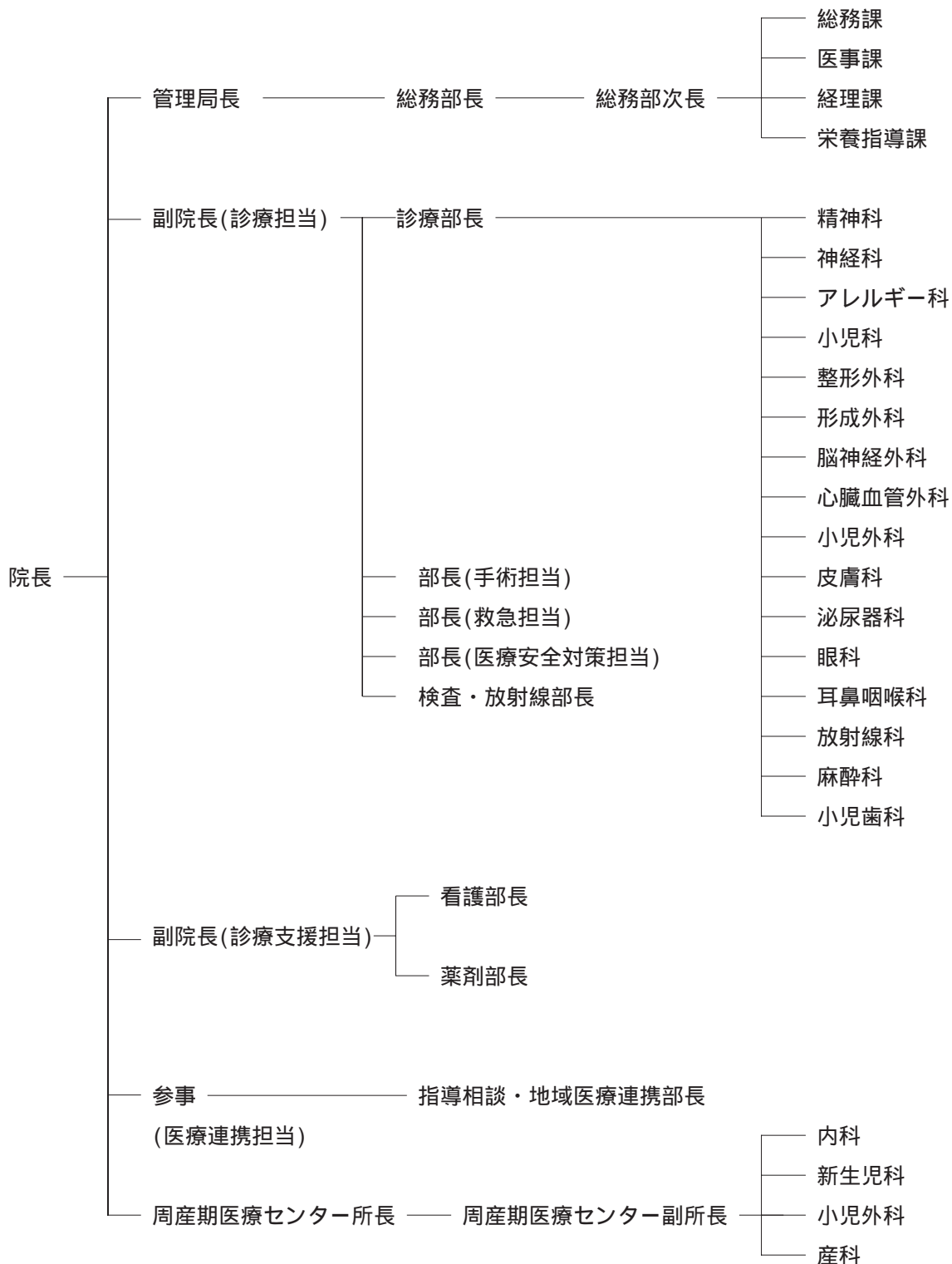


昭和50年4月1日	管理者変更受理 (管理者 児嶋 喜八郎)
昭和54年3月31日	全館防災設備工事完成
昭和54年8月2日	日本脳神経外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される
昭和55年4月1日	昭和55年3月26日 兵庫県条例第11号 兵庫県病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例により診療科目改正、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科を追加
昭和56年5月5日	シアトル小児整形外科病院医療センターとの間に姉妹病院提携
昭和56年10月7日	日本外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される
昭和56年10月12日	日本麻酔学会認定医制度による指導病院として認定される
昭和56年12月6日	日本胸部外科学会認定医認定制度による指定訓練場所として認定される
昭和57年4月1日	日本小児外科学会認定医制度による認定医育成施設として認定される
昭和58年4月1日	日本病理学会認定病理医制度による認定病院として認定される
昭和58年4月11日	日本整形外科学会認定医制度研修施設として認定される
昭和58年10月1日	日本眼科学会専門医制度による研修施設として認定される
昭和60年3月18日	プリンセス・マーガレット小児病院との間に姉妹提携
昭和60年3月28日	日帰り手術棟完成
昭和60年4月3日	日本形成外科学会認定医研修施設として認定される
昭和60年4月15日	日帰り手術棟手術開始
昭和61年3月31日	日本小児科学会認定医制度による研修施設として認定される
昭和61年4月1日	管理者変更受理 (管理者 玉木 健雄)
昭和61年4月1日	日本泌尿器科学会専門医教育施設として認定される
昭和61年10月1日	日本医学放射線学会専門医制度規定による修練機関として認定される
昭和62年1月22日	自家発電設備改良工事完成
平成元年2月1日	外国医師臨床習練制度による研修施設として認定される
平成3年5月1日	基準看護一般特三類 (一部) 変更承認 (険第220号)
平成4年4月1日	基準看護一般特三類 (260床に) 変更承認 (険第363号) 医事会計システムの電算化開始、医療業務・事務当直・警備の全面委託開始
平成4年5月9日	週40時間制試行
平成4年5月18日	病床数260床に変更承認 (精神病棟廃止)
平成4年7月6日	病床数290床に変更承認 (兵庫県指令医第1 - 67号)
平成4年7月29日	周産期医療センター安全祈願祭
平成4年11月7日	週40時間制本格実施
平成5年4月1日	管理者変更受理 (管理者 竹峰 久雄)
平成6年7月20日	周産期医療センター定礎式
平成6年9月1日	管理者変更受理 (管理者 小川 恭一)
平成6年9月30日	ドクターズカー購入
平成6年9月30日	周産期医療センター完成
平成6年10月1日	行政組織規則の改正 (兵庫県規則第66号) により、周産期医療センターを設置
平成6年10月3日	周産期医療センター開設記念式典
平成6年10月4日	周産期医療センター診療開始

平成7年1月17日	阪神・淡路大震災
平成7年9月1日	本館改修工事に着手
平成8年4月1日	日本産科婦人科学会認定医制度による卒後研修指導施設として指定される
平成10年6月30日	本館改修工事完了
平成11年4月2日	管理者変更受理 (管理者 山本 節)
平成12年3月1日	総合周産期母子総合医療センターとして指定される
平成12年4月24日	慢性疾患児家族宿泊施設 (ファミリーハウス) を開設
平成13年10月10日	駐車場立体化工事に着手
平成14年2月28日	立体駐車場完成
平成14年4月1日	臨床研修病院指定 (厚生労働省発医政第0401006)
平成14年4月1日	地方公営企業法の財務適用から全部適用に移行
平成14年10月15日	第3次小児救急開設 (稼働病床260床)
平成15年4月2日	管理者変更 (管理者 中村 肇)
平成15年10月30日	臨床研修病院指定 (厚生労働省医政発第1030005号-511,519,526,533)
平成15年11月28日	臨床研修病院指定 (厚生労働省医政発第1128007号-330)
平成16年3月22日	(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価認定
平成16年4月1日	アレルギー科追加

### 3. 業 務 図

(1) 機構一覽表 (2005.12.31現在)



## (2) 担当医師表 (2005.12.31現在)

- |             |   |
|-------------|---|
| (1) 総合診療科   | 中村 肇 (院長)、山崎武美 (指導相談・地域医療連携部長)<br>上谷良行、富永健太   |
| (2) 新生児科    | 中尾秀人、芳本誠司、溝淵雅巳、吉形真由美、柄川剛  |
| (3) 脳神経内科   | 永瀬裕朗  |
| (4) 循環器科    | 鄭輝男、城戸佐知子、佃和弥、藤田秀樹  |
| (5) 腎臓内科    | 田中亮二郎   |
| (6) 代謝内分泌科  | 郷司克己  |
| (7) 血液・腫瘍科  | 小阪嘉之、川崎圭一郎  |
| (8) 救急医療室   | 長谷川大一郎、尾崎佳代、丸山あずさ、片山珠美  |
| (9) アレルギー科  | 三好麻里、黒澤茶茶   |
| (10) 小児外科   | 西島栄治、連利博、佐藤志以樹、高見澤滋、山下方俊、和田英見<br>津川二郎   |
| (11) 心臓血管外科 | 大嶋義博、吉田昌弘、高野信二、島津親志、松久弘典、日隈智憲   |
| (12) 脳神経外科  | 長嶋達也、河村淳史、秋山英之  |
| (13) 形成外科   | 西本聡、大山知樹  |
| (14) 整形外科   | 薩摩眞一、小林大介   |
| (15) 泌尿器科   | 杉多良文、乃美昌司、相野谷慶子、高木志寿子   |
| (16) 耳鼻咽喉科  | 大津雅秀  |
| (17) 眼科     | 山本節 (名誉院長)、野村耕治、西崎雅也  |
| (18) 精神科    | 前田宏章  |
| (19) 小児歯科   | 石井信行  |
| (20) 産科     | 大橋正伸、船越徹、石原尚徳、佐本崇、近田恵里  |
| (21) 放射線科   | 金川公夫、赤坂好宣   |
| (22) 麻酔科    | 村田洋、香川哲郎、鈴木毅、高辻小枝子、大西広泰、三浦泰、小野礼子  |
| (23) 病理     | 吉田牧子  |
| (24) 専攻医    | 加藤竜一、笠井和子、森雅樹、小林真之、福島雅子、細川悠紀、齋木宏文、<br>赤堀洋一郎、畑田智子、高橋宏明、岡村有祐、戸田直歩、藤井貴、<br>猿渡由美子、栗原ゆか、西山淳二、吉村依里子 |

(3) 外来診療スケジュール (平成17年12月1日)

科名	曜日	内線	月		火		水		木		金	
			午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内科 2241	総合診療	2242	田中	三好	上谷 (2262)	細川	三好		山崎		相馬	
	アレルギー	2242			三好					三好		
	予防接種	2262	三好									
	脳神経	2262	永瀬丸			永瀬丸			相馬			
	循環器	2243	鄭		鄭		城戸		城戸		佃	
	腎臓	2254			田中							田中
	代謝 内分泌	2263		1,2,4週 郷司 (2242)			郷司		郷司			
	新生児	2254						中尾 溝渕 吉形		中尾 芳橋 本本		吉形 石川
	血液	2263		小阪		小阪					小阪	
外科 2245	一般	2247	佐藤	ストマ	高見澤	在宅療養	津川		西島		連	
	心臓	2267	大嶋				芳村				山口 芳村	
	脳神経	2248	長嶋	秋山			長嶋				秋山	長嶋
	形成	2268			西本 大山 言語訓練				西本 大山			
	整形	2246		薩摩 小林	薩摩 小林		薩摩 小林					
眼科	2250	野村 西崎 大島			野村 西崎 大島	野村 西崎 鎌尾			野村 西崎 鎌尾			
泌尿器科	2256	乃美		杉多 乃美 相野谷 高木		渡辺			杉多 乃美 渡辺 相野谷	杉多 乃美 渡辺 相野谷		
											二分脊椎	
耳鼻咽喉科	2257	阪本		阪本	2,4週 補聴器						阪本	
		言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚		
歯科	2264	石井		石井				石井		石井		
精神科	2655	井出	前田	前田		前田		白瀧		前田		
				伊東						松川		
卒煙外来	2655						永瀬					
発達行動	2655						永瀬					
産科 2660	2661	大橋	超音波	石原		佐本	超音波	船越		大橋	超音波	
	2662	佐本	検査	船越		新谷	検査	石原		新谷	検査	

## 4. 職 員

## (1) 職種別人員表 (2005.12.31現在)

職 種 別		現 員 [人]
事 務 職		16
技 能 職	医 師 ・ 歯 科 医 師	68(20)
	薬 劑 師	11
	診 療 放 射 線 技 師	14
	臨 床 検 査 技 師	16(1)
	栄 養 士	3(1)
	看 護 師	384(44)
	視 能 訓 練 士	3
	心 理 判 定 員	2
	精 神 保 健 福 祉 相 談 員	1
	保 育 士	7(5)
	保 健 師	1
	電 気 技 師	1
	歯 科 衛 生 士	1
	臨 床 工 学 技 士	2
	小 計	514(71)
技 能 労 務 職	電 話 交 換 員	2(1)
	機 関 員	5(1)
	調 理 員	12(4)
	小 計	19(6)
合 計		549(77)

注1 「医師・歯科医師」の現員数は、非常勤医師、研修医師を除く。

2 ( ) 外書きは、臨時的任用職員

## (2) 看護單位別看護職員等配置狀況

平成17年12月31日現在

看護單位	產科	NICU	GCU	ICU	HCU	一般外科 急救急 治療室	循環器 主体A	循環器 主体B	学童 主体	内外科 混 合	血液 主体	中央 手術室	外来	看護部	休暇	合計
稼働病床数	32	15	35	8	20	28	24	24	24	24	26					260
看護師定数	40	40	32	34	32	34	27	27	18	25	27	32	21	3		392
看護師現員数	38	39	31	33	32	35	26	27	17	25	26	31	22	3	43	428
内 訳	助産師	1	1			1		1								26
	看護師 (男性) (パート)	16	38	30	33 (3)	34 (5)	26 (2)	26 (2)	17 (1)	25 (1)	26 (1)	31 (4)	22	3	43	402 (23)
合計	38	39	31	33	32	35	26	27	17	25	26	31	22	3	43	428
保育士							1	1			2					4
看護助手													1(P)	1(P)		2(P)
補助業務	1(業)	1(業)	1(業)	1(業)	1(業)	1(業)	1(業)	1(業)	1(業)	1(業)						

注) 印: 男性(再掲) P: 看護師日々雇用(再掲) (P): 他業種日々雇用 (業): 業者委託

## 5. 各種委員会

(1)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
総括マネージャー部会	院 長	平日毎日11時	院長室	10	前日のヒヤリハット事例
減 点 委 員 会	山崎 武美	毎月		10	減点されたものの再審査の検討

(2)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
感 染 対 策 委 員 会 第 9 回	中尾 秀人	平成17年 1月15日	研修室 B	15	細菌分離状況 (定例 ) 抗MRSA役使用状況 (定例 ) ICT活動状況報告 (定例 ) インフルエンザワクチン接種に関する報告 流行性感染症ワクチン接種に関する報告 輸液ライン管理について
第10回	中尾 秀人	平成17年 2月19日	研修室 B	14	定例報告 ( 、 、 ) 水痘感染対策について 閉鎖式輸液ラインについて 感染対策マニュアルについて
第11回	中尾 秀人	平成17年 3月12日	研修室 B	13	定例報告 ( 、 、 ) 水痘感染対策マニュアルの修正について 今シーズンのインフルエンザ対策について
第12回	中尾 秀人	平成17年 4月9日	研修室 B	13	定例報告 ( 、 、 ) 本年度のICT活動目標について 水痘感染対策について インフルエンザ感染対策について 新規採用、転入職員へのワクチン接種計画 について
平成17年度 第 1 回	中尾 秀人	平成17年 5月14日	研修室 B	18	新委員紹介 定例報告 ( 、 、 ) 院内感染動向について 新規採用、転入職員へのワクチン接種計画 について 感染対策マニュアルの追加事項について IVH、CV、採血後のライン消毒法について
第 2 回	中尾 秀人	平成17年 6月11日	研修室 B	17	定例報告 ( 、 、 ) 手術患者に対するワクチン予防接種について 自動水道蛇口の採用について ICUガウンの廃止について ディスボ雑巾の導入について
第 3 回	中尾 秀人	平成17年 7月10日	研修室 B	14	定例報告 ( 、 、 ) 感染対策マニュアルの製本について 職員ワクチン接種について 歯科口腔外科領域に関する院内感染対策 (報告)



第4回	中尾 秀人	平成17年 8月13日	研修室 B	11	定例報告（ 、 、 ） 院内感染対策にかかる職員研修 歯科口腔外科領域に関する院内感染対策 (報告)
第5回	中尾 秀人	平成17年 9月10日	研修室 B	10	定例報告（ 、 、 ） 院内感染対策にかかる職員研修 歯科口腔外科領域に関する院内感染対策 (報告)
第6回	中尾 秀人	平成17年 10月13日	研修室 B	10	定例報告（ 、 、 ） 職員に対するインフルエンザワクチン接種 について ICUのガウン廃止について 歯科口腔外科領域に関する院内感染対策 (報告)
第7回	中尾 秀人	平成17年 11月12日	研修室 B	12	定例報告（ 、 、 ） 職員に対するインフルエンザワクチン接種 について ICUのガウン廃止について 歯科口腔外科領域に関する院内感染対策 (報告)
第8回	中尾 秀人	平成17年 12月10日	研修室 B	13	定例報告（ 、 、 ） 院内感染対策にかかる職員研修会（報告） インフルエンザ流行時の家族面会に対する 病棟対応 歯科口腔外科領域に関する院内感染対策 (報告)

(3)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
倫 理 委 員 会	中村 肇	2月10日 10:30~	応接室	7	MRA（遺伝子組み換えヒト化抗ヒトイン ターロイキン6レセプターモノクローナル抗 体）の全身型JIA（若年性特発性関節炎） 患者に対する治験外使用について
倫 理 委 員 会	中村 肇	3月17日 10:30~	応接室	8	1. 切迫早産治療における塩酸リトドリン 療法と硫酸マグネシウム療法の有効性と 安全性の非盲検ランダム化比較試験 2. 小児フィラデルフィア染色体陽性急性 リンパ性白血病（Ph+ALL）に対する imati- nib mesylate に関する第 相臨床研修 3. 小児リンパ芽球型リンパ腫 stage / に対する多施設共同後期第 相臨床試験 4. 小児成熟B細胞性腫瘍に対する短期集 中型多剤併用化学療法の有効性と安全性 の検討（臨床後期第 相試験）

倫理委員会	中村 肇	5月31日 16:30～	応接室	9	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ノボセブン高用量単回投与法の有用性の検討</li> <li>2. 乳幼児重症型血友病に対する凝固因子製剤の定期補充療法に関する前方視的研究</li> <li>3. 附随研究：real-time PCR法を用いたWT1mRNA及びMLL遺伝子関連キメラMrna定量による微小残存病変(MRD)解析 - 治療後の微小残存病変の量と治療成績との関係についての研究</li> <li>4. 頻回再発型小児ネフローゼ症候群を対象としたシクロスポリン投与2時間後血中濃度値による投与量調節法の多施設共同非盲検ランダム化比較試験</li> </ol>
倫理委員会	中村 肇	6月6日 16:00～	応接室	9	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 難治性白血病に対する同種骨髄移植後免疫療法としての活性化CD4陽性ドナーリンパ球輸注の実施</li> </ol>
倫理委員会	中村 肇	7月13日 13:30～	応接室	9	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新生児期～小児期における心疾患侵襲治療の安全性向上に関する研究-新生児・乳幼児開心術における人工心肺の発達に与える影響の評価と、安全な新生児・乳児期開心術のガイドライン確立に関する研究</li> <li>2. 重症肺血流増加型心疾患に対する窒素ガス混合低酸素換気療法の導入</li> <li>3. プロスタサイクリン等の内服治療で十分な効果が得られない重症の小児期肺高血圧患者、あるいはNO吸入から離脱できない術後の肺高血圧患者におけるsildenafil(バイアグラ)の経口投与の治療効果の検討と安全性の確認</li> </ol>
倫理委員会	中村 肇	10月26日 13:00～	応接室	9	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. クリニクラウン(臨床道化師)が入院中の小児がんをもつ子ども、家族、医療従事者に与える影響の把握</li> <li>2. 2000年出生超低出生体重児6歳児予後の全国調査</li> </ol>

(4)

名称	委員長	開催日時	場所	出席者数	議題
機種選定委員会	管理局長	不定期	会議室	8	200万円以上の医療機械の選定

(5)

名称	委員長	開催日時	場所	出席者数	議題
診療材料委員会	西島栄治	年4回 (6、9、 12、2月)	研修室A B	10～13 名	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新規診療材料採用申請の審議</li> <li>2. JITSシステムデータを基にした診療材料変更提案の審議</li> </ol>

(6)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
検 査 委 員 会	金川 公夫	平成17年 1月26日	検査技師室	10	輸血検査輸血用血液製剤管理一元化の推進 状況 血液型ダブルチェック24時間体制の開始に ついて 中間報告書の廃止について 病棟検査の前日予約について 生理検査予約システムの運用開始について

(7)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
栄 養 給 食 委 員 会 第 1 回	西島 栄治	3月16日	第一会議室	9	1. 日本人の食事摂取基準（2005年版）の 策定について 2. 牛レバーによるカンピロバクター食中 毒Q & Aについて
第 2 回	西島 栄治	6月23日	第一会議室	8	1. 日本人の食事摂取基準（2005年版）の 当院での取り扱いについて 2. 低出生体重児用コナミルクの取り扱い について（エンテロバクタ・サカザキ） 3. 平成16年度ニアミス報告集計結果につ いて
第 3 回	西島 栄治	12月22日	第一会議室	8	1. 平成17年度（4月～11月）の給食材料 執行状況について 2. クリスマスイベント及び年末年始献立 について 3. 嗜好調査結果について 4. 給食調理機器に関するアスベスト対策 について

(8)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
輸 血 療 法 委 員 会 第 1 回	山口 眞弘	3月9日	研修室B	10	1. 自己血輸血マニュアル
第 2 回	西島 栄治	7月14日	応接室	9	1. 前年度血液使用状況報告 2. 輸血前後の感染症マーカー検査の実施 3. 輸血副作用報告
第 3 回	西島 栄治	11月6日	研修室A B	12	1. 前年度血液使用状況報告 2. 「輸血療法の実施に関する指針」及び 「血液製剤の使用指針」の改定 3. 輸血管理の一元化 4. 血液の使用状況報告

(9)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
薬 事 委 員 会 第 1 回	山崎 武美	3月16日	研修室 C	10	1. 採用医薬品 2. 採用中止医薬品 3. 薬剤情報提供 4. 特殊製剤申請書 5. 在宅療法に係る麻薬取扱
第 2 回	山崎 武美	7月29日	研修室 C	13	1. 採用医薬品 2. 採用中止医薬品 3. 薬剤情報提供
第 3 回	山崎 武美	11月30日	研修室 C	12	1. 採用医薬品 2. 採用中止医薬品 3. 薬剤情報提供 4. 血液の使用状況報告

(10)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
治 験 審 査 委 員 会	大橋 正伸	2月25日	応接室	7	1. アトモキセチンの小児における注意欠陥 / 多動性障害患者に対するプラセボ対照二重盲検比較試験及び長期継続投与試験の実施可否 2. MRA の安全性報告及び逸脱報告 3. AW-ME01を用いた IN0346-404の安全性報告
治 験 審 査 委 員 会	大橋 正伸	5月24日	研修室 C	8	1. アトモキセチンの安全性報告 2. MRA の安全性報告及び同意文書の一部変更 3. AW-ME01を用いた IN0346 - 404の安全性報告 4. OLC を用いた内視鏡的注入療法その他施設オープン試験の実施計画書の変更
治 験 審 査 委 員 会	大橋 正伸	8月23日	研修室 A B	8	1. アトモキセチンの安全性報告及び同意文書の一部変更 2. AW-ME01を用いた IN0346 - 404の安全性報告及び逸脱報告、治験終了報告 3. OLC を用いた内視鏡的注入療法その他施設オープン試験の実施計画書の変更
治 験 審 査 委 員 会	大橋 正伸	10月24日	研修室 C	8	1. アトモキセチンの安全性報告及び同意文書の一部変更 2. MRA の全身型 JIA 及び多関節に活動性を有する JIA の長期投与試験の安全性報告及び同意文書の一部変更

治 験 審 査 委 員 会	大橋 正伸	12月20日	研修室 C	8	1. アトモキセチンの安全性報告及び同意文書の一部変更 2. MRA の全身型 JIA 及び多関節に活動性を有する JIA の長期投与試験の安全性報告及び同意文書の一部変更 3. MRA の全身型 JIA に対する第 Ⅲ 相試験及び多関節に活動性を有する JIA の一般臨床試験に関する終了報告 4. OLC を用いた内視鏡的注入療法その他施設オープン試験の逸脱報告
---------------	-------	--------	-------	---	--

(11)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
防 災 対 策 委 員 会	山崎 武美	8月19日	応接室	13	今年度消火訓練（部分訓練）実施
防 災 対 策 委 員 会	山崎 武美	11月25日	応接室	15	今年度消火訓練（総合訓練）実施
防火訓練事前説明会	山崎 武美	12月7日	研修室 A B	50	12.14防火訓練事前説明

(12)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
広 報 委 員 会	大橋 正伸	6月29日	産科会議室	10	1. 年報（2004）について 2. 元気カエルの編集について

(13)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
救急医療室運営委員会 第 1 回	上谷 良行	平成17年 1月26日	研修室 C	7	1. 運用実績報告 2. 平成16年度運用実績
第 2 回	上谷 良行	平成17年 2月23日	研修室 C	6	1. 運用実績報告 2. 小児救急センターについて
第 3 回	上谷 良行	平成17年 3月23日	研修室 C	7	1. 運用実績報告 2. 電話相談事業
第 4 回	上谷 良行	平成17年 5月24日	研修室 C	7	1. 運用実績報告 2. 多重事故の患者受け入れ
第 5 回	上谷 良行	平成17年 6月28日	研修室 C	8	1. 運用実績報告 2. 救急医療室の入院受入対策
第 6 回	上谷 良行	平成17年 7月26日	研修室 C	7	1. 運用実績報告 2. 受入不可件数の増加 3. 後方ベッド対策について
(小児救急センター建設打合せ) 第 7 回	上谷 良行	平成17年 8月29日	応接室	10	1. 建設予定地 2. 今後のスケジュール

第8回	上谷 良行	平成17年 9月12日	応接室	13	1. 建設予定地 2. 自家発電の問題
第9回	上谷 良行	平成17年 9月21日	応接室	12	1. 建設予定地 2. 渡り廊下の問題
(救急センター開設準備プロジェクト) 第10回	上谷 良行	平成17年 9月28日	応接室	15	1. 建設図面の検討 2. アクセスの問題
第11回	上谷 良行	平成17年 10月27日	応接室	12	1. 建設図面の検討
第12回	上谷 良行	平成17年 11月18日	応接室	10	1. 建設図面の検討
第13回	上谷 良行	平成17年 11月25日	応接室	11	1. 建設図面の検討
(小児救急センター建設打合せ) 第14回	上谷 良行	平成17年 12月2日	応接室	7	1. 建設図面の検討
第15回	上谷良行	平成17年 12月7日	応接室	8	1. 建設図面の検討
第16回	上谷良行	平成17年 12月15日	応接室	10	1. 建設図面の検討
第17回	上谷良行	平成17年 12月27日	応接室	8	1. 建設図面の検討

(14)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
リスクマネジメント部会 第1回	長嶋 達也	4月26日	研修室A B	25	1. 各部署3月ニアミス報告 2. 平成16年度ニアミス発生状況報告 3. 兵庫県病院局企画課医療安全係からの報告
第2回	長嶋 達也	5月10日	研修室A B	21	1. 各部署4月ニアミス報告 2. ニアミス報告からひやりはっと報告へ変更を決定
第3回	長嶋 達也	6月14日	研修室A B	22	1. 各部署5月ひやりはっと報告 2. 平成17年度各部署別医療安全目標の設定
第4回	長嶋 達也	7月12日	研修室C	21	1. 各部署6月ひやりはっと・事故報告 2. 医療安全内部監査について提案
第5回	長嶋 達也	8月9日	研修室A B	22	1. 各部署7月ひやりはっと報告 2. 医療安全内部監査について
第6回	長嶋 達也	9月13日	研修室A B	19	1. 各部署8月ひやりはっと報告 2. 医療安全内部監査について

第7回	長嶋 達也	10月12日	研修室 A B	23	1. 各部署9月ひやりはっと・事故報告 2. 医療安全対策実践検証の日程・方法を計画
第8回	長嶋 達也	11月8日	研修室 A B	25	1. 各部署10月ひやりはっと報告 2. 医療安全対策実践検証に向けて調整
第9回	長嶋 達也	12月14日	研修室 A B	20	1. 各部署11月ひやりはっと報告 2. 医療安全対策実践検証実施経過報告

(15)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
クリニカルパス委員会 第1回	西島 栄治	4月19日	研修室 A B	11	1. 前年度の活動計画 2. 今年度の活動計画 3. パス委員会の運営
第2回	西島 栄治	5月17日	研修室 A B	12	1. 患者満足度調査の具体的計画実施 2. 今後のパス作成
第3回	西島 栄治	6月21日	研修室 A B	15	1. クリニカルパス学会について 2. 患者満足度アンケート中間報告
第4回	西島 栄治	7月19日	研修室 A B	13	1. 患者満足度調査中間報告 2. 新しいパスの検討と承認
第5回	西島 栄治	8月16日	研修室 A B	11	1. クリニカルパス大会開催計画 2. 患者満足度調査中間報告 3. パスの検討と承認

(16)

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
特殊職種職員健康診断 対策委員会	金川 公夫	平成17年 5月13日	事務準備室	6	特殊職種職員HB検診の実施について B型肝炎ワクチンの接種予定について

# 教育研修活動



1. カンファレンス・勉強会

日 時	テ ー マ	担 当	院内参加人数	院外参加人数	合 計
1月13日	『中国における小児医療の現状』	中村 肇(兵庫県立こども病院院長)			
1月27日	『溶血性尿毒症候群の一例』	富永健太(小児科)	27	0	27
2月10日	『胃食道逆流の外科的治療例』	渡邊高士(外科)	19	0	19
2月24日	『心不全を呈した心筋症の双胎児例』	則武加奈恵(循環器内科)	27	0	27
3月10日	『脳腫瘍死亡例の検討』 三ニレビュー：『小児の脳死』『小児悪性脳腫瘍のターミナルケア』	山本浩隆(脳神経外科) 秋山英之(脳神経外科) 長嶋達也(脳神経外科)	29	1	30
3月24日	『個人情報保護に関して』	松原利文(兵庫県病院長 課長補佐兼医療安全係長)			
4月14日	『気管支喘息と気管狭窄の症例』	米良和子(小児科)	13	1	14
4月28日	『生直後より高度のチアノーゼを呈した総肺静脈還流異常症』	高橋宏明(心臓血管外科)	29	0	29
5月12日	『血便を主訴として来院した症例の検討』	尾崎佳代(救急部)	18	4	22
5月第4週 学会多数のため 休み					
6月9日	『出生前診断された片側高度水腎症に対する治療方針』	相野谷慶子(泌尿器科)	26	2	28
6月23日	『血便を主訴としたミルクアレルギーの症例』	三好麻里(小児科)	24	3	27
7月14日	『小児の指の延長』	西本 聡(形成外科)	25	0	25
夏期休暇					
9月22日	『体位による末梢神経麻痺の予防』	薩摩真一(整形外科)	60	1	61
10月13日	『慢性肉芽腫症について』	尾崎佳代(小児科)	21	4	25
10月27日	『事例から学ぶ医療安全と事故防止』	江原一雅(神戸大学附属病院)	112	2	114
11月10日	『胎児期より心不全をきたした原発性心内膜繊維弾性症の1例』	笠井和子(新生児科)	42	0	42
11月24日	『乳幼児期の視機能発達とその障害 - 斜視はなぜ治療するのか? -』	西崎雅也(眼科)	25	4	29
12月8日	『結合双胎の出生前診断』	近田恵里(産科)	22	1	23

名 称	主催部署	日 時	場 所	人 数	テ ー マ	担 当
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/1/4 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	単心房・単心室を合併した先天性食道閉鎖症の1例	高橋 理子
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/1/7 金 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	先天性梅毒の1例	小幡
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/1/11 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	出生前診断されたくも膜嚢胞の3例	千田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/1/14 金 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	胎盤早期剥離による低酸素性虚血性脳症の1例	石川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/1/18 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	MRSA 敗血症を呈した品胎の1例	小幡
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/1/20 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	congenital complete AV block による胎児水腫の死亡例	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/1/25 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	BNPの基礎と文献的考察	橋本 崇
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/1/28 金 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	2004年入院統計	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/2/1 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	地方会予演会	千田, 小幡
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/2/3 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	MRIの基礎と文献的考察(functional & diffusion MRI)	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/2/10 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	IL-10の基礎と文献的考察	石川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/2/15 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	MASの2例	高橋 理子
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/2/17 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	IGF-1の基礎と文献的考察	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/2/22 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	PVLの1例-変性・炎症所見高度なmyomaとPVLの関係は?-	千田
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/2/24 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	周産期・新生児学会抄録(絨毛膜羊膜炎と超早産児の予後)	石川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/3/1 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	周産期・新生児学会抄録(MM) 双胎の妊娠管理と児の予後の検討)	高橋 理子
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/3/8 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	周産期・新生児学会抄録(Diffuse White Matter Injury 症例の検討)	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/3/10 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	周産期・新生児学会抄録(超早産児の身体発育の検討)	橋本 崇
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/3/15 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	周産期・新生児学会抄録(preterm PROMに伴う肺低形成症とDry Lung Syndromeの臨床像の比較検討)	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/3/18 金 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	第232回兵庫県未熟児新生児懇談会予演会(出生前指弾されたCCAMの6例)	石川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/3/18 金 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	周産期・新生児学会抄録(外科的介入を行った極低出生体重児の予後)	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/3/22 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	超早産児におけるビリルビン脳症についての検討	石川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/3/24 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	長期間MRSAを保留した1例	小幡
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/3/29 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	胎便性腸膜炎の1例	高橋 理子
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/3/31 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	PDA, ICH, PPHの1例	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/4/5 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	CDH, CAVC, IAAを合併した18trisomyの死亡例	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/4/7 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	先天性皮膚疾患の2例(Collodion baby, epidermolysis Bullosa)	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/4/12 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	早産児の気道内および胎盤におけるウレアプラズマ検出とCLDおよびCAMとの関連	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/4/14 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	小児科学会予演会	石川, 橋本, 芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/4/19 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	研究総括 vol.3	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/4/21 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	退院時MRIにおける白質障害の評価と神経予後との関連性-1-	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/4/26 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	DCH is associated with CLD in VLBW(PAS meeting 予演会)	橋本 崇
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/4/26 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	marked IUGR (238g) のMD twinの死亡例	高橋 理子

名 称	主催部署	日 時	場 所	人 数	テ ー マ	担 当
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/4/28 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	早産児のウレアプラズマ (U. u) と CLD および CAM, 臍帯炎との関連性	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/5/10 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	The Role of IGF-1 in the Development of ROP	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/5/12 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	周産期新生児学会予演会 (MM twinの予後からみた妊娠管理の問題点)	高橋 理子
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/5/17 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	CAVC, 難治性腹水, 閉塞性黄疸を合併した21trisomyの死亡例	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/5/17 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	臨床研究-新生児科での臍帯血の採取について-	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/5/17 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	早産児のウレアプラズマ (U. u) と CLD および CAM, 臍帯炎との関連性の研究-検体採取プロトコル(案)-	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/5/20 金 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	thanatophoric dysplasia type 1の1例	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/5/24 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	難治性乳糜胸水のオクトレオチドによる治療例	高橋 理子
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/5/26 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	Tegaderm (semitpermeable polyurethane membrane) を用いた超早期産児の皮膚管理	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/5/31 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	BNPはその後のCLDの予後を予測するか?	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/6/2 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	早産児のウレアプラズマ (U. u) と CLD および CAM, 臍帯炎との関連性	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/6/7 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	Gentle ventilation (lung protective strategy: LPS) について	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/6/9 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	Meconium peritonitisの1例	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/6/14 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	母体がHTLV-1 (+) の1例	小川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/6/16 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	先天性CMV感染症の1例	森
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/6/21 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	母体への塩酸リトドリン長期投与により呼吸障害が遷延した双胎児例	笠井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/6/24 金 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	Is Ureaplasma urealiticum really associated with CLD, CAMand funisitis in preterm infant?	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/6/28 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	周産期新生児学会予演会 (退院前頭部MRI 正常脳性麻痺症例の高産期因子と評価)	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/6/30 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	周産期新生児学会予演会 (preterm PROM に伴う肺拡張障害22例の検討)	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/7/5 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	周産期新生児学会予演会	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/7/7 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	日齢2にIVHを合併した超低出生体重児の1例	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/7/19 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	原因不明のPPHN (primary PH s/o) でECMOを導入したが死亡した1例	笠井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/7/19 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	胎児水腫, TAMを合併した21トリソミーの1症例	森
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/7/19 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	hypovolemic shockで死亡したTTTS受血児の1例	森
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/7/21 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	日齢1で吐血した1例 (新生児メレナ)	小川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/7/26 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	未熟児新生児学会抄録 (早産児の側脳室サイズ基準値の決定)	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/7/28 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	未熟児新生児学会抄録 (脳性麻痺を合併した胎児の臨床的検討)	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/8/2 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	未熟児新生児学会抄録 (重症CLDに対するDEXのレスキュー投与例の検討)	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/8/4 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	未熟児新生児学会抄録 (超早期産児へのNO吸入療法は有益か)	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/8/9 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	出血性肺浮腫の1例	早島

名 称	主催部署	日 時	場 所	人 数	テ ー マ	担 当
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/8/9 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	未熟児新生児学会抄録 (ウレアプラズマ保菌の超早期産児に対するアシスロマイシン投与の経験)	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/8/11 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	原因不明の溶血性疾患の1例	笠井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/8/16 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	先天性横隔膜ヘルニアの1症例	森
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/8/23 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	選択的帝王切開後の呼吸障害の1例	上田 陽子
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/8/23 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	research process report (早産児のウレアプラズマとCAM, 膈常炎およびCLDとの関連性)	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/8/25 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	TTNの1例	早島
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/8/25 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	小腸閉鎖の1例	森
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/8/30 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	退院前頭部MRI正常脳性麻痺症例の周産期因子(論文初稿)	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/9/1 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	インドネシア予演会 (IMAS, CDH)	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/9/6 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	GBS敗血症の1例	上田 陽子
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/9/8 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	脳瘤を合併した気管無形成の1例	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/9/9 金 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	地方会予演会	笠井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/9/13 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	MD twinの1例	山内
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/9/15 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	地方会予演会	上田 陽子
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/9/20 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	研究総括	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/9/22 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	Uu研究:文献・途中経過	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/9/22 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	未熟児新生児懇話会予演会	山内
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/9/27 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	胎児期より胸水貯留を認めた先天性乳糜胸の1例	小林
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/9/29 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	ROP研究:論文途中経過	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/10/4 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	原因不明の溶血性貧血・腸炎の一死亡例	笠井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/10/6 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	先天性多発性間接拘縮症の1例	山内
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/10/11 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	小児科学会抄録	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/10/13 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	小児科学会抄録(第3次周産期センターにて管理した胎便吸引症候群94例の検討)	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/10/13 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	胎便病・腸管穿孔・PDAを合併したmarked IUGRの1例	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/10/18 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	小児科学会抄録(先天性心疾患を合併した極低出生体重児59例の新生児期予後)	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/10/18 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	超低出生体重 IUGR児の1例	小林
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/10/20 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	生後早期より貧血をきたした1例	山内
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/10/25 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	BNP研究:論文途中経過	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/10/27 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	Uu研究:文献・途中経過	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/11/1 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	症例	笠井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/11/8 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	Congenital Mesoblastic Nephromaの1例	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/11/10 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	APS抄録 (Increased Risk for Retinopathy of Prematurity in Preterm Infants with Intrauterine Growth Restriction)	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/11/10 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	Dry lung synd. CLD, 副腎機能不全をきたした超早産児の1例	赤堀/溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/11/15 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	症例/研究	笠井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/11/17 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	先天性乳糜胸による胎児水腫の1例	小林

名 称	主催部署	日 時	場 所	人 数	テ ー マ	担 当
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/11/22 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	未熟児新生児予演会 (脳性麻痺を呈した品胎の臨床的検討)	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/11/22 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	未熟児新生児予演会 (超早産児 NO 吸入療法は有効か)	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/11/22 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	APS抄録 (How to predict Diffuse White Matter Injury and cerebral Palsy of Extremely Premature Infants with Normal Neonatal MRI?)	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/11/24 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	未熟児新生児予演会 (重症 CLD に対する DEX のレスキュー投与例の検討)	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/11/24 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	未熟児新生児予演会 (早産児の側脳室サイズ基準値の設定)	吉形
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/11/29 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	Uu 研究: 文献・途中経過	柄川
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/11/29 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	8	APS抄録 (Diffuse Chorioamniotic Hemosiderosis as a Risk Factor for Cerebral White Matter Damage in Preterm Infants)	石川 (溝淵)
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/12/1 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	遠心ポンプ型 ECMO を施行した CDH の 1 例	笠井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/12/8 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	Preterm PROM に伴う DLS 6 例の検討	赤堀
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/12/13 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	低体温を来した超低出生体重児の 1 例	上田泰
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/12/15 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	胎児脳室拡大を指摘された皮質形成不全の 1 例	福島
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/12/20 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	研究統括	溝淵
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/12/20 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	未熟児新生児懇話会予演会	笠井
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/12/22 木 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	PDA	芳本
新生児科クリニカルカンファレンス	新生児科	2005/12/27 火 午後4:00~5:30	NICUカンファレンスルーム	9	Uu 研究: 文献・途中経過	柄川

名 称	主催部署	日 時	場 所	人 数	テ ー マ
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理	1月6日 17:30~18:30	放射線科読影室	血液腫瘍科4名、放射線科2名、泌尿器科2名、外科4名、病理1名	1) 神経芽細胞腫 (1歳、女) 2) 横紋筋肉腫 (2歳、女)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、泌尿器、病理	1月12日 17:30~18:30	放射線科読影室	血液腫瘍科4名、放射線科2名、外科2名、泌尿器3名、病理1名	1) 神経芽腫 (6歳、男) 2) 横紋筋肉腫 (5歳、女)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、病理	2月21日 17:30~18:30	放射線科読影室	血液腫瘍科4名、放射線科2名、外科5名、脳外科3名、病理1名	1) 腭腫瘍 (12歳、女) 2) ホジキン病 (12歳、男) 3) PNET (1歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理	2月21日 17:30~18:30	放射線科読影室	血液腫瘍科4名、放射線科2名、外科4名、病理1名	1) リンパ腫 (8歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理	3月1日 17:30~18:30	放射線科読影室	血液腫瘍科4名、放射線科2名、外科4名、病理1名	1) 頸部腫瘍 (4歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、外科、病理	3月16日 17:30~18:30	放射線科読影室	血液腫瘍科4名、放射線科2名、外科3名、脳外科3名、病理1名	1) 横紋筋肉腫 (2歳、女) 2) 神経膠腫 (20歳、女)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理	3月24日 17:30~18:30	放射線科読影室	血液腫瘍科4名、放射線科2名、外科4名、病理1名	1) 神経芽腫 (1歳、女)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理	4月3日 17:30~18:30	放射線科読影室	血液腫瘍科4名、放射線科2名、脳外科3名、病理1名	1) 星細胞腫 (2歳、女)

名 称	主催部署	日 時	場 所	人 数	テ ー マ
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、 脳外科、病理	4月10日 17:30～18:30	放射線科読影室	血液腫瘍科4名、放射線科2名、 脳外科3名、外科5名、病理1名	1) 神経腫瘍 (11歳、男) 2) 腎腫瘍 (10歳、女) 3) 神経芽腫 (1歳、女)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、 外科、病理	4月13日 17:30～18:30	放射線科読影室	血液腫瘍科4名、放射線科2名、 外科4名、病理1名	1) 神経芽腫 (7歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、 脳外科、病理	4月25日 17:30～18:30	放射線科読影室	血液腫瘍科4名、放射線科2名、 脳外科3名、病理1名	1) 卵巣腫瘍 (10歳、女)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、 外科、病理	5月12日 17:30～18:30	放射線科読影室	血液腫瘍科4名、放射線科2名、 外科3名、病理1名	1) 腎腫瘍 (10歳、女) 2) 神経芽腫 (1歳、女) 3) 横紋筋肉腫 (5歳、女)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、 脳外科、病理	5月19日 17:30～18:30	放射線科読影室	血液腫瘍科4名、放射線科2名、 脳外科3名、病理1名	1) 明細胞肉腫 (9歳、女)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、 脳外科、外科、病理	6月5日 17:30～18:30	放射線科読影室	血液腫瘍科4名、放射線科2名、 脳外科3名、外科4名、病理1名	1) 奇形腫 (0歳、女) 2) 髓芽腫 (11歳、女) 3) 神経芽腫 (0歳、男) 4) 膝炎 (15歳、女)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、 脳外科、病理	6月7日 17:30～18:30	放射線科読影室	血液腫瘍科4名、放射線科2名、 脳外科3名、病理1名	1) 神経腫瘍 (11歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、 脳外科、病理	6月16日 17:30～18:30	放射線科読影室	血液腫瘍科4名、放射線科2名、 脳外科3名、病理1名	1) 神経腫瘍 (20歳、女)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、 脳外科、病理	6月30日 17:30～18:30	放射線科読影室	血液腫瘍科4名、放射線科2名、 外科3名、病理1名	1) 胚細胞腫 (0歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、 外科、病理	7月13日 17:30～18:30	放射線科読影室	血液腫瘍科4名、放射線科2名、 外科5名、病理1名	1) 肝腫瘍 (3歳、女)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、 外科、脳外科、病理	8月11日 17:30～18:30	放射線科読影室	血液腫瘍科4名、放射線科2名、 脳外科3名、外科5名、病理1名	1) 胚細胞腫瘍 (10歳、女) 2) 神経芽腫 (0歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、 外科、病理	8月18日 17:30～18:30	放射線科読影室	血液腫瘍科4名、放射線科2名、 外科6名、病理1名	1) 横紋筋肉腫 (3歳、女) 2) 神経芽腫 (7歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、 脳外科、病理	8月25日 17:30～18:30	放射線科読影室	血液腫瘍科4名、放射線科2名、 脳外科3名、病理1名	1) 髓芽腫 (17歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、 外科、病理	9月20日 17:30～18:30	放射線科読影室	血液腫瘍科4名、放射線科2名、 外科5名、病理1名	1) 横紋筋肉腫 (5歳、女) 2) 肝腫瘍 (3歳、女)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、 外科、病理	10月6日 17:30～18:30	放射線科読影室	血液腫瘍科4名、放射線科2名、 外科5名、病理1名	1) 悪性黒色腫 (12歳、女) 2) 横紋筋肉腫 (6歳、女) 3) 腎腫瘍 (2歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、 脳外科、病理	10月11日 17:30～18:30	放射線科読影室	血液腫瘍科4名、放射線科2名、 脳外科3名、病理1名	1) 神経腫瘍 (12歳、男) 2) 胚細胞腫 (10歳、女) 3) 神経腫瘍 (4歳、男) 4) 神経腫瘍 (1歳、女) 5) 胚細胞腫 (9歳、女)

名称	主催部署	日時	場所	人数	テーマ
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理	10月18日 17:30~18:30	放射線科読影室	血液腫瘍科4名、放射線科2名、外科3名、病理1名	1) 神経芽腫(0歳、男)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理	10月30日 17:30~18:30	放射線科読影室	血液腫瘍科4名、放射線科2名、外科5名、病理1名	1) 卵巣腫瘍(8歳、女)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、耳鼻科、病理	11月21日 16:00~17:00	放射線科読影室	血液腫瘍科4名、放射線科2名、脳外科3名、外科5名、耳鼻科2名、病理1名	1) 脳幹部腫瘍(2歳、女) 2) 奇形腫(0歳、男) 3) 神経線維腫(3歳、女)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、病理	12月5日 17:30~18:30	放射線科読影室	血液腫瘍科4名、放射線科2名、脳外科3名、病理1名	1) 神経膠腫(3歳、男) 2) PNET(1歳、男)

名称	主催部署	日	時	場所	参加人数		テーマ
					医師	看護師他	
小児科勉強会	総合診療科	毎週	水曜日 午後3:00~4:00	7階会議室	10	0	10 抄読会、研究会など
小児科症例検討会	総合診療科	毎週	木曜日 午後4:00~5:00	7階会議室	10	0	10 症例検討会、予演会など

名称	主催部署	日時	場所	人数	テーマ
麻酔カンファレンス	麻酔科	通年、毎日午前8時40分から9時	手術室内麻酔医室	8-11名	毎日の麻酔症例について検討、情報交換を行う
麻酔科抄読会	麻酔科	隔週月曜、午前8時20分から8時40分	手術室内麻酔医室	8-11名	英文雑誌から麻酔関連論文の紹介
麻酔科・心臓外科同カンファレンス	麻酔科・心臓外科	通年、毎日午前7時55分から8時10分	ICU	10名程度	当日の心臓外科症例についてのカンファレンス

名称	主催部署	日	時	場所	人数	テーマ
第3回兵庫小児難聴カンファレンス	耳鼻咽喉科	平成17年1月31日		研修室 AB	耳鼻科医師(1)、言語聴覚士(1)、院外聾学校教諭、言語聴覚士、学生(合計15人)	小児難聴施設と病院の連携
第4回兵庫小児難聴カンファレンス	耳鼻咽喉科	平成17年5月26日		研修室 AB	耳鼻科医師(1)、言語聴覚士(1)、院外聾学校教諭、言語聴覚士、学生(合計15人)	小児難聴施設と病院の連携
第5回兵庫小児難聴カンファレンス	耳鼻咽喉科	平成17年7月14日		研修室 AB	耳鼻科医師(1)、言語聴覚士(1)、院外聾学校教諭、言語聴覚士、学生(合計15人)	小児難聴施設と病院の連携
第6回兵庫小児難聴カンファレンス	耳鼻咽喉科	平成17年9月29日		研修室 AB	耳鼻科医師(1)、言語聴覚士(1)、院外聾学校教諭、言語聴覚士(合計15人)	聞こえと言葉の教室紹介、ASSRの臨床応用
第7回兵庫小児難聴カンファレンス	耳鼻咽喉科	平成17年11月17日		研修室 AB	耳鼻科医師(1)、言語聴覚士(1)、院外聾学校教諭、言語聴覚士(合計15人)	聞こえと言葉の教室紹介、ASSRの臨床応用

名称	主催部署	開催日	時間	場所	参加者人数	テーマ	担当
病棟勉強会	NICU	9月15日	17:30~18:30	研修室 AB	看護師 14	循環器疾患看護について	
病棟勉強会	NICU	12月14日	17:30~18:30	研修室 C	看護師 14	循環器疾患看護について	
病棟勉強会	NICU	6月8日	17:30~18:30	カンファレンスルーム	看護師 4	救急蘇生の AAB の知識・技術の習得	
病棟勉強会	NICU	7月16日	17:30~18:30	カンファレンスルーム	看護師 7	救急蘇生の CD の知識・技術の習得	
病棟勉強会	NICU	10月25日	17:30~18:30	カンファレンスルーム	看護師 7	救急蘇生時の受け持ち・チームメンバーとしての役割	
病棟勉強会	NICU	1月16日	17:30~18:30	研修室 AB	看護師 30	救急蘇生シミュレーション	
1年目勉強会	NICU	7月8日	17:30~18:30	カンファレンスルーム	看護師 8	新生児の栄養管理について	
1年目勉強会	NICU	8月29日	17:30~18:30	カンファレンスルーム	看護師 8	入院時の看護感染防止と清潔ケアについて	
1年目勉強会	NICU	9月4日	17:30~18:30	カンファレンスルーム	看護師 8	呼吸ウイニングする児の看護低酸素にさせないケア	
1年目勉強会	NICU	11月24日	17:30~18:30	カンファレンスルーム	看護師 8	OP をつける児の看護胸腔ドレーナージについて	
1年目勉強会	NICU	12月13日	17:30~18:30	カンファレンスルーム	看護師 8	ファミリーケアと継続受け持ちの役割	
1年目勉強会	NICU	2月5日	17:30~18:30	カンファレンスルーム	看護師 13	ケーススタディ発表会	
2.3年目勉強会	NICU	3月27日	17:30~18:30	カンファレンスルーム	看護師 17	事例検討	
新生児勉強会	NICU・GCU	5月24日	17:30~18:30	研修室 AB	看護師 30	周産期医療・新生児医療のめざすもの	中尾 Dr
新生児勉強会	NICU・GCU	6月30日	17:30~18:30	研修室 AB	看護師 35	新生児病棟内の感染対策	溝淵 Dr
新生児勉強会	NICU・GCU	7月26日	17:30~18:30	研修室 AB	看護師 36	母体感染をきたすウイルス感染症	森 Dr
新生児勉強会	NICU・GCU	9月29日	17:30~18:30	研修室 AB	看護師 36	脳内出血	吉形 Dr
新生児勉強会	NICU・GCU	10月28日	17:30~18:30	研修室 AB	看護師 39	CLD	柄川 Dr
新生児勉強会	NICU・GCU	11月16日	17:30~18:30	研修室 AB	看護師 36	新生児学会発表会	
新生児勉強会	NICU・GCU	12月13日	17:30~18:30	研修室 AB	看護師 23	ストーマケアの基本	杉森 Ns



名 称	主催部署	開 催 日	時 間	場 所	参加者人数	テ ー マ	担 当
1 年目勉強会	GCU	8 月 8 日	17 : 30 ~ 18 : 30	カンファレンスルーム	17	緊急時の対応	
1 年目勉強会	GCU	10月29日	17 : 30 ~ 18 : 30	カンファレンスルーム	15	ニブル調節	
1 年目勉強会	GCU	12月 4 日	17 : 30 ~ 18 : 30	カンファレンスルーム	13	器内温調節	
1 年目勉強会	GCU	2 月24日	17 : 30 ~ 18 : 30	カンファレンスルーム	17	酸素調節	
1 年目救急蘇生勉強会	GCU	6 月13日	17 : 30 ~ 18 : 30	カンファレンスルーム	12	基本の技術	
1 年目救急蘇生勉強会	GCU	9 月 5 日	17 : 30 ~ 18 : 30	カンファレンスルーム	11	シミュレーション	
2.3年目勉強会	GCU	5 月23日	17 : 30 ~ 18 : 30	カンファレンスルーム	12	先天性食道閉鎖症	
2.3年目勉強会	GCU	7 月28日	17 : 30 ~ 18 : 30	カンファレンスルーム	17	サイトメガロウイルス感染症	
2.3年目勉強会	GCU	10月17日	17 : 30 ~ 18 : 30	カンファレンスルーム	18	30W 未満の児の看護	
2.3年目勉強会	GCU	11月24日	17 : 30 ~ 18 : 30	カンファレンスルーム	16	ストーム管理	
2.3年目勉強会	GCU	1 月23日	17 : 30 ~ 18 : 30	カンファレンスルーム	19	PVL	
2.3年目救急蘇生勉強会	GCU	5 月18日	17 : 30 ~ 18 : 30	カンファレンスルーム	14		
異動者救急蘇生勉強会	GCU	5 月17日	17 : 30 ~ 18 : 30	カンファレンスルーム	15		
異動者勉強会	GCU	6 月16日	17 : 30 ~ 18 : 30	カンファレンスルーム	12	呼吸・循環について	
異動者勉強会	GCU	10月 3 日	17 : 30 ~ 18 : 30	カンファレンスルーム	11	環境について	
病棟救急蘇生勉強会	GCU	6 月20日	17 : 30 ~ 18 : 30	カンファレンスルーム	21	シミュレーション	
病棟救急蘇生勉強会	GCU	8 月26日	17 : 30 ~ 18 : 30	カンファレンスルーム	11	シミュレーション	
防災訓練勉強会	GCU	3 月27日	17 : 30 ~ 18 : 30	研修室 AB	15	地震	
防災訓練勉強会	GCU	7 月29日	17 : 30 ~ 18 : 30	研修室 AB	17	停電	
接遇勉強会	GCU	8 月 9 日	17 : 30 ~ 18 : 30	カンファレンスルーム	15	電話対応の接遇	大北看護師

名 称	主催部署	開 催 日	時 間	場 所	参加者人数	テ ー マ	担 当
勉強会	ICU	3月18日	17:30~18:30	研修室 AB	15	呼吸理学療法の実際	
	ICU	6月30日	17:30~18:30	病棟カンファレンス	6	開心 OR 前勉強会・不整脈	
	ICU	7月6日	17:30~18:30	病棟カンファレンス	9	開心 OR 前勉強会・心カテデーター	
	ICU	7月19日	17:30~18:30	病棟カンファレンス	8	開心 OR 前勉強会・呼吸管理	
	ICU	8月2日	17:30~18:30	病棟カンファレンス	8	開心 OR 前勉強会・体外循環	
	ICU	8月4日	17:30~18:30	病棟カンファレンス	9	アンピュー換気方法・新人対象	
	ICU	8月23日	17:30~18:30	研修室 AB	18	救急蘇生1 新人対象、救急蘇生とシミュレーション	
	ICU	11月10日	17:30~18:30	研修室 AB	9	救急蘇生2 新人対象、受け持ちの役割とシミュレーション	
	ICU	11月15日	17:30~18:30	研修室 AB	18	プリパレーション	
	ICU	12月10日	17:30~18:30	研修室 AB	18	背因要因分析方法 (事故係り・ジェネラリスト主催)	
	ICU	12月12日	17:30~18:30	病棟カンファレンス	7	背因要因分析方法 (事故係り・ジェネラリスト主催)	
勉強会	ICU	1月12日	17:30~18:30	研修室 AB	13	救急蘇生3 リーダー対象、リーダーとしての役割	東
	HCU・ 外科一般病棟	5月24日	17:30~18:30	病棟カンファレンス	7	ライン管理	SW 野口
勉強会	HCU・ 外科一般病棟	6月2日	17:30~18:00	研修室 AB	20	在宅・転院に向けた医療福祉制度	戸田医師
勉強会	HCU・ 外科一般病棟	6月8日	17:30~19:00	研修室 AB	15	口唇・口蓋裂	西島医師
勉強会	HCU・ 外科一般病棟	6月23日	17:30~19:00	母と子の教室	10	気管狭窄症	戸田医師
勉強会	HCU・ 外科一般病棟	7月4日	17:30~18:30	研修室 AB	5	多・合指症	森本
勉強会	HCU・ 外科一般病棟	7月12日	17:30~18:30	病棟カンファレンス	2	摂食ケア	湯村、倉井
勉強会	HCU・ 外科一般病棟	9月28日	17:30~19:00	母と子の教室	20	在宅看護	岩田、湯村、 倉井
勉強会	HCU・ 外科一般病棟	10月18日	17:30~19:00	母と子の教室	20	気管内吸引・体位ドレナージ・呼吸介助	秋山医師
勉強会	HCU・ 外科一般病棟	11月29日	17:30~19:00	研修室 AB	13	もやもや病	

名 称	主催部署	開 催 日	時 間	場 所	参加者人数	テ ー マ	担 当
勉強会	HCU・ 外科一般病棟	12月	17：30～18：30	332号室	7	脳腫瘍術後管理シミュレーション	山内
勉強会	HCU・ 外科一般病棟	計3回	17：30～18：30	332号室	2	救急シミュレーション	外科医師
勉強会	産科病棟	9月1日	17：30～18：30	研修室 A	26	産褥期の感染症と敗血症性骨盤静脈血栓症	久留、堀田
勉強会	産科病棟	10月11日	17：30～18：30	産科外来	12	乳房の看護計画	久留、奥田
勉強会	産科病棟	12月14日	17：30～18：30	応接室	19	背因要因分析方法	中根
勉強会	血液主体	1月7日	13時～17時	血液主体病棟	6	慢性呼吸管理	鈴木有香・ 小野里美
勉強会	血液主体	1月13日	18時～19時	7階会議室	6	ペインコントロール	河江伸子
勉強会	血液主体	1月27日	14時～16時	7階会議室	10	摂食障害患者のケア	東谷直子
勉強会	血液主体	3月18日	18時～19時	7階会議室	6	外科 開腹術後の管理	松田絵利子
勉強会	血液主体	4月28日	18時～19時	7階会議室	8	口腔ケア	東谷直子
勉強会	血液主体	5月6日	18時～19時	7階会議室	5	医師・ 歯科衛生士	河江伸子
勉強会	血液主体	5月6日	18時～19時	7階会議室	6	血液疾患の治療	木下めぐみ
勉強会	血液主体	5月11日	18時～19時	7階会議室	6	輸血	河江伸子・ 鈴木有香
勉強会	血液主体	5月13日	18時～19時	7階会議室	6	化学療法	東谷直子
勉強会	血液主体	6月30日	18時～19時	7階会議室	13	口腔ケア	上坪成子・ 濱田米紀
勉強会	血液主体	6月	18時～20時	7階会議室	20	ピアカンファレンス	小野里美
勉強会	血液主体	9月8・13日	13時～16時	血液主体病棟	25	救急蘇生	森本佳世・ 宮本智佳子・ 鈴木有香
勉強会	血液主体	12月22日	13時～17時	血液主体病棟	5	慢性呼吸管理	MSW 野口
勉強会	混合病棟	6月2日	17：30～18：25	研修室 AB	15	医療福祉制度について	形成外科 医師
勉強会	混合病棟	6月8日	17：30～19：00	研修室 C	7	口唇・口蓋裂について	言語聴覚士 穴川
勉強会	混合病棟	6月17日	17：30～18：45	研修室 AB	11	難聴治療	

名 称	主催部署	開 催 日	時 間	場 所	参加者人数	テ ー マ	担 当
勉強会	混合病棟	6月22日	17:30~18:45	研修室C	看護師 18	胆道閉鎖の治療・看護について	外科医師
勉強会	混合病棟	7月4日	17:30~19:00	研修室C	看護師 7	多合指症	形成外科 医師
勉強会	混合病棟	7月7日	18:00~19:00	研修室C	看護師 10	先天性股関節脱臼	整形外科 医師
勉強会	混合病棟	7月13日	17:30~19:00	研修室C	看護師 10	心電図	看護師
勉強会	混合病棟	7月28日	17:30~18:30	会議室1	看護師 14	肺炎腫・肺高血圧のある患者の看護	看護師
勉強会	混合病棟	8月30日	17:30~19:00	会議室1	看護師 6	白内障	眼科医師
勉強会	混合病棟	10月12日	18:00~19:00	研修室AB	看護師 20	生体肝移植	外科医師
勉強会	混合病棟	11月28日	17:30~19:00	6F カンファレンスルーム	看護師 13	看護過程3回シリーズ	看護師
勉強会	混合病棟	12月4日			看護師 13		
勉強会	混合病棟	12月8日			看護師 13		
勉強会	混合病棟	1月27日	17:30~18:30	研修室C	看護師 8	コミュニケーションスキル	看護師
勉強会	混合病棟	2月13日	17:30~18:30	会議室1	看護師 11	看護倫理	看護師
勉強会	学童主体病棟	1月17日	午後 5:30~6:30	病棟	6階 看護師 7	事例検討会	川本看護師
勉強会	学童主体病棟	1月20日	午後 5:30~6:30	7階会議室	6階 看護師 15	感染・手洗いについて	西谷・榎本 看護師
勉強会	学童主体病棟	2月21日	午後 5:30~6:30	病棟	6階 看護師 7	糖尿病	中尾看護師
勉強会	学童主体病棟	7月2日	午後 5:30~6:30	7階会議室	6階 看護師 10	腹膜還流	腎臓内科 田中医師
勉強会	学童主体病棟	7月12日	午後 5:30~6:30	学童病棟食堂	6階 看護師 10	創外固定	整形外科 小林医師
勉強会	学童主体病棟	8月4日	午後 5:30~6:30	7階会議室	6階 看護師 7	ネフローゼ	腎臓内科 田中医師
勉強会	学童主体病棟	11月11日	午後 5:30~6:00	7階会議室	6階 看護師 5	「倫理」「リスクマネージメント」	文字看護師
勉強会	学童主体病棟	11月15日	午後 5:30~6:00	7階会議室	6階 看護師 5	「倫理」「リスクマネージメント」	文字看護師
勉強会	学童主体病棟	11月28日	午後 5:30~6:30	研修室AB	6階 看護師 10	もやもや病	脳神経外科 秋山医師

名称	主催部署	開催日	時間	場所	参加者人数	テーマ	担当
勉強会	学童主体病棟	12月21日	午後 5:30~6:30	病棟	6階 看護師 7	イレウス	小児外科連 医師
勉強会	循環器A病棟	5月30日	17:40~18:30	第一会議室	看護師 保育士 13	感染対策	
勉強会	循環器A病棟	6月20日	17:40~19:10	循A 食堂	看護師 14	救急蘇生	
勉強会	循環器A病棟	7月27日	17:40~19:15	第一会議室	看護師 15	不整脈、ペースメーカー	
勉強会	循環器A病棟	8月26日	17:45~18:45	循A 食堂	看護師 12	救急蘇生シミュレーション	
勉強会	循環器A病棟	10月7日	17:45~19:00	第一会議室	看護師 12	ドレーン管理	
勉強会	循環器A病棟	12月1日	17:40~19:05	第一会議室	看護師 保育士 6	摂食	
勉強会	循環器A病棟	2月7日	17:40~18:30	第一会議室	看護師 保育士 8	事例から看護倫理を考える	
合同カンファレンス	循環器A病棟	5月20日	14:30~15:00	病棟Ns ステーション	看護師 5	症例検討 心内膜炎	城戸 Dr
合同カンファレンス	循環器A病棟	6月1日	14:30~15:00	病棟Ns ステーション	看護師 6	過敏と脱感作	
合同カンファレンス	循環器A病棟	6月6日	14:30~15:00	病棟Ns ステーション	看護師 6	パルクス組成ミス事例	
合同カンファレンス	循環器A病棟	6月8日	14:30~15:00	病棟Ns ステーション	看護師 11	Dr レポートのありかた	
合同カンファレンス	循環器A病棟	6月17日	14:30~15:00	病棟Ns ステーション	看護師 10	症例検討 TA	城戸 Dr
合同カンファレンス	循環器A病棟	7月7日	14:30~15:00	病棟Ns ステーション	看護師 6	経鼻カヌラのケア	
合同カンファレンス	循環器A病棟	7月14日	14:30~15:00	病棟Ns ステーション	看護師 4	経鼻カヌラのケア	
合同カンファレンス	循環器A病棟	7月15日	14:30~15:00	病棟Ns ステーション	看護師 5	経鼻カヌラのケア	
合同カンファレンス	循環器A病棟	7月14日	14:30~15:00	病棟Ns ステーション	看護師 5	プリパレーション実施に向けて	
合同カンファレンス	循環器A病棟	7月20日	14:30~15:00	病棟Ns ステーション	看護師 6	ミドリンP点眼、トリクロールシロップと薬後の注意点	
合同カンファレンス	循環器A病棟	7月28日	14:30~15:00	病棟Ns ステーション	看護師 9	在宅療養の流れ	
合同カンファレンス	循環器A病棟	8月24日	14:30~15:00	病棟Ns ステーション	看護師 5	転落事故のSHELL分析	
合同カンファレンス	循環器A病棟	8月25日	14:30~15:00	病棟Ns ステーション	看護師 8	皮膚の弱い児のライン固定方法	

名称	主催部署	開催日	時間	場所	参加者人数	テーマ	担当
合同カンファレンス	循環器 A 病棟	9月8日 木	14:30~15:00	病棟Nsステーション	看護師 8	クリニカルパス使用時の退院指導	城戸 Dr
合同カンファレンス	循環器 A 病棟	9月16日 金	14:30~15:00	病棟Nsステーション	看護師 5	TAPVR	城戸 Dr
合同カンファレンス	循環器 A 病棟	9月30日 金	14:30~15:00	病棟Nsステーション	看護師 5 指導相談部 1	症例検討 胆道閉鎖 ターミナル期	城戸 Dr
合同カンファレンス	循環器 A 病棟	10月21日 金	14:30~15:00	病棟Nsステーション	看護師 9	TCPG 術前後のカテデータ	城戸 Dr
合同カンファレンス	循環器 A 病棟	11月3日 木	14:30~15:00	病棟Nsステーション	看護師 8	輸液処方箋の管理	
合同カンファレンス	循環器 A 病棟	11月7日 月	14:30~15:00	病棟Nsステーション	看護師 5	ドレーン管理	
合同カンファレンス	循環器 A 病棟	11月10日 木	14:30~15:00	病棟Nsステーション	看護師 9	背景要因分析	
合同カンファレンス	循環器 A 病棟	11月14日 月	14:30~15:00	病棟Nsステーション	看護師 5	背景要因分析	
合同カンファレンス	循環器 A 病棟	11月15日 火	14:30~15:00	病棟Nsステーション	看護師 5	背景要因分析	
合同カンファレンス	循環器 A 病棟	11月16日 水	14:30~15:00	病棟Nsステーション	看護師 4	背景要因分析	
合同カンファレンス	循環器 A 病棟	11月18日 金	14:30~15:00	病棟Nsステーション	看護師 8	パート交代時の連携	
合同カンファレンス	循環器 A 病棟	11月30日 水	14:30~15:00	病棟Nsステーション	看護師 11	院内感染勉強会後の感染意識の変化	
合同カンファレンス	循環器 A 病棟	12月2日 金	14:30~15:00	病棟Nsステーション	看護師 7	心エコー時の児の準備について	城戸 Dr
合同カンファレンス	循環器 A 病棟	12月27日 火	14:30~15:00	病棟Nsステーション	看護師 10	事例検討 Drへの報告について	
合同カンファレンス	循環器 A 病棟	12月28日 水	14:30~15:00	病棟Nsステーション	看護師 6	情報収集の方法について	
合同カンファレンス	循環器 A 病棟	1月5日 木	14:30~15:00	病棟Nsステーション	看護師 9	術後の排便コントロール	
合同カンファレンス	循環器 A 病棟	2月3日 金	14:30~15:00	病棟Nsステーション	看護師 7	症例検討 DORV	城戸 Dr
勉強会	循環器 B 病棟	5月	17:30~18:30	病棟	看護師 7	呼吸アプローチについて	
勉強会	循環器 B 病棟	6月27日	17:30~18:30	研修室 C	看護師 5	摂食(基本)の実際	
勉強会	循環器 B 病棟	7月26日	17:30~18:30	病棟	看護師 8	蘇生(一次救命救急)の実際	
勉強会	循環器 B 病棟	7月	17:30~18:30	病棟	看護師 7	VSD. PHの看護について	

名 称	主催部署	開 催 日	時 間	場 所	参加者人数	テ ー マ	担 当
勉強会	循環器 B 病棟	9 月	17:30~18:30	病棟	看護師 13	左心低形成の看護について	整形外科 医師
勉強会	循環器 B 病棟	11 月	17:30~18:30	7 階会議室	看護師 8	ひ骨神経麻痺について	脳外科医師
勉強会	循環器 B 病棟	12月16日	17:30~18:30	病棟	看護師 16	頭部外傷・循環器病棟における転倒・転落後の看護について	
勉強会	循環器 B 病棟	1 月16日	17:30~18:30	病棟	看護師 8	蘇生（一次救命救急）の実践	
勉強会	循環器 B 病棟	1 月29日	17:30~18:31	病棟	看護師 11	歯磨き・皮膚トラブルについて	
勉強会	循環器 B 病棟	2 月 9 日	17:30~18:32	病棟	看護師 11	左心低形成の看護について（事例を通して）	循環器内科 医師
勉強会	救急医療室	6 月 1 日 (水)	17:45~19:15	研修室 AB	看護師 5	PALS 呼吸	乃美医師
勉強会	一般外科 主体病棟	6 月 7 日 (水)	17:40~19:00	研修室 C	看護師 16	VUR、水腎症	乃美医師
1 年目勉強会	一般外科主体 病棟救急医療室	6 月14日 (火)	17:45~19:00	面談室	看護師 9	呼吸管理（基礎編）	栗田看護師
勉強会	救急医療室			看護師			秦看護師
勉強会	救急医療室	6 月15日 (水)	17:45~19:15	研修室 AB	看護師 8	PALS 呼吸	乃美医師
勉強会	一般外科 主体病棟	6 月23日 (木)	17:30~19:00	母七子の教室	看護師 18	声門下腔狭窄、気管狭窄・気管軟化	西島医師
勉強会	救急医療室	7 月 6 日 (水)	17:45~19:15	研修室 AB	看護師 12	PALS 呼吸	連医師
1 年目勉強会	一般外科主体病 棟救急医療室	7 月13日 (水)	17:30~19:00	母七子の教室	看護師 13	先天性胆道閉鎖症	連医師
勉強会	救急医療室	7 月20日 (水)	17:45~19:15	研修室 AB	看護師 8	PALS 外傷シミュレーション	
勉強会	一般外科 主体病棟	7 月27日 (水)	17:30~19:00	母七子の教室	看護師 11	先天性胆道閉鎖症	連医師
勉強会	救急医療室	8 月 1 日 (月)	17:30~19:00	器材室	看護師 11	トラックケアの操作方法について	栗田看護師
勉強会	救急医療室	8 月 3 日 (水)	17:45~19:15	研修室 AB	看護師 13	PALS	
勉強会	救急医療室	8 月17日 (水)	17:45~19:15	研修室 AB	看護師 8	PALS	
勉強会	救急医療室	8 月31日 (水)	17:45~19:15	7 階会議室	看護師 11	PALS 救急蘇生	黒澤医師
勉強会	救急医療室	9 月21日 (火)	17:45~19:15	研修室 AB	看護師 6	PALS	黒澤医師

名称	主催部署	開催日	時間	場所	参加者人数	テーマ	担当
勉強会	救急医療室	10月5日(水)	17:45~19:15	研修室AB	看護師 8	PALS	黒澤医師
勉強会	救急医療室	10月19日(水)	17:45~19:15	研修室AB	看護師 7	PALS	
1年目勉強会	一般外科主体 病棟救急医療室	11月15日(火)	17:30~19:00	研修室C	看護師 5	呼吸理学療法	牧野看護師
勉強会	救急医療室	11月16日(水)	17:45~19:15	研修室AB	看護師 12	PALS	黒澤医師
勉強会	手術室	4月	17:30~18:30	手術室	OP室 看護師 18	側わん症について	整形外科 医師:宇野
勉強会	手術室	5月	17:30~18:30	手術室	OP室 看護師 20	白内障について	眼科医師: 西崎
勉強会	手術室	6月	17:30~18:30	手術室	OP室 看護師 18	器械の取り扱い・メンテナンスについて	
勉強会	手術室	8月	17:30~18:30	手術室	OP室 看護師 6	新採用看護師外廻り業務について	
勉強会	手術室	9月	17:30~18:30	手術室	OP室 看護師 20	穿頭血腫除去について・VPシャントについて マイクの使用方法	
勉強会	手術室	10月	17:30~18:30	手術室	OP室 看護師 10	緊急帝王切開術シミュレーション	
勉強会	手術室	5月	17:30~18:30	手術室	OP室 看護師 20	糖尿病合併大腿骨手術の患者への看護について	
勉強会	手術室	2月16日	17:30~18:30	手術室	OP室 看護師 20	手術室でのドレーン管理について	
勉強会	外来	7月12日	17:30~18:30	内科外来診察室	看護師 10	外来化学療法	
勉強会	外来	10月4日	17:15~18:00	研修室C	看護師 10	MRA 治療	
勉強会	外来	10月26日	17:30~19:15	研修室C	看護師 16	在宅呼吸器 LTV950について	

名称	主催部署	開催日	時間	場所	参加者人数	テーマ
褥瘡ケア勉強会1	看護部領域別看護ケア向上委員会 WOCケア部会	8月9日	17:45~19:15	研修室AB	看護師 看	褥瘡対策未実施減算・褥瘡対策加算・ リスクアセスメント
褥瘡ケア勉強会2	看護部領域別看護ケア向上委員会 WOCケア部会	10月11日	17:45~19:15	研修室AB	看護師 看	褥瘡予防ケアの講義 体圧分散寝具の体験
褥瘡ケア勉強会3	看護部領域別看護ケア向上委員会 WOCケア部会	12月13日	17:45~19:15	研修室AB	看護師 看	DESIGNと褥瘡局所ケア
ストーリーケア勉強会	看護部領域別看護ケア向上委員会 WOCケア部会	2月14日	17:45~19:15	研修室AB	看護師 看	ストーリーケア講義と基礎実習



## 検査・放射線部勉強会

実施日	内 容	講 師
5月9日	兵庫県における神経芽細胞腫マス・スクリーニングの歩み	佐々木 茂生
7月21日	病原微生物の広がり方とその防止	戸田 圭三
7月21日	稀な菌の検出 (リステリア感染症)	中内 美穂
7月28日	髄膜炎菌性髄膜炎(Neisseria Meningitidis)	中内 美穂
9月1日	小児における聴性定常反応「ASSR」検査機器の使用経験	佐々木 茂生
9月8日	細菌検体採取及び保存・輸送法について	中内 美穂
10月28日	(常盤短大学生臨地実習発表会) 基質の異なるアミラーゼの測定試薬の検討 MXB法及びアルセナゾ法を用いたカルシウム測定試薬の比較検討	小西 指導者：戸田 松岡・戸田・甲元
11月29日	(神戸大学学生臨地実習発表会) 破碎赤血球存在下におけるXE-2000の半導体レーザーフローサイトメ トリー法による血小板測定の有用性の検討	北井・伊藤・幸福
	甲状腺ホルモン検査の再検に関する検討	中村・戸田・甲元

## 実習生の受け入れ

学 校 名	期 間	人 数
神戸大学医学部保健学科 (1年生)	平成16年8月9日	2名
常盤短期大学衛生技術科 (3年生)	平成17年8月29日～10月28日	2名
神戸大学医学部保健学科 (4年生)	平成17年11月9日～11月29日	2名

部内勉強会

主催部署	日 時	場 所	テ ー マ	担 当
検査・放射線部	1月19日	放射線技師室	MR 機器トピックス	北住一哉
検査・放射線部	2月2日	放射線技師室	CT 検査時における防護シートの遮蔽効果について	清水俊文
検査・放射線部	2月16日	放射線技師室	ADS のカテーテル治療について	廣瀬悦子
検査・放射線部	3月2日	放射線技師室	新生児の核医学検査における被ばく線量とリスクベネフィット	平山浩一
検査・放射線部	3月18日	放射線技師室	麻酔について	関尾直司
検査・放射線部	5月17日	放射線技師室	CT 装置における被ばく線量についてーCTDI の測定	藤井康司
検査・放射線部	6月15日	放射線技師室	論文発表のための統計学入門	水谷正弘
検査・放射線部	7月6日	放射線技師室	今時のクリニカルパス	小林信郎
検査・放射線部	7月6日	放射線技師室	登校拒否	高橋政晴
検査・放射線部	7月20日	放射線技師室	放射線治療	小田敏彦
検査・放射線部	8月10日	放射線技師室	CCAoG と大動脈縮窄症	正井秀幸
検査・放射線部	8月31日	放射線技師室	当院における小児嚙下造影の工夫について	竹中修
検査・放射線部	10月5日	放射線技師室	受動喫煙における子供の健康障害	北住一哉
検査・放射線部	10月5日	放射線技師室	高脂血症治療指針	清水俊文
検査・放射線部	11月2日	放射線技師室	インフォームドアセント	廣瀬悦子
検査・放射線部	11月2日	放射線技師室	ウィルムス腫瘍	平山 浩一
検査・放射線部	12月7日	放射線技師室	再生不良性貧血への放射線治療 (TLI) について	関尾 直司
検査・放射線部	12月14日	放射線技師室	一般撮影領域 X 線の被曝線量評価について	藤井康司

研修会への参加

主催部署	日 時	場 所	テ ー マ	担 当
検査・放射線部	2005/4/9-10	フォーラム横浜	X 線撮影系における放射線計測法他	水谷 正弘
検査・放射線部	2005/9/29-10/1	京王プラザホテル	Cutting Edge of MR and MR Research 他	北住 一哉
検査・放射線部	4月23日	成人病センター	放射線治療品質管理士機構と放射線治療専門技師認定機構について他	平山 浩一 小田 敏彦 関尾 直司
検査・放射線部	5月28日	放射線技師室	最新のアンギオ装置の動向について他	正井秀幸 関尾直司
検査・放射線部	6月14日	放射線技師室	植え込み型ペースメーカー及び除細動器に対する X 線 CT の影響について他	清水俊文 藤井康司 三木貴久子
検査・放射線部	5月18日	放射線技師室	心臓超音波と症例研究	水谷 正弘
検査・放射線部	6月25日	放射線技師室	放射線治療担当医及び担当放射線技師による治療の安全確保他	平山浩一 小田敏彦
検査・放射線部	9月3日	放射線技師室	レーザーポインターの性能について他	平山浩一 小田敏彦 三木貴久子
検査・放射線部	10月1日	放射線技師室	PET 導入の経過報告他	水谷 正弘
検査・放射線部	10月15日	放射線技師室	臨床 3D 画像の理想的な活用方法	清水俊文 藤井康司 三木貴久子
検査・放射線部	10月22日	放射線技師室	乳房撮影における精度管理及び管理実習	清水俊文
検査・放射線部	10月29日	放射線技師室	新 MR 装置の使用経験他	高橋政晴 北住一哉 廣瀬悦子
検査・放射線部	11月5日	放射線技師室	虚血性心疾患・症例検討	水谷 正弘
検査・放射線部	11月26日	放射線技師室	16DAS - CT における 3 DCTA のための撮影技術	清水俊文 小田敏彦

名 称	主催部署	日 時		場所	参加人数	テ ー マ
薬剤部勉強会	薬剤部	1月13日	午後5:30~6:30	薬剤部	10	ベニロン 製品情報
薬剤部勉強会	薬剤部	2月7日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	腎不全について
薬剤部勉強会	薬剤部	2月15日	午前8:20~9:00	薬剤部	11	近畿学術大会予演会 癌化学療法におけるリスク回避への取り組み
薬剤部勉強会	薬剤部	2月21日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	斜視について
薬剤部勉強会	薬剤部	3月3日	午前8:40~8:55	薬剤部	10	熱性けいれんについて
薬剤部勉強会	薬剤部	3月23日	午後5:30~6:30	薬剤部	11	成長ホルモン診断薬 製品情報
薬剤部勉強会	薬剤部	4月26日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	部内症例検討会 血内
薬剤部勉強会	薬剤部	5月18日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	AD/HD 注意欠陥/多動性障害について
薬剤部勉強会	薬剤部	5月27日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	部内症例検討会 産科
薬剤部勉強会	薬剤部	5月30日	午後5:30~6:30	薬剤部	11	テルモ 輸液について
薬剤部勉強会	薬剤部	6月1日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	抗がん剤調製について
薬剤部勉強会	薬剤部	6月8日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	循環器科におけるアスピリンの使い方
薬剤部勉強会	薬剤部	6月13日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	プロトコール勉強会 脳腫瘍
薬剤部勉強会	薬剤部	6月13日	午後5:30~6:30	薬剤部	11	テルモ 輸液について
薬剤部勉強会	薬剤部	6月16日	午後5:30~6:30	薬剤部	10	ヒューマログ注 製品情報
薬剤部勉強会	薬剤部	6月16日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	プロトコール勉強会 小児 ALL
薬剤部勉強会	薬剤部	6月20日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	プロトコール勉強会 小児 AML
薬剤部勉強会	薬剤部	6月20日	午後5:30~6:30	薬剤部	10	ブイフェンド注 製品情報
薬剤部勉強会	薬剤部	6月27日	午後5:30~6:30	薬剤部	10	プレビブロック注、プレセデックス注 製品情報
薬剤部勉強会	薬剤部	6月29日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	部内症例検討会 循環器
薬剤部勉強会	薬剤部	6月30日	午後5:30~6:30	薬剤部	10	エラスポール注 製品情報
薬剤部勉強会	薬剤部	7月4日	午後5:30~6:30	薬剤部	10	タケプロン OD、プロプレス 製品情報
薬剤部勉強会	薬剤部	7月12日	午後5:30~6:30	薬剤部	11	部内症例検討会 血内
薬剤部勉強会	薬剤部	7月14日	午後5:30~6:30	薬剤部	11	アルト 製品情報
薬剤部勉強会	薬剤部	7月21日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	部内症例検討会 血内
薬剤部勉強会	薬剤部	7月25日	午後5:30~6:30	薬剤部	11	テルモ 輸液について
薬剤部勉強会	薬剤部	7月28日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	羊水染色体検査について
薬剤部勉強会	薬剤部	8月11日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	部内症例検討会 治験
薬剤部勉強会	薬剤部	8月24日	午後5:30~6:30	薬剤部	11	ランタスオプチック 製品情報
薬剤部勉強会	薬剤部	9月29日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	部内症例検討会 血内
薬剤部勉強会	薬剤部	10月14日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	プロトコール勉強会 ウィルムス腫瘍
薬剤部勉強会	薬剤部	10月17日	午後5:30~6:30	薬剤部	11	テルモ 輸液について
薬剤部勉強会	薬剤部	10月24日	午後5:30~6:30	薬剤部	10	トラクリア 製品情報
薬剤部勉強会	薬剤部	11月7日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	部内症例検討会 循環器
薬剤部勉強会	薬剤部	11月16日	午後5:30~6:30	薬剤部	10	グルトバ 製品情報
薬剤部勉強会	薬剤部	11月24日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	産科 抗生物質について
薬剤部勉強会	薬剤部	11月28日	午後5:30~6:30	薬剤部	10	テルモ 輸液について
薬剤部勉強会	薬剤部	12月8日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	部内症例検討会 血内
薬剤部勉強会	薬剤部	12月14日	午後5:30~6:30	薬剤部	10	テルモ 輸液について
薬剤部勉強会	薬剤部	12月15日	午前8:40~8:55	薬剤部	11	プロトコール勉強会 髄芽腫

## 2. 看護研修

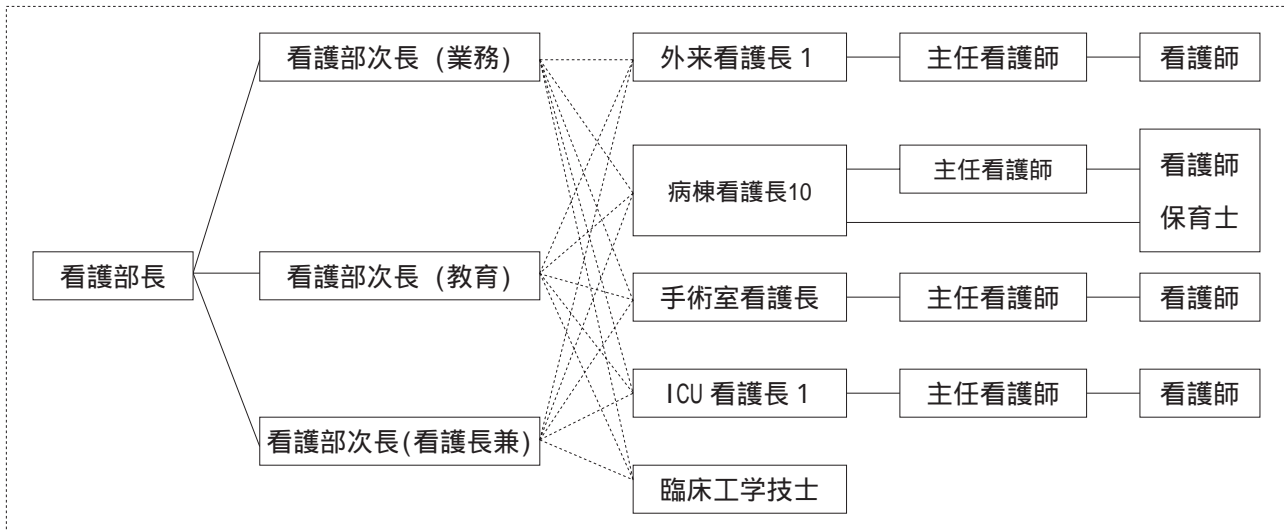
### 看護部理念

命を守り、育てることに努力し、真の優しさと逞しさを備えた人間性を養います  
社会（県民）のニーズに応えることができる専門的で、良質な母子看護を提供します  
患者・家族を中心としたチームの一員として認識し、主体的に行動します

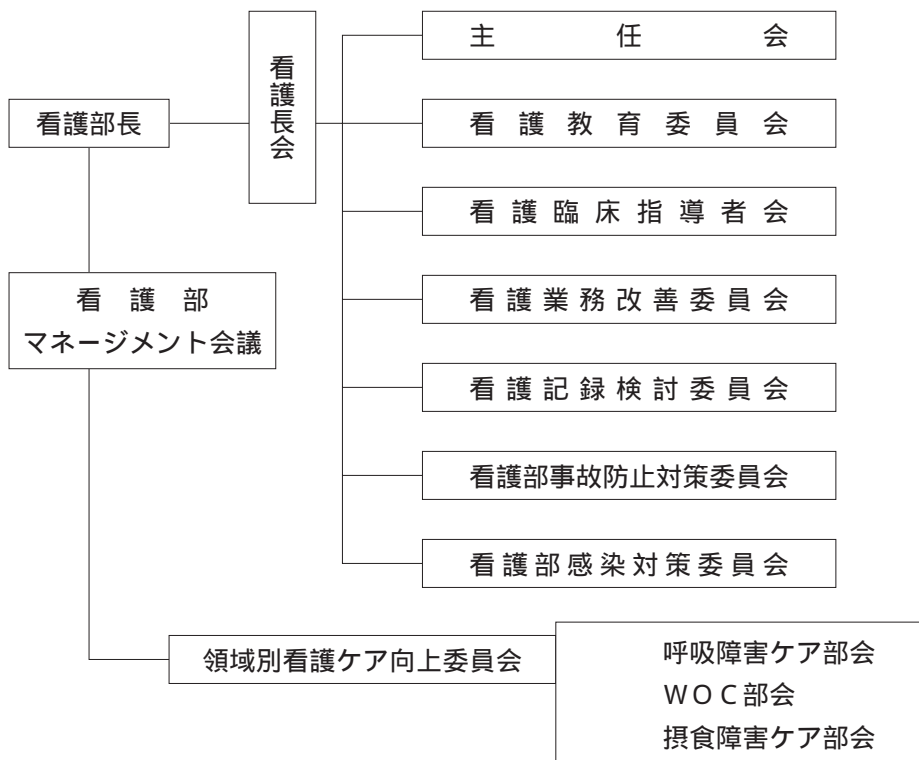
### 平成17年度看護部目標

1. 患者・家族の安心と満足が得られるケアを提供する
  - ・看護の基本と根拠に基いた看護判断を行い適切な看護を提供する
  - ・患者・家族とのコミュニケーションを図り、擁護者としての役割行動が取れる
  - ・患者・家族の声を真摯に受け止め、日常の看護ケアを評価し改善に繋げる
2. 安全な医療（看護）の提供を行う
  - ・タイムリーな「ヒヤリハット・医療事故報告事例」の分析を行い確実な改善に繋げる
  - ・「こども病院感染対策マニュアル」を周知徹底し、感染防止を図る
  - ・「個人情報保護」に関する条例に基づき、個人のプライバシー情報の適切な取扱いをする
3. 他部門との連携を図りチーム医療の一員としての役割を果たす
4. 看護職員キャリア開発ラダーを活用し個々の目標管理に繋げる  
個々の看護実践能力を高め、看護の質向上に努める
5. 限り有る医療・社会資源を経済的・効率的に運用する  
平成17年度病院経営目標を理解し、病床の有効利用と在院日数短縮に努める

看護部組織図



看護部委員会組織図



## 【兵庫県立こども病院看護部教育理念】

県立こども病院理念・看護部理念に基づき、患者・家族を尊重した質の高い看護サービスを提供できる人材を育成する。

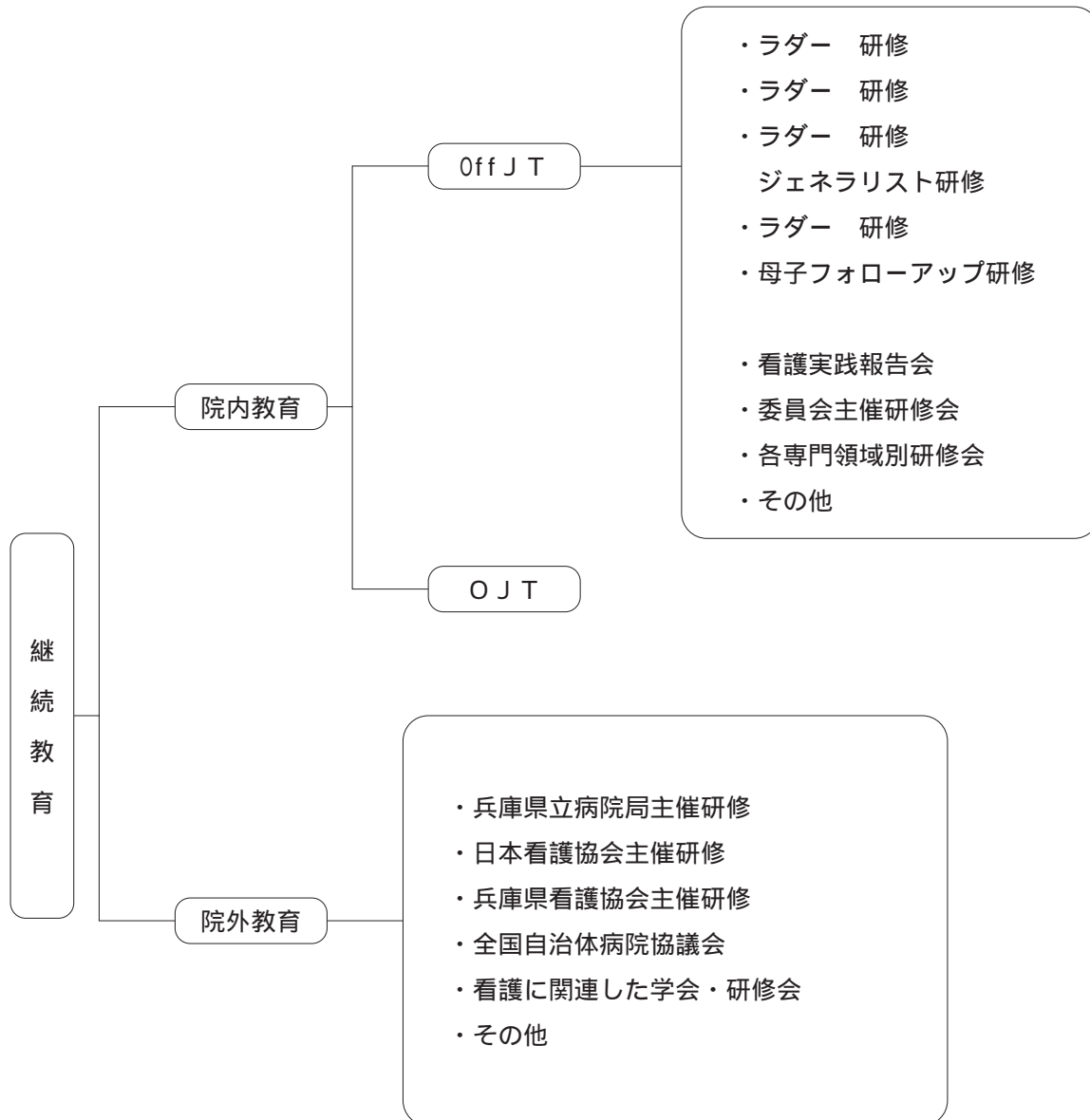
### 目 的

1. 県立こども病院の果たす役割を理解し、組織の一員としての自覚を深め行動できるように育成する。
2. 看護の対象である母子のニーズを的確に把握し、安全で安楽な質の高い看護を提供できる。
3. 県立病院看護師キャリア開発ラダーを活用し、個々人の学習ニーズと目標を尊重した学習の機会を提供する。

### 目 標

1. 周産期及び小児医療の看護職員として、役割と責任を自覚して行動できる。
2. 医療の動向に目を向け今日的な専門知識・技術を修得し臨床看護能力を高める。
3. 患者・家族・医療チームメンバー間との望ましいコミュニケーションを図るための能力を養う。
4. 問題解決能力を高め、医療チームの中でリーダーシップを発揮できる能力を養う。
5. 母子看護の専門領域における実践能力を高め主体的に行動できる。
6. 看護実践研究をとおして、母子看護の専門性、看護ケアの質向上を図る。

兵庫県立こども病院 看護部教育体系



## 平成17年度 新規採用者・転入者オリエンテーション

### 【目 的】

こども病院看護職員として病院理念、看護部理念を理解し、社会人としての自覚や専門職業人としての知識・技術・態度を身につける

### 【目 標】

1. 公務員としての自覚を持ち、県立病院の役割と機能を理解する
2. こども病院の理念、組織、機能を理解し、看護職として役割を理解する
3. 看護部の理念・目標を理解し、専門職業人としての態度を身につける
4. こどもの権利、看護倫理を理解し、小児の専門看護師としての態度を身につける
5. こども病院の看護体制・勤務体制を理解する
6. こども病院の診療内容の特徴、各看護単位の特徴と業務内容を知る
7. こども病院で共同する医療チームの種類とそれぞれのチーム役割と機能を理解する
8. こども病院看護師として必要な知識・技術を学び、臨床現場で実践する
  - 小児の正常な成長発達段階を知る
  - 小児特有の生活援助（抱っこ、オムツ交換、授乳、ベッドメイキング等）や基本技術（VS測定、点滴、与薬等）の看護が安全にできる
  - 小児・産科麻酔及び救急蘇生について理解する
  - こども病院の帳票類を知り、看護記録を理解し記載することができる
  - 心電図、パルスオキシメーター、酸素吸入等の取り扱い方を理解する
9. 医療安全、看護業務安全、こども病院の安全対策を知り、現場で活用できる
10. 清潔操作、感染対策（スタンダードプレコーション）の実際を知り、現場で活用できる
11. こども観を育成する

### 【研修期間】

期 間：平成17年4月1日～平成17年4月14日・20日

但し、看護師として経験のある者・転勤者は、4月1日～4月9日・20日

時 間：8時30分～17時15分

研修場所：研修室 AB



## 平成17年度 新規採用オリエンテーション&lt;日程表&gt;

月 日	オリエンテーションの内容	時 間	講 師	担当者	場 所
4月1日 (金曜日)	オリエンテーションの進め方 目的、期間、方法について 白衣の配布、ロッカーの案内 夜間タクシーチケット利用について 辞令交付にあたっての注意事項等	9:00~9:30 9:30~		橋本看護長 池尻看護部次長	研修室A・B
4月4日 (月曜日)	開講式 新規採用看護職員自己紹介 こども病院の歴史と理念 県職員としての心構え(県立病院のありかた、こども病院の役割) 昼休憩 看護部の理念と役割 新人に期待すること こども病院の看護の特徴 総務部紹介 各種手続きについて 銀行、転居届けなど 休憩 病院案内(病棟・外来)	9:00~9:10 9:10~10:20 10:20~11:10 11:10~12:00 12:00~13:00 13:00~14:00 14:00~15:00 15:00~15:15 15:15~17:15	幹部職員・看護長 中村院長 棚倉管理局長 植杉看護部長 総務課 看護長 教育委員	教育委員 (上之園) 箕浦看護部次長	研修室A・B
4月5日 (火曜日)	小児医療における各部門の役割 放射線科、薬剤部、研究検査部、 総務部(医事課、栄養指導課)  昼休憩 こども病院の診療内容の特徴 指導相談部との連携 看護部の組織と委員会 継続教育、ラダー、目標管理 看護提供方式	9:00~12:30 各30分  12:30~13:30 13:30~14:30 14:30~16:20 16:30~17:15	<講義> 水谷主任放射 線技師 郷地薬剤部長 吉田主任検査技師 小島医事課長 下浦栄養指導 課長  <講義> 山崎副院長 箕浦看護部次長 足立看護長	教育委員 (濱端) 足立看護長	研修室A・B
4月6日 (水曜日)	看護記録 クリニカルパス、情報開示、 記録のルール オーダーリングについて 個人ID番号、パスワード 看護過程について 昼休憩 看護業務の安全性 事故防止組織と対応・与薬のルール・シ ステム注射器・注入器など	9:00~10:30 10:30~11:30 11:30~12:30 12:30~13:30 13:30~17:15	<講義> 下雅意看護長 河野看護長 吉田主任 高田看護長	教育委員 (田原) 橋本看護長	研修室A・B
4月7日 (木曜日)	小児・産科における看護業務基準 成長発達段階に応じた看護各論 新生児 乳児 昼休憩 幼児 学童 成人	9:00~10:00 10:00~12:00 各期1時間 12:00~13:00 13:00~17:15	<講義> 伊達看護師 平井看護師 松田看護師 瀬戸看護師 上之園看護師	教育委員 (伊達) 足立看護長	研修室A・B
4月8日 (金曜日)	看護業務と法的責任 救急蘇生  昼休憩 救急蘇生デモンストレーション	9:00~10:30 10:40~11:40 11:40~12:40 12:40~17:15	<講義> 植杉看護部長 <講義> 看護師 (本多・伊藤・粟田) 教育委員 (平井・石本・辻田)	教育委員 (石本) 橋本看護長	研修室A・B

月 日	オリエンテーションの内容	時 間	講 師	担当者	場 所
4月9日 (土曜日)	休み				
4月10日 (日曜日)	休み				
4月11日 (月曜日)	社会人としての自律 こども病院ボランティア 看護協会について さつき会について 昼休憩 看護業務の安全性と小児の感染症 医療廃棄物、衛生学的手洗い、 ガウンテクニック 看護技術とデモストレーション	9 : 00 ~ 10 : 30 10 : 30 ~ 11 : 00 11 : 00 ~ 11 : 30 11 : 30 ~ 12 : 00 12 : 00 ~ 13 : 00 13 : 00 ~ 17 : 15	< 講義 > 菅野看護長 周藤看護長 箕浦看護部次長 小林医師 < 講義 > 箕浦看護部次長 < 演習 > 感染予防対策委員 (中村・吉田) 周藤看護長 時吉看護長	教育委員 (田原)      橋本看護長	研修室 A・B
4月12日 (火曜日)	看護技術とデモストレーション 観察 (バイタルサイン測定) 日常生活の援助 (授乳、オムツ交換、抱っこ、清拭)	9 : 00 ~ 17 : 15	< 講義 > < デモンストレーション > 教育委員 (田畑・伊達・上之園・岩崎)	教育委員 (田畑)  足立看護長	研修室 A・B 研修室 C
4月13日 (水曜日)	診療の補助 小児の薬物療法 処方箋の見方 小児の輸液管理の特徴 輸液の管理と輸液ライン  医療機器の取り扱い 心電図モニター パルスオキシメーター 輸液ポンプ・シリンジポンプ	9 : 00 ~ 15 : 00     15 : 00 ~ 17 : 15	< 講義 > < デモンストレーション > 教育委員 (岩崎・松田・濱端・瀬戸・石本) < 講義 > 臨床工学技士 (中村) < デモンストレーション > 教育委員上記 5名	教育委員 (岩崎)     橋本看護長	研修室 A・B
4月14日 (木曜日)	子どもの権利と看護倫理  オリエンテーションまとめ 小児看護の対する考えの整理と1年後の 目標 (抱負) 閉講式	9 : 00 ~ 10 : 00  10 : 00 ~ 12 : 00  12 : 00 ~ 12 : 30	< 講義 > 濱田小児専門 看護師  教育委員  看護部長・次長 各看護長	教育委員 (田畑)   足立看護長 橋本看護長	研修室 A・B
4月20日 (水曜日)	グループワーク 「オリエンテーションを終えて」 放射線従事者講習	13 : 00 ~ 14 : 00 14 : 00 ~ 17 : 00	橋本看護長 放射線科医師 放射線技師	箕浦看護部次長 足立看護長 橋本看護長	研修室 A・B

平成17年度看護部集合教育

研修コース名	ラダー1	ラダー1	ラダー1	ラダー1
研修会名	就職後3ヶ月研修	看護過程の展開		ケーススタディ
研修月日	7月5日(火)	9月6日(火)	9月6日(火)	3月7日(火)
研修時間	13:00~17:15	9:00~17:15	9:00~17:15	9:00~13:00
研修のねらい	就職後3ヶ月間の思いを共有し今後の看護意欲につなげる	1. ヘンダーソンの看護理論を活用し情報収集できる 2. 指導を受けながら提示事例のアセスメントができる 患者の看護問題をあげることができる	1. ヘンダーソンの看護理論を活用し情報を収集できる 2. 指導を受けながら提示事例のアセスメントができる 患者の看護問題をあげることができる 3. 固定チームナミングにおけるメンバーの役割が考えられる 4. 今後の看護実践に活かすための自己の課題が明確にできる	1. 日々の看護実践の経験を通して自分の目指す看護とは何かについて考えられる 2. 自己の課題が明確にされ自主的な看護の取り組みができる 3. 先輩看護師の看護体験を聞くことで看護のおもしろさ・やりがいを感じることができる
研修目標	1. 3ヶ月間の自分自身の頑張り認め共有できる 2. 日常の看護ケアについて根拠をもって実践することの大切さがわかる 3. 患者・家族・職員間におけるコミュニケーションのとおり方について考えられる 4. 患者の権利を守り個を尊重した看護実践とは何かを経験を通して考えることができる			1. 自己の看護経験を通して自分が大切にしたい看護を見つけ、まとめて発表することができる 2. 他者の看護についての考えや思いを聞き今後の自己の課題が明確にできる 3. 先輩看護師の看護体験を聞き・感じることで自己の看護観を深められる
研修内容	1. 患者(こども)の権利と倫理 2. 今後の自己の課題の明確化	1. 看護過程の展開 2. メンバーシップの理解 3. 今後の自己の課題の明確化		1. 自分が大切にしたい看護の明確化 2. 今後の自己の課題の明確化
研修方法	事前レポートGW	講義GW		レポート 発表 シンポジウム
学習者	新規採用看護職員37名	新規採用看護職員40名		新規採用看護職員、もしくは順ずる看護職員36名
院内外講師	教育委員	教育委員		教育委員、先輩看護師(一外教急:西口愛美)
教育委員会 の執務者	教育担当看護次長(箕浦)教育委員長(足立)、教育副委員長(橋本)教育委員(石本、山岡、杉森、上之園)	教育担当看護次長(箕浦)教育委員長(足立)、教育副委員長(橋本)教育委員(石本、山岡、杉森、上之園)		教育担当看護次長(箕浦)教育委員長(足立)、教育副委員長(橋本)教育委員(石本、山岡、杉森、上之園)
研修場所	研修室AB	研修室AB		研修室AB

研修コース名	リーダー2	リーダー2	リーダー2	リーダー2	リーダー2	リーダー2
研修会名	リスクマネジメント研修	アセスメントステップアップ研修	リーダーシップアップ研修	リーダーシップ研修	リーダーシップ研修	私の看護観
研修月日	8月9日(火)	10月11日(火)	12月6日(火)	12月6日(火)	2月7日(火)	
研修時間	9:00~17:15	9:00~17:15	9:00~17:15	13:00~17:15	9:00~13:00	
研修のねらい	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児看護における安全な環境の提供について考えられ、日常の看護実践に活かすことができる</li> <li>2. 看護に関連する事故事例から小児専門病院の看護師に必要なリスクマネジメントについて考えることができる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 根拠に基づいた看護ケアを自立して実践できる能力を養う</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リーダーの役割を自覚しリーダーシップ・メンバーシップが発揮できる</li> <li>2. 対人関係能力を高めることができる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 固定チームナミングにおける日々のリーダー役割について理解する</li> <li>2. リーダーとしての心構え・意欲が向上する</li> <li>3. 日々のリーダーの役割を担う上でコミュニケーション技法の必要性と方法を学ぶ</li> <li>4. 役割を担う上においてのストレスコントロールの方法が考えられる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の看護観をまとめ発表することができ</li> <li>2. 他者の看護観に触れ共有することで看護の視野が広まり自己の看護観を更に深めることができる</li> </ol>	
研修目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 当院の危機管理システム・看護部事故対策委員会の取り組みの実際を知る</li> <li>2. 事例検討を通して陥りやすい事故要因について考えることができる</li> <li>3. 事故発生時の対応方法が分かり実践できる</li> <li>4. 看護師としての自己責任の重さ・果たし方について考えることができる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 科学的根拠に基づいた看護判断ができる(判断を理論的に説明できる)</li> <li>2. 問題の優先順位を的確に判断し看護計画を立案できる</li> <li>3. 知識と経験をケア計画・実践に活かすことができる</li> <li>4. 個別性を考え状況に応じた看護の展開ができる</li> <li>5. 看護実践の妥当性を評価し次の看護ケアプランへと発展させる方法がわかる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リーダーの役割</li> <li>2. リーダーシップの理解</li> <li>3. 効果的なコミュニケーション</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護観のまとめ</li> <li>2. 中堅看護師としての役割の明確化</li> </ol>		
研修内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ニアミス事例の検討</li> <li>2. 事故防止と発生時の対処についての理解</li> <li>3. 看護師として自己の責任の自覚(メンバーシップ)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程の展開(フィジカルアセスメント)</li> </ol>				
研修方法	事前課題 講義 GW 事後課題	事前課題 講義 GW 事後課題	講義 GW 事後課題	講義 GW 事後課題	レポート 発表	
学習者	リーダー2対象者 30名	リーダー2対象者 27名	リーダー2対象者 22名	リーダー2対象者 22名	リーダー2対象者 16名	
院内外講師	高田看護長 教育委員	教育委員(平井看護師) 教育委員	濱田小児専門看護師教育委員		教育委員	
教育委員会の執務者	教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(足立)、教育副委員長(橋本) 教育委員(田畑、辻田、平井、田原)	教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(足立) 教育委員(田畑、辻田、平井、田原)	教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(足立)、教育副委員長(橋本) 教育委員(田畑、辻田、平井、田原)	教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(足立)、教育副委員長(橋本) 教育委員(田畑、辻田、平井、田原)	教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(足立)、教育副委員長(橋本) 教育委員(田畑、辻田、平井、田原)	
研修場所	研修室 AB	研修室 AB	研修室 AB	研修室 AB	研修室 AB	

研修コース名	ラダー3 (全体の計画)	ラダー3 (1回目)	ラダー3 (2回目)
研修会名	小児ジェネラリスト研修	変革理論	リスクマネジメント
研修月日	月1回 第3火曜日の5回	9月20日	10月18日
研修時間	8:45~17:15	8:45~17:15	8:45~17:15
研修のねらい	小児専門看護師として、役割モデルとなり、こども病院的看護の質を高める	1. 小児専門病院的看護師としての役割を理解する 2. ジェネラリストとして変革推進者の役割を理解し組織変革に貢献できる	1. 看護師の法的責任について理解を深め、患者が安心して医療を受ける環境づくりができる 2. リスクマネジメントに関する知識を持ち、自ら問題提起し、解決への提案ができる
研修目標	1. 患者・家族の権利を尊重した看護実践ができる 2. 小児看護領域の専門性を高め、こども(個)に適した看護方法を創意工夫できる 3. 実践場面でリーダーシップが発揮できる	1. こども病院における小児看護の役割を確認する 2. 当院看護師としての自覚が高まり、期待される役割が分かる 3. 変革理論の概要を理解する 4. 変革の必要性および変革過程での抵抗や対策を理解する 5. グループダイナミクスを活用するための自身の役割について考えられる	1. 看護業務規定・法的責任について理解する 2. 判例事例から、看護師の法的責任について考えられる 3. 所属病棟のマイクログローブが明確にできる 4. 科学的真づけに基づいた事故分析ができ、問題解決方法が考えられる
研修内容	毎回テーマに沿ってレポート提出	1. 役割モデルとは(講義) 2. 効果的なGWについて 3. 変革理論の講義事例展開	1. 県立病院における医療訴訟の現状について 2. 看護業務規定・法的責任 3. 背景要因分析
研修方法	講義 演習 GW 事前課題 事後課題 成果レポート作成及び発表	講義 演習 GW 事前課題 事後課題	講義 演習 GW 事前課題 事後課題
学習者	ラダー3に該当する看護師で、看護長が推薦、且つ、本人の研修出席意志がある臨床経験5年~10年(当院看護師歴1年以上)	ジェネラリスト研修生 16名 一般聴講生	ジェネラリスト研修生16名 一般聴講生
院内外講師	院内講師 (看護次長、看護長、教育委員、小児専門看護師、医師、保健師など)	箕浦看護次長：変革理論 足立看護長：小児専門病院的看護師の役割 教育委員(伊達看護師)：効果的なグループワーク 教育委員	病院同職員(松原氏)：判例事例 高田看護長：背景要因分析 教育委員
教育委員会の執務者	教育担当看護次長、教育委員長、教育副委員長、教育委員等	教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(足立)、教育副委員長(橋本) 教育委員(伊達、河江、泊、瀬川、岩崎)	教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(足立) 教育委員(伊達、河江、瀬川、岩崎)
研修場所	研修室 AB	研修室 AB	研修室 AB

平成16年度成果発表会：12月16日、20日17:30~19:00

研修コース名	リーダー3 (3回目)	リーダー3 (4回目)	リーダー3 (5回目)
研修会名	チーム医療	継続看護	グループマネージメントとリーダーシップ
研修月日	11月15日	12月20日	1月17日
研修時間	8：45～17：15	8：45～17：15	8：45～17：15
研修のねらい	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児専門病院におけるチーム医療について理解し、看護においてリーダーシップがとれる</li> <li>2. こどもの権利を理解し、アドボケーターとしての役割について考え、実践できる</li> <li>3. 小児専門病院看護師として看護のインフォームドコンセントが実践できる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 継続看護の重要性を理解し、地域との連携や社会資源を活用した退院指導ができる</li> <li>2. 在宅支援へ移行するための家族支援ができる</li> </ol>	<p>グループマネージメントがわかり、リーダーシップの発揮方法がわかる</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. リーダーとしての自分の強み・弱みがわかり、自己を否定する影響を取り除くことができる</li> <li>2. 自己の個性を最大限に活用した、リーダー像をイメージし、そのための課題を考えられる</li> <li>3. グループマネージメントが理解できる</li> </ol>
研修目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会におけるこども環境を知る</li> <li>2. 小児専門病院のチーム医療の実際について理解する</li> <li>3. チーム医療における看護師の役割について述べることができる</li> <li>4. こどもの権利を理解し、看護実践においてよき支援者になれる</li> <li>5. アドボケーターとしての役割について考えられる</li> <li>6. 小児看護における患者の意思決定の選択肢と予測される結果を明確にできる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 継続看護の必要性について説明できる</li> <li>2. 在宅支援の実際を理解する</li> <li>3. 地域との連携の実際と社会資源の活用方法を理解する</li> <li>4. 在宅支援のための家族看護が実践できる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己分析</li> <li>2. 集団理解とグループマネージメントスキル</li> <li>3. チームの成長とリーダーシップ</li> </ol>
研修内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. チーム医療</li> <li>2. こどもの権利と倫理原則</li> <li>3. アドボケーターの役割</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅支援の実際</li> <li>2. 地域連携室の役割、公的支援</li> <li>3. 退院指導計画書の作成</li> </ol>	
研修方法	講義 演習 GW 事前課題 事後課題	講義 演習 GW 事前課題 事後課題	講義 演習 GW 事前課題 事後課題
学習者	ジェネラリスト研修生 16名 一般聴講生	ジェネラリスト研修生 16名 一般聴講生	ジェネラリスト研修生 16名
院内外講師	西島副院長：チーム医療 濱田小児専門看護師：小児看護におけるインフォームドコンセント（アドボケーターの役割） 教育委員	塚口訪問看護ステーション小林保健師：小児の在宅看護の実際 当院行保健師：当院の在宅医療の実際 教育委員	足立看護長：グループマネージメント 教育委員
教育委員会の執務者	教育担当看護次長（箕浦） 教育委員長（足立） 教育委員（伊達、河江、泊、瀬川、岩崎）	教育担当看護次長（箕浦） 教育委員（足立）、教育副委員長（橋本） 教育委員（伊達、河江、泊、瀬川、岩崎）	教育担当看護次長（箕浦） 教育委員長（足立）、教育副委員長（橋本） 教育委員（伊達、河江、泊、瀬川、岩崎）
研修場所	研修室 AB	研修室 AB	研修室 AB

研修コース名	ラダー2	ラダー2	ラダー2	ラダー2
研修会名	プリセプター研修(1回目)	プリセプター研修(2回目)	プリセプター研修(3回目)	
研修月日	3月23日(水)	7月12日(火)	1月24日(火)	
研修時間	14:00~17:15	9:00~17:15	13:00~17:15	
研修のねらい	こども病院のプリセプターシップを理解し主体的に後輩指導に臨める	プリセプターとしての3ヶ月間を振り返り病棟での自分の役割を明確にする	1. 後輩指導について自己の考えがもてる 2. プリセプターの役割を通して自己の成長が確認できる	
研修目標	1. プリセプターとしての自己の役割を明確にし、プリセプターを受け入れることができる 2. プリセプターとしての行動目標を設定できる	1. セブティとの関わりを振り返り、病棟での自分の役割を明確にする 2. 3ヶ月間のプリセプターの体験を通して、自己・他者評価をもとに自分自身を振り返ることができ 3. 問題点を共有し、思考過程を踏むことにより今後の効果的な支援方法を見出す 4. プリセプターとして今後の行動目標の修正・立案ができる	1. プリセプターの役割行動を評価できる 2. プリセプターの役割を振り返ることで後輩指導の役割が明確になる	
研修内容	プリセプターシップ 指導方法	プリセプターとしての自己・他者評価 評価の必要性・評価方法の理解 今後の目標確認		
研修方法	講義 GW	講義 GW	講義 GW レポート発表	
学習者	今年度プリセプターの役割を担う看護師(新規)17名	今年度プリセプターの役割を担っている看護師20名	今年度プリセプターの役割を担っている看護師(新規)14名	
院内外講師	橋本看護長 濱田小児専門看護師	教育委員	箕浦看護次長 教育委員	
教育委員会の執務者	教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(足立)、教育副委員長(橋本) 教育委員(石本、山岡)	教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(足立)、教育副委員長(橋本) 教育委員(石本、山岡)	教育担当看護次長(箕浦) 教育委員長(足立)、教育副委員長(橋本) 教育委員(石本、山岡)	
研修場所	研修室 AB	研修室 AB	研修室 AB	

母子フォローアップ研修

ねらい：周産期・小児専門病院看護師としてより専門的な知識を習得する

学習者：テーマに興味のある方 全看護師対象

開 催：原則木曜日 17：30～19：00

研 修 日	研 修 名	参加者	講 師	担 当 者	場 所
6月16日 (木)	小児麻酔・産科麻酔について	60名	麻酔科医師 香川哲郎	教育委員 (田原・上之園)	研修室 AB
8月16日 (火)	心電図の基本	121名	循環器科医師 城戸佐知子	教育委員 (平井・瀬川)	研修室 AB
10月20日 (木)	GER のある患者の治療及びケア	95名	外科医師 西島栄治	教育委員 (辻田・山岡)	研修室 AB
12月20日 (火)	気管切開児のケアマニュアルの内容と活用の仕方	85名	HCU 看護師 武田志乃	教育委員 (岩崎)	研修室 AB



## 平成17年度看護実践報告会

目的： 日常の看護実践を科学的に分析し、結果を意味付けし成果として発表する。

看護実践の成果を共有することにより、小児専門病院としての看護の質の向上を図る。

日 時：平成17年3月11日（土曜日）13：00～17：00

運営委員：箕浦洋子 時吉あけみ 凧真貴子 春名真巳子

所属名	研究テーマ	研究メンバー
循環器B病棟	気管切開のある長期入院患児について ケアマニュアルを用いた在宅へのアプローチ	高田 麻紀 平井 重世 瀧 明以子 中村 純子 藤森麻衣子 平峯衣久美
HCU 外科一般病棟	先天性副腎仮形成の退院指導	山本 あい 深江登志子 尾畠 淳子 森本 葉子 吉田知可子 穂之上 睦 酒匂 弘美 米谷 直美 河野 恵
産科病棟	不妊治療を受けて分娩した患者への家族計画指導 について考える	能勢 純子 福田知恵 福田 知恵 中井 愛 杉友 ユリ
GCU	集団育児指導（お話会）を試行して - 育児支援の統一を目指して -	田代 曜子 井谷 洋美 谷塚 瑠佳 日々恵美子 長谷 明美 森田佳奈恵 山崎 弥生
外来	当院における難聴児への取り組み	大谷 操穂 井出公美子 今井 澄子
学童主体病棟	与薬忘れ防止に対する取り組み	中尾 愛子 榎本 豊恵 西谷 道子 森田 美鈴 春名真巳子
循環器A病棟	手術・検査を受ける児へのプリパレーションを行っ ての評価	合田 里美 長尾真裕美 岩井さよ子 伊藤 祥子
NICU	外来採血室における取り組み - シールを用いて子供のやる気を支える -	和久 望美 小泉 仁美 菰野 朱美 藤定 睦子 足立久美子
中央手術室	帝王切開術クリニカルパス作成への取り組み	前内 美保 大西布美江 川崎 妃美 高田 聖子
内科外科混合病棟	点滴保護カバーを作成して	森野 エミ 植山 真紀 下雅意つるえ
血液腫瘍主体病棟	歯科との連携による口腔内トラブルの減少 - 患児・家族とともに口腔ケアに取り組むために -	森本 佳世 小野 里美 難波 美幸 川崎 紀子 藤本 恵子 松下伊都子 堀川 由佳 周藤 育子
一般外科主体病棟 救急医療室	小児救急における家族へのグリーンケア - 脳ヘルニアで緊急入院となった症例を通じて -	牧野友美子 辻田 利香 清水 称喜 橋本ひとみ
ICU	カンファレンス活性化に向けての取り組み	木村 清子 山本 千佳 西村美喜子 林京子 尾 松加 奈子 村川貴美代 井上裕美子 廣川かおる 藤久保真季
業務委員会	業務委員会による看護業務量調査への取り組み	林 京子 伊藤 宏美 刈谷 友紀 伊賀ひとみ 松田絵利子 中尾 愛子 山村 福子 横山 経子 大谷 操穂 大田 君子 森保 美香 山口 智子 河野真由美 春名真巳子 河野 恵
摂食ケア部会	長期にわたる継続したケアが効果をもたらした一 症例の報告	森本葉子

平成17年度 看護協会主催研修会等参加者名

研 修 会	開催月日	産科	NICU	GCU	HCU	ICU	手術室	血液腫瘍	混合	学童	循環 A	循環 B	一般外科	外来	看護部	ME	合計
生き生きとした職場活性のためのコーピング	7/8		伊達尚美							森田美鈴							2
看護記録は誰のもの? 1 コース	7/20					藤田優一		川崎紀子									2
新人ナースの感染予防	8/22				湯村佳奈子												1
臨床上活かす看護過程	8/30		宇佐美陽子		井上晴香												2
災害医療を考える	9/12				深江登志子					榎本豊恵							2
自己教育力の開発	9/22		嶋浦由佳	伊賀ひとみ		高田一美	登 郁子		植山真紀								5
Safety Management	9/29		荻野朱美	瓜真貴子			高田聖子										3
法によるセリアスマネジメントと医療個人情報の保護	9/30				武田志乃					文字智子							2
健康教育 ~患者の変化を信じる看護を学ぼう~	10/3	寺澤美穂 中根亨子															2
臨床上における看護倫理とは	10/4			大北正子			田原エリカ				山下真理子						3
臨地実習指導 コース	10/5 10/7			日々恵美子	家常栄里香												2
看護研究 (統計学の基礎)	10/14	福原愛				鈴木朝子											2
看護管理の基本的スキル	10/18	中西亜希子		高木のぶ子		谷本江利子											3
裾創ケア対策	10/20													中村純子			1
看護職のためのストレスマネジメント	10/21		植村佐和子		穂之上睦			米田洋子									3
経営戦略と看護管理	11/7	杉友ユリ					藤田真理子										2
臨地実習指導 2 コース	11/9 11/10	奥田景子															1
看護記録は誰のもの? 2 コース* 1 コースと同内容	11/11	柳川瀬涼子		熊本裕美	山内明		川崎妃美										4
緩和医療	11/25							藤本恵子									1
理論で学ぶ家族看護	12/5 12/6		坂田佳子					松田絵利子	前原由紀								3
今日から始める感染防止	12/8			後藤理美			井上裕子				金気智代恵						3
退院計画調整	12/9				山口智子												1
看護研究~基礎 2~	12/14	能勢純子		田代耀子													2
スタッフナースとして取り組む医療事故防止	12/16							木下めぐみ				高橋千鶴					2
コミュニケーション技術	1/25							中平裕記子					辻田利香				1
継続教育	1/26 1/27							河江伸子									2
看護管理ファーストレベル	8/1~ 9/9									春名真巳子							1
看護管理セカンドレベル	10/4~ 11/18													橋本ひとみ			1
診療情報の保護と開示	1/20 1/21								江崎公代								1
子どもと家族を救う小児救急看護	10/25 10/26												田中理絵				1
周産期医療における生命倫理	7/29 7/30		藤田雅子 小泉仁美														2
自治体病院看護管理者研修	11/9 11/11			三宅典子							堀場里美	工藤好子		大西美樹			4
合計		8	8	9	8	4	6	7	3	4	3	2	4	1	0		67

平成17年度 学会等参加者名

学会名	開催月日	産科	NICU	GCU	HCU	ICU	手術室	血液腫瘍	混合	学童	循環A	循環B	一般外科	外来	看護部	ME	合計
日本小児循環器学会総会	7/6~ 7/8					中村亮子											1
日本小児看護学会	7/23~ 7/24											西平倫子					1
日本摂食・嚥下リハビリテーション	9月2日				森本葉子												1
アジア太平洋小児泌尿器科学会	9/29~ 9/30													鎌田直子			1
自治体病院学会	10/13~ 10/14									文字智子				大谷優穂 泊 菊子		中村智裕	4
新生児学会	12/5~ 12/6		藤定睦子 藤田雅子	後藤瑠美													3
近畿小児ストーム・排泄・創傷研究会	12/10												東 絵理	松山美穂			2
重症障害児医療講習会	1/14~ 1/15				山本 あい												1
日本福祉整備学会	11/9~ 11/10															中村智裕	1
クリティカルパス									下雅意つる え						藤久保真季		2
日本褥そう学会	8/26~ 8/27						日切加奈子							鎌田直子			2
日本環境感染症学会	2/24~ 2/25							周藤育子			時吉あけみ				箕浦洋子		3
合計		0	2	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	5	2	2	22

平成17年度 県立病院局ラダー研修参加者名簿

対象者	看護部長・次長研修	看護長研修	ラダー リーダーシップ研修	ラダー 看護過程・倫理	ラダー 臨床実習指導	ラダー キャリア開発	ラダー 医療倫理	ラダー 主任研修
開催日	7月30日	8月20日	10月19・20日	8月10日 8月24日	8月3・4・5日	9月26・27日 1月13日	6月22日 6月28日 11月30日	7月13・14・15日
参加者名1	植杉チヨ子	足立久美子	久留真美子	寺川 亜希	中村 沙世	三谷 真美	大野 美香	中川 芳江
2	池尻 操子	納 栄子	藤本 詠子	古谷野亜紀	本多 綾子	塩田まゆみ	太田 君子	藤定 睦子
3	箕浦 洋子	河野 恵	熊本 裕美	表 麻紀	杉森 恵美	高野 麻紀	藤原 真弓	三宅 典子
4	藤久保真季	下雅恵つるえ	田代 曜子	小涼 輝美	尾畠 淳子	高石まゆみ	山本 栄	西村 佳子
5		周藤 育子	深田美恵子	岩田 恵	石本 敦子	土井 真弓	陸本 真理	大中 清文
6		菅野 峰子	山本 あい	沖 香織	高橋 紫	山崎 弥生	伊賀ひとみ	藤澤 由
7		時吉あけみ	湯村佳奈子	藤原 則子	瀬川 真紀	黒木 美咲	高木のぶこ	宮崎 麗
8		凧 真貴子	倉井佑布子	圓尾 明子	井上 扶美	山内 明	中村 孝子	堀場 里美
9		橋本ひとみ	本田 真也	西平 倫子	金澤 祥江	中村 亮子	武田 志乃	濱端 健一
10		今井 澄子	井上 裕子	平 香菜子	植山 真紀	竹田真由美	榑木 郁江	工藤 好子
11		高田 聖子	河南 実希	杉山真由美	中川 由美	加藤由記子	河野真由美	森田 昌子
12			秦 亜寿沙	山部由美子	松野 由子	堀坂 由美	前谷 由美	濱田 米紀
13			井上 徹子			渡辺裕美子	藤岡 敦子	大西 美樹
14			井上 裕子			小林久美子	伊藤 宏美	山下理恵子
15			田中 絵理			藤原 千草	岩井さよ子	
16			森本 佳世			森野 エミ	長尾真裕美	
17			宮本智佳子			山村 福子	中尾 愛子	
18						難波 美幸	榑本 豊恵	
19						小野 里美	住友 京子	
20						松山 美穂	中 文子	
21						井出公美子	藤本 恵子	
22							中田 敬子	
23							大谷 操穂	
24							小澤 一美	
合計	4	11	17	12	12	21	24	14

## 看護部

## 看護学生

看護学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習病棟
兵庫県立大学看護学部	長期実習	11名	5月9日～6月3日	血液主体病棟、一般外科 循環器A、循環器B
兵庫県立大学看護学部	短期実習	12名	10月17日～10月28日 10月31日～11月11日 11月14日～11月25日	血液主体病棟
	短期実習	9名	10月3日～10月14日 11月14日～11月25日 11月28日～12月9日	混合病棟
	短期実習	9名	10月17日～10月28日 10月31日～11月11日 11月28日～12月9日	学童病棟
	短期実習	10名	10月17日～10月28日 11月14日～11月25日 11月28日～12月9日	循環器A病棟
	短期実習	7名	10月3日～10月14日 10月31日～11月11日	循環器B病棟
	短期実習	11名	10月3日～10月14日 10月17日～10月28日 11月14日～11月25日	一般外科病棟
	短期実習	11名	10月3日～10月14日 10月31日～11月11日 11月28日～12月9日	HCU病棟
兵庫県立大学看護学部	インパクト実習	16名	8月1日～8月5日	血液主体病棟、一般外科 循環器B、学童
兵庫県立大学看護学部	出会い実習	21名	1月30日～2月10日	血液主体病棟、一般外科 学童病棟、混合病棟 循環器A、循環器B
兵庫県立大学看護学部	システム論実習	6名	6月6日～6月10日	NICU、HCU、一般外科 混合、循環器B、手術室
	システム論実習	5名	6月13日～6月17日	産科、学童、循環器A GCU、血液主体、外来

看護学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習病棟
兵庫県立総合衛生学院 看護学科1部	小児看護実習	6名	7月6日～7月15日 8月23日～9月2日	血液主体病棟
		5名	6月7日～6月17日 6月21日～7月1日	学童病棟
		5名	6月7日～6月17日 6月21日～7月1日	混合病棟
		6名	6月21日～7月1日 7月6日～7月15日	循環器A病棟
		6名	6月21日～7月1日 7月6日～7月15日	循環器B病棟
		6名	7月6日～7月15日 8月23日～9月2日	一般外科
総合衛生学院 看護学科2部	産科看護実習	5×4 G 6×2 G 計32名	5月26日・27日 6月9日・10日 7月7日・8日 9月14日・15日 10月6日・7日 11月1日・2日	産科病棟
総合衛生学院 助産学科	新生児 看護実習	4名	9月27日～9月29日	G C U病棟
		4名	10月4日～10月6日	
		4名	10月11日～10月13日	
		4名	1月24日～1月26日	

## 大学院生等研修

学 校 名	研 修 目 的 ・ 人 数	期 間	研 修 病 棟
兵庫県立大学大学院 看護学研究科	修士課程小児看護実践演習 3 名	11月～H18年3月	循環器 A・B、HCU 血液主体、学童

## 受託研修

研 修 名	研 修 期 間	研 修 者	研 修 場 所
兵庫県立のじぎく療育センター	9月26日～9月30日	加藤 美加	学童病棟・手術室
兵庫県立のじぎく療育センター	10月24日～10月28日	清水由香利	学童病棟・手術室
沖縄県立那覇病院 PICU・看護管理	11月22日～12月7日	平良 孝美	一般外科・救急医療室 ICU
臨床工学技士専攻科実習	11月28日～12月16日	田中 孝憲 萩原 英夫	手術室
小児ストーマ外来実習	12月12日	山田 佳枝 近石 昌子 増田 智美	外来
	12月26日	北川 智美 池田 未央 貞廣 衣代	外来

## その他の研修

研 修 名	研 修 生	研 修 期 間	研 修 場 所
ふれあい看護体験	須磨東高校 (3名) 須磨友が丘高校 (2名) 神戸常盤女子高校 (2名) 須磨高校 (1名) 神戸海星女子学園 (1名) 能見学園星城高校 (1名)	7月26日	血液主体 一般外科 循環器 A 混合

看護部ボランティア

ボランティアグループ	内 容	開 催 日	担 当 者
協会ボランティア (全国ボランティア協会)	交流会 (30名)	9月27日	池尻 操子 時吉あけみ
	健康診断 (16名)	9月27日	
	10年表彰 (1名)	9月27日	
病院ボランティア (こども病院で募集)	交流会 (15名)	10月25日	河野 恵 橋本ひとみ
	健康診断 (7名)	10月25日	
健康診断担当医師：大橋 正伸 周産期医療センター所長			



平成17年度看護部委員会名簿

委員会名	主任会	教育委員会	臨床指導者会	業務改善委員会	感染対策委員会	事故防止対策委員会	看護記録委員会	領域別・看護ケア向上委員会		
								WOC ケア部会	呼吸障害ケア部会	摂食障害ケア部会
開催日時	偶数月・第4金 13:45～16:45	毎月・第1金 13:45～16:45	奇数月・第4金 13:45～16:45	毎月・第3金 13:45～16:45	毎月・第2木 13:45～16:45	毎月・第2水 13:45～16:45	毎月・第2金 13:45～16:45	毎月・第2火 13:45～16:45	毎月・第2火 8:30～12:30	毎月・第4木 8:30～12:30
場所	研修室C	研修室C	研修室C	研修室C	研修室C	研修室C	研修室C	研修室C	研修室C	研修室C
委員長	今井 澄子	足立久美子	時吉あけみ	河野 恵	周藤 育子	高田 聖子	下雅意つるえ	鎌田 直子	高石まゆみ	森本 葉子
副委員長	納 栄子	橋本ひとみ		春名真巳子	時吉あけみ	菅野 峰子	凧 真貴子	日切加奈子	文字 智子	岡野 恭子
オプザーバー	池尻 操子	箕浦 洋子	藤久保真季	池尻 操子	箕浦 洋子	池尻 操子	藤久保真季	箕浦 洋子	箕浦 洋子	
産科病棟	杉友 コリ 中川 芳枝	上之園明美	奥田 景子	太田 君子	大納 綾	中根 享子	大野 美香			
NICU	菰野 朱美 藤定 睦子	伊達 尚美		森保 美香	藤田 雅子	柳川瀬涼子	五十嵐 良	小泉 仁美	本多 綾子	坂田 佳子
GCU	三宅 典子 西村 佳子	杉森 恵美	日々恵美子	伊賀ひとみ	後藤 瑠美	橋本真紀子	高木のぶ子		山崎 弥生	黒木 美咲
ICU	西澤由美子 谷本江利子	石本 敦子	山本 千佳	林 京子	中村 亮子	西村美喜子	藤田 優一	小原たまき	本田 真也	伊丹 照美
HCU・外一	竹井 朋子 大中 清文	岩崎 真弓	家常栄里花	山口 智子	吉田知可子	中村 孝子	山内 明	尾島 淳子	東 知宏	森本 葉子
血液主体病棟	上坪 成子 濱田 米紀	河江 伸子	難波 美幸	松田絵利子	中川 由美	木下めぐみ	川崎 紀子	鈴木 有香	小野 里美	東谷 直子
学童病棟	森田 美鈴	山岡 凡子	金沢 祥江	中尾 愛子	西谷 道子	玉田 佳美	長谷 文枝	藤原 千草	文字 智子	榎本 豊恵
内・外混合病棟	江崎 公代 森田 昌子	田畑 智子	植山 真紀	山村 福子	橋口ゆかり	前原 由紀	前島 郁	住友 京子	森野 工三	岡野 恭子
循環器主体A	堀場 里美 濱端 健一	瀬川 真紀	小谷 綾子	伊藤 宏美	金気智代恵	堀坂 由美	山下真理子	渡辺裕美子	伊藤 由香	長尾真裕美
循環器主体B	吉田 竹彦 工藤 好子	平井 重世	引原万由美	刈谷 友紀	大原三代子	片岡 直美	小林久美子	中村 純子	高田 麻紀	瀧 明以子
一般外科病棟	斉藤富美代 宮崎 麗	辻田 利香	田中 智美	横山 経子	豆崎 紀子	高橋 千鶴	宇宿麻里子	東 絵理	栗田香奈子	加藤由記子
外来	大西 美樹 山下理恵子	泊 菊子	足立 知穂	大谷 操穂	糸島美砂子	中田 敬子	小澤 一美	松山 美穂	北條佳代子	
手術室	藤田真理子 藤澤 由	田原工リカ	井上 裕子	河野真由美	高橋 紫	菊池真由美	川崎 妃美	日切加奈子		

## 看護部委員会活動

主任会 <活動回数；6回>

### <活動目的>

患者家族の安心と満足が得られるために、主任としての役割を遂行し職場を活性化する。

### <活動内容>

- (1) 個人情報保護法に関して各部署の問題点を明らかにした。  
対策として手術・検査・外来受診などの搬送用に、カルテ・レントゲンフィルム用の袋を使用することにした。
- (2) 安全「防犯」に対する現状調査し職員の意識向上と全体での取り組みへの提言をする。  
対策として、職員は職員証の携帯をすること、患者家族は夜間・休日入院の場合も面会証を携帯できるように整えた。
- (3) 入院時の食事申し込み方法を検討し、外来・病棟間の業務を円滑にする。  
対策として、食事形態パンフレットとミルク・経腸栄養剤の一覧表を作成し、入院時の食事形態やミルクの確認に役立てている。
- (4) リーダー育成の現状を分析し、リーダーのマネジメント能力育成指針を作成する。  
リーダーシップとマネジメント評価ツール ・評価ツール を作成するが未実施。
- (5) その他  
ふれあい看護体験の実施：7月26日  
主任研修：6月24日「主任としての効果的な関りを学ぶ」 講師：勝原 裕美子 先生  
活動報告会：平成18年2月24日13：30～15：25 テーマ 「2人主任制を導入して」

教育委員会 <活動回数；12回>

### <活動目的>

- (1) さまざまな教育背景を持つ看護職員に対して、当院で看護をおこなっていくために必要な知識・技術の習得や態度を育成し、より質の高い看護ケアを提供できるように看護師個々を支援する。
- (2) 看護部の理念や目標を達成するために、看護師継続看護について企画・運営・評価を通して看護師個々の成長を図ることができるように活動する。
- (3) 看護部における集合教育は、現場における日々の教育支援につながることや動機付けが主たるねらいであるから、現場における教育との関連性・継続性を図ることができるように運営する。

### <活動内容>

- (1) 新規採用者オリエンテーションを企画運営（平成17年4月1日～14日）
- (2) 集合教育の企画・運営  
ラダー1 3回/年  
・就職3ヶ月研修  
・看護過程の展開  
・ケーススタディ  
ラダー2 7回/年  
・プリセプター研修（3回）  
・リスクマネジメント研修

- ・アセスメントステップ研修
- ・リーダーシップ研修
- ・私の看護観

リーダー3（小児ジェネラリスト研修）5回/年（平成17年9月～平成18年1月）

- ・役割モデル、変革理論
- ・小児専門病院におけるチーム医療、こどもの権利と看護
- ・看護師に求められる法的責任、リスクマネジメント
- ・継続看護
- ・グループマネジメントとリーダーシップ
- ・前年度受講生成果発表会（平成17年12月16日・12月20日）

母子フォローアップ研修（4回） 全看護師対象 時間外研修

小児麻酔・産科麻酔について、心電図の基本、GERのある患者の治療及びケア、気管切開  
児のケアマニュアルの内容と活用の仕方

事故防止委員会 <活動回数；11回>

<活動目標>

- (1) 与薬忘れ、ライントラブル、転倒・転落のレベル1のヒヤリ・ハット件数を昨年より20%減少させる。
- (2) 安全チェックリストをもとに調査し、広報とともに安全に対する意識を高める。
- (3) ヒヤリ・ハット事例の分析方法を検討し、各病棟に浸透させる。

<活動内容>

- (1) オーダリング開始に伴う与薬システムの見直し
- (2) 「与薬忘れ0キャンペーン」の実施
- (3) セルシン内服時の転倒・転落防止の家族用パンフレットの作成
- (4) 転倒・転落防止のため、月1回病棟内パトロール実施
- (5) 転倒・転落防止ポスター見直し
- (6) 輸液ラインの使用状況（閉鎖式ライン・テガベア・IV固定方法など）のパトロール実施
- (7) 薬剤部・診療部・血液主体病棟と連携し、与薬ルートの検討
- (8) 広報活動として、NEWS安全（新聞）の月1回発行
- (9) 事故報告をもとに、ベビーカーの使用方法的ポスター作成
- (10) 各委員による病棟スタッフへの背景要因分析法の説明・実施
- (11) 看護部事故防止マニュアルの見直し

業務改善委員会 <活動回数；10回>

<活動目的>

- (1) 日常業務を見直し、業務改善・スリム化・効率化を図り、看護ケアの質的向上を図る。
- (2) (1)で見直したものは、必ず看護基準・手順として成分化しておき評価できるようにする。
- (3) 看護業務の実態調査と評価を行う

<活動目標>

- (1) 看護業務量調査結果の分析
- (2) 看護基準・手順の見直し
- (3) 在宅指導マニュアルの見直し、修正

<活動内容>

- (1) 平成16年度に実施した看護業務量調査結果の分析を行った。(兵庫県立病院学会、院内看護実践報告会で発表)
- (2) 看護基準・手順の見直し(県の手順フォーマットに準じて修正した。)
- (3) 在宅指導マニュアルの見直し、修正(退院の流れと退院療養計画書を作成した。)

臨床指導者会 <活動回数; 6回>

<目 標>

学生の実習を通して指導スキルの向上、自己成長ができる  
各部署全体で指導スキルの向上ができるような教育的な関わりができる  
患者様を優先とした安全で有効な実習ができる

<活動内容>

\* 委員としての基礎知識習得のために委員長の講義と前年度研修受講者から研修内容の講義を行なった

\* 実習の打ち合わせと評価

兵庫大学(短期、長期実習 インパクト(1年生)、出会い実習(2年生))

総合衛生学院

ひやりはっとはあったが、ほぼ実習目標は達成できた

出会い実習は今回初めての实習であった

\* 前年度の問題(患者情報の取り扱い)の統一

学生が患者情報の書類を忘れてたり、病院名を特定できるような会話を病院外でしていたということがあった。今年度はそのことを踏まえて、患者情報の取り扱いや倫理面から注意することを大学や学院へ教育の徹底を依頼した。病院では再度実習を開始時オリエンテーションで確認することを徹底した。今年度は特に問題はなかった。

\* 新聞作成

指導担当者以外にも実習に関心と知識向上のため院内用の新聞を作成内容は現在の学生気質、良い結果のでた実習、悪い結果の実習内容

\* 小児看護合同会議

昨年から継続で塚口病院と合同会議があった。

学生の傾向や今年度から開始となった承諾書の問題についてなど話し合った

病院による差は認められなかった

\* 承諾書

大学の短期実習から書面で承諾を取る方法に変更

1例拒否はあったが、受け持ちは承諾ということで承諾書なしの確認となった

年間の活動により委員は、看護師に求められる教育的機能を実体験でき、看護師としての自己、育てることで自己が成長できたことを体得できている

<p>感染対策委員会 &lt;活動回数；11回&gt;</p>
<p>&lt;活動目的&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 院内感染対策委員会と連携し、感染防止対策を推進する。</li> <li>(2) 院内感染防止対策の見直しと監査システムの確立、定期的な監査の実施と指導をおこなう。</li> </ol> <p>&lt;目 標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) リンクナースとしての役割が遂行できる。</li> <li>(2) 閉鎖式輸液ラインのカテーテル感染防止対策を検討する。</li> </ol> <p>&lt;活動内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ICT回診時に各部署の感染状況を報告し、ICTメンバーと感染防止対策を検討した。</li> <li>(2) 閉鎖式輸液ラインの消毒方法を検討した。</li> <li>(3) 血流感染サーベイランスシートと環境オーデットを作成した。</li> <li>(4) 院内感染防止研修会（計6回）の運営をおこなった。</li> </ol>
<p>記録委員会 &lt;活動回数；11回&gt;</p>
<p>&lt;活動目的&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 看護記録の改善（看護の経過が見える記録）を図り、看護ケアの質的評価ができるようにする。</li> <li>(2) 看護記録の監査システムの確立と監査の実施、指導を行う。</li> <li>(3) クリニカルパスを作成し、医療・看護ケアの質的保証と患者・家族の納得いく医療につなげる。</li> </ol> <p>&lt;活動内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 質的監査ツールを作成し、実施した（9月：試行後修正、11月：全病棟で実施）</li> <li>(2) 機械的監査方法と監査結果の効果的なフィードバック方法を検討し、実施した （自部署監査：7月、2月、他部署監査：11月、12月）</li> <li>(3) 不適切な用語を記録から抽出し、適切な用語・表現方法の検討を行った</li> <li>(4) クリニカルパスと標準看護計画の連動を検討し、内容の充実を図った</li> <li>(5) クリニカルパス記載要項の見直しを行った</li> <li>(6) 新規パスの作成 輸血療法、中心静脈カテーテル抜去、骨髄穿刺、髄腔内注射療法・骨髄穿刺、骨髄採取術の計6種類の新規パスを作成した。平成17年度3月末現在 43種類</li> </ol>
<p>領域別・看護ケア向上委員会</p>
<p>&lt;活動目的&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 専門的実践能力の向上を図り、専門的知識・技術を他の看護師に還元し患者のQOLを高める。</li> <li>(2) 必要とされる領域の看護を自発的に学習し、責任ある実践ができるよう看護師に動気づける。</li> <li>(3) 専門領域を、呼吸・WOC・摂食の3部会とし、実践指導、教育、指導、相談、質的向上のための調査・研究を行う。</li> </ol>
<p>摂食部会 &lt;活動回数；11回&gt;</p>
<p>&lt;目 標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 患者を全人的に捕らえ、より良い摂食援助を行い、こどものQOLを高める。</li> </ol>

(2) 委員は、摂食領域の知識・技術を高め、スタッフの動気づけを行う。

<活動内容>

- (1) 各病棟の摂食障害のある児をビデオを通して事例検討を行う。
- (2) 各病棟の摂食訓練を体験し、技術の向上に向ける。
- (3) 勉強会ツールの検討・作成

呼吸部会 <活動回数；11回>

<目 標>

- (1) 病棟訪問を通してベッドサイドケアの充実を行う。
- (2) 在宅呼吸ケアを必要とする患児への指導の統一を図る。
- (3) 呼吸関連事故を検討し、呼吸ケア関連事故の予防と啓蒙を行う。
- (4) MEとの連携を図り、安全な器材管理につなげる。

<活動内容>

- (1) ベッドサイドケアの充実

チェックリストを使用し、呼吸管理の手技や環境面のチェックを行い、指導を行った。病棟訪問の結果を数値化し、評価し、院内全体に必要な項目は掲示物を作成し呼びかけた。呼吸ケア自己チェックリストの作成を行った。

- (2) 既存の気管切開患児への退院指導パンフレットの見直しを行った。
- (3) 毎月、呼吸管理関連のヒヤリハットの情報共有を行い、重要な事項についてはスタッフへの注意喚起を促すため新聞を発行した。
- (4) MEとの話し合いの時間を設け、器材管理や物品の選択について検討していった。

WOC部会 <活動回数；11回>

委員はWOC看護の知識・技術を高め、スタッフに還元する。

- (1) 事例検討：院内で行なわれているWOCケアについて知り、WOCケア用品の知識を得る。所属病棟のWOCケアの問題点やアセスメント方法など振り返る機会をつくる。
- (2) WOCケアの見直し、資料作り：スタッフが使いやすいようにWOCケアの知識をまとめる。  
WOCケアが必要な在宅患者へのパンフレットの作成
- (3) 院内勉強会の開催（4回）：委員がWOCケア知識を整理し、勉強会を運営する。院内スタッフへWOCケアの知識の提供し、質の向上を図る。
- (4) その他の活動
  - ・ 日本小児ストーマ・排泄管理セミナー参加（1名）
  - ・ 日本小児ストーマ・排泄管理研究会参加（3名）演題発表2題
  - ・ 褥瘡学会参加（4名）演題発表1題
  - ・ 近畿小児ストーマ・排泄・創傷研究会参加（3名）演題発表2題

### 3. 研修医・専攻医 指導記録

専攻医：福島雅子

研修科：血液腫瘍科

研修期間：H17.6.1～8.31

AML	2
ALL	1
再生不良性貧血	1
神経芽細胞腫瘍	1
好中球減少症	1
溶血性貧血	1
慢性肉芽腫症	1
骨髄移植ドナー	1

専攻医：細川悠紀

研修科：血液腫瘍科

研修期間：H17.9.1～11.30

ALL	2
脳腫瘍	2
再生不良性貧血	2
ITP	1
鉄欠乏性貧血	1
悪性黒色腫	1

専攻医：森雅樹

研修科：血液腫瘍科

研修期間：H17.12.1～

ALL	3
ITP	2
血友病	1
慢性肉芽腫症	1
免疫不全症	1
悪性黒色腫	1

専攻医：齋木宏文

研修科：循環器科

研修期間：平成17年6月～平成18年4月

疾患名	
心室中隔欠損	20例
心房中隔欠損	17例
ファロー四徴	13例
両大血管右室起始	9例 (うち Tausing Bing 3例)
肺動脈閉鎖心室中隔欠損	8例
純型肺動脈閉鎖	7例 (うち criticalPS 1例)
川崎病	6例
大動脈縮窄 (離断)	5例 (うち shone 複合 1例)
動脈管開存	5例
共通房室弁口	4例
心房粗動	4例
大動脈狭窄	3例 (うち criticalAS 1例)
総肺静脈還流異常症	3例
僧帽弁閉鎖不全	2例
完全大血管転換	2例
単心室	2例
Ebstein 奇形	2例
肺動脈狭窄	
重複大動脈弓	
血管輪	
左心低形成	
陳急性心筋梗塞	
上腕動脈瘤	以上 各1例
	計 118例
心臓カテーテル検査(術者)	91例(うちインターベンション 18例)

研修医：鎌尾

研修科：眼科

研修期間：2004.6.1～2005.5.31

指導医：野村耕治、西崎雅也

症例	症例数	
	執刀	助手
斜視	72	133
内反症	12	37
眼瞼下垂	0	23
霰粒腫	1	1
白内障	0	28
緑内障	0	3
硝子体	0	8
眼球摘出	0	0
眼瞼腫瘍	0	3
(その他)	0	12



専攻医：岸本真一郎

研修科：整形外科

研修期間：2004年6月1日～2005年5月31日

指導医：薩摩真一、小林大介

主な症例	執刀	助手
ソルター骨盤骨きり術	0	4
先天股脱観血の整復術	0	3
大腿骨骨きり術	0	3
骨延長術	0	7
アキレス腱切腱術	0	24
足部矯正	1	4
距骨下関節全周解離術	0	2
側湾症	0	4
多(合)指、多(合)趾症	15	8
骨折	4	5
抜釘	18	4
剛直母指	5	2
骨頭すべり	8	0

専攻医：佐野 愛

研修科：麻酔科

研修期間：2004.10.1～2005.3.31

指導医：香川 哲郎

症 例	症例数 200
一般外科	60
心臓外科	19
循環器内科	16
脳神経外科	19
泌尿器科	12
整形外科	19
眼科	34
形成外科	12
内科	1
産科	8

専攻医：H13年卒 戸田 直歩

研修科：形成外科

研修期間：2005.1.1～2005.12.31

指導医：西本 聡、大山 知樹

症 例	症例数 (526)	
	執刀(41)	助手(485)
良性腫瘍・母斑	10	114
熱傷	1	7
瘢痕修正		22
頭蓋・顔面骨切り		10
顔面骨骨折		2
植毛		2
脱毛		1
耳介形成	1	5
副耳・耳瘻孔	5	29
側頸嚢胞		1
唇裂術前矯正		5
眼瞼手術		3
口唇裂		28
口蓋裂		22
唇裂二次修正		17
顎裂		8
唇裂鼻修正		15
咽頭弁		5
舌小帯・上唇小帯		10
手の先天奇形	10	17
足の先天奇形	12	16
臍ヘルニア	2	6
抜釘		7
レーザー照射		130
陥入爪		1
涙道形成		1
膺形成		1

専攻医：畑田智子

研修科：小児外科

		術者	助手		
胸部	気道	気管切開術	5	4	
		気管形成術			
		胸腔ドレナージ	1		
	肺	肺葉切除術		1	
		ブラ切除術		1	
	横隔膜	横隔膜ヘルニア閉鎖術	1		
	食道	先天性食道閉鎖症一期的根治術		1	
		食道吻合術			
		胸壁食道延長術			
	胸壁	漏斗胸・鳩胸手術	2	9	
		Nuss bar 抜去		1	
腹部	消化管	噴門形成術	3	9	
		胃瘻造設	2	8	
		胃瘻閉鎖術	2		
		肥厚性幽門狭窄手術		1	
		十二指腸閉鎖、狭窄症手術			
		十二指腸潰瘍穿孔手術		1	
		空回腸閉鎖症手術			
		腸回転異常症手術			
		腸穿孔手術		3	
		腸重積症手術		1	
		イレウス手術	2	1	
		虫垂切除術	4		
		卵巣嚢腫切除術	1		
		ヒルシウスプルング病根治術		2	
		鎖肛根治術	1	3	
		直腸生検	1		
		壊死性腸炎手術			
		空回腸瘻閉鎖症手術			
		人工肛門造設術		3	
		人工肛門閉鎖術	1	2	
		消化管重複症手術			
		痔核・瘻手術	1		
		その他			
		肝胆膵脾	胆道閉鎖症手術		3
			胆道拡張症手術	2	2
			ルーワイ脚弁形成術		
			胆嚢摘出術		1
			脾固定術		
			脾摘出術		1
		腹壁	門亢症シャント手術		
腹壁破裂手術					
腹壁形成術					
腹壁癒痕ヘルニア手術			1		
臍帯ヘルニア手術					
臍ヘルニア手術					

	術者	助手	
腫瘍	白線ヘルニア		
	尿管・膵管切除術	1	
	神経芽細胞腫摘出術		1
	奇形腫群腫瘍摘出術	1	1
	腎腫瘍切除術		
	肝腫瘍切除術		
	悪性腫瘍開胸・開腹生検		
	その他		
鼠径部	鼠径ヘルニア手術	75	16
	精巣固定術	1	3
	膵ヘルニア手術	5	2
軟部組織。四肢	リンパ管腫摘出術	1	
	ピシパニール注入	1	2
その他	皮膚皮下良性腫瘍摘出術	1	
	中心静脈カテーテル挿入	8	7
	耳介瘻摘出術		
気管支鏡	その他		
	気管支鏡のみ		35
	気管内異物摘出術		9
	気管バルーン拡張術		4
	Tチューブ挿入		1
食道胃内視鏡	Y型/I型ステント挿入		
	内視鏡のみ	5	7
	内視鏡的食道静脈瘤硬化療法		1
	胃食道バルーン拡張術	5	12
ERCP	食道胃異物摘出術	1	2
	ERCP		3
	内視鏡のみ		5
大腸内視鏡	大腸ポリペクトミー/生検		3
新生児	横隔膜ヘルニア	1	2
	先天性食道閉鎖症		
	肥厚性幽門狭窄症		
	十二指腸閉鎖、狭窄症		1
	空回腸閉鎖症		1
	ヒルシュスプルング病		
	鎖肛		1
	メコニウム病	1	
	臍帯ヘルニア		1
	仙尾部奇形腫		
腹膜破裂		1	

専攻医：岡村有佑

研修科：脳神経外科

研修期間：2004. 4. 1 ~ 2005. 3. 31

指導医：長嶋達也、河村淳史、秋山英之

症 例	執 刀	第 1 助手	第 2 助手
脳腫瘍摘出術		21	
バイパス手術		9	
開頭脳内血腫	1	2	
急性硬膜外血腫	1	3	
急性硬膜下血腫	2	3	
慢性硬膜下血腫		5	
頭蓋・脳奇形	1	13	
脊椎・脊髄奇形	4	17	
水頭症脳室シャント	6	29	
脊椎・脊髄腫瘍		3	
脊髄空洞症		3	
その他	8	20	
	23	128	

専攻医：猿渡 由美子

研修科：産科

研修期間：2005. 1. 1 ~ 2005. 12. 31

指導医：大橋正伸、船越 徹

主な症例	執 刀	助 手
帝王切開術	66	15
子宮頸管縫縮術	2	1
子宮摘出術	0	1
その他		
羊水穿刺	16	

# 学 術 活 動

1. 書籍

テーマ	所属科	発表者名	単著・共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
腎盂形成術	泌尿器科	杉多良文	単著	荒井陽一・松田公志	泌尿器科周術期管理のすべて	355	360	メディカルビュー社	2005年4月
健康障害のある子どもの看護 消化器系	看護部	濱田米紀	共著	山崎智子	明解看護学双書4 小児看護学題2版	236	242	金芳堂	2005年4月
Duane 症候群	眼科	野村耕治	共著	根木 昭	眼科診療プラクティス・これならわかる神経眼科	267	269	文光堂	2005年9月24日
腎性尿崩症 (アークアポリン異常症)	代謝内分 泌科	郷司克己	成長曲線は語る (藤枝憲二編)		成長曲線は語る (藤枝憲二編)	132	133	診断と治療社	2005年10月24日
大動脈弁狭窄症	心臓血管 外科	山口眞弘、 芳村直樹	共著	新井達太	心臓外科	212	218	医学書院 (東京)	2005年10月
行動制限や隔離が必要な子どもと家族の看護技術	看護部	濱田米紀	共著	片田範子	実践看護技術学習支援テキスト 小児看護学	154	174	日本看護協会出版会	2005年12月
こどもと形成外科	形成外科	西本 聡	共著	兵庫県医師会乳幼児保健委員会	乳幼児健診時に必要な境界領域の最近の進歩	35	62	兵庫県医師会乳幼児保健委員会	2005年12月
早期発見により視機能予後の向上が期待出来る眼疾患	眼科	野村耕治	共著	兵庫県医師会乳幼児保健委員会	乳幼児健診時に必要な境界領域の最近の進歩	11	34		2005年12月19日
視能矯正 各論	眼科	野村耕治	共著	山本 節	視能訓練士 スペシャリストへの道 (3)	125	136	メデイカル 葵出版	2005年12月25日
視能訓練士 スペシャルリストへの道	眼科	山本 節	編			1	127	メデイカル 葵出版	2005年12月25日
新生児のけいれん	総合診療 科	上谷良行	共著	山口 徹、北原光夫	今日の治療指針2005年版	911	912	医学書院	2005年12月31日
ピーナッツを食べた後から呼吸困難になった	外科	津川二郎	共著	千代孝夫	シミュレーションで学ぶ救急対応マニュアル2 小児・高齢者・女性編	37	40	羊土社	2006年3月
産褥感染症	産科	船越 徹		山口 徹、北原光夫、福井次矢 編	今日の治療指針	933頁		医学書院	2006年

## 2. 雑誌発表表

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第巻	第号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
肺低形成児の予後	新生児科	溝淵雅巳、中尾秀人	周産期医学	35	2	275	278	東京医学社	2005年2月9日
Successful Perinatal Management of a Very Low Birthweight Infant with Congenital Complete Atrioventricular Block	新生児科	井上誠司、溝淵雅巳、 芳村直樹、山口眞弘、 中尾秀人	American Journal of Perinatology	122	7	387	390		
早産児・低出生体重児の動脈管開存症	新生児科	芳本誠司	周産期医学	35	8	1107	1111	東京医学社	2005年8月9日
Case15 最重症胎便吸引症候群の児	新生児科	芳本誠司	Neonatal Care 2005年 秋季増刊 新生児呼吸 管理ステップアップBOOK		秋季 増刊号	156	162	メディカ出版	
外科的介入をおこなった極低出生体重児の予後	新生児科	芳本誠司、高橋理子、 小幡 岳、柄川 剛、 吉形真由美、橋本 崇、 溝淵雅巳、中尾秀人	日本周産期・新生児 医学会雑誌	141	4	790	794		2005年12月20日
心身障害児における急性腹症をきたす疾患とその外科治療 - 尿路結石	泌尿器科	杉多良文	小児外科	36	2	218	220	東京医学社	2005年2月
小児多発性尿管ポリープの1例	泌尿器科	山道 深	西日本泌尿器科	66	11	696	699	日本泌尿器科学会西 日本支部	2005年11月
特集：乳幼児への育児のポイント - 外来診療における指導 - 病児のケア - 目の問題 -	眼科	野村耕治	小児科	第46巻	第11号	1854	1856	金原出版	2005年9月30日
心因性視覚障害	眼科	野村耕治	健	第34巻	第10号	8	10	日本学校保健研修社	2005年12月31日
先天白内障 - 良い視力を得るために	眼科	山本 節	Nano-Ophthalmology	第30巻		7	10		2005年
研鑽の時 (1)	眼科	山本 節	臨眼	第59巻	第1号	26	28		2005年
研鑽の時 (2)	眼科	山本 節	臨眼	第59巻	第2号	175	177		2005年
(CLセミナー)HCLとSCL	眼科	山本 節	あたらしい眼科	22	6)	767	768		2005年
(CLセミナー)CLの選び方	眼科	山本 節	あたらしい眼科	22	7	927	928		2005年
(CLセミナー)小児のCL	眼科	山本 節	あたらしい眼科	22	8	1077	1078		2005年
小児白内障	眼科	山本 節	ナーネット	16	9	5	5		2005年

テ ー マ	所 属 科	発 表 者 名	書 籍 名	第 巻 第 号	開 始 頁	終 了 頁	発 行 元	発 行 年 月
小児眼科の発展への提言	眼科	湖崎 克、山本 節、大島健司、田淵昭雄	眼紀	56	728	733		2005年
小児眼内レンズ挿入眼症例の屈折度変化の検討、(小児眼内レンズ全国アンケートより)	眼科	高良由紀子、稲富 誠、山本 節、馬嶋慶直	IOL&RS	18	418	422		2005年
2002年の15歳以下小児眼内レンズ挿入についての全国アンケート調査結果	眼科	稲富 誠、高良由紀子、山本 節、馬嶋慶直	IOL&RS	18	438	443		2005年
小児白内障手術後の近見・遠見視力発達	眼科	中嶋由美恵、宮浦 望、調 広子、楠原仙太郎、石橋一樹、中村 誠、山本 節	眼臨	99	231	233		2005年
新しいシステムづくりへの参画	看護部	濱田米紀	小児看護	28	724	729	へるず出版	2005年5月
Alveolar bone regeneration utilizing b-TCP and platelet-rich plasma (PRP) derived from bone marrow aspirate.	形成外科	Oyama T, Nishimoto S, Takeda M.	Ann Plast Surg.	54	222	223		2005年2月
Prevention of mirror fogging by using suction to take clear photographs of the palate during general anesthesia for children.	形成外科	Takeda M, Nishimoto S, Oyama T.	Plast Reconstr Surg.	115	1438	1439		2005年4月
【形成外科領域における症候群】頭蓋・顔面の異常を主徴とする症候群 顔面裂を伴う症候群	形成外科	西本 聡	形成外科	48	367	375		2005年4月
母子相乗り自転車転倒2症例	形成外科	戸田直歩、武田匡弘、大山知樹、西本 聡	保育と保健	11	27	28		2005年6月
母子相乗り自転車転倒2症例	形成外科	戸田直歩、武田匡弘、大山知樹、西本 聡	母子相乗り自転車転倒2症例					
Features and outcome of neonatal leukemia in Japan : Experience of the Japan Infant Leukemia Study Group.	血液腫瘍科	Isii E, Oda M, Kosaka Y, et.al	Pediatr Blood Cancer.	6	1	5		2005年11月5日



テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第巻号	第号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Infant acute lymphoblastic leukemia with MLL gene rearrangements: outcome following intensive chemotherapy and hematopoietic stem cell transplantation.	血液腫瘍科	Kosaka Y, Koh K, Ishii E, et.al	Blood	104	12	3527	34		Dec-05
MLL遺伝子再構成を伴う乳児ALLに対する化学療法と造血幹細胞移植療法	血液腫瘍科	小阪嘉之	血液腫瘍科	50	5	510	519		2005年
同種骨髄移植を施行し、免疫抑制剤中止後に著明な移植片対宿主病症状を示さず、若年性骨髄単球性白血病 (JMML) の1例	血液腫瘍科	川崎圭一郎、小阪嘉之、松尾雅文 他	日本小児血液学会雑誌	19	3	146	150		2005年
骨関節症状で発症した小児急性白血病の1例	整形外科	康暁博、長谷川大一郎、小阪嘉之 他	臨床整形外科	40	5	577	580		2005年
異物に対する放射線画像検査技術の変遷と今後の展望	検査・放射線部	関尾 直司	小児外科	第137巻					
非常にまれな経過をたどり、距骨下関節亜脱臼をきたした1例	整形外科	岸本真一郎 薩摩真一 小林大介	近畿小児整形外科懇話会誌	17		41	43		2005年
術後ピシバニール注入療法をおこなったリンパ管腫の1例	整形外科	能谷 宏、小林大介、薩摩真一	近畿小児整形外科懇話会誌	17		5	7		2005年
右第5趾MTP関節近傍に発生した Tumoral Calcinosis の1例	整形外科	能谷 宏、小林大介、薩摩真一	近畿小児整形外科懇話会誌	17		13	16		2005年
分娩時長骨骨折の5例	整形外科	康暁博、小林大介、薩摩真一	近畿小児整形外科懇話会誌	17		51	55		2005年
Musculoskeletal conditions of acute leukemia and malignant lymphoma	Kobe Children's Hospital, Kobe University Hospital, Chiba Children's Hospital, National Children's Hospital, Fukuoka Children's Hospital, Sizuoka Children's Hospital	Kobayashi D, Satsuma S, Kamegaya M, Haga N, Shimomura S, Fujii T, Yoshiya S	J Pediatr Orthop B	14	3	156	161		2005年

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第巻号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Ponseti法による先天性内反足の治療経験	整形外科	薩摩真一、小林大介、康暁博	日小整会誌	14	12	16		2005年
抗菌薬療法 of 急性、細菌性骨髄炎、関節炎	整形外科	薩摩真一、小林大介	小児内科	37	241	246		2005年
四肢短縮をきたす疾患	整形外科	薩摩真一	The Bone	19	289	296		2005年
先天性股関節脱臼治療の現状と今後の展望-観血的整復術	整形外科	薩摩真一	整形外科	56	1261	1266		2005年
整形外科領域-歩き方の異常の診断	整形外科	薩摩真一	小児外科	37	1342	1346		2005年
Acquired pseudarthrosis of the radius and ulna in a neurofibromatosis patient with radiographic normal bone: a case report.	Kobe Children's Hospital, Kobe University Hospital	Hayashi S, Kobayashi D, Sastuma S, Yoshiya S, Kurosaka M	J Hand Surg A	30	168	171		2005年
閉塞性尿路疾患 後部尿道弁の治療	泌尿器科	杉多良文	周産期医学	35	753	756	東京医学社	2005年6月
小児 VUR 治療の最前線	泌尿器科	島博基、台風三郎、杉多良文	泌尿器科紀要	51	615	620		2005年9月
Renal scarring is associated with nonsecretion of blood type antigen in children with primary vesicoureteral reflux.	泌尿器科	Kanematsu A, Yamamoto S, Yoshino K, Ishi toya S, Terai A, Sugita Y, Ogawa O, Tanikaze S.	Journal of Urology	174	1594	1597		2005年1月
かぜ治療に対する抗ヒスタミン薬、点鼻血管収縮薬の効果	耳鼻咽喉科	阪本浩一	EBM ジャーナル	6	32	38		2005年
健康かわら版：耳鼻科のめまい他科のめまい	耳鼻咽喉科	阪本浩一	JA 共済情報：ふれ愛	317	16	17		2005年
PET 利用の手引き：各種疾患と PET, 頭頸部腫瘍	耳鼻咽喉科	阪本浩一	臨床医	31	1575	1581		2005年
小児外科関連領域：わたしはこう考える2、耳鼻咽喉科領域-耳鼻科からみた耳周囲・頸部瘻孔の手術	耳鼻咽喉科	阪本浩一	小児外科	37	1396	1401		2005年

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第巻	第号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
小児の聴力検査	耳鼻咽喉科	阪本浩一	小児看護	28	12	1578	1584		2005年
応援します臨床研究	看護部	鎌田直子・今丸満美(エルム代表取締役デザイナー・ピュセーター所長)・山本新吾(兵庫県立医科大学泌尿器科講師)	泌尿器科ケア	第10巻	第5号	93	94	メヂイカ出版	2005年5月
小児 CNS との協働	看護部	鎌田直子	小児看護	第28巻	第6号	698	703	へるす出版	2005年6月
応援します臨床研究	看護部	鎌田直子・大橋輝久(岡山赤十字病院泌尿器科部長)・小林たつ子(山梨県立看護大学短期大学部教授)	泌尿器科ケア	第10巻	第8巻	99	100	メヂイカ出版	2005年8月
新卒後臨床研修 b における小児外科研修のあり方: 小児病院の役割	外科	連 利博	小児外科	第37巻	5	517	520	東京医学社	2005年4月
胆道閉鎖症スクリーニング: 1ヶ月健診における尿中硫酸抱合型胆汁酸測定 の提案	外科	連 利博	周産期医学	第35巻	第9号	1274	1277	東京医学社	2005年8月
Efficacy of urinary sulfated bile acids for diagnosis of bacterial cholangitis in biliary atresia	外科	Tsuyoshi Shinohara, Toshihiro Muraji, Chikara Tsugawa, Eiji Nishijima, Shiiki Satoh, Shigeru Takamizawa,	Pediatr Surg Int	Vol.21	1	701	704	Springer-Verlag	2005年8月
開発途上国における小児外科と小児外科医の国際貢献	外科	連 利博	小児科臨床	第58巻	増刊号	1415	1419	日本小児医事出版社	2005年8月31日
Ileocecal arteriovenous malformation associated with extrahepatic portal hypertension: a case report	外科	Yukio Tatekawa, Toshihiro Muraji, Chikara Tsugawa	Pediatr Surg Int	Vol.21	4	835	838	Springer-Verlag	2005年7月
Glucocorticoid Receptor Alpha Expression in the Intrahepatic Biliary Epithelium and adjuvant steroid therapy in infants with biliary atresia	外科	Yukio Tatekawa, Toshihiro Muraji, Chikara Tsugawa	J Pediatr surg	Vol.40	4	1574	1580	Elsevier	2005年5月31日

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第巻号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Laparoscopic fenestration of a neonatally detected hepatic mesenchymal hamartoma	外科	Atsushi Horiuchi, Toshihiro Muraji, Chikara Tsugawa, Eiji Nishijima, Shiiki Satoh, Shigeru Takamizawa	J Laparoendoscopic and adv surg tech	Vol. 15	4	432	Mary Ann Liebert, Inc	2005年7月31日
Communicating bronchopulmonary foregut malformation: particular emphasis on concomitant congenital tracheobronchial stenosis	外科	Jiro Tsugawa, Chikara Tsugawa, Shiiki Satoh, Eiji Nishijima, Toshihiro Muraji, Shigeru Takamizawa, Kimio Kanegawa, Yoshinobu Akasaka	Pediatric Surgery International	21	11	932	Springer	2005年10月
複数個のビップ・エレキバン誤飲による小腸穿孔の2例	外科	津川二郎、高見澤滋、佐藤志以樹、連利博、西島栄治、東本恭幸、津川力	小児外科	37	8	940	東京医学社	2005年7月
Multi-staged esophageal elongation technique for long-gap esophageal atresia: Experience with 7 case at a single institution	外科	Takamizawa S, Nishijima E, Tsugawa C, Muraji T, Satoh S, Tatekawa Y, Kimura K	Journal of Pediatric Surgery	40	5	781	ELSEVIER	2005年5月
気道食道胃物の診断と治療：小児外科医からの提言	外科	高見澤滋、畑田智子、横井暁子、和田英見、山下方俊、津川二郎、佐藤志以樹、西島栄治、連利博、津川力	小児外科	37	8	881	東京医学社	2005年8月
喉頭気管分離術後の合併症と再手術	外科	高見澤滋、西島栄治、津川力、畑田智子、横井暁子、和田英見、山下方俊、津川二郎、佐藤志以樹、連利博	小児外科	37	9	1041	東京医学社	2005年9月
異物誤飲による気管・気管支食道瘻	外科	佐藤志以樹、津川力、西島栄治、連利博、高見澤滋、津川二郎、横井暁子、山下方俊、和田英見、畑田智子	小児外科	37	8	937	東京医学社	2005年8月
Inhaled nitric oxide therapy after Fontan-type operations	心臓血管外科	Yoshimura N, Yamaguchi M, Oka S, Yoshida M, Murakami H, Kagawa T, Suzuki T	Surgery Today	35	1	31	Springer Tokyo	2005年1月

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第巻号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
The dependence of myocardial damage on age and ischemic time in pediatric cardiac surgery	心臓血管外科	Hasegawa Tomomi, Yamaguchi Masahiro, Yoshimura Naoki, Okita Yutaka	The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery	129	192	198	Mosby	2005年1月
Surgical repair of coronary sinus orifice atresia.	心臓血管外科	Oshima Y, Doi Y, Misaki T, Ichida F	European Journal of Cardiothoracic Surgery	27	351	352	Elsevier	2005年2月
乳児期に心臓手術を要する児の発達に関する研究—乳児期前半における発達とその関連要因—	心臓血管外科	廣瀬幸美、市田路子、大嶋義博	小児保健研究	64	669	675	日本小児保健協会	2005年
Pulmonary artery banding still has an important role in the treatment of congenital heart disease	心臓血管外科	Yoshimura N, Yamaguchi M, Oka S, Yoshida M, Murakami H	The Annals of Thoracic Surgery	79	1463	1463	Elsevier	2005年4月
Left pulmonary artery plasty--extended end-to-end anastomosis	心臓血管外科	Oshima Y, Doi Y, Shimazu C, Misaki T	The Annals of Thoracic Surgery	79	1795	1796	Elsevier	2005年5月
How can we define the dimensions for safe intraoperative hematocrit level?	心臓血管外科	Ootaki Y, Yamaguchi M, Yoshimura N	The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery	129	1201	1202	Mosby	2005年5月
Appropriate additional pulmonary blood flow at the bidirectional Glenn procedure is useful for completion of total cavopulmonary connection.	心臓血管外科	Yoshida M, Yamaguchi M, Yoshimura N, Murakami H, Matsuhisa H, Okita Y.	The Annals of Thoracic Surgery	80	976	981	Elsevier	2005年9月
虐待を受けた子ども心の理	精神科 神戸大学 医学部附属病院 精神科	前田宏章、田中 究	治療別冊	87巻	3193	3199	南山堂	
先天性気管狭窄症の管理・手術の進歩	外科	西島栄治	医学のあゆみ	213	819	823	医歯薬出版株式会社	2005年5月
腸回転異常症の概念と分類	外科	西島栄治	小児外科	37	749	754	東京医学社	2005年7月
超低出生体重児予後の全 国調査成績	総合診療科	上谷良行、中村 肇	周産期医学	35	553	556	東京医学社	2005年3月

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第巻号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
超低出生体重児の予後	総合診療科	上谷良行、中村肇	産婦人科治療	91	56	63	永井書店	2005年6月
新生児期の栄養代謝の特徴	総合診療科	上谷良行	周産期医学	35	268	270	東京医学社	2005年10月
全国調査から診た極低出生体重児の予後	総合診療科	上谷良行	日本周産期新生児医学 学会雑誌	41	758	760	杏林社	2005年11月
新生児内分泌疾患の診断と治療ー持続性高インスリン血症性低血糖症ー	代謝内分泌科	郷同克己	周産期医学	35巻	1635	1639	東京医学社	2005年12月26日
小児日帰り手術の麻酔	麻酔科	村田 洋	LISA	第12巻	20	28	メディカルサイエンス インターナショナル	2005年
発展途上国で小児の麻酔を行う際の麻酔法や注意点について	麻酔科	香川哲郎	臨床麻酔	第29巻	1651	1652	真興交易医書出版	2005年10月
小児消化管の超音波診断. 臨床医のための超音波診断アトラス	放射線科	金川公夫 (こども病院、主著者)、赤坂好宣 (こども病院)	総合臨床					2005年
症状・所見からみた小児画像診断の進め方：新生児腹部救急疾患	放射線科	赤坂好宣 (こども病院、主著者)、金川公夫 (こども病院)	小児科診療	第68巻				2005年
症状・所見からみた小児画像診断の進め方：血尿	放射線科	赤坂好宣 (こども病院、主著者)、金川公夫 (こども病院)	小児科診療	第68巻				2005年
明日からの診療に役立つ画像診断；2. 消化器系	放射線科	赤坂好宣 (こども病院、主著者)、金川公夫 (こども病院)	日本小児放射線学会 雑誌	第21巻				2005年
新生児期にみられる腹部腫瘍	放射線科	赤坂好宣 (こども病院、主著者)、金川公夫 (こども病院)	画像診断	第25巻				2005年
悪性脳腫瘍に類似した所見を呈した多発性硬化症の1小児例	脳神経外科	秋山英之	脳神経外科	33	1007	1012	医学書院	2005年
先天性血管拡張性大理石様皮斑に水頭症を合併した1例	脳神経外科	秋山英之	小児の脳神経	30	382	386		2005年
小児の脳浮腫；その病態	脳神経外科	長嶋達也	神経研究の進歩	50	281	290	医学書院	2005年

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第巻号	第号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
右多囊胞性異形成腎、左水腎・水尿管により偽性低アルドステロン症/腎不全を呈した新生児の1例	腎臓内科	田中亮二郎、片山珠美、泌尿器科 杉多良文	小児腎不全学会誌	25		154	156		2005年
中等量のメソトレキセートによって急性腎不全となり DHP + HDF を行った悪性リンパ腫の1例	腎臓内科	血液腫瘍科 矢内友子、長谷川大一郎、小阪嘉之腎臓内科 片山珠美、田中亮二郎	小児腎不全学会誌	25		88	89		2005年
キヤリナーオーバーした難治性ネフローゼ症候群に對しミコフエノール酸モフェチルの投与が有効であった2例	腎臓内科	腎臓内科 田中亮二郎 神戸大学大学院医学研究科 成育医学講座小児科 藤田晃生、野津寛大、貝藤裕史、神岡一郎、松尾雅文	日本小児腎臓病学会雑誌	18		131	135		2005年
小児救急の勘どころ 尿路感染症	腎臓内科	腎臓内科 田中亮二郎 救急医療室 上谷良行	救急医学	29		1731	1733		2005年

### 3. 口 述 発 表 表

演 題 名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
出生前診断されたくも膜嚢胞の3症例	新生児科	千田麻里子	第235回	兵庫県地方会	尼崎	2005年2月5日
両側腎嚢造設術を要した先天性水腎症の1例	新生児科	小幡 岳	第235回	兵庫県地方会	尼崎	2005年2月5日
胎児腹水を合併した先天性梅毒の超早産児の1例	新生児科	小幡 岳	第18回	近畿小児科学会	京都	2005年3月13日
超早産児におけるN-CPAP使用による管理方法の変化	新生児科	石川依子	第108回	日本小児科学会学術集会	東京	2005年4月22日
第三次周産期医療施設開設後10年間の死亡症例の検討	新生児科	芳本誠司	第108回	日本小児科学会学術集会	東京	2005年4月23日
重症慢性肺疾患による乳児の肺高血圧症に対しEpoprostenol持続静注療法が有効した1例	新生児科	橋本 崇	第108回	日本小児科学会学術集会	東京	2005年4月24日
当院周産期医療センターにおける過去10年間の品胎55組163例の臨床的検討	新生児科		第236回	兵庫県地方会	神戸	2005年5月28日
外科的介入を行った極低出生体重児の予後	新生児科	芳本誠司	第41回	日本周産期新生児学会	福岡	2005年7月11日
Preterm PROMに伴う肺拡張障害22例の検討	新生児科	溝淵雅巳	第41回	日本周産期新生児学会	福岡	2005年7月11日
一絨毛膜一羊膜性双胎の児の予後からみた妊娠管理の問題点	新生児科	高橋理子	第41回	日本周産期新生児学会	福岡	2005年7月11日
退院時頭部MRI正常脳性麻痺例の周産期因子とその予測	新生児科	吉形真由美	第41回	日本周産期新生児学会	福岡	2005年7月11日
組織学的絨毛膜羊膜炎と超早産児の予後	新生児科	石川依子	第41回	日本周産期新生児学会	福岡	2005年7月11日
EUOR児の神経学的、身体発育予後	新生児科	橋本 崇	第41回	日本周産期新生児学会	福岡	2005年7月12日



演 題 名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
胎児期より心不全をきたした原発性心内臓線維性症の一例	新生児科	笠井和子	第237回	兵庫県地方会	姫路	2005年9月24日
予定帝王切開児の在胎週数別呼吸障害発生頻度について	新生児科	上田陽子	第237回	兵庫県地方会	姫路	2005年9月24日
超早産児への一酸化窒素吸入療法は有益か	新生児科	芳本誠司	第50回	日本未熟児新生児学会	名古屋	2005年12月5日
重症 CLD に対するデキサメサソンのレスキュー投与例の検討	新生児科	溝淵雅巳	第50回	日本未熟児新生児学会	名古屋	2005年12月5日
ウレアプラズマ保護の超早産児に対するアジスロマイシン投与の経験	新生児科	柄川 剛	第50回	日本未熟児新生児学会	名古屋	2005年12月5日
脳性麻痺を呈した品胎の臨床的検討	新生児科	柄川 剛	第50回	日本未熟児新生児学会	名古屋	2005年12月6日
早産児の側脳室サイズ基準値の設定	新生児科	吉形真由美	第50回	日本未熟児新生児学会	名古屋	2005年12月6日
当センターにて5年間に経験したCCAMについての検討	新生児科	石川依子	第233回	兵庫県未熟児新生児懇談会	神戸	2005年3月18日
異なるCLDの経過をとった超早産双胎の一例	新生児科	山内裕美	第234回	兵庫県未熟児新生児懇談会	神戸	2005年9月22日
Diffuse Chorioamnionic Hemosiderosis is Associated with Chronic Lung Disease in Very Low Birth Weight Infants	新生児科	橋本 崇	2005年度	PAS annual meeting	Washington DC	2005年5月14日
気管食道瘻を合併した超早産児の2例についての検討	新生児科	笠井和子	第235回	兵庫県未熟児新生児懇談会	神戸	2005年12月9日
成長期を過ぎた二分脊椎に伴う二次性VUR症例の腎機能	泌尿器科	相野谷慶子、渡辺仁人、乃美昌司、杉多良文	13	日本泌尿器科学会フォーラム	久留米	2005年1月29日
出生前診断された片側高度水腎症にたいする治療方針	泌尿器科	相野谷慶子、渡辺仁人、乃美昌司、杉多良文	93	日本泌尿器科学会総会	東京	2005年4月16日

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
シンポジウム「尿道下裂 21世紀の壁 屈曲の壁」	泌尿器科	杉多良文	93	日本泌尿器科学会 総会	東京	2005年4月16日
原発性膀胱尿管逆流症の予後因子についての検討	泌尿器科	乃美昌司、吉野 薫、 渡辺仁人、相野谷慶子、 谷風三郎、杉多良文	14	日本小児泌尿器科 学会総会	福岡	2005年7月7日
片側先天性水腎症例の患側腎機能の評価と外科治療の意義	泌尿器科	相野谷慶子、渡辺仁人、 乃美昌司、杉多良文	14	日本小児泌尿器科 学会総会	福岡	2005年7月7日
Free skin graft 法および Firilit collar による尿道下裂修復術	泌尿器科	杉多良文、乃美昌司、 渡辺仁人、相野谷慶子	14	日本小児泌尿器科 学会総会	福岡	2005年7月7日
第一線外来診療でどこまで保存的に診療していいか 小児泌尿器科疾患の手術時期 停留精巣・遊走精巣	泌尿器科	乃美昌司	49	兵庫県泌尿器科医 会ワークショップ	神戸	2005年10月1日
第一線外来診療でどこまで保存的に診療していいか 小児泌尿器科疾患の手術時期 水腎症	泌尿器科	相野谷慶子	49	兵庫県泌尿器科医 会ワークショップ	神戸	2005年10月1日
Firilit collar を用いた Free skin graft 法による尿道下裂修復術	泌尿器科	杉多良文、乃美昌司、 相野谷慶子、高木志寿子	55	日本泌尿器科学会 中部総会	神戸	2005年10月28日
Firilit collar を用いた Free skin graft 法による尿道下裂修復術	泌尿器科	杉多良文	41	日本小児外科学会 近畿地方会	和歌山	2005年8月27日
こども病院における被虐待児への対応システムについて	指導相談・地域医療 連携部	長岡美佐	平成17年度	兵庫県の被虐待児 に対応するための 病院内および地域 医療システムに関 する研究会	神戸市	2005年10月29日
こども病院における看護業務量調査報告	看護部	伊賀ひとみ、林 京子、 刈谷友紀、伊藤宏美、 高石まゆみ、大田清文、 藤澤 由、森田昌子、 瀬川 真紀、工藤好子、 島 裕子、太田君子、 森保美香、山口智子、 河野真田美、松田絵利子、 中尾愛子、山村福子、 横山経子、太田操穂、 香名真巳子、河野 恵、 池尻操子(こども病院 看護部業務改善委員会)	第3回	兵庫県立病院学会	神戸市	2005年9月10日

演 題 名	所 属 科	発 表 者 名	回、または、年度	学 会 名	開 催 都 市 名	開 催 年 月 日
食物アレルギーとアトピー性皮膚炎	アレルギー科	三好麻里		母子保健セミナー	神戸市	2006年3月16日
10年以上も下痢血便が続き股関節炎で診断された潰瘍性大腸炎の1例	アレルギー科	黒澤茶茶	第6回	近畿リウマチ・膠原病研究会	大阪市	2006年4月1日
胎児異常の早期発見と看護	産科病棟	杉友コリ、中川芳枝	平成17年度	兵庫県周産期医療研修会	神戸市	2005年12月17日
シンポジウム 未熟児網膜症：治療の進歩 早期治療	眼科	野村耕治	第28回	日本眼科手術学会	大阪市	2005年1月29日
未熟児網膜症における長期視機能予後	眼科	野村耕治	第4回	近畿弱視斜視アフォーメーションセミナー	大阪市	2005年2月26日
乳幼児健診時に必要な境界領域の最近の進歩：乳幼児眼科領域について	眼科	野村耕治	第2回	乳幼児保健研修会	芦屋市	2005年3月12日
シンポジウム 乳児内斜視の超早期治療：本態性乳児内斜視の手術成績	眼科	野村耕治	第61回	日本弱視斜視学会総会	東京都	2005年6月4日
小児の眼外傷、その対応と予後について	眼科	西崎雅也	第28回	日本眼科手術学会	大阪市	2005年1月30日
発達白内障の術後視力予後	眼科	鎌尾知行	第30回	日本小児眼科学会	東京都	2005年6月3日
乳児内斜視術後の残余斜視に対するフレネル膜プリズムの使用状況	眼科 (ORT)	有本佳世	第61回	日本弱視斜視学会	東京都	2005年6月3日
小児白内障の術後矯正	眼科	西崎雅也	第59回	日本臨床眼科学会	札幌市	2005年10月9日
小児眼瞼・眼窩から視神経まで	眼科	山本 節	第25回	京都眼科フォーラム	京都市	2005年2月12日
小児眼科症例から学ぶこと	眼科	山本 節	第30回	小児眼科学会記念講演	東京都	2005年6月3日

演 題 名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
眼と健康	眼科	山本 節		平成17年度 健康科学セミナー	神戸市	2005年8月6日
目の健康	眼科	山本 節		神戸市医師会健康講座	神戸市	2005年10月20日
小児眼科	眼科	山本 節		神戸総合医療視能訓練	神戸市	2005年11月16日
小児の外傷 その対応と予後について	眼科	山本 節、稲富 誠、西崎雅也、本田 茂	第30回	日本眼科手術学会セミナー	東京都	2005年1月29日
小児白内障手術の術後管理	眼科	山本 節、東 範行、磯野、稲富 誠	第30回	日本眼科手術学会セミナー	東京都	2005年1月30日
献眼情報より臓器および組織提供に結びついた一例	眼科	渡邊和豊、赤井しのぶ、中山恭伸、山本 節	第29回	角膜カンファレンス	徳島市	2005年2月18日
須磨区医師会学術集会(神戸)	眼科	山本 節	第20回	須磨区医師会学術集会	神戸市	2005年3月19日
乳児内斜視術後の残余斜視に対するフレネル膜ブリッジの使用状況	眼科	有本住世、広田和美、佐伯多賀子、鎌尾知行、西崎雅也、野村耕治、山本 節	第61回	日本弱視斜視学会	東京都	2005年6月3日
発達白内障の術後視力予後	眼科	鎌尾知行、西崎雅也、野村耕治、山本 節	第30回	日本小児眼科学会	東京都	2005年6月3日
インストラクションコース：小児白内障の術後矯正コンタクトレンズ矯正	眼科	西崎雅也、山本 節	第59回	日本臨床眼科学会	札幌市	2005年10月9日
リン酸カルシウムペースト (Biopex) を使用した頭蓋形成	形成外科 脳外科	西本 聡、大山知樹、武田匡弘、長嶋達也	第4回	兵庫骨補填インプラント研究会	神戸市	2005年2月18日
創傷の管理	形成外科	西本 聡	第43回	兵庫県小児科医学会第43回小児医学講座	神戸市	2005年3月26日
骨髓液由来の多血小板血漿	形成外科	大山知樹、西本 聡、武田匡弘、松田 互、細川 互	第48回	日本形成外科学会総会学術集会	東京都	2005年4月13日

演 題 名	所 属 科	発 表 者 名	回、または、年度	学 会 名	開 催 都 市 名	開 催 年 月 日
重複耳垂について〔家族発症例と個発例〕	形成外科	西本 聡、大山知樹、 武田匡弘	第48回	日本形成外科学会 総会学術集会	東京都	2005年4月13日
こどもと形成外科	形成外科	西本 聡	平成17年度第1回	兵庫県医師会乳幼児 児保健研修会	加古川市	2005年7月2日
両側顎裂部骨移植術における中間顎の固定方法	形成外科	戸田直歩、大山知樹、 西本 聡	第84回	日本形成外科学会 関西支部学術集会	長浜市	2005年6月25日
骨髓液を濃縮した多血小板血漿	形成外科	西本 聡、大山知樹、 松田 健、武田匡弘、 戸田直歩	第8回	日本組織工学会	東京都	2005年9月1-2日
両側顎裂部骨移植術の3例	形成外科	大山知樹、西本 聡、 戸田直歩	第23回	日本頭蓋顎顔面外 科学会	徳島市	2005年11月10日
口唇口蓋裂治療における再生医学の応用	形成外科 小児歯科	大山知樹、西本 聡、 戸田直歩、石井信行、 上谷良行	第58回	兵庫県医師会設立 記念医学会	神戸市	2005年11月13日
当科における両側唇顎口蓋裂の中間顎矯正装置	形成外科 小児歯科	大山知樹、西本 聡、 戸田直歩、石井信行	第85回	日本形成外科学会 関西支部学術集会	吹田市	2005年12月10日
偽関節治療における多血小板血漿 (PRP) の応用	形成外科	西本 聡、大山知樹、 對川智絵、戸田直歩	第35回	日本創傷治癒学会	東京都	2005年12月5-6日
JACLS ALL02施行中に生じた中枢神経系合併症のまとめ	血液腫瘍科	梅田雄嗣、吉田 真、 長谷川大一郎 他		日本血液学会・臨 床血液学会合同総 会		2005年9月17日
小児再生不良性貧血に対する免疫抑制療法におけるダ ナゾールの併用効果	血液腫瘍科	工藤寿子、小林良二、 小阪嘉之 他		同上		同上
小児再生不良性貧血2nd line 療法に関する前方視的 多施設共同研究 反復免疫抑制療法と造血幹細胞移植 の比較	血液腫瘍科	小阪嘉之、小林良二、 小島勢二 他		同上		同上
MYCN 増幅腫瘍成分と MYCN 非増幅腫瘍成分の混在を認 めた縦隔原発神経芽細胞腫の1例	血液腫瘍科	長谷川大一郎、福島雅子、 矢内友子、川崎圭一郎、 小阪嘉之		日本小児血液学会・ 小児がん学会合同 総会		2005年11月25日
マススクリーニングにて発見され、化学療法に抵抗性 に腫瘍の増大を認めた N-myc 非増幅 dumbbell 型神経芽 細胞腫の1例	血液腫瘍科	同上		同上		同上

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
新生児白血病の臨床像と予後	血液腫瘍科	石井栄一、小阪嘉之、水谷修紀 他		日本小児血液学会・小児がん学会合同総会		2005年11月25日
小児急性リンパ性白血病における中枢神経関連再発のリスク因子に関する検討	血液腫瘍科	茶山公祐、長谷川大一郎、八木啓子 他		同上		同上
小児再生不良性貧血治療プロトコル AA97 の中間報告	血液腫瘍科	小阪嘉之		同上		同上
日本の血友病患者の入院医療コストの集計	血液腫瘍科	藤井輝久、小阪嘉之、吉岡章 他		同上		2005年11月24日
肺・肝臓にアスペルギルス感染を認め RIST を行った第3寛解期 AML (M1) の1例	血液腫瘍科	矢内友子、薄脇 領、米良和子、長谷川大一郎、小阪嘉之		PBSCT 研究会		2005年1月14日
化学療法に抵抗性で肝移植を選択した肝芽腫の一例	血液腫瘍科	長谷川大一郎、薄脇 領、米良和子、矢内友子、小阪嘉之 他		日本小児肝臓研究会		2005年1月21日
小児の鎮静について	血液腫瘍科	矢内友子、長谷川大一郎、小阪嘉之、村田洋		近畿小児がん研究会		2005年3月21日
当科における臍帯血移植の現況	血液腫瘍科	長谷川大一郎、矢内友子、小阪嘉之		神戸血液病研究会		2005年3月18日
臍帯血移植後長期寛解を維持している寛解導入不能 AML (M1) の一例	血液腫瘍科	長谷川大一郎、矢内友子、川崎圭一郎、小阪嘉之		近畿臍帯血移植研究会		2005年5月13日
Clinical significance of hematopoietic complete chimerism in a relapsed aplastic anemia patient after allogeneic bone marrow transplantation	血液腫瘍科	D. Hasegawa, A Hayakawa, K Kawasaki, and Y Kosaka		Annual Meeting of the Japan Childhood Aplastic Anemia Study Group		2005年6月3日
JACLS ALL02SR protocol 維持療法中にパルボ B19ウイルス感染により aplastic crisis を呈した一例	血液腫瘍科	上田陽子、福高雅子、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之		兵庫県小児血液疾患症例検討会		2005年6月23日
初診時、著明な脳ヘルニア症状により呼吸停止を来たしていた PNET の2例	血液腫瘍科	長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之 他		小児脳腫瘍研究会		2005年6月24日

演 題 名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
臍帯血移植後長期寛解を維持している寛解導入不能 AML (M1) の一例	血液腫瘍科	長谷川大一郎、福島雅子、矢内友子、川崎圭一郎、小阪嘉之		神戸市小児科医学会特別講演会		2005年7月1日
当科における HLA 不一致血縁者間移植	血液腫瘍科	長谷川大一郎、福島雅子、矢内友子、川崎圭一郎、小阪嘉之		兵庫がん治療・細胞療法研究会		2005年7月29日
ADAMTH13 に変異を認めた Upshaw-Schulman 症候群 (USS) の一家系	血液腫瘍科	長谷川大一郎、小阪嘉之他		神戸血液病研究会		2005年10月8日
免疫寛容療法によりインヒビターの消失をみた血友病 A の 3 例	血液腫瘍科	溝脇頌、矢内友子、長谷川大一郎、小阪嘉之		阪へモフィリア研究会		2005年3月4日
腸腰筋血腫で診断がついた血友病 A の 1 例	整形外科	岸本真一郎、小林大介、薩摩真一	35	近畿小児整形外科懇話会	大阪	2005年2月5日
当院における二分脊椎外来	整形外科	小林大介、薩摩真一、岸本真一郎	35	近畿小児整形外科懇話会	大阪	2005年2月5日
内反股を呈した大理石病の1例	整形外科	薩摩真一、小林大介、岸本真一郎	36	近畿小児整形外科懇話会	神戸	2005年8月6日
巨大足底潰瘍を有した麻痺性内反尖足の 1 例	整形外科	藤井 貴、小林大介、薩摩真一	36	近畿小児整形外科懇話会	神戸	2005年8月6日
遺残亜脱臼に対するソルター骨盤骨切り術の成績不良例の検討	整形外科	小林大介、薩摩真一	44	日本小児股関節研究会	名古屋	2005年6月10-11日
先天股脱臼に対する観血的整復術の限界	整形外科	薩摩真一、小林大介	44	日本小児股関節研究会	名古屋	2005年6月10-11日
腓骨列形成不全に対する下腿延長術	整形外科	小林大介、薩摩真一	18	日本創外固定、骨延長学会	東京	2005年6月3-4日
当院におけるリーメンビュージェル法の治療成績	整形外科	小林大介、薩摩真一	16	日本小児整形外科学会	盛岡	2005年11月18-19日
Salter innominate Osteotomy for Avascular Necrosis Following Treatment of Developmental Dysplasia of the Hip	整形外科	Satsuma S, Kobayashi D	6	APOA	台湾	2005年11月25-27日

演 題 名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
3D-CT が骨格構造の形態把握に役立った胎児内胎児の1例	放射線科	赤坂好宣	第41回	日本小児放射線学会		2005年6月24日
小児領域の救急疾患（腹部）	放射線科	赤坂好宣	第64回	日本医学放射線学会総会		2005年4月10日
小児の救急疾患（3）消化器系	放射線科	赤坂好宣	第2回	日本小児放射線学会教育セミナー		2005年2月12日
頭頸部腫瘍における PET（現状と将来）	耳鼻咽喉科	阪本浩一		兵庫県耳鼻咽喉科医会学術講演会	神戸	2005年1月16日
アレルギー性鼻炎の治療・どんなふうに考えるか？どんなことができるのか？	耳鼻咽喉科	阪本浩一	第28回	姫路薬剤師会学術研修会	姫路	2005年2月19日
咽喉頭異常感と咳に対する喉頭酸逆流の関与 - 耳鼻咽喉科外来における臨床的鑑別診断 -	耳鼻咽喉科	阪本浩一	第5回	喉頭アレルギー・異常感研究会	名古屋	2005年3月19日
アレルギー性鼻炎 - 診断と治療 -	耳鼻咽喉科	阪本浩一		兵庫県女性薬剤師会生涯学習講演会	神戸	2005年3月27日
咽喉頭異常感と咳に対する喉頭酸逆流の関与 - 耳鼻咽喉科外来における臨床的鑑別診断 -	耳鼻咽喉科	阪本浩一	第5回	喉頭アレルギー・異常感研究会	名古屋	2005年3月19日
乳幼児難聴に対する ASSR の有用性と問題点 - 純音閾値との比較	耳鼻咽喉科	穴川英美、阪本浩一	第149回	日耳鼻兵庫県地方部会	姫路	2005年3月27日
兵庫県立こども病院における乳児難聴 - 精密検査機関としての現況	耳鼻咽喉科	阪本浩一、穴川英美	第149回	日耳鼻兵庫県地方部会	姫路	2005年3月27日
兵庫県立こども病院における新生児聴覚スクリーニング要精査児の経過 - 豊学校、難聴児通園施設との連携の模索 -	耳鼻咽喉科	阪本浩一、穴川英美	平成17年度	コミュニケーション障害児に関する勉強会	東京	2005年4月24日
嚥下機能評価における耳鼻咽喉科の役割	耳鼻咽喉科	阪本浩一	第10回	嚥下・VF 研究会	神戸	2005年5月20日
小児難聴の評価に対する ASSR の有用性と問題点	耳鼻咽喉科	阪本浩一、穴川英美	第106回	日本耳鼻咽喉科学会総会	大阪	2005年5月21日



演 題 名	所 属 科	発 表 者 名	回、または、年度	学 会 名	開 催 都 市 名	開 催 年 月 日
Hypernasal speech caused by tonsillar hypertrophy in post-infancy child	耳鼻咽喉科	H. Sakamoto, F. Anagawa	XVIII	IFOS World Congress	ローム	2005年6月25-30日
重複障害児に対する ASSR を用いた聴力評価	耳鼻咽喉科	阪本浩一、穴川英美	第52回	日本小児耳鼻咽喉科研究会	大阪	2005年7月2日
慢性扁桃炎に対する小建中湯の有用性	耳鼻咽喉科	阪本浩一		東播漢方研究会	加古川市	2005年7月23日
バイポーラシザーズ、XPS、ドリル、サクシヨココアグレータを用いた扁桃・アデノイド手術	耳鼻咽喉科	阪本浩一、北山勇人	第18回	日本口腔咽頭科学会総会	旭川	2005年9月9日
当科に置ける減感療法の現況	耳鼻咽喉科	阪本浩一	第3回	東播耳鼻咽喉科研究会	加古川市	2005年9月15日
重複障害児に対する ASSR を用いた聴力評価の有用性 (発達正常児との比較と骨導検査導入の試み)	耳鼻咽喉科	阪本浩一、穴川英美	第50回	聴覚医学会総会	東京	2005年9月24日
小児慢性扁桃炎に対する小建中湯の臨床効果	耳鼻咽喉科	阪本浩一		小児東洋医学会 秋期大会(神戸)	神戸	2005年9月25日
新生児聴覚スクリーニング後精密医療機関としての兵庫県立こども病院耳鼻咽喉科の現況と療育機関との連携の模索	耳鼻咽喉科	阪本浩一、穴川英美	第44回	自治体病院学会総会	神戸	2005年10月14日
長期気管切開をうけた年長児の構音訓練	耳鼻咽喉科	穴川英美、阪本浩一	第44回	自治体病院学会総会	神戸	2005年10月13日
慢性扁桃炎に対する漢方薬の有用性 - 小建中湯・補中益気湯の使用経験	耳鼻咽喉科	阪本浩一	第21回	日本耳鼻咽喉科漢方研究会	東京	2005年10月15日
乳突洞炎から皮下膿瘍を形成した乳児例	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀、長嶋達也	第53回	日本小児耳鼻咽喉科研究会	東京	2005年12月3日
骨導 ASSR の試み - 有用性と問題点	耳鼻咽喉科	阪本浩一、穴川英美、大津雅秀	第151回	日耳鼻兵庫県地方部会	西宮	2005年12月4日
聴覚検査と補聴器	耳鼻咽喉科	大津雅秀		日本耳鼻咽喉科学会兵庫県地方部会補聴器相談医のための講習会	神戸	2005年11月13日

演 題 名	所 属 科	発 表 者 名	回、または、年度	学 会 名	開 催 都 市 名	開 催 年 月 日
補聴器の種類と機能	耳鼻咽喉科	阪本浩一		日本耳鼻咽喉科学会兵庫県地方部会補聴器相談医のための講習会	神戸	2005年11月13日
フィッティングのための調整手段	耳鼻咽喉科	阪本浩一		日本耳鼻咽喉科学会兵庫県地方部会補聴器相談医のための講習会	神戸	2005年11月13日
間欠的自己導尿のケア	看護部	鎌田直子	第9回	日本小児ストーマ・排泄管理セミナー	高知市	2005年2月3日
当院における褥瘡発生と褥瘡対策の現状	看護部	鎌田直子	第19回	日本小児ストーマ・排泄管理研究会	高知市	2005年2月4日
専門職の教育	看護部	鎌田直子	平成17年度	兵庫県新人看護職研修	神戸市	2005年5月17日
褥瘡ケア	看護部	鎌田直子	平成17年度	兵庫県立光風病院勉強会	神戸市	2005年6月22日
二分脊椎患者の排便のマネジメント	看護部	鎌田直子	平成17年度	神経因性膀胱研究会	高野市	2005年8月7日
小児ストーマケア	看護部	鎌田直子	第27回	関西 STOMA ケア講習会	大阪市	2005年8月20日
急性期小児病院における褥瘡発生の現状	看護部	鎌田直子	第7回	日本褥瘡学会	横浜市	2005年8月26日
排便管理	看護部	鎌田直子	平成17年度	二分脊椎症協会福岡支部勉強会	福岡市	2005年10月22日
二分脊椎患者の排便管理	看護部	鎌田直子	平成17年度	二分脊椎症協会和歌山支部勉強会	和歌山市	2005年11月13日
在宅におけるターミナル期の褥瘡予防	看護部	松山美穂・鈴木有香・鎌田直子	第19回	日本小児ストーマ・排泄管理研究会	高知市	2005年2月4日

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
当院におけるストーマ造設児のフォローアップ・造設から退院までのケア	看護部	東 絵理・鎌田直子	平成17年度	近畿小児ストーマ・創傷・排泄研究会	大阪市	2005年12月17日
当院におけるストーマ造設児のフォローアップ・外来でのケア	看護部	松山美穂・鎌田直子		近畿小児ストーマ・創傷・排泄研究会	大阪市	2005年12月17日
頭蓋内出血を契機に発見された胆道閉鎖症の13例	外科	横井睦子、高見澤滋、佐藤志以樹、西島栄治、連 利博、秋山英之、長嶋達也	第32回	胆道閉鎖研究会	千葉市	2005年10月21日
小児がん患者にやさしいケア戦略	外科	連 利博	第46回	中四国小児がん研究会	高松	2005年4月8日
Glucocorticoid Receptor Alpha Expression in the Intrahepatic Biliary Epithelium of Biliary Atresia:clinical implication	外科	連 利博、榎川幸弘、高見澤滋、佐藤志以樹、西島栄治、津川 力	第38回	Annual Congress of Pacific Association of Pediatric Surgens (PAPS)	Vancouver, Canada	2005年5月25日
胆道閉鎖症における肝 glucocorticoid receptor alpha の発現とステロイド療法の効果	外科	連 利博、榎川幸弘、田中朋子、渡邊高士、津川二郎、高見澤滋、佐藤志以樹、西島栄治、津川 力	第42回	日本小児外科学会総会	千葉	2005年6月2日
胆道閉鎖症、新生児、乳児の胆汁うったいと早期発見について	外科	連 利博	第33回	武蔵野小児肝臓病懇話会	東京都	2005年12月5日
胆道閉鎖症の早期発見、早期診断への提言	外科	連 利博	第3回	小児難病フォーラム	長崎市	2005年11月22日
Biliary atresia: updated 2005.	外科	連 利博	第1回	Federation of Association of Pediatric Surgeons of SAARC	Chitagon, Bangladesh	2005年12月9日
超低出生体重児穿孔孔例に対する腹腔ドレナージの有効性についての検討	外科	和田英見	第42回	日本小児外科学会総会	千葉県	2005年6月1日
十二指腸膜様狭窄の病変部検索にバルンカテーテルが有効であった一例	外科	和田英見	第41回	日本小児外科学会近畿地方会	和歌山市	2005年8月26日

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
胆道閉鎖症術後の繰り返し胆管炎に対し癒着剥離術が有効であった一例	外科	和田英見	第32回	胆道閉鎖症研究会	東京	2005年10月21日
3次小児救急医療施設における小児外科医の役割	外科	和田英見		須磨医師会	神戸市	2005年3月17日
低出生体重児の消化管穿孔	外科	津川二郎、田中朋子、渡邊高士、榎川幸弘、高見澤滋、佐藤志以樹、連利博、西島栄治、津川力	第6回	神戸小児外科カンファレンス	神戸市	2005年2月5日
超低出生体重児の消化管穿孔に対する外科的治療：Laparotomy or Drainage?	外科	津川二郎、田中朋子、渡邊高士、榎川幸弘、高見澤滋、佐藤志以樹、連利博、西島栄治、津川力	第42回	日本小児外科学会総会	千葉市	2005年6月2日
Bronchopulmonary foregut malformation (BPFM)：外科的治療の問題点と予後を決定する因子	外科	津川二郎、田中朋子、渡邊高士、榎川幸弘、高見澤滋、佐藤志以樹、連利博、西島栄治、津川力	第42回	日本小児外科学会総会	千葉市	2005年6月2日
直腸肛門奇形（鎖肛）に対する posterior sagittal anorectoplasty (PSARP) の中期成績	外科	津川二郎、田中朋子、渡邊高士、榎川幸弘、高見澤滋、佐藤志以樹、連利博、西島栄治、津川力	第42回	日本小児外科学会総会	千葉市	2005年6月3日
胎便性腹膜炎の治療成績	外科	津川二郎、和田英見、山下方俊、高見澤滋、佐藤志以樹、連利博、西島栄治、津川力	第7回	神戸小児外科カンファレンス	神戸市	2005年7月23日
高位鎖肛に対する posterior sagittal anorectoplasty (PSARP) の手術成績	外科	津川二郎、田中朋子、和田英見、横井暁子、山下方俊、高見澤滋、佐藤志以樹、連利博、西島栄治、津川力	第16回	日本小児外科 QOL 研究会	徳島市	2005年8月16日
血尿で発見された肝腫瘍の1例	外科	津川二郎、田中朋子、和田英見、横井暁子、山下方俊、高見澤滋、佐藤志以樹、連利博、西島栄治、津川力	第54回	小児外科わからん会	大阪市	2005年10月8日

演 題 名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
壊死性気管炎による後天性気管狭窄症の治療成績	外科	津川二郎、畑田朋子、 和田英見、横井暁子、 山下方俊、高見澤滋、 佐藤志以樹、連利博、 西島栄治、津川力	第16回	日本小児呼吸器外 科研究会	新潟市	2005年11月4日
GERDの手術適応：呼吸器症状	外科	高見澤滋、津川力、 西島栄治、連利博、 佐藤志以樹、楢川幸弘、 津川二郎、渡邊高士、 田中朋子	第35回	日本小児消化管機 能研究会	横浜	2005年2月26日
GERDの手術適応：重症心身障害児	外科	高見澤滋、津川力、 西島栄治、連利博、 佐藤志以樹、楢川幸弘、 津川二郎、渡邊高士、 田中朋子	第35回	日本小児消化管機 能研究会	横浜	2005年2月26日
GERDの手術適応：食道閉鎖症術後	外科	高見澤滋、津川力、 西島栄治、連利博、 佐藤志以樹、楢川幸弘、 津川二郎、渡邊高士、 田中朋子	第35回	日本小児消化管機 能研究会	横浜	2005年2月26日
GERDの手術適応：成長障害	外科	高見澤滋、津川力、 西島栄治、連利博、 佐藤志以樹、楢川幸弘、 津川二郎、渡邊高士、 田中朋子	第35回	日本小児消化管機 能研究会	横浜	2005年2月26日
小児における胃食道逆流症の手術適応について	外科	高見澤滋、西島栄治、 津川力	第20回	須磨区医師会学術 集談会	神戸	2005年3月19日
ロングギャップ食道閉鎖症に対する胸壁内食道延長術 および食道-食道吻合術7例の経験	外科	高見澤滋、津川力、 西島栄治、連利博、 佐藤志以樹、楢川幸弘、 津川二郎、渡邊高士、 田中朋子	第42回	日本小児外科学会 総会	千葉	2005年6月2日
テガダームを用い腹壁の自然閉鎖を行った腹壁破裂の 1例	外科	高見澤滋、津川力、 連利博、西島栄治、 佐藤志以樹、楢川幸弘、 津川二郎、渡邊高士、 田中朋子	第42回	日本小児外科学会 総会	千葉	2005年6月2日
重症心身障害児における誤嚥性肺炎の外科的治療～噴 門形成術および喉頭気管分離手術の手術時期について	外科	高見澤滋、西島栄治、 畑田暁子、横井暁子、 和田英見、山下方俊、 津川二郎、佐藤志以樹、 連利博、津川力	第16回	日本小児外科 QOL 研究会	徳島	2005年8月16日

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
気道狭窄を呈した食道異物の一例	外科	山下方俊、畑田朋子、和田英見、横井暁子、津川二郎、高見澤滋、佐藤志以樹、連利博、西島栄治、津川力	第41回	日本小児外科学会 近畿地方会	和歌山市	2005年8月27日
先天性気管狭窄症に対するスライド気管形成術26例の経験：気管分岐部直上の下部気管狭窄の問題点	外科	佐藤志以樹、津川力、西島栄治、連利博、高見沢滋、津川二郎、横井暁子、山下方俊、和田英見、畑田智子	第42回	日本小児外科学会 総会	千葉	2005年6月2日
最近の小児歯科の現状	小児歯科	石井信行	平成16年度	神戸市歯科衛生士 研修会	神戸	2005年2月7日
Down 症候群児に対する歯列矯正治療	小児歯科	石井信行	第22回	日本障害者歯科学 会	甲府	2005年10月15-16日
子どもの口腔内疾患と母親への指導	小児歯科	石井信行	平成17年度	子どもの歯の健康 づくり研修会	姫路	2005年11月25日
右開胸アプローチによる心房中隔欠損閉鎖術の検討	心臓血管外科	鈴木恵美子、大嶋義博、土肥善郎、三崎拓郎	第258回	北陸外科学会	富山	2005年3月5日
当科に於ける先天性心疾患無輸血開心術の現状	心臓血管外科	土肥善郎、大嶋義博、島津親志、鈴木恵美子、三崎拓郎	第258回	北陸外科学会	富山	2005年3月5日
左肺動脈形成-拡大端々吻合-	心臓血管外科	大嶋義博、土肥善郎、島津親志、三崎拓郎	第105回	日本外科学会定期 学術集会	名古屋	2005年5月11日
RV exclusion を行った Ebstein 奇形の1例	心臓血管外科	田中陽介、大嶋義博、吉田昌弘、松久弘典、高橋宏明、芳村直樹、山口眞弘	第40回	神戸心臓外科研究 会 (KCCS)	神戸	2005年5月18日
活動期感染性心内膜炎に対する僧帽弁形成術 - 新鮮自己心膜の有用性について -	心臓血管外科	吉田昌弘、山口眞弘、大嶋義博、島津親志、松久弘典、田中陽介、高橋宏明	第49回	近畿心臓外科研究 会	京都	2005年5月27日
Norwood 型手術における術式の工夫 自己組織を用いた弓部形成 - 縮窄予防と縫合手順の工夫	心臓血管外科	大嶋義博、鈴木恵美子、名倉里織、島津親志、土肥善郎、三崎拓郎	第48回	関西胸部外科学会 学術集会	松山	2005年6月16日

演 題 名	所 属 科	発 表 者 名	回、または、年度	学 会 名	開 催 都 市 名	開 催 年 月 日
Down 症児に対する Fontan 型手術 - TPC 到達 3 例の検討	心臓血管外科	村上博久、山口眞弘、 芳村直樹、吉田昌弘、 松久弘典、田中陽介、 高橋宏明	第48回	関西胸部外科学会 学術集会	松山	2005年6月16日
Bjork 手術後遠隔期に TPC への転換を行った 3 例	心臓血管外科	高橋宏明、山口眞弘、 芳村直樹、吉田昌弘、 村上博久、松久弘典、 田中陽介	第48回	関西胸部外科学会 学術集会	松山	2005年6月16日
両心室修復後遠隔期に MR, AR, LVOTO に対して再手術を行った left isomerism, CAVC の1例	心臓血管外科	田中陽介、山口眞弘、 芳村直樹、吉田昌弘、 村上博久、松久弘典、 高橋宏明	第48回	関西胸部外科学会 学術集会	松山	2005年6月16日
開窓付き TPC (f-TPC) 手術症例の中期遠隔期におけるチアノーゼの変化 (シンボジウム)	心臓血管外科	吉田昌弘、山口眞弘、 芳村直樹、村上博久、 松久弘典、田中陽介、 高橋宏明	第48回	関西胸部外科学会 学術集会	松山	2005年6月17日
肺動脈スリングの外科治療	心臓血管外科	芳村直樹、山口眞弘、 吉田昌弘、村上博久、 松久弘典、田中陽介、 高橋宏明、津川 力、 西島栄治、佐藤志以樹	第48回	関西胸部外科学会 学術集会	松山	2005年6月17日
気管軟化症を伴う先天性心疾患に対する動脈吊上げ術	心臓血管外科	松久弘典、山口眞弘、 大嶋義博、芳村直樹、 吉田昌弘、村上博久、 島津親志、田中陽介、 日隈智恵、高橋宏明	第48回	関西胸部外科学会 学術集会	松山	2005年6月17日
大動脈縮窄 / 離断複合ならびに人工弁置換術後成人期における問題点 (シンボジウム)	心臓血管外科	芳村直樹、山口眞弘、 吉田昌弘、村上博久、 松久弘典、鄭 輝男、 城戸佐知子、佃 和弥、 藤田秀樹	第41回	日本小児循環器学 会総会	東京	2005年7月6日
無輪血体外循環症例における X コーティング回路の有 用性の検討	心臓血管外科	吉田昌弘、山口眞弘、 芳村直樹、村上博久、 松久弘典、田中陽介、 高橋宏明	第41回	日本小児循環器学 会総会	東京	2005年7月6日
心尖下大静脈同側症例に対する TPC 手術時の導管経 路の選択 - 下大静脈柱体騎乗率の有用性 -	心臓血管外科	吉田昌弘、大嶋義博、 島津親志、松久弘典、 田中陽介、高橋宏明、 山口眞弘	第58回	日本胸部外科学会 定期学術集会	岡山	2005年10月6日

演 題 名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
二期的動脈スライツ術後遠隔期における問題点	心臓血管外科	高橋宏明、大嶋義博、 吉田昌弘、島津親志、 松久弘典、田中陽介、 山口眞弘	第58回	日本胸部外科学会 定期学術集会	岡山	2005年10月7日
肺静脈還流異常症の遠隔期成績の検討	心臓血管外科	島津親志、大嶋義博、 吉田昌弘、松久弘典、 田中陽介、高橋弘明、 山口眞弘	第58回	日本胸部外科学会 定期学術集会	岡山	2005年10月7日
フォンタン型手術後の一酸化窒素吸入離脱にフロンが有効であった2症例	心臓血管外科	吉田昌弘、大嶋義博、 高野信二、島津親志、 松久弘典、高橋弘明、 鄭 輝男、城戸佐知子、 佃 和弥、藤田秀樹	第4回	フロン治療研究会	東京	2005年10月29日
部分肺静脈還流異常を伴う心房中隔欠損に対するWarden's method 2症例	心臓血管外科	日隈智憲、大嶋義博、 吉田昌弘、高野信二、 島津親志、松久弘典、 高橋宏明	第41回	神戸心臓外科研究会 (KCCS)	神戸	2005年11月9日
Appropriate Additional Pulmonary Blood Flow at Bidirectional Glenn Procedure is Useful for Completion of Total Cavopulmonary Connection	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、 吉田昌弘、高野信二、 島津親志、日隈智憲、 高橋宏明	第47回	兵庫県心臓外科懇話会 (HSHS)	神戸	2005年11月18日
フアロー四徴症を伴った大動脈肺動脈中隔欠損症の2例	心臓血管外科	島津親志、大嶋義博、 吉田昌弘、高野信二、 松久弘典、田中陽介、 高橋弘明、鄭 輝男、 城戸佐知子、佃 和弥、 藤田秀樹、齋木宏文、加藤	第10回	小児循環器病カンファレンス	京都	2005年12月6日
盗癲、収集癲を伴う広汎性発達障害症例への対処	精神科	前田宏章 松川悦之	第46回2005年度	日本児童青年期精神医学会		2005年11月11日
小児の便秘失禁の治療・対処法 (講演)	外科	西島栄治	第10回	小児スト・マ排泄管理セミナー (日本小児スト・マ排泄管理研究会主催)	高知市	2005年2月3日
外来での小児の排便管理の実際：とくに便秘症の視点と対策 (講演)	外科	西島栄治	第45回	神戸小児医学講座	神戸市	2005年3月26日
食道閉鎖症C型の手術治療のポイント (ビデオ指定)	外科	西島栄治、津川 力、 佐藤志以樹、連 利博、 高見澤滋、楢川幸弘、 津川二郎、渡邊高士、 田中朋子	第42回	日本小児外科学会 総会	千葉市	2005年6月3日



演 題 名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
小児の異物誤嚥：食道異物と気道異物（講演）	外科	西島栄治	第19回	日本小児救急医学会	仙台市	2005年7月2日
心身に障害を持っている子ども達の姿勢と息と食べることの大切さ（講演）	外科	西島栄治	2005年	MIPRO キッズフェア2005	神戸市	2005年9月10日
摂食嚥下機能の発達と訓練法および手術による対処法	外科	西島栄治	2005年	神戸市立垂水養護 学校研修会	神戸市	2005年9月13日
気管軟化症に対する大動脈胸骨固定術30例の分析：手術適応、手術手技および展望（シンポ）	外科	西島栄治、佐藤志以樹、 連利博、高見澤滋、 津川二郎、横井暁子、 山下方俊、和田英貞、 畑田智子、あさひ病院 津川 力	第38回	日本小児呼吸器疾 患学会	新潟市	2005年11月4日
コンセンサスミ - ティング「わたしはこうしている」 (パネル)	外科	西島栄治	第25回	日本小児内視鏡外 科・手術手技研究 会	新潟市	2005年11月5日
小児外科手術の流れから麻酔科医に求めるもの：気道 病変に挑戦する小児外科手 - ムとの協働（講演）	外科	西島栄治	第25回	日本臨床麻酔学会	大阪市	2005年11月17日
日常よくみる小児外科疾患および治療概念に大変化が 起こった小児外科疾患について（講演）	外科	西島栄治	第1回	兵庫県小児疾患懇 話会	神戸市	2005年11月26日
気管支喘息と鑑別を要した先天性気管狭窄の一例	救急医療室 一般外 科	米良和子、三好麻里、 上谷良行、高見澤滋、 佐藤志以樹、西島栄治、 津川力	第20回	須磨区医師会学術 集談会	神戸	2005年3月19日
気管支喘息と鑑別を要した先天性気管狭窄の一例	救急医療室 一般外 科 神戸市立中央市 民病院	米良和子、溝脇 領、 千田麻里子、片山珠美、 丸山あずさ、尾崎佳代、 長谷川大一郎、矢内友子、 相馬 収、田中亮二郎、 三好麻里、小阪嘉之、 上谷良行、西島栄治、 津川 力、高見澤滋、 佐藤志以樹、川口 敦、 山岡幸司	第235回	日本小児科学会兵 庫県地方会	尼崎	2005年2月5日
胃軸捻転の4症例	救急医療室 一般外 科	丸山あずさ、足立佳代、 相馬 収、三好麻里、 上谷良行、高見澤滋、 津川 力	第18回	近畿小児科学会	京都	2005年3月13日

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
PALS と救命の連鎖	救急医療室	上谷良行	平成17年度	西宮市小児科医学会 学術講演会	西宮市	2005年4月20日
当院救急医療室を受診した交通外傷患者25例の検討	救急医療室	米良和子、片山珠美、丸山あずさ、足立佳代、長谷川大一郎、矢内友子、相馬 収、田中亮二郎、三好麻里、上谷良行	第108回	日本小児科学会学術集会	東京	2005年4月22-24日
血便を主訴に緊急入院となった症例の検討	救急医療室	尾崎佳代、米良和子、片山珠美、丸山あずさ、足立佳代、長谷川大一郎、矢内友子、相馬 収、田中亮二郎、三好麻里、上谷良行	第108回	日本小児科学会学術集会	東京	2005年4月22-24日
PALS 神戸 (Pediatric Advanced Life Support Kobe) 始動	救急医療室	黒澤寛史、有吉孝一、柳井真知、佐藤慎一(神戸市立中央市民病院救命救急センター)、三好麻里、上谷良行(兵庫県立こども病院救急医療室)、上村克徳、清水直樹、宮坂勝之(国立成育医療センター救急診療科)	第19回	日本小児救急医学会	仙台	2005年7月1-2日
当院における外傷医療の現状 第一報 ～特徴的な症例を中心に～	救急医療室	笠井和子、千田麻里子、富永健太、片山珠美、三好麻里、上谷良行	第19回	日本小児救急医学会	仙台	2005年7月1-2日
当院における外傷医療の現状 第二報 ～外傷初期トレーニングの実際～	救急医療室	清水称喜、栗田加奈子、宮崎麗、橋本ひとみ、笠井和子、千田麻里子、富永健太、片山珠美、尾崎佳代、三好麻里、上谷良行	第19回	日本小児救急医学会	仙台	2005年7月1-2日
シンポジウム3 「intact survival」からみた極低出生体重児の予後」全国調査から見た極低出生体重児の予後	総合診療科	上谷良行	第41回	日本周産期新生児医学会	福岡	2005年7月10-12日
小児病院だからこそ出来る小児三次救急医療	総合診療科	上谷良行、三好麻里、田中亮二郎、川崎圭一郎、尾崎佳代、長谷川大一郎、丸山あずさ、富永健太、笠井和子	第44回	全国自治体病院学会	神戸	2005年10月13-14日

演 題 名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
当院救急医療室における心肺停止症例について	総合診療科	富永健太、上谷良行	第236回	日本小児科学会兵庫県地方会	神戸	2005年5月28日
経過中にマクロブームアージ活性化症候群 (MAS) と血球貪食性リンパ組織増殖症 (HLH) を合併した全身型若年性特発性関節炎の一例	アレルギー科、救急医療室、血液腫瘍科、姫路赤十字病院小児科	黒澤茶茶、三好麻里、尾崎佳代、上谷良行、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之、高橋宏暲、桜井 隆	第237回	日本小児科学会兵庫県地方会	姫路	2005年9月23日
いま病院小児科医の勤務環境はどうなっているか - 兵庫県小児科医会調査より -	総合診療科	上谷良行		小児救急フォーラム in 兵庫	神戸	2005年3月19日
外傷管理 - 成人救命救急センターから受ける立場として	救急医療室	黒澤茶茶	第13回	小児集中治療ワークショップ	千葉	2005年11月26-27日
ターミナル患者の在宅への支援	血液主体病棟	宮本智佳子	第27回	近畿小児がん研究会	神戸市	2005年3月12日
ターミナル患者における在宅ケアへのとりくみ	血液主体病棟	河江伸子		日本小児がん学会看護部門	宇都宮市	2005年11月25日
心臓カテーテル検査を受ける子どもへのプレパレーション	循環器B病棟	西平倫子、平井重世、小林久美子、倉増慶子、菅野峰子	15回	日本小児看護学会	横浜	2005年7月24-25日
兵庫県立こども病院耳鼻咽喉科外来における他覚的聴力検査時の躁静 (ASSR/ABR/CT 検査時の工夫と現況)	外来	大谷操穂、井手公美子		全国自治体病院学会	神戸市	2005年10月13日
チーム医療で行うセルフケア支援 ~ アレルギー外来で両親教室を開催して見えてきたこと	外来	泊 菊子		全国自治体病院学会	神戸市	2005年10月14日
当院における外傷医療の現状 第二報 ~ 外傷初療トレーニングの実際 ~	救急医療室	清水祐喜・粟田香奈子・宮崎 麗・橋本ひとみ・笠井和子・千田真理子・富永健太・片山珠美・尾崎佳代・三好麻里・上谷良行	第19回	日本小児救急医学会		
亜全小腸型無神経症で在宅 IVH となった患児・家族への援助	一般外科主体病棟	斉藤富美代	第2回	兵庫県看護師勉強会		
超低出生体重児のスキンケアを考える	看護部 NICU	藤定睦子、足立久美子	第15回	日本新生児看護学会	名古屋	2005年12月5日

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
18トリソミー児の療育支援 - 当院における過去10年間50症例を振り返って	看護部 NICU	藤田雅子、藤定睦子、菰野朱美、足立久美子	第15回	日本新生児看護学会	名古屋	2005年12月5日
在胎25週未満の皮膚ケアについて - 超早産児の皮膚にテガタームの貼付を試みて	看護部 NICU	土井まゆみ、林瑠美子、藤定睦子、足立久美子	第15回	日本新生児看護学会	名古屋	2005年12月6日
低リン血症くる病9家系の遺伝子解析	代謝内分泌科	尾崎佳代、郷司克己、西尾久英、松尾雅文	第236回	日本小児科学会兵庫県地方会	神戸市	2005年5月28日
卵巣嚢腫莖捻転を合併した P450 Oxidoreductase 遺伝子異常症の一例	代謝内分泌科	細川悠紀、尾崎佳代、郷司克己、酒井國安、松尾雅文	第39回	日本小児内分秘学会	東京都	2005年10月21日
常染色体優性遺伝を思わす家族性低リン血症性クル病の1家系に対する遺伝子解析	代謝内分泌科	郷司克己、尾崎佳代、西尾久英、松尾雅文	第39回	日本小児内分秘学会	東京都	2005年10月21日
小児脊髄腫瘍の1例	兵庫県立こども病院 検査・放射線部病理 <sup>1)</sup> 、 脳神経外科 <sup>2)</sup> 、 放射線科 <sup>3)</sup> 、 神戸市立中央市民病院 病理 <sup>4)</sup> 、 西神戸医療センター 病理科 <sup>5)</sup>	吉田牧子 <sup>1)</sup> 、今井幸弘 <sup>4)</sup> 、 橋本公夫 <sup>5)</sup> 、長嶋達也 <sup>2)</sup> 、 河村淳史 <sup>2)</sup> 、秋山英之 <sup>2)</sup> 、 岡村有祐 <sup>2)</sup> 、赤坂好直 <sup>3)</sup> 、 金川公夫 <sup>3)</sup>	第55回	関西小児病理研究会	大阪市	2005年12月10日
第11回摂食・嚥下リハビリテーション学会	検査・放射線部	竹中 修	第11回	摂食・嚥下リハビリテーション学会	名古屋	2005年9月2-3日
「小児血管造影検査時の線量低減の検討」	検査・放射線部	廣瀬悦子他	第3回	兵庫県立病院学会	神戸市	2005年9月10日
小児 IVR における被ばく線量簡易算出システムの作成	検査・放射線部	関尾直司	第33回	日本放射線技術学会	神戸市	2005年10月20-22日
小児 IVR における放射線被曝低減へのアプローチ	検査・放射線部	関尾直司	第44回	自治体病院学会	神戸市	2005年10月13-14日
「フレーバーを用いた経口造影剤服用状況の調査 小児造影剤への有用性について」	検査・放射線部	竹中 修	第17回	兵庫県放射線技術師 会学術大会	神戸市	2005年11月27日
小児側弯手術における希釈式自己血輸血の有用性	麻酔科	佐野 愛、香川哲郎、 大西広泰、栗原ゆか、 西山淳二	第52回	日本麻酔科学会	神戸	2005年6月2日

演 題 名	所 属 科	発 表 者 名	回、または、年度	学 会 名	開 催 都 市 名	開 催 年 月 日
品胎妊娠経過中に痔核が悪化し仙骨硬膜外ブロックで疼痛管理を行った一例	麻酔科	魚川礼子、香川哲郎、高辻小枝子、鈴木毅	第52回	日本麻酔科学会	神戸	2005年6月3日
恐怖感と痛みとの強い処置を受ける患児に対する病棟麻酔サージビス	麻酔科	村田 洋	第11回	日本小児麻酔学会	静岡	2005年9月9日
小児におけるフェンタニル持続静注による術後鎮痛法の検討	麻酔科	栗原ゆか、香川哲郎、三浦 泰、土居ゆみ、鈴木 毅	第11回	日本小児麻酔学会	静岡	2005年9月9日
小児における術後鎮痛法	麻酔科	香川哲郎		東京麻酔リフレッシュ シャワーコース	東京	2005年7月10日
血液腫瘍科における薬剤師の取り組み	薬剤部	函城絵理奈、上田理恵、藤本潤子、郷地啓子	第26回日本病院薬 剤師会近畿学術大 会	日本病院薬剤師会	京都	2005年1月29日
治験コーディネーター業務への取り組み - 薬剤師の立場から -	薬剤部	塩田 恵、加古 学、藤本潤子、郷地啓子	第3回兵庫県立病 院学会		神戸	2005年9月10日
兵庫県立病院薬剤部におけるリスクマネジメントへの取り組み - イエローカードの導入 -	兵庫県立病院 薬剤 部長会議リスク管理 委員会	藤本 潤子	第44回	全国自治体病院学 会	神戸	2005年10月13日
小児の脊髄腫膜腫の1例	脳神経外科	山本浩隆、長嶋達也、秋山英之、甲村英二	第51回	近畿脊髄外科研究 会	大阪	2005年4月2日
発達から見た小児神経外科手術のタイミング 「二分脊椎の手術」(初回手術と再係留時手術)	脳神経外科	長嶋達也	第25回	日本脳神経外科コ ングレス教育講演 会	北九州	2005年5月13日
二分脊椎・脳瘤	脳神経外科	長嶋達也	第32回	日本小児神経外科 学会 教育講演	奈良	2005年5月27日
悪性脳腫瘍に対する集学的治療	脳神経外科	長嶋達也、秋山英之、山本浩隆、甲村英二	第33回	日本小児神経外科 学会 シンポジウ ム	奈良	2005年5月25日
小児の脊髄腫膜腫	脳神経外科	山本浩隆、長嶋達也、秋山英之	第33回	日本小児神経外科 学会	奈良	2005年5月26日
閉塞性水頭症を伴う巨大くも膜嚢胞の4症例	脳神経外科	秋山英之、岡村有祐、山本浩隆、長嶋達也	第33回	日本小児神経外科 学会	奈良	2005年5月26日

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
血液凝固障害による頭蓋内出血	脳神経外科	秋山英之、長嶋達也	第8回	北六甲脳神経外科カンファレンス	三田	2005年6月18日
小児脳腫瘍：総論	脳神経外科	長嶋達也		小児脳腫瘍フォーラム教育講演	大阪	2005年7月23日
兵庫県立こども病院における二分脊椎外来の現状と課題	脳神経外科	長嶋達也、秋山英之、岡村有佑、薩摩眞一、小林大介、杉田良文、乃美昌司、鎌田直子	第22回	日本二分脊椎研究会	東京	2005年6月18日
松果体部 immature teratoma の全摘出例	脳神経外科	岡村有佑、秋山英之、長嶋達也		兵庫県脳外科懇話会	神戸	2005年7月23日
小児脳腫瘍と内分泌障害	脳神経外科	長嶋達也		KIGS JAPAN 教育講演	大阪	2005年9月10日
新生児・乳児頭蓋内腫瘍35例の検討	脳神経外科	岡村有佑、秋山英之、長嶋達也	第46回	日本脳神経外科学会近畿地方会	大阪	2005年9月10日
延髄に発生した anaplastic ganglioglioma の1例	脳神経外科	秋山英之、岡村有佑、山本浩隆、河村淳史、長嶋達也	第23回	日本こども病院神経外科医会	大阪	2005年11月12日
大量化学療法を併用した乳児期悪性脳腫瘍の2例	脳神経外科	岡村有佑、秋山英之、長嶋達也		神戸大学同門学会学術講演会	神戸	2005年12月11日
当科で緊急母体搬送受入れを断った症例の転記についての調査	産科	近田恵里、佐本崇、猿渡由美子、新谷潔、石原尚徳、原田明、大橋正伸	第57回	日本産科婦人科学会学術講演会	京都	2005年4月2-5日
切迫早産症例に対する塩酸リトドリン、硫酸マグネシウムによる tocolysis の検討	産科	猿渡由美子、原田明、近田恵里、新谷潔、石原尚徳、佐本崇、大橋正伸	第57回	日本産科婦人科学会学術講演会	京都	2005年4月2-5日
切迫早産に症例に対する塩酸リトドリン、硫酸マグネシウムによる tocolysis の検討	産科	猿渡由美子、船越徹、近田恵里、新谷潔、石原尚徳、佐本崇、大橋正伸	第112回	近畿産科婦人科学会学術集會 期セミナ一	和歌山	2005年6月11-12日
肺リンパ脈管筋腫症合併妊娠の1例	産科	藤本美樹、佐々木紘子、森田宏紀、出口雅士、北尾敬祐、船越徹、小原範之、丸尾猛	第112回	近畿産科婦人科学会学術集會 期セミナ一	和歌山	2005年6月11-12日

演 題 名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
妊娠27週で診断された結合双胎の1例	産科	近田恵里、佐本 崇、 猿渡由美子、船越 徹、 石原尚徳、大橋正伸	第113回	近畿産科婦人科学 会学術集会 周産 期セミナー	大津	2005年10月9日
p-PROM 症例の新生児短期予後 - 抗生物質投与法別の比較検討 -	産科	新谷 潔、石原尚徳、 猿渡由美子、近田恵里、 佐本 崇、船越 徹、 大橋正伸	第41回	日本周産期・新生 児医学会学術集会	福岡	2005年7月10-12日
当科で受入れを断った緊急母体搬送症例のその後は？	産科	近田恵里、佐本 崇、 猿渡由美子、新谷 明、 石原尚徳、原田 明、 大橋正伸	第41回	日本周産期・新生 児医学会学術集会	福岡	2005年7月10-12日
切迫早産症例に対する塩酸リトドリン、硫酸マグネシウムによる tocolysis の検討	産科	猿渡由美子、船越 徹、 近田恵里、新谷 潔、 石原尚徳、佐本 崇、 大橋正伸	第41回	日本周産期・新生 児医学会学術集会	福岡	2005年7月10-12日
出生前に軽度四肢短縮症と彎曲を示した1症例	産科	細田容子、田中宏幸、 澤井英明、伊藤宏一、 中西健太郎、内田暁子、 豊田桃子、武信尚史、 霧 弘之、小森慎二、 香山浩二、船越 徹	第79回	兵庫県産科婦人科 学会学術集会	神戸	2005年7月17日
当院緊急入院後24時間以内に娩出した症例の検討	産科	石原尚徳、猿渡由美子、 近田恵里、新谷 潔、 佐本 崇、船越 徹、 大橋正伸	第79回	兵庫県産科婦人科 学会学術集会	神戸	2005年7月17日
当科で緊急母体搬送受入れを断った症例の転記についての調査	産科	近田恵里、佐本 崇、 猿渡由美子、新谷 明、 石原尚徳、原田 明、 大橋正伸		位育会臨床セミナー	神戸	2005年8月20日
結合双胎の出生前診断	産科	近田恵里、佐本 崇、 猿渡由美子、新谷 潔、 石原尚徳、原田 明、 大橋正伸	第41回	兵庫県立こども病 院研修・学術集会	神戸	2005年11月24日
PMX - DHP + CHDF が有効であった敗血症性ショックを呈したクローン病の小児例	腎臓内科	腎臓内科 田中亮二郎、 片山珠美、横山真二、 臨床工学技士 横山真二、 中村智裕	第7回	神戸急性血液浄化 研究会(平成17年 1月29日、神戸)	神戸	2005年1月29日
Uromodulin 遺伝子の新たな変異が同定された家族性若年性高尿酸血症腎症の一家系例	腎臓内科	腎臓内科 田中亮二郎 東京女子医科大学附属膠 原病リウマチ痛風センター 谷口敦夫、山中麻里子、 山中寿、鎌谷直之	第38回	日本痛風尿酸代謝 学会	東京	2005年2月3-4日

演 題 名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
バルプロ酸ナトリウムによりファンコンニー症候群を呈した重症心身障害児の3例	腎臓内科	腎臓内科 富永 健、 片山珠美、田中亮二郎 神経内科 丸山あずさ、 相馬 収	第31回	近畿小児腎臓病研究会	大阪	2005年3月19日
当院における溶血性尿毒症症候群 (HUS) の臨床的検討	腎臓内科	兵庫県立こども病院腎臓 内科 田中亮二郎 神戸大学大学院医学系研 究科成育医学講座小児科 学 神岡一郎、藤田晃生、 野津寛大、松尾雅文 原泌尿器科 吉矢邦彦 国立成育医療センター腎 臓科 飯島一誠 和歌山県立医科大学小児 科 吉川徳茂	第108回	日本小児科学会学 術集会	東京	2005年4月22-24日
全国調査における典型的溶血性尿毒症症候群の治療の検討	腎臓内科	兵庫県立こども病院腎臓 内科 田中亮二郎 神戸大学大学院医学系研 究科成育医学講座小児科 学 神岡一郎、藤田晃生、 野津寛大、松尾雅文 原泌尿器科 吉矢邦彦 大阪府立母子保健総合医 療センター 里村憲一 国立成育医療センター腎 臓科 飯島一誠 和歌山県立医科大学小児 科 吉川徳茂	第40回	日本小児腎臓病学 会	仙台	2005年5月12-14日
膜性増殖性糸球体腎炎 (MPGN) 24例の長期予後に関する検討	腎臓内科	兵庫県立こども病院腎臓 内科 田中亮二郎 神戸大学大学院医学系研 究科成育医学講座小児科 学 藤田晃生、神岡一郎、 野津寛大、松尾雅文 原泌尿器科 吉矢邦彦 国立成育医療センター腎 臓科 飯島一誠 和歌山県立医科大学小児 科 吉川徳茂	第40回	日本小児腎臓病学 会	仙台	2005年5月12-14日



演 題 名	所 属 科	発 表 者 名	回、または、年度	学 会 名	開 催 都 市 名	開 催 年 月 日
Uromodulin 遺伝子の新たな変異が同定された家族性若年性高尿酸血症性腎症の1家系例	腎臓内科	兵庫県立こども病院腎臓内科 田中亮二郎 神戸大学大学院医学系研究科成育医学講座小児科学 神岡一郎、野津寛大 東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター 谷口敦夫	第40回	日本小児腎臓病学会	仙台	2005年5月12-14日
バルプロ酸ナトリウムによりファンコンニー症候群を呈した重症心身障害児の3例	腎臓内科	腎臓内科 富永 健、 片山珠美、田中亮二郎 神経内科 丸山あずさ、 相馬収	第40回	日本小児腎臓病学会	仙台	2005年5月12-14日
腎血管性高血圧の1例	腎臓内科	腎臓内科 千田麻里子、 片山珠美、田中亮二郎	第48回	兵庫県小児腎臓懇話会	神戸	2005年5月28日
当院における溶血性尿毒症症候群 (HUS) の臨床的検討	腎臓内科	兵庫県立こども病院腎臓内科 田中亮二郎 神戸大学大学院医学系研究科成育医学講座小児科学 神岡一郎、藤田晃生、 野津寛大、松尾雅文 原泌尿器科 吉矢邦彦 国立成育医療センター腎臓科 飯島一誠	第48回	日本腎臓学会	横浜	2005年6月23-25日
Uromodulin 遺伝子の新たな変異が同定された家族性若年性高尿酸血症性腎症の1家系例	腎臓内科	兵庫県立こども病院腎臓内科 田中亮二郎 片山珠美 神戸大学大学院医学系研究科成育医学講座小児科学 神岡一郎、野津寛大 東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター 谷口敦夫	第9回	兵庫県腎疾患治療懇話会	神戸	2005年7月15日
日常診療における小児の尿異常	腎臓内科	兵庫県立こども病院腎臓内科 田中亮二郎		神戸市須磨区医師会学術講演会	神戸	2005年7月28日
Hyponatremia-Hypertension Syndrome の1例	腎臓内科	腎臓内科 千田麻里子、 田中亮二郎	第3回	電解質セミナー シンプ	神戸	2005年8月5日
腎機能障害を呈した46XY, del (16) (q12.1q13) の1例	腎臓内科	腎臓内科 田中亮二郎、 片山珠美 神戸重症心身障害児教育センター 足立昌夫	第27回日本小児腎不全学会	第27回日本小児腎不全学会	神奈川	2005年9月29日

演題名	所属科	発表者名	回、または、年度	学会名	開催都市名	開催年月日
腎不全を呈した重症心身障害児に対する透析療法の1 経験例	腎臓内科	腎臓内科 千田真理子、 山内裕美、田中亮二郎、 片山珠美	第27回日本小児腎 不全学会	第27回日本小児腎 不全学会	神奈川	2005年9月29日
Long-term follow-up of atypical membranoprolife- rative glomerulonephritis (Atypical MPGN) : Are steroids indicated?	腎臓内科	兵庫県立こども病院腎臓 内科 Ryojiro Tanaka 神戸大学大学院医学研究 科成信医学講座小児科 Teruo Fujita, Ichiro Kamioka, Kandai Nozu, Masafumi Matsuo 国立成育医療センター腎 臓科 Kazumoto Iijima 和歌山県立医科大学小児 科 Koichi Nakanishi, Norishige Yoshikawa	38th	American Society of Nephrology, 38th Annual Meeting and Scientific Exposition	Philadelphia, USA	2005年11月8 -13日
腎不全を呈した重症心身障害児に対する透析療法の1 経験例	腎臓内科	腎臓内科 千田真理子、 田中亮二郎	第32回	近畿小児腎臓病研 究会	大阪	2005年11月19日
Molecular cloning and characterization of mouse AQP6: identification of new splicing variants	脳神経内科	Hiroaki Nagase, Johan Agren, Peter Agre, Masato Yasui		International Conference on Aquaporins	Brussels	2005年9月10-13日 in Genval
被虐待児への対応に関する院内・院外連携システムに 関する研究 - 兵庫県の結果 -	脳神経内科	永瀬裕朗		被虐待児の医学的 総合治療システム に関する研究報告 会	神戸市	2005年10月29日
	脳神経内科	永瀬裕朗		兵庫県看護協会 子ども虐待防止と 地域支援ネットワーク 作りプロジェクト、 虐待に関する 知識普及の勉強会	神戸市	2005年11月29日
こども病院における被虐待児への対応システムについ て	指導相談・地域医療 連携部	長岡美佐	平成17年度	兵庫県の被虐待児 に対応するための 病院内および地域 医療システムに関 する研究会	神戸市	2005年10月29日

# 診 療 統 計

## 1. 外来患者数

## (1) 年齢別・診療科別患者数

区分 診療科	未熟児	新生児	乳 児		幼 児		学 童		思春期	その他	新規患者		再診患者		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期			患者数	科別構成比(%)	患者数	科別構成比(%)	
総合診療科	1	26	183	207	377	246	148	96	63	56	1,403	14.0	2,227	3	
新生児内科	380	279	45	8	8	3	1	0	0	0	724	7.2	3,710	5	
脳神経内科	0	1	19	19	50	61	27	15	16	3	211	2.1	2,216	3	
循環器内科	0	70	161	58	94	83	70	32	29	15	612	6.1	8,406	11.2	
腎臓内科	0	0	3	5	9	46	26	25	50	23	187	1.9	2,104	2.8	
代謝内分泌科	0	9	19	8	31	57	30	29	21	28	232	2.3	4,141	5.5	
血液内科	0	1	14	11	18	16	22	14	10	7	113	1.1	3,422	4.5	
アレルギー内科	0	0	25	32	46	33	26	13	7	1	183	1.8	2,738	3.6	
卒 煙	0	0	0	0	1	3	3	0	0	2	9	0.1	0	0	
発達行動	0	0	0	1	3	25	13	7	5	0	54	3.0	42	0.1	
内科計	381	386	469	349	637	573	366	231	201	135	3,728	39.6	29,006	38.7	
一般外科	1	23	210	81	255	249	130	75	28	21	1,073	10.7	5,544	7.4	
心臓血管外科	0	1	2	1	4	6	2	2	2	3	23	0.2	3,428	4.6	
脳神経外科	0	16	53	36	59	47	29	16	11	6	273	2.7	2,577	3.4	
形成外科	0	44	179	79	108	98	43	26	18	11	606	6.0	3,156	4.2	
整形外科	0	34	185	71	171	126	89	67	78	23	844	8.4	4,059	5.4	
泌尿器科	0	25	171	101	191	191	114	71	26	5	895	8.8	4,946	6.6	
皮膚科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	
耳鼻咽喉科	0	4	65	45	97	179	98	28	12	14	542	5.4	3,003	4	
眼 科	0	8	84	82	190	276	161	59	25	12	897	8.9	10,162	13.6	
精神神経科	0	0	0	3	25	88	60	51	47	18	292	2.9	2,979	4	
歯 科	0	10	4	11	46	59	28	23	1	2	184	1.8	2,881	3.8	
産 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	681	681	6.8	3,190	4.3	
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	患者数	382	551	1,422	859	1,783	1,892	1,120	649	449	931	10,038	102.2	74,931	100.0
	区別構成比	3.8	5.5	14.2	8.5	17.8	18.8	11.1	6.5	4.5	9.3	100.0			

## (2) 地域別新規患者数

区 分	患者数	%
神 戸 市	5,017	50
阪 神 南	803	43.2
阪 神 北	552	
東 播 磨	1,318	
北 播 磨	490	
中 播 磨	363	
西 播 磨	237	
但 馬	148	
丹 波	161	
淡 路	262	
近 畿	363	
(再掲、大阪)	204	6.8
県 外 他	324	
合 計	10,038	100.0

## (3) 費用別新規患者数

区 分	件数	%
保 険	3,782	37.7
医 療 法	481	4.8
自 費	510	5.1
そ の 他	5,228	52.0
職 員	37	0.4
合 計	10,038	100

(注)保険と公費併用の場合、各々公費欄に計上した。

## 2. 診療科別退院患者

### (1) 診療科別退院患者

区分	退院総数		在院日数				転				帰				解		剖
	男	女	計	延	平均	治療	軽快	不変	事故	死	死亡 精率%	死亡 粗率%	48時間 その他	体数	%		
総合診療科	248	177	425	4,415	10		393	10		12	10 (2.4%)	10 (5.2%)					
新生児科	350	305	655	19,445	30		628	8		6	13 (2.0%)	13 (1.4%)	(1)	(5.3%)			
脳神経内科	31	46	77	3,943	51		69	5			3	3.9%					
循環器科	265	174	439	9,518	22		268	166			5	(1.1%)	(1.1%)				
腎臓内科	43	22	65	1,187	18		60	5									
代謝内分泌科	22	22	44	329	7		37	7									
血液腫瘍科	220	198	418	8,314	20		393	19			6	(1.8%)	(1.8%)				
アレルギー内科	42	44	86	1,136	13		77	9									
遺伝内科			0		0												
(内科小計)	(1,221)	(988)	(2,209)	(48,287)	(22)	(0)	(1,925)	(229)	(0)	(18)	(37)	(1.7%)	(2.5%)	(1)	(1.8%)		
一般外科	331	273	604	10,514	17		569	32			3	0.5%	0.5%				
心臓血管外科	114	106	220	5,282	24		208	8			4	1.8%	1.8%				
脳神経外科	99	93	192	4,423	23		186	5		1							
形成外科	126	106	232	1,882	8		231	1									
眼科	188	207	395	1,815	5		387	8									
整形外科	86	86	172	2,907	17		161	11									
泌尿器科	193	63	256	1,730	7		249	8									
耳鼻咽喉科	14	5	19	226	12		18										
皮膚科			0		0												
精神神経科			0		0												
歯科		2	2	5	3		2										
産科		525	525	10,097	19		449	76									
合計	2,372	2,454	4,826	87,168	18	0	4,385	378	0	19	44	0.9%	1.3%	(1)	(1.6%)		

剖 検 5 名      ここで死亡神大で剖検 1 名  
胎内死亡 2 名      院外で死亡ここで剖検 1 名

### (2) 地域別退院患者数

地域	患者数	%
東 灘	195	
灘	116	
中 央	112	
神 北	249	
兵 庫	97	
長 田	135	
戸 須 磨	393	
垂 水	452	
西	402	
(小計)	2,151	44.6%
阪 神 南	350	
阪 神 北	250	
東 播 磨	676	
北 播 磨	249	
中 播 磨	240	
西 播 磨	147	
但 馬	113	
丹 波	80	
淡 路	122	
(小計)	2,227	46.1%
大 阪	111	
他 近 畿	98	
県 外	239	
(小計)	448	9.3%
合 計	4,826	100.0%

(3) 住所別・診療科別退院診療録数 (H17/4/1 - H18/3/31)

診療科	神戸		阪神南		阪神北		東播磨		中播磨		西播磨		但馬		丹波		淡路		近畿圏		近畿圏外		不詳		総計	
	155 (143)	22 (20)	15 (15)	24 (22)	10 (9)	5 (4)	19 (3)	3 (3)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	4 (4)	7 (5)	4 (4)	4 (4)	3 (3)	1 (1)	4 (4)	7 (5)	4 (4)	5 (5)	4 (4)	21 (3)	4 (2)	1 (1)	268 (247)
総合診療科	100 (96)	8 (8)	10 (10)	28 (25)	2 (2)	5 (5)	8 (1)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	5 (5)	4 (4)	4 (4)	1 (1)	178 (169)		
救急医療室	12 (10)	9 (7)	2 (1)	9 (6)	4 (3)	2 (2)	5 (5)	3 (2)	4 (3)	3 (2)	2 (2)	3 (2)	3 (2)	5 (5)	3 (2)	3 (2)	3 (2)	3 (2)	3 (2)			21 (3)			67 (39)	
アレルギー科	162 (50)	14 (5)	32 (9)	45 (16)	45 (14)	32 (9)	28 (4)	9 (5)	8 (4)	8 (4)	8 (4)	8 (4)	8 (4)	8 (4)	8 (4)	8 (4)	8 (4)	8 (4)	8 (4)	12 (4)	4 (2)	4 (2)			400 (128)	
血液腫瘍科	177 (141)	25 (15)	19 (14)	70 (57)	41 (36)	10 (10)	32 (12)	9 (8)	9 (9)	9 (9)	9 (9)	9 (9)	9 (9)	9 (9)	9 (9)	9 (9)	9 (9)	9 (9)	9 (9)	13 (12)	17 (13)	17 (13)			434 (351)	
循環器科	58 (37)	6 (6)	4 (3)	15 (11)		2 (2)	2 (1)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	2 (1)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	2 (2)			1 (1)			91 (65)	
脳神経内科	29 (23)	3 (2)	3 (2)	14 (9)	4 (2)	1 (1)	9 (1)	3 (2)	3 (2)	3 (2)	3 (2)	3 (2)	3 (2)	8 (6)	3 (2)	3 (2)	3 (2)	3 (2)	3 (2)	3 (1)	3 (1)				78 (57)	
腎臓内科	21 (19)	2 (2)	4 (4)	9 (9)	1 (1)	4 (4)	1 (1)	3 (2)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)				48 (45)	
代謝内分泌科	388 (350)	73 (71)	31 (28)	86 (67)	4 (4)	4 (4)	19 (2)	5 (5)	5 (5)	5 (5)	5 (5)	5 (5)	5 (5)	11 (11)	11 (11)	11 (11)	11 (11)	11 (11)	11 (11)	33 (28)	22 (22)	22 (22)	2 (2)	680 (612)		
新生児科	252 (163)	44 (38)	36 (22)	68 (46)	33 (23)	20 (13)	33 (15)	11 (7)	17 (14)	17 (14)	17 (14)	17 (14)	17 (14)	17 (14)	17 (14)	17 (14)	17 (14)	17 (14)	17 (14)	45 (27)	32 (30)	32 (30)		608 (422)		
小児外科	95 (89)	11 (10)	10 (10)	39 (37)	31 (28)	7 (6)	17 (8)	4 (4)	4 (4)	4 (4)	4 (4)	4 (4)	4 (4)	7 (7)	4 (4)	4 (4)	4 (4)	4 (4)	4 (4)	4 (4)	4 (4)	11 (10)			244 (227)	
心臓血管外科	75 (55)	15 (9)	7 (7)	25 (20)	12 (12)	10 (8)	15 (5)	5 (5)	5 (5)	5 (5)	5 (5)	5 (5)	5 (5)	4 (3)	5 (5)	5 (5)	5 (5)	5 (5)	5 (5)	6 (5)	11 (11)				185 (144)	
脳神経外科	70 (55)	19 (13)	11 (8)	36 (32)	6 (5)	5 (5)	4 (4)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	6 (6)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	8 (7)	8 (7)	8 (7)			178 (143)	
整形外科	82 (78)	20 (16)	15 (12)	34 (31)	7 (7)	9 (7)	19 (2)	6 (6)	6 (6)	6 (6)	6 (6)	6 (6)	6 (6)	10 (10)	6 (6)	6 (6)	6 (6)	6 (6)	6 (6)	5 (4)	12 (10)	12 (10)			221 (199)	
形成外科	64 (60)	20 (19)	11 (11)	30 (27)	17 (16)	9 (8)	8 (8)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	4 (3)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	34 (31)	48 (42)	48 (42)			255 (234)	
泌尿器科	159 (153)	27 (24)	24 (22)	61 (59)	28 (22)	20 (20)	33 (7)	6 (6)	6 (6)	6 (6)	6 (6)	6 (6)	6 (6)	15 (14)	6 (6)	6 (6)	6 (6)	6 (6)	6 (6)	13 (12)	19 (19)	19 (19)			412 (391)	
眼科	8 (8)	2 (2)		2 (2)			2 (2)								1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	1 (1)			21 (21)	
耳鼻咽喉科		1 (1)												1 (1)												2 (2)
小児歯科	320 (274)	48 (43)	21 (21)	78 (65)	14 (14)	4 (4)	19 (5)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	12 (9)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	15 (15)	22 (19)	22 (19)	4 (4)	564 (494)		
産科	2227 (1804)	369 (311)	255 (199)	673 (541)	259 (198)	149 (112)	269 (76)	79 (67)	117 (102)	204 (163)	240 (197)	7 (7)	4934 (3990)													

括弧内は、同一診療科内での退院患者の実数  
産科新生児108例は除く。

(4) 診療科別・在院期間別退院診療録数 (H17/4/1 - H18/3/31)

診療科	総計	1-8日	9-15日	16-22日	23-31日	32-61日	62-91日	3-6月	6月-1年	1-2年	2年-	延べ在院日数	平均日数
総合診療科	268	197	46	7	7	4	5		1		1	3,517	13.1
救急医療室	178	157	9	5	1	2	1	2	1			975	5.5
アレルギー科	67	47	10		3	5		1	1			955	14.3
血液腫瘍科	400	178	22	51	66	60	19	4				8,003	20.0
循環器科	434	315	30	19	8	32	7	17	4	2		8,598	19.8
脳神経内科	91	40	20	8	10	5	5			2	1	3,344	36.7
腎臓内科	78	44	16	4	4	7	2		1			1,326	17.0
代謝内分泌科	48	37	5	1	3	2						452	9.4
新生児科	680	308	94	76	53	80	34	31	1		3	20,115	29.6
小児外科	608	406	106	45	17	19	7	2	2	1	3	9,732	16.0
心臓血管外科	244	18	94	49	37	36	7	2	1			5,863	24.0
脳神経外科	185	54	83	20	10	11	2	3	1	1		3,727	20.1
整形外科	178	102	15	13	23	20	5					2,801	15.7
形成外科	221	133	68	15	2	2	1					1,861	8.4
泌尿器科	255	197	55		2		1					1,696	6.7
眼科	412	400	12									1,909	4.6
耳鼻咽喉科	21	5	14	1		1						286	13.6
小児歯科	2	2										5	2.5
産科	564	238	120	44	42	83	32	5				11,083	19.7
総計	4934	2878	819	358	288	369	128	67	13	6	8	86,248	17.5

産科新生児108例は除く。

(5) 疾病別・退院月別・性別退院診療録数 (H17/4/1 - H18/3/31)

疾病分類名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	男	女	総計
I 感染症	4	4	2	4	4	10	13	10	4	8	9	6	40	38	78
II 新生物	44	23	37	32	28	21	25	29	38	33	30	50	205	185	390
III 血液疾患	10	11	6	7	9	10	12	9	7	5	6	12	67	37	104
IV 内分泌代謝疾患	7	8	7	6	7	12	6	5	3	4	6	6	38	39	77
V 精神行動障害		1			1	2	1	3	1	3	1	4	7	10	17
VI 神経系疾患	7	10	14	7	11	8	7	12	7	11	16	9	69	50	119
VII 眼疾患	33	25	32	30	47	22	26	29	31	23	30	32	187	173	360
VIII 耳鼻疾患			1				1		1	2		2	6	1	7
IX 循環器系疾患	8	10	3	2	10	8	11	9	9	11	13	13	55	52	107
X 呼吸器系疾患	20	18	19	12	11	22	23	22	18	20	25	18	135	93	228
XI 消化器系疾患	16	16	24	24	21	29	22	23	22	20	14	25	147	109	256
XII 皮膚疾患	2	4	1	2	5	2	3	2	2	5	4	3	17	18	35
XIII 筋骨格系疾患	12	10	15	16	23	10	11	11	17	14	8	11	76	82	158
XIV 尿路性器系疾患	8	10	11	8	10	5	6	3	8	5	5	7	49	37	86
XV 妊娠分娩産褥	39	27	34	38	40	26	27	32	33	38	32	33	1	398	399
XVI 周産期に発生した病態	49	49	53	55	60	45	46	41	60	52	50	59	274	345	619
XVII 先天奇形	135	126	117	122	151	117	107	118	152	97	121	132	837	658	1495
XVIII 症状、徴候、異常検査所見など	9	10	9	7	10	11	12	15	8	9	2	8	62	48	110
XIX 損傷、中毒、その他の外因の影響	24	18	19	19	16	12	19	22	15	10	12	13	118	81	199
XX 傷病、死亡の外因	1													1	1
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因など	2	6	8	9	10	7	14	9	6	8	8	2	24	65	89
総計	430	386	412	400	474	379	392	404	442	378	392	445	2414	2520	4934

産科新生児108例を除く



## (6) 年齢別・性別・診療科別退院診療録数 (H17/4/1 - H18/3/31)

診療科	0~14日		15日~28日		29日~3月		3月~1歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5~9歳		10~14歳		15~19歳		20~24歳		25~29歳		30~34歳		35歳以上		男		女		総計						
総合診療科	1	(1)	2	(2)	12	(12)	57	(52)	45	(42)	27	(27)	33	(27)	14	(12)	58	(54)	19	(18)												153	(144)		115	(103)	268	(247)			
救急医療室			5	(5)	12	(12)	34	(33)	26	(25)	14	(14)	13	(12)	11	(10)	40	(36)	20	(19)	3	(3)									98	(94)		80	(75)	178	(169)				
アレルギー科							6	(6)	3	(3)	2	(2)	4	(4)	10	(5)	15	(10)	19	(7)	8	(2)								33	(22)		34	(17)	67	(39)					
血液腫瘍科							13	(7)	31	(15)	47	(14)	42	(11)	18	(8)	117	(34)	109	(26)	15	(10)	7	(2)			1	(1)		225	(70)		175	(58)	400	(128)					
循環器科	1	(1)	3	(3)	34	(31)	86	(64)	94	(73)	59	(47)	24	(18)	14	(12)	54	(50)	35	(29)	21	(16)	7	(5)			2	(2)		257	(203)		177	(148)	434	(351)					
脳神経内科					1	(1)	6	(6)	16	(9)	8	(6)	8	(5)	5	(4)	19	(15)	24	(17)	4	(2)								43	(33)		48	(32)	91	(65)					
腎臓内科					3	(3)	1		2	(2)	2	(2)	2	(2)	3	(2)	28	(21)	24	(17)	13	(8)							47	(35)		31	(22)	78	(57)						
代謝内分泌科					3	(2)	2	(1)			1	(1)	8	(8)	4	(4)	15	(15)	12	(11)	3	(3)							27	(26)		21	(19)	48	(45)						
新生児科	304	(303)	116	(115)	126	(119)	69	(43)	34	(13)	14	(8)	8	(5)	6	(3)	3	(3)											365	(314)		315	(298)	680	(612)						
小児外科	8	(8)	5	(5)	60	(54)	108	(80)	66	(39)	59	(29)	35	(28)	25	(16)	132	(91)	54	(43)	52	(25)	3	(3)	1	(1)			335	(238)		273	(184)	608	(422)						
心臓血管外科			2	(2)	4	(4)	45	(44)	56	(52)	39	(34)	18	(16)	11	(11)	38	(36)	16	(15)	5	(5)	7	(6)	3	(2)			124	(115)		120	(112)	244	(227)						
脳神経外科			7	(7)	11	(11)	47	(41)	21	(16)	15	(12)	14	(12)	11	(8)	26	(19)	14	(11)	15	(4)	1	(1)	3	(2)			86	(71)		99	(73)	185	(144)						
整形外科							19	(17)	29	(18)	14	(10)	15	(13)	16	(11)	40	(34)	38	(35)	6	(4)			1	(1)			85	(69)		93	(74)	178	(143)						
形成外科					14	(11)	72	(64)	39	(33)	9	(8)	7	(7)	11	(10)	35	(33)	22	(21)	10	(10)	1	(1)	1	(1)			118	(102)		103	(97)	221	(199)						
泌尿器科			1	(1)	5	(5)	57	(55)	50	(45)	38	(30)	19	(17)	16	(15)	48	(45)	18	(18)	3	(3)						193	(177)		62	(57)	255	(234)							
眼科			1	(1)	6	(5)	15	(12)	30	(24)	23	(22)	29	(27)	34	(32)	202	(198)	57	(55)	15	(15)						209	(194)		203	(197)	412	(391)							
耳鼻咽喉科								1	(1)	7	(7)	2	(2)	5	(5)	5	(5)	1	(1)									16	(16)		5	(5)	21	(21)							
小児歯科															1	(1)	1	(1)														2	(2)	2	(2)						
産科																																		564	(494)	564	(494)				
総計	314	(313)	142	(141)	291	(270)	637	(525)	543	(410)	378	(273)	281	(214)	215	(169)	876	(700)	482	(343)	178	(115)	73	(60)	132	(119)	215	(183)	177	(155)	2414	(1923)	2520	(2067)	4934	(3990)					

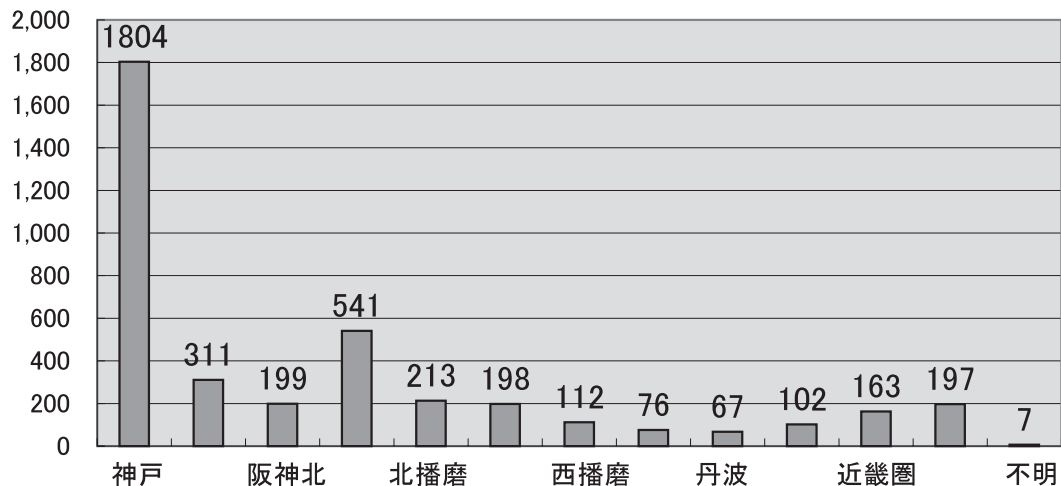
括弧内は、同一診療科内での退院患者の実数  
産科新生児108例は除く。

(7) 疾病別・診療科別退院診療録数 (H17/4/1 - H18/3/31)

疾病分類名	総合診療科		救急医療室		アレルギー科	血液腫瘍科	循環器科	脳神経内科	腎臓内科	代謝内分泌科	新生児科	小児外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	小児歯科	産科	総計
I 感染症	25 (21)	19 (19)	2 (2)	3	4 (3)	1 (1)	1 (1)	5 (3)	4 (2)	11 (8)											3 (3)	78 (63)
II 新生物	3 (3)	3 (3)		280 (76)		1 (1)	1 (1)	6 (6)	33 (25)	4 (4)	24 (19)	2 (2)	4 (4)	1 (1)					1 (1)	4 (4)	4 (4)	390 (170)
III 血液疾患	6 (6)	4 (3)	2 (2)	73 (36)	1 (1)			2 (2)	4 (4)	1 (1)											6 (3)	104 (61)
IV 内分泌代謝疾患	6 (4)	1 (1)	1	6 (1)	1	4 (3)		5 (3)	3 (2)	6 (5)												77 (60)
V 精神行動障害	3 (2)	1 (1)				13 (10)																17 (13)
VI 神経系疾患	15 (14)	16 (12)		3 (1)		41 (31)		16 (11)	8 (6)	13 (11)											2 (2)	119 (93)
VII 眼疾患	2 (2)	1 (1)	1 (1)			1 (1)		7 (3)		2				1 (1)	2 (2)		343 (332)					360 (345)
VIII 耳鼻疾患	1 (1)			2											2 (2)				2 (2)			7 (5)
IX 循環器系疾患	3 (2)	7 (7)		1 (1)	29 (22)	3 (3)		11 (6)	10 (6)	18 (10)	17 (9)						3 (3)				5 (4)	107 (78)
X 呼吸器系疾患	71 (64)	27 (27)	16 (8)	1	9 (7)	11 (6)	3 (3)	42 (15)	30 (18)	1	1 (1)	1 (1)	1 (1)				1 (1)	10 (10)		4 (4)	228 (166)	
XI 消化器系疾患	21 (18)	8 (8)	8 (7)	5 (1)	1	4 (1)	5 (3)	1 (1)	3 (2)	192 (161)	1 (1)						2 (2)			2 (1)	256 (209)	
XII 皮膚疾患	3 (3)		4 (3)	1 (1)	1 (1)	1 (1)		1 (1)	1 (1)					4 (4)	2 (2)	17 (14)						35 (31)
XIII 筋骨格系疾患	15 (15)	2 (2)	25 (14)	1 (1)	21 (18)		6 (2)		1 (1)	2 (1)				75 (59)	8 (7)	1 (1)					1 (1)	159 (123)
XIV 泌尿器系疾患	4 (4)	4 (4)				1 (1)	42 (32)	2 (2)	2 (2)					2 (2)	1 (1)	25 (23)				3 (3)	86 (74)	
XV 妊娠分娩産褥								3 (3)													396 (347)	401 (350)
XVI 周産期に発生した 病態	3 (3)	3 (3)			5 (4)	2 (2)		504 (496)	20 (16)					1		4 (4)	3 (3)	1 (1)			73 (62)	619 (594)
XVII 先天奇形	18 (17)	4 (3)		1 (1)	342 (279)	6 (3)	6 (4)	70 (57)	268 (156)	205 (88)	76 (60)	71 (56)	133 (123)	210 (192)	62 (52)	2 (2)	1 (1)		1 (1)		20 (17)	1494 (1216)
XVIII 症状、徴候、 異常検査所見など	20 (20)	28 (25)		10 (2)	1	1	12 (10)	2 (1)	17 (9)	1 (1)	3 (3)				9 (9)	1 (1)					3 (2)	110 (85)
XIX 摂食・中毒、耳 の他の外因の影響	47 (47)	49 (49)	8 (2)	4 (1)	1 (1)	1 (1)		9 (7)	5 (4)	25 (21)	42 (31)	6 (6)										199 (173)
XX 傷病、死亡の外因			1 (1)																			1 (1)
XXI 健康状態に影響 を及ぼす要因など	2 (1)			9 (6)	18 (15)			3 (3)	6 (6)	9 (2)											42 (41)	87 (80)
総計	268 (247)	178 (169)	67 (39)	400 (128)	434 (351)	91 (65)	78 (57)	48 (45)	680 (612)	608 (422)	244 (106)	185 (144)	178 (143)	221 (199)	255 (234)	412 (391)	21 (21)	2 (1)	564 (494)	4934 (3990)		

内は、同一診療科内での退院患者の実数  
産科新生児108例を除く

(8) 住所地別退院患者数 (H17.4.1 - H18.3.31) 総数 3,990例



### 3. 死亡病名一覧

病名	新患計	未熟児	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	その他
				前期	後期	前期	後期	前期	後期		
ユーニング肉腫	2					1					1
脳腫瘍	1					1					
肺炎	4			2	1		1				
早産児、致死性不整脈	3	3									
先天性心疾患	1					1					
全前脳胞症、急性肺炎	0										
早産児、呼吸不全	2	2									
体肺側副血管、胃出血	1								1		
低酸素脳症	1					1					
急性巨核芽球性白血病	1					1					
肺動脈閉鎖症	2		1				1				
若年性関節リウマチ	1						1				
急性心不全	3	1	1								1
脳性マヒ肺炎	2						1				1
肺高血圧症	1				1						
乳児突然死症候群	2					2					
脳、肺挫傷	2							1			1
脳腫瘍	1					1					
重症肝不全	1										1
先天性水頭症	2					2					
早産児、慢性心不全	2	1			1						
ダウン症、急性肺炎	1					1					
敗血症性ショック	3				2						1
心肺停止	7				1	2	2	1			1
超早産児、肺低形成	2	2									
消化管出血	1					1					
硬膜下出血	1						1				
新生児遷延性肺高血圧	1		1								
血球貧食リンパ組織球症	1						1				
重症筋無力症、窒息	1										1
急性リンパ性白血病	1									1	
胃癌、転移性肝腫瘍	1										1
急性循環不全	1				1						
低拍出血性ショック	1		1								
胆道閉鎖、肝不全	1										1
腸捻転	1				1						
高カリウム血症	1						1				
大動脈縮窄症	1						1				
肝不全	1	1									
早産児、敗血症	1	1									
合計	63	11	4	9	8	13	5	1	1	1	10

## 4. 総合診療科

病名	男	女	計	実人数	在院日数		乳児		幼児		学童		思春期	その他	転帰				
					延	平均	前期	後期	前期	後期	前期	後期			治療	軽快	不変	死亡	
																		48H	その他
てんかん	18	16	34	34	177	5.2		4	7	10	3	7	2	1	34				
喉頭軟化症		1	1	1	3	3.0		1							1				
薬物中毒症	3	1	4	4	8	2.0			2	1		1			4				
気管支喘息	28	20	48	48	290	6.0	7	8	22	5	4	1	1		47	1			
熱性痙攣	16	13	29	29	119	4.1		3	14	8	2	2			28	1			
脳腫瘍	1	2	3	3	95	31.7		1	1			1			1			2	
皮膚筋炎		1	1	1	8	8.0					1				1				
イレウス	1		1	1	4	4.0			1						1				
蕁麻疹	1	1	2	2	3	1.5				2					2				
急性胃腸炎	22	21	43	43	274	6.4	8	5	6	10	7	5	2		43				
尿路感染	4	2	6	6	45	7.5	2	1	2	1					6				
川崎病	11	1	12	12	111	9.3	4	2	6						12				
咽頭炎	8	6	14	14	64	4.6	4	4	3	2	1				13	1			
腸重積	5	7	12	12	28	2.3	1	4	5	1	1				12				
多形滲出性紅斑		1	1	1	11	11.0	1								1				
頭部打撲	20	11	31	31	93	3.0	7	2	7	7	3	3	2		31				
脱水症	2	2	4	4	25	6.3	1		1	2					4				
インフルエンザ	13	3	16	16	86	5.4	1	2	4	4	3	1	1		16				
左硬膜下血腫	1		1	1	3	3.0		1								1			
アトピー性皮膚炎		2	2	2	17	8.5	1			1					2				
異物誤嚥	7	5	12	12	26	2.2		2	7	1	1	1			12				
全身性若年性リウマチ	2	1	3	3	155	51.7			1	2					2			1	
クループ症	5	3	8	8	22	2.8	1	1	4	1				1	8				
肺炎	14	7	21	21	267	12.7	3	4	4	5	2		1	2	18		2	1	
右膝異物	1		1	1	2	2.0					1				1				
硬膜下腫瘍	1		1	1	12	12.0	1								1				
肝不全	1		1	1	21	21.0		1							1				
脾損傷	3		3	3	18	6.0		1				1	1		2	1			
股関節炎	3	1	4	4	28	7.0		1	1	1		1			4				
気管軟化症		1	1	1	16	16.0			1						1				
化膿性リンパ腫		1	1	1	4	4.0				1					1				
全身打撲	3	1	4	4	14	3.5	1		1		2				4				
発熱	4	2	6	6	34	5.7	2		1	2	1				6				
心外膜炎		1	1	1	4	4.0						1							
交通外傷	7	4	11	11	76	6.9					7	2	2		11			1	
虫垂炎	1		1	1	2	2.0						1			1				
メッケル憩室	1		1	1	9	9.0					1				1				
骨折	7	2	9	9	33	3.7	2	1		5		1			9				
溺水	2	2	4	4	18	4.5	1			2	1				4				
乳児突然死候群	1	1	2	2	2	1.0	1	1										2	
脳挫傷、肺挫傷		1	1	1	2	2.0								1				1	
上室性発作性頻拍	1	1	2	2	5	2.5	1			1					2				
不明熱	3	1	4	4	23	5.7	1		1		1		1		4				
敗血性ショック	2		2	2	28	14.0	1							1			1	1	
肝損傷		1	1	1	3	3.0				1					1				
心肺停止	1	4	5	5	75	15.0	3		1		1						4	1	
熱傷	4	3	7	7	33	5.0	2	1	3	1					7				

病名	男	女	計	実人数	在院日数		乳児		幼児		学童		思春期	その他	転帰				
					延	平均	前期	後期	前期	後期	前期	後期			治療	軽快	不変	死亡	
																		48H	その他
吐血	1	2	3	3	18	6.0	1		1				1			3			
急性脳症	5		5	5	162	32.4			1	2	1	1				4	1		
百日咳		1	1	1	30	30.0			1							1			
腎盂腎炎	1	2	3	3	33	11.0	2			1						3			
右眼周囲峰窩織炎	1		1	1	4	4.0			1							1			
化膿性髄膜炎	1		1	1	43	43.0	1									1			
低体温	1		1	1	1	1.0				1						1			
胃食道逆流	1	1	2	2	18	9.0	1		1							2			
動物咬傷	1	1	2	2	7	3.5			1		1					2			
陰嚢外傷	1		1	1	2	2.0							1			1			
代謝性アシドーシス、高カリウム血症	1		1	1	2	2.0			1									1	
哺乳上の問題		1	1	1	1	1.0	1									1			
窒息	1	1	2	2	35	17.5				1				1				1	1
急性白血病		1	1	1	150	150.0								1					1
上腕切傷		1	1	1	2	2.0				1						1			
帽状腱膜下出血		1	1	1	5	5.0		1								1			
縦隔気腫	1		1	1	5	5.0							1			1			
卵巣奇形腫		1	1	1	9	9.0							1			1			
呼吸障害		3	3	3	88	29.3	1					1	1			3			
左上顎血管内皮腫		1	1	1	8	8.0				1						1			
腹部膨満		1	1	1	3	3.0	1									1			
マロリーワイス症候群		1	1	1	5	5.0						1				1			
血小板減少紫斑病	2	1	3	3	22	7.3				2	1					3			
腹部外傷		1	1	1	2	2.0	1									1			
水痘	1		1	1	7	7.0						1				1			
脳性マヒ		1	1	1	1,104	1104.0					1					1			
一過性意識障害		1	1	1	4	4.0					1					1			
慢性肉芽腫瘍、呼吸不全	1		1	1	249	249.0		1											1
	248	177	425	425	4,415	10.4	66	53	113	86	48	33	18	8		397	6	12	10

## 5. 救急医療室

### 1. 診療活動

2002年10月15日に県下における小児3次救急の拠点として救急医療室が開設されて以来約3年が経過した。専任医師5名と兼任医師5名で対応しているが、救急医の取扱患者数が年間2500人を越え、年々増加している。特に、最重症に分類したいわゆる救命救急に相当する患者数は昨年の103件から137件とさらに増加し、死亡例も8件から20件と著明に増加し、本来の役割を果たす方向に向かっていていると考えられる。一方で、入院中に重症化し、当該病棟での管理が困難なために救急医療室へ転棟せざるを得ないことがあり、院内の内科的ICUの役割も果たしている。その反面、救急車を使って当院を受診するケースが増加しており、外来対応で帰っていただく症例も多い。さらに電話相談のケースも多く、救急担当医が電話で対応し、受診せずに済む場合も多い事が解る。ただ、その対応は極めて慎重に行っており、受診していただける体制にあることを必ず話し、受診を勧める事を前提にしている。なお、平成16年11月21日より県の事業として県下全域を対象とした小児救急医療電話相談事業（いわゆる#8000）が開始され、専任の看護師による対応に加えて救急医療室のスタッフもバックアップとして協力する体制が作られた。本事業も次第に周知されるとともに相談件数が著増し、平成17年12月で1万件を越えた。

Pediatric Advanced Life Support(PALS)、すなわち小児における救命処置の世界標準のプロトコールを教育するプログラムであるが、本年は当院をトレーニングサイトとして2回開催することができた。このプログラムは米国では小児科の研修に入るに際して必ず習得しておくプログラムとなっているものであり、今後日本の小児医療にも不可欠なものになると思われる。当院でもPALSを積極的に取り入れて、院内における救急蘇生プログラムを標準化すべきと考えている。来年度は大阪にトレーニングサイトを移して、当院のスタッフがインストラクターとして出務し、近畿圏におけるPALSの普及に貢献したいと考えている。

本院の特徴的なことは、小児救急は内科救急が大半とされていることと大きく異なり、外科的な対応が必要な症例が20%以上を占めることである。院内各科の協力を得て本院の救急が成り立っていることは、協力各科の一覧をみれば一目瞭然である。

現在の問題点としては、外来部門を併設しておらず、初療室で外来の対応をせざるを得ないことである。特に感染症患者が多いことを考えると、入院患者への感染の配慮が全くなされない今のシステムは極めて問題点が多い。それらを解決するために平成19年度の開設に向けた小児救急医療センター（仮称）の建設が決定し、その設計が検討されている。現在救急患者のバックベッドがないために入院依頼を断らざるを得ないケースが多くなっているが、救急センターの開設がこの問題も解決するひとつの手段になればと期待している。とはいえ現在も病院全体のベッド稼働率が高く、極めて困難ではあるもののバックベッドの確保に病院全体として協力いただいているが、今後はよりスムーズな病床運用ができるような体制づくりが不可欠である。

今年度は新たに専攻医を採用し、スーパーローテート2年目の研修医を受け入れているが、たゆまぬ診療の質の向上へ向けたスタッフ教育や卒前・卒後教育に対しても積極的に取り組んでいきたいと考えている。

## 2. スタッフ

救急医療室専任：上谷良行

長谷川大一郎

尾崎佳代

丸山あずさ

片山珠美（育児休暇中）

兼 任：三好麻里（室長・免疫アレルギー科）

田中亮二郎（腎臓内科）

永瀬裕朗（脳神経内科）

川崎圭一郎（血液腫瘍科）

黒澤茶茶（免疫アレルギー科）

専攻医：富永健太、笠井和子、森雅樹、細川悠紀、小林真之、福島雅子

研修医：小川禎治、早島禎幸、山内裕美、上田陽子、松本空

小児外科は22時まで1名居残り、以後 on call で、脳神経外科、整形外科、形成外科、放射線科は on call で back up 体制をとっている。

## 3. 診療統計

### 1) 連絡方法別診療内容

			診 療 内 容				小 計	計
			入 院		帰 宅	電話相談のみ		
			最重症	重 症				
連絡方法	救急担当医が電話対応	患者から	12	164	747(3***)	767	1690 (67.1%)	2411 (95.7%)
		医師から	75	163	74	81	393 (15.6%)	
		救急隊から	34	67	1501	77	328 (13.0%)	
	直接来院		1	14	79	0	94 (3.7%)	94 (3.7%)
	院内他病棟から転棟		15**	0	0	0	15 (0.6%)	15 (0.6%)
小 計			137 (5.4%)	408 (16.2%)	1050 (41.7%)	925 (36.7%)	2520 (100%)	
計			545 (21.6%)		1050 (41.7%)	925 (36.7%)		

\* 医師から・救急隊から 電話相談のみ；満床のため依頼を断った件数

\*\* 院内他病棟から転棟 入院患者が重症化し該当病棟での管理が困難となり救急医療室に転棟となった件数

\*\*\*診察の結果入院が必要であったが満床のため他院を紹介した件数

### 2) 来院患者1595例の統計

緊急度別分類（PALS 緊急度基準による）

分 類		転 帰		計
緊 急		入 院		
緊 急	474 (28.2%)	入 院	374	1595 (100%)
		帰 宅	100	
非 緊 急	1205 (71.8%)	入 院	171	
		帰 宅	950	

転帰別割合

入院最重症 137例 (8.6%)  
 入院重症 408例 (25.6%)  
 外来帰宅 1050例 (65.8%)

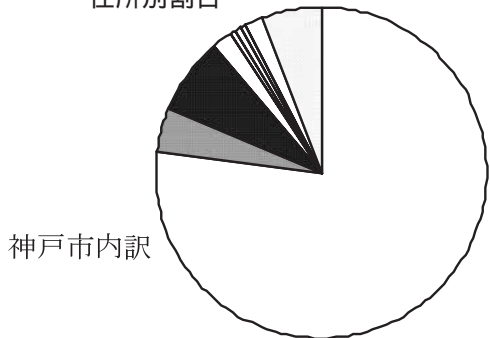
事故・疾病別割合

事故 364例 (来院患者の22.8%) うち最重症例37例 (事故患者の10.2%)  
 疾病 1231例 (来院患者の77.2%) うち最重症例100例 (疾病患者の8.1%)

来院方法別割合

自家用車その他家族で 1148例 (72.0%)  
 救急車で 423例 (26.6%)  
 うち Drs car 4例 (災害医療センター2例 中央市民病院2例)  
 ヘリで 8例 (0.5%)  
 院内他病棟から転棟 15例 (0.9%)

住所別割合



- 神戸市
- 阪神
- 東播
- 西播
- 丹波
- 但馬
- 淡路
- 県外
- 不明

神戸市内訳

東灘区33 灘区11 中央区16 兵庫区11 長田区63  
 須磨区379 垂水区243 西区133 北区54 不明102

阪神内訳

西宮31 尼崎20 三田19 芦屋10 伊丹9 宝塚6  
 川西3 川辺郡1 不明4

東播内訳

明石89 加古川30 三木20 小野17 高砂16  
 加古郡6 西脇3 加西3

西播内訳

姫路31 その他11

県外 38 不明 143

3) 最重症患者137例内訳

1. 死亡例 20例

年齢	病態	基礎疾患他	日数	初再	来院方法
2ヶ月	CPA	不明	1	初診	救急隊
3ヶ月	CPA	窒息	71	初診	救急隊
8ヶ月	CPA	虐待	1	初診	救急隊
8ヶ月	CPA	高アンモニア血症	1	初診	救急隊
11ヶ月	CPA	不明	1	初診	Drs car(災害)
1歳	CPA	肺挫傷?	1	初診	救急隊
1歳	CPA	窒息	1	初診	救急隊
1歳	CPA	心奇形術後	1	再診	患者から連絡
7歳	CPA	肺動脈閉鎖	1	初診	救急隊
15歳	CPA	腎不全?	1	再診	医療機関から
17歳	CPA	重症筋無力症・窒息	1	初診	救急隊
22歳	CPA	二分脊椎	1	再診	救急隊
8歳	脳挫傷肺挫傷	多発交通外傷	18	初診	救急隊
16歳	脳挫傷	転落(自殺企図)	2	初診	医療機関から
0ヶ月	真菌性肺炎	慢性肉芽腫症	306	初診	医療機関から
2ヶ月	敗血症	髄膜炎菌	26	初診	医療機関から
5ヶ月	脳腫瘍	脳腫瘍	12	初診	医療機関から
3歳	間質性肺炎	全身型 JIA	47	再診	他病棟から
14歳	間質性肺炎	白血病	34	再診	他病棟から
20歳	肺炎	脳性麻痺	2	再診	医療機関から



## 2. 治療内容 (含重複)

手術症例 67例 (緊急手術32例 緊急気管支鏡 5例 待機手術30例)  
人工呼吸管理 60例  
脳低体温療法 12例  
透析療法 5例 (血液浄化療法 3例 腹膜透析療法 2例)

手術症例62例 内訳

緊急手術37例

一般外科17例; 腸重積 5例 消化管穿孔 2例 イレウス 2例 虫垂炎 2例  
卵巣腫瘍捻転 1例 気道異物 4例 気切後呼吸不全 1例

脳外科12例; 硬膜下血腫 6例 (事故 4例、胆道閉鎖 2例) 脳腫瘍 4例  
脳内出血 1例 硬膜外出血 1例

整形外科 4例; 大腿骨骨折 3例 下腿骨骨折 1例

形成外科 2例; 熱傷80% 1例 顔面挫傷 1例

泌尿器科 2例; 睾丸裂傷 1例 精索捻転 1例

待機手術30例

一般外科13例; 卵巣腫瘍 2例 腎腫瘍 2例 鼠径ヘルニア 2例 胆道閉鎖 2例  
血管輪 1例 胆道拡張症 1例 虫垂炎 1例 横隔膜ヘルニア 1例  
消化管異物 1例

脳外科 8例; 脳腫瘍 5例 化膿性髄膜炎 1例 硬膜下血腫 1例 陥没骨折 1例

形成外科 5例; 熱傷後皮膚移植 3例 下顎骨骨折 2例

整形外科 4例; 上腕骨骨折 3例 化膿性関節炎 1例

人工呼吸管理 60例

CPA 蘇生後	12例	気道異物	1例	重症熱傷	1例
急性脳症	9例	気管軟化症	1例	敗血症	1例
脳性麻痺・呼吸不全	8例	気道熱傷	1例	腎不全	1例
てんかん性脳症	5例	喉頭蓋炎	1例		
脳挫傷	3例	肺高血圧症	1例		
溺水	3例	消化管出血	1例		
間質性肺炎	3例	硬膜下血腫	1例		
細気管支炎	3例	脳腫瘍	1例		
心筋炎	2例	化膿性髄膜炎	1例		

## 脳低温療法 12例

年 齢	臨床診断	そ の 原 因	予 後
1 歳	急性脳症	インフルエンザ A	軽 快
1 歳	急性脳症	インフルエンザ A	軽 快
1 歳	急性脳症	Reye 様症候群	後遺症
2 歳	急性脳症	結節性硬化症	後遺症
1 歳	急性脳症	不明	軽 快
3 歳	急性脳症	不明	軽 快
9 歳	急性脳症	不明	後遺症
5 歳	蘇 生 後	溺水 (ため池)	後遺症
8 歳	蘇 生 後	多発交通外傷	死 亡
13歳	蘇 生 後	絞扼性イレウス	後遺症
6 歳	脳 浮 腫	溺水 インフルエンザ B	軽 快
0 歳	頭蓋内出血	胆道閉鎖症	軽 快

## 透析療法 5 例 (血液浄化療法 3 例 腹膜透析療法 2 例)

年 齢	基礎疾患	方 法	予 後
2 ヶ月	髄膜炎菌敗血症	血液浄化療法	死 亡
1 歳	Reye 様脳症	血液浄化療法	後 遺 症
17 歳	脳性麻痺・腎不全	血液浄化療法	治療中(外来)
17 歳	脳性麻痺・腎不全	腹膜灌流	終 了
3 ヶ月	先天性ネフローゼ	腹膜灌流	治療中(入院)

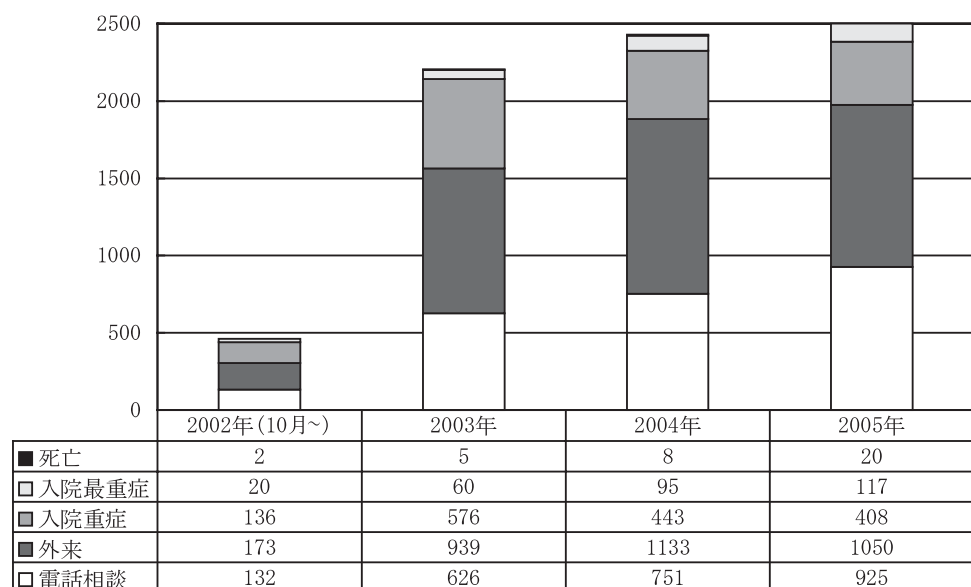
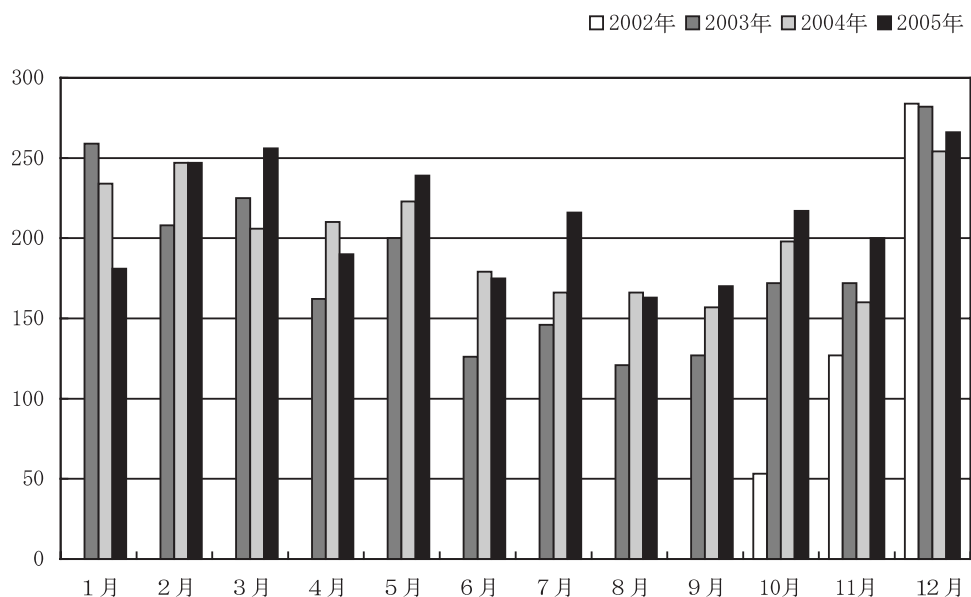
## 3. 特記すべき疾患

- (1) 交通外傷 23例 (うち多発外傷13例)
- (2) 熱 傷 22例 (入院11例 外来11例)
- (3) 溺 水 6 例 (風呂 3 例 海 2 例 池 1 例)
- (4) 被虐待児疑い 3 例 (CPA 1 例 熱傷 1 例 四肢骨折 1 例)
- (5) 腫瘍性疾患 15例 (脳腫瘍 9 例 卵巣腫瘍 3 例 腎腫瘍 3 例)

## 4) 入院24時間以内の協力各科 (含重複)

一般外科	137例
放射線科	60例
脳外科	63例
整形外科	34例
麻酔科	35例 (除 緊急手術)
形成外科	29例
心外・循環器科	19例
泌尿器科	13例
眼科	6 例
新生児科	2 例
耳鼻科	3 例
歯科	1 例

## 5) 患者数の推移



## 6. 総合診療科

医療の高度化、細分化のなかで、従来のごども病院も各専門科に細分化され、高度専門医療が提供されてきた。しかし、その専門各科を横につなぐ役割をもった、ごども全体を診る診療科、general pediatricsの必要性が増してきたことに対応して総合診療科が作られた。現在、5名の専任スタッフが配置され、主として救急医療室の運営にあっている。スタッフはそれぞれサブスペシャリティーとして専門診療科の診療にも携わっている。

具体的な動きとしては、救急医療室の運営・診療にあたること、既存の専門診療科での診療になじまない疾患、例えば感染症や消化器疾患などの診療、院内各科からの相談、紹介状のない初診患者の各専門科へのコーディネート、セカンドオピニオンの相談に応じることなどを行っている。また、研修医や専攻医の研修の受け皿となり、研修計画の立案や実際の研修を担当したりコーディネートすることも大きな役割である。

入院患者は救急医療室からの転科症例を主に担当している。多くが基礎疾患を持った児の合併症、特に感

染症である。

これまでこども病院へ紹介したいが、どこに紹介していいのかわからないという声がよく聞かれたが、現在は総合診療科が窓口となっており、院外からの紹介窓口も将来的には一本化出来るような体制が構築できれば良いと考えている。

外来担当スタッフ：山崎武美、上谷良行、三好麻里、田中亮二郎、黒澤茶茶

## 7. 代謝内分泌科

代謝内分泌科は小児における大きな特性である成長と成熟にかかわる疾患を主として担当している。疾患としては、低身長症、肥満、糖尿病、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、思春期発来異常、性分化異常などを対象としている。また、当科では新生児マススクリーニング対象疾患である先天代謝異常、クレチン症および先天性副腎過形成も担当している。

近年、分子生物学の分野における技術的な進歩はめざましく、各種疾患における病態も分子レベルで理解されるようになった。当科では、遺伝子工学的手法を駆使して診療にあたることこそが社会的要請に合致することと考え分子生物学的技術の確立にこの数年来努めてきた。現在までに、当科に通院中の患者に対し遺伝子解析を行ない、45家系において43種類の遺伝子変異を見出した。今後も、神戸大学小児科および環境応答医学講座とも協力しながら、分子生物学的手法をもちいた解析、研究を臨床の場に役立てたいと考えている。

代謝内分泌科は小児における大きな特性である成長と成熟にかかわる疾患を主として担当している。疾患としては、低身長症、肥満、糖尿病、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、思春期発来異常、性分化異常などを対象としている。また、当科では新生児マススクリーニング対象疾患である先天代謝異常、クレチン症および先天性副腎過形成も担当している。

近年、分子生物学の分野における技術的な進歩はめざましく、各種疾患における病態も分子レベルで解明されるようになった。その結果、当院の様な小児専門病院の臨床の現場においても遺伝子工学的手法に基づく診断、治療技術が要求されるようになってきた。当科では、遺伝子工学的手法を駆使して診療にあたることこそが社会的要請に合致することと考え分子生物学的技術の確立にこの数年来努めてきた。現在までに、代謝内分泌科に通院中の患者に対し遺伝子解析を行ない、31家系において29種類の遺伝子変異を見出した。前年度は、先天性副腎過形成21水酸化酵素欠損症患者で同意の得られた13家系15症例につき遺伝子解析を行い、その全例においてCYP21B遺伝子の変異を同定することができた。本年度は先天性副腎過形成21水酸化酵素欠損症の遺伝子診断をより迅速かつ簡便に行うことのできるスクリーニング法、および家系検索に有用なリンケージ解析法を確立した。このような方法を用いることによって、本症の出生前診断、胎児治療が可能になると期待される。今後も、神戸大学小児科および環境応答医学講座とも協力しながら、分子生物学的手法をもちいた解析、研究を臨床の場に役立てたいと考えている。

2005年度 外来患者(新患)

	患者数
低身長症	94
甲状腺疾患	13
性腺疾患	29
副腎	3
糖代謝異常	6
肥満	4
マススクリーニング クレチン症	23
先天代謝異常症	6
先天性副腎過形成	2
その他	21
計	201

入院患者

	患者数
低身長症	25
糖代謝異常	5
性腺疾患	3
甲状腺疾患	0
副腎疾患	3
その他	6
計	42

## 8. アレルギー科

### 【診療活動】

アレルギー科の対象疾患としては、

- 1) 1 型アレルギーを主とする疾患：気管支喘息、アトピー性皮膚炎 等
- 2) その他のアレルギー疾患：蕁麻疹、高好酸球症候群 等
- 3) 膠原病・免疫性疾患

である。

アトピー性皮膚炎については、ドクターショッピングやアトピービジネス、民間療法などの果てに受診される患者さんも多く、スタンダードな治療の普及に努めたいと思う。不必要な食事制限を解除するための食物負荷テストを外来日に2～3人づつ施行し、約90%の患者で解除可能であった。

気管支喘息については、乳児喘息の早期診断と長期管理薬による発作予防療法、思春期喘息の治療管理に力を尽くした。

膠原病疾患の患者数も徐々に蓄積され、免疫制御剤をふくむ、多剤少量併用療法が効果を上げている。

今後、診療の質・量ともにさらに発展していきたい。

1) 外来初診患者数 202

1. アレルギー疾患 180

気管支喘息	23
アトピー性皮膚炎	116
食物アレルギー	28
その他	12

2. リウマチ性疾患 22

若年性特発性関節炎	21
皮膚筋炎	0
全身性エリテマトーデス	0
その他	1

2) 入院患者数 41

1. アレルギー疾患 1

アトピー性皮膚炎	0
気管支喘息	1
好酸球性胃腸症	0
その他	0

2. リウマチ性疾患 40

若年性特発性関節炎	36
皮膚筋炎	0
その他	4

## 9. 脳神経内科

### 【診療活動】

診療活動は、初診197名・外来延べ総数2,428人、入院延べ患者数1,559人であった。また7月に発達行動小児科外来を開設し、12月末までの初診患者は62人であった。退職した相馬にかわり、永瀬が平成17年6月に着任したが、一人医長体制は引継ぎ時に問題が多いため、複数医師体制が望ましい。

### 【動 向】

これまで神経内科の診療範囲は、神経疾患・発達障害・心身症であったが、米国の小児医療体制では、発達障害・心身症に関しては、主として発達行動小児科医が診療にあたり、今後日本の小児病院・大学病院でも専門外来が開設されつつある。当科では7月に発達行動小児科外来を開設したが、初診患者の受診待ちが平均2ヶ月程度となっており、需要に対して十分には対応できていない。また同外来初診患者のなかで、虐待が臨床の対象となったケースが5例あった。虐待ケースに対しては、医師のみならず多職種にわたる院内外の連携が必須であり、当院においても今後の連携システムを構築することは焦眉の急を要する。

在宅医療が進む中、神経内科領域でも在宅人工呼吸・在宅酸素・在宅中心静脈栄養などを要する患児が増加しつつある。現在、一般外科にて、在宅外来が行われているが、関係他科とも協力した、専門外来が必要である。

上記のような専門外来の開設に対して大きな支障となっているのが、小児専門病院としてより専門的な医療を求める患者ニーズに対応できるだけの外来スペース、人員の不足であり他の小児専門病院と比べても不足している。当院がこの領域に対してどこまでの役割を担うのかというグランドデザインと、それに向けた対策が必要である。

### 神経外来初診患者

#### けいれん性疾患

てんかん	63
ウェスト症候群	3
熱性けいれん	22
インフルエンザ脳症	1
その他の脳症	1
HHE 症候群	3
化膿性髄膜炎	2
その他のけいれん疾患	17

#### 心身症

チック	3
過換気症候群	2
頭痛	10
腹痛	1
転換性障害	2
摂食障害	3
その他の心身症	8

#### その他

血管障害	4
脱髄疾患	2
頭部打撲	2
低酸素性脳障害	3
染色体異常・奇形症候群	3
神経皮膚症候群	5
代謝障害	1
発達相談	4
セカンドオピニオン	5
皮膚疾患	3

#### 発達障害

精神遅滞	18
広汎性発達障害	6

### 発達行動小児科外来

#### 発達障害

広汎性発達障害	18
精神遅滞	13
注意欠陥多動性障害	6
先天性疾患の発達相談	4
その他の発達相談	6

#### 心身症・神経症

身体表現性障害	7
場面緘黙	1
パニック障害	1
遺尿	1
不登校	1
チック障害	3
吃音	1

#### 虐待（左記と重複有り） 5

## 10. 血液腫瘍科

### 【人事異動】

医 長	矢内友子 (救急医療室兼務)	H11.5.1 ~ H17.3.31	神戸大学附属病院へ転出
医 長	川崎圭一郎 (救急医療室兼務)	H17.4.1 ~	神戸大学附属病院より
専攻医	笠井和子 (救急医療室兼務)	H16.12.1 ~ H17.2.28	周産期センターへ転出
専攻医	富永健太 (救急医療室兼務)	H17.3.1 ~ H17.5.31	循環器科へ転出
専攻医	福島雅子 (救急医療室兼務)	H17.6.1 ~ H17.8.31	循環器科へ転出
専攻医	細川悠紀 (救急医療室兼務)	H17.9.1 ~ H17.11.30	循環器科へ転出
専攻医	森 雅樹 (救急医療室兼務)	H17.12.1 ~	救急医療室専任より
研修医	溝脇 領 (救急医療室兼務)	H16.6.1 ~ H17.3.31	県立淡路病院へ転出
研修医	上田陽子 (救急医療室兼務)	H17.6.1 ~ H17.6.30	救急医療室専任へ
研修医	山内裕美 (救急医療室兼務)	H17.7.1 ~ H17.7.31	救急医療室専任へ
研修医	小川禎治 (救急医療室兼務)	H17.9.1 ~ H17.9.30	救急医療室専任へ
研修医	早島禎幸 (救急医療室兼務)	H17.11.1 ~ H17.11.30	県立西宮病院へ転出

### 【動向と活動状況】

昨年は長期間にわたり血液腫瘍科に所属し、臨床面では欠かせない存在であった矢内友子医長が神戸大学附属病院小児科助手に赴任したため退職した。後任には神戸大学附属病院小児科助手であった川崎圭一郎医長が赴任した。他のスタッフ (長谷川大一郎医長、小阪嘉之部長) は留任である。外来新患総数 (疾患の内容については表1参照)、および外来患者総数はほぼ前年と同数であったが、当科の入院患者総数は前年より若干減少した。なお相変わらず入院患者の90%以上は悪性腫瘍の患者である。7階 (血液主体病棟) はほとんど常に満床に近い状況は変わらない。造血幹細胞移植はこれもほぼ前年と同数の13例であった (内容については表2参照)。今後もハイリスク例には積極的に施行していく予定である。外来は月・火・金の3回、小阪が担当しているが、最近はALL患者や脳腫瘍患者などを対象に化学療法を週に10例程度施行している状況である。これはもはやすべての小児診療で言えることであろうが、やはり慢性的な人員不足は否めず、ようやくH18年4月にはスタッフが1名増 (計4名) の予定である。これからも血液腫瘍患者さんの治癒率、およびQOLの向上を目指してスタッフ一同努力していきたいと思っています。今後ともよろしく願い申し上げます。

新患一覧

疾患名	患者数	備考	疾患名	患者数	備考	
ALL	15	Ph1:2	自己免疫性溶血性貧血	1	原因不明	
AML	3	M2:2 M7:1	サラセミア	1		
CMMoL	1		その他の溶血性貧血	1		
神経芽細胞腫	3		その他の貧血	3		
脳腫瘍	16		白血球増多症	2		
卵黄のう瘍	1		血小板増多症	1		
横紋筋肉腫	1		血友病	3		A:2 B:1
線維肉腫	1		プロテインC欠損症	1		
ウィルムス腫瘍	1		出血傾向精査	5		全員正常
腎明細胞肉腫	1		血球貪食症候群	5		
腎横紋筋様腫瘍	1		慢性肉芽腫症	1		
悪性黒色腫	1		C3欠損症	1		
奇形腫	1		IgA欠損症	1		
血管腫	2		易感染性精査	3		全員正常
膝 Grantz 腫瘍	1		反応性リンパ節炎	11		
腎血管筋脂肪腫	1		亜急性壊死性リンパ節炎	1		
神経線維腫	1		伝染性単核症	1		
ITP	15		肝炎	2		
再生不良性貧血	6	肝炎後1 ファンコニー貧血1	骨髄移植ドナー	5		
好中球減少症	5		その他	7		
遺伝性球状赤血球症	3					
鉄欠乏性貧血	8					
			計	144		

造血幹細胞移植 症例

年令/性	疾患名	移植の種類	移植の病期	転帰
1/F	AML(M7)	臍帯血移植	寛解導入不能	原病死
7/M	重症再不貧	血縁間同種骨髄移植		無病生存
1/F	MDS	非血縁間同種骨髄移植	RAEB	無病生存
14/F	ALL	血縁間同種骨髄移植	再発期	原病死
6/M	ALL(Ph1+)	血縁間同種骨髄移植	寛解導入不能	無病生存
10/M	重症再不貧	血縁間同種骨髄移植		無病生存
12/F	MDS	血縁間同種骨髄移植	RAEB	無病生存
11/M	ALL	非血縁間同種骨髄移植	第2寛解期	無病生存
10/F	ALL	非血縁間同種骨髄移植	第2寛解期	合併症死(肺炎)
13/M	神経芽細胞腫	自家末梢血幹細胞移植	第2寛解期	無病生存
1/M	脳腫瘍	自家末梢血幹細胞移植	第1寛解期	無病生存
0/M	脳腫瘍	自家末梢血幹細胞移植	寛解導入不能	担癌生存
1/M	脳腫瘍	自家末梢血幹細胞移植	寛解導入不能	担癌生存



## 11. 循環器科

人事異動 ( 印は現在のスタッフ)

鄭 輝男

城戸佐知子

佃 和哉

八幡 倫代 京都第1赤十字病院

藤田 秀樹

斎木 宏文 聖隷浜松病院

加藤 竜一 京都府立医科大学小児疾患研究施設

1. 新患総数 720名 (501名に心疾患)

A 新生児期	55名	B 乳児期以後	446名
大動脈縮窄複合	8	心室中隔欠損	140
大血管転位	8	心房中隔欠損	110
肺動脈閉鎖	12	動脈管開存	20
純型肺動脈閉鎖	5	心内膜床欠損	8
三尖弁閉鎖	4	肺動脈弁狭窄	20
		大動脈弁狭窄	8
総肺静脈還流異常	4	ファロ - 四徴症	14
臓器錯位症候群	6	僧帽弁閉鎖不全	20
僧帽弁閉鎖	4	血管輪	2
左心低形成症候群	3	心筋症	4
肺動脈弁欠損	1	川崎病	20
		不整脈	60
		その他	20

2. 外来患者数 9090名 (9190)

3. 入院患者 総数530名

(362名が心臓カテーテル検査入院)

(360名がカテーテル検査入院)

4. 心臓カテーテル検査 356例 (362)

1) カテーテル操作が容易な症例	120例	4) その他	67例
心室中隔欠損	70	動脈管開存	6
心房中隔欠損	50	肺動脈弁狭窄	10
2) 正確な肺動脈形態が求められる症例	60例	大動脈弁狭窄	6
フォロー - 四徴	38	大動脈弁閉鎖不全	4
肺動脈閉鎖	22	僧帽弁閉鎖不全	6
3) 心内構造が複雑な症例	109例	Ebstein 奇形	2
両大血管右室起始	12	肺動脈弁欠損	2
臓器錯位症候群	18	大動脈肺動脈中隔欠損	1
単心室	12	左心低形成症候群	4
大血管転位	10	総動脈還流異常	6
三尖弁閉鎖	8	総動脈幹症	1
純型肺動脈閉鎖	12	心筋症 - 心筋炎	2
大動脈縮窄・離断	12	川崎病	12
心内膜床欠損	20	その他	5
僧帽弁閉鎖	5		

5. カテーテルインターベンション 63例  
(カテーテル治療)

弁形成 PS AS	10
血管形成 (内 3例にステント留置)	25
塞栓術 PDA	6
MAPCA	14
BAS	8

6. 心臓. エコー検査 5467 (5269)

7. 胎児エコー検査 147 (170)

8. RI 検査

心筋シンチ	13 (13)
肺血流シンチ	57 (57)

9. Holter 心電図 113 (130)

10. トレッドミル負荷心電図 52 (40)

入院診療

心臓外科部長が山口眞弘先生から大嶋義博先生へに交替したが手術成績も良好で心配された患者さんの動揺もなかった。入院患児は全体的に重症化の傾向があり現在の準夜、深夜帯の3名の病棟看護体制では十分な安全確保が困難になってきているのでは...と危惧される。

今 後

“患者さんへの親切な対応”が求められている現状である。ある意味ではもっともな事であるが本当に患者さん側が医療従事者に求めているのは下記の2点である

1. 安心して身体をまかせられる技術に基づいたお互いの信頼関係
2. 病状が悪くても“この人なら何とかしてくれる”という期待感。

きちんとした医療技術なくうわべだけの丁寧さだけでは患者さんは不幸である

## 12. 腎臓内科

外来診療については、田中亮二郎医師が、入院診療については、専攻医と田中亮二郎医師が担当した。また2005年度の外来初診患者数は203名、入院患者数は87名であった。

### 活動状況

ネフローゼ症候群、急性腎炎、IgA 腎症、紫斑病性腎炎、遺伝性腎炎、その他慢性腎炎、全身性エリテマトーデス、溶血性尿毒症症候群などの急性腎不全、慢性腎不全、高血圧、尿路感染症、先天性尿路奇形等を対象としている。本年度はネフローゼ症候群や腎炎に対して28例の腎生検を施行した。救急医療室において先天性ネフローゼ症候群による慢性腎不全や敗血症性ショックを呈した急性腎不全の患児など計4名に対して血液浄化を施行した。また現在3名の患児が維持腹膜透析を行っている。腎移植に関しては他院にお願いしている。今後急性腎不全に対する血液浄化や慢性腎不全に対する在宅腹膜透析例は増加すると思われる。一方平成15年度より厚生労働科学研究「小児難治性腎疾患に対する薬物療法ガイドライン作成のための多施設協同研究」に参加し、巣状メサンギウム増殖を示す小児 IgA 腎症、頻回再発型ネフローゼ症候群、ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群を対象とした多施設協同非盲検ランダム化比較試験を行っている。

#### 平成16年度初診患者

ネフローゼ症候群	7
先天性ネフローゼ症候群	2
IgA 腎症	3
膜性増殖性糸球体腎炎	1
巣状メサンギウム増殖性腎炎	1
膜性腎症	1
微小変化	3
アレルギー性紫斑病（腎炎）	9
溶血性尿毒症症候群	1
アルポート症候群	1
Lowe 症候群	1
Fanconi 症候群	1
原因不明の腎不全	1
高尿酸血症	2
先天性血栓性血小板減少性紫斑病	1
無症候性蛋白尿・血尿	8
無症候性蛋白尿	13
起立性蛋白尿	1
無症候性血尿	61
家族性良性血尿	2
高 Ca 尿症	1
特発性腎出血	2
尿路感染症	10
膀胱尿管逆流症	2
逆流性腎症	3
水腎症	6
低形成腎	6
MCDK	2
常染色体優性多嚢胞腎	1
腎結石	1
馬蹄腎	1
高血圧	1
腎血管性高血圧	2
腸管出血性大腸菌感染症	2
その他	43
計	203名

#### 平成16年度入院患者

ネフローゼ症候群	23
先天性ネフローゼ症候群	2
IgA 腎症	5
膜性腎症	1
膜性増殖性糸球体腎炎	3
巣状分節性糸球体硬化症	2
微小変化型	5
ループス腎炎	3
紫斑病性腎炎	4
血管性紫斑病	2
溶血性尿毒症症候群	1
アルポート症候群	1
常染色体劣性多嚢胞腎	2
チアノーゼ腎症	1
腎血管性高血圧	2
原因不明の腎不全	1
高尿酸血症	1
尿路感染症	8
その他	10
計	87名

### 13. 精神神経科

2005年度のスタッフは、常勤医1名（前田宏章）と、非常勤医4名（伊東恵子、井出浩、白瀧貞昭、松川悦之）であった。

新患分布に関しては、全国的な傾向と同じく、広汎性発達障害、多動性障害などの発達障害に関連する患者数増加が目立っている。その割合は6割弱となっており、神経症圏、精神病圏の患者の割合を超えている。これは、軽度発達障害といわれる高機能広汎性発達障害、多動性障害、学習障害に関する医療や学校、家庭などでの認知が広まりつつあることも原因のひとつである一方、児童精神科医の認識においても、以前より軽い発達障害まで診療可能な範囲が広がってきたということもあると考えられる。

入院診療に関しては、脳神経内科の協力を仰いで、摂食障害や解離性障害などの診療を行っている。

全国的に、こどもの精神科を受診する患者数が増加傾向にある中、対応する必要がある範囲も多岐にわたる。リエゾンやコンサルテーション、親の治療なども、まだまだ対応しきれていない分野である。それらを満足に行うには児童精神科医師数の不足があり、今後の検討課題である。

発達障害児への集団療育指導も、指導相談部と協力して継続されている。

新患分布 (2005.1~12)

疾 患	年 齢		乳児	幼児 前期	幼児 後期	学童 前期	学童 後期	中学 高校	18歳 以降	計
	男	女								
精神遅滞	25	20	1	12	10	7	4	5	6	45
学習障害	5	2	0	2	1	2	1	1	0	7
自閉症圏	74	12	0	36	22	18	5	5	0	86
多動性障害	32	5	0	4	9	15	5	4	0	37
行為障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不安障害	3	6	0	2	1	3	0	1	2	9
強迫性障害	5	0	0	0	0	1	1	3	0	5
ストレス反応、障害	5	3	0	3	1	2	1	1	0	8
適応障害	11	9	0	0	0	6	5	9	0	20
解離性障害	4	2	0	1	0	2	2	1	0	6
身体表現性障害	5	11	0	0	1	5	6	4	0	16
選択性緘黙	1	1	0	0	0	1	1	0	0	2
愛着障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
チック障害	7	5	0	1	3	4	3	1	0	12
遺尿症、遺糞症	5	4	0	1	1	4	2	1	0	9
哺育障害、異食症	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1
吃音	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1
器質性精神障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
統合失調症圏	2	2	0	0	0	1	1	2	0	4
気分障害	1	1	0	0	0	0	0	1	1	2
摂食障害	0	5	0	0	0	1	2	2	0	5
睡眠障害	2	2	0	1	1	2	0	0	0	4
抜毛症	2	2	0	1	0	3	0	0	0	4
てんかん	0	3	0	0	2	0	0	1	0	3
親治療	0	3	0	0	0	0	0	0	3	3
その他	5	8	2	4	4	0	2	1	0	13
計	195	107	3	69	57	77	41	43	12	302

## 14. 小児外科

2005年度の小児外科スタッフは津川 力（昭和43年卒）本年度7月で退職、連 利博（昭和50年卒）、西島栄治（昭和53年卒）、佐藤志以樹（昭和62年卒）、高見澤滋（平成3年卒）、津川二郎（平成11年卒）、山下方俊（平成7年卒、4月～）、和田英見（平成10年卒、4月～）、専攻医は楯川幸弘（奈良県立医大、1-3月）渡邊高士（和歌山県立医大第2外科、1-3月）、田中朋子（長崎大学第1外科、1-3月）、横井暁子（京都大学移植外科、4月～）畑田智子（鳥取大外科、4月～）であった。

診療活動では、入院患者数は769名、日帰り手術患者数は428名、全手術件数は1034件であった。新生児患者数は42名であった。入院患者数はやや増、日帰り患者数は微減、手術件数は減少した。新生児外科患者数は少ない傾向が続いている。手術待ち期間は入院で1.5ヵ月、日帰りで6-8週間であった。

教育活動では、熊本大学から臨床実習生として6人受け入れた。今年度の外国人研修医の受け入れはなかった。

学会活動では日本小児外科学会、太平洋小児外科学会、胆道閉鎖症研究会、日本小児呼吸器外科研究会、日本小児消化管機能研究会等で発表した。発表論文は邦文7編、英文6編、計13編であった。

懸案であった外科診療マニュアルを改定し、日々の研修に役立つ冊子を発行することになった。これを機に現在の外科治療を総括し次の世代に継承していきたい。また、医療事故のない安全で確実な医療を目指すことも目標としたい。

30年間にわたり、兵庫県立こども病院外科の顔として多くの臨床・研究および教育に携わられました津川力先生が御退職され、一般外科（大人）の道を進まれました。われわれは、津川先生から多くのことを学ばせていただいたことに感謝申し上げます。先生の今後の活躍をお祈りいたします。

### 小児外科統計

(1) 入院患者数	769
(2) 日帰り手術患者数	428
(3) 手術件数	1034
(4) 内視鏡治療検査件数	325
総 数	1359
入院手術件数	614
入院内視鏡治療検査件数	304
日帰り手術件数	420
日帰り内視鏡治療検査件数	21

### (5) 入院手術内訳

顔面 頸部	甲状舌管嚢腫摘出術		1
	腫瘍生検/切除		2
	その他		4
胸部	気道	気管切開術	21
		気管形成術	3
		胸腔ドレナージ	2
		喉頭気管分離術	1
		大動脈胸骨固定	1
		喉頭気管形成術	1
		その他	2
	肺	肺葉切除術	7
		ブラ切除術	1

	横隔膜	横隔膜ヘルニア閉鎖術	6
		ECMO 導入	2
		横隔膜縫縮術	2
	食道	先天性食道閉鎖症一期の根治術	6
		食道吻合術	4
		胸壁食道延長術	1
		食道内磁石挿入	2
	胸壁	漏斗胸・鳩胸手術	28
		Nuss bar 抜去	3
		その他	3
腹部	消化管	噴門形成術	40
		胃瘻造設術	33
		肥厚性幽門狭窄手術	2
		胃固定術	1
		十二指腸閉鎖、狭窄症手術	4
		空回腸閉鎖症手術	1
		メッケル憩室切除術	4
		腸重積症手術	8
		イレウス手術	10
		虫垂切除術	11
		卵巣嚢腫切除術	1
		ヒルシュスブルグ病根治術	9
		鎖肛根治術	16
		カッタバック	2
		直腸生検	9
		壊死性腸炎手術	1
		空回腸瘻閉鎖症手術	3
		人工肛門造設術	13
		人工肛門閉鎖術	8
		消化管重複症手術	2
	その他	32	
	肝胆膵脾	胆道閉鎖症手術	11
		胆道拡張症手術	7
		ルーワイ脚弁形成術	1
		胆嚢摘出術	3
		脾摘出術	4
	その他	10	
	腹壁	腹壁破裂手術	3
		腹壁形成術	1
		臍帯ヘルニア手術	2
		臍ヘルニア手術	11
		白線ヘルニア	1
尿管・膵腸管切除術		4	
その他		3	
腫瘍	神経芽細胞腫摘出術	3	
	奇形腫群腫瘍摘出術	4	
	腎腫瘍切除術	3	
	横紋筋肉腫切除	1	
	悪性腫瘍開胸・開腹生検	3	
	その他	9	
鼠径部	鼠径ヘルニア手術	92	
	精巣固定術	9	
	精巣摘出術	1	
軟部組織、四肢	リンパ管腫摘出術	3	
	ピシバニール注入	2	
その他	中心静脈カテーテル挿入	101	
	テンコフカテーテル挿入	3	
	その他	6	

(6) 日帰り手術内訳

鼠径ヘルニア手術	333
臍ヘルニア手術	32
精巣固定術	13
副耳・耳介瘻摘出術	1
リンパ管腫ピシバニール注入	2
ガント三輪術	1
皮膚皮下良性腫瘍摘出術	12
その他	26

(7) 内視鏡検査、治療内訳

気管支鏡	気管支鏡のみ	127
	気管内異物摘出術	10
	気管バルーン拡張術	33
	KTP レーザー肉芽焼灼	7
	T チューブ挿入	7
	Y 型/I 型ステント挿入	4
食道胃内視鏡	内視鏡のみ	33
	内視鏡的食道静脈瘤硬化療法	9
	胃食道止血術	1
	胃食道バルーン拡張術	44
	食道胃異物摘出術	5
ERCP	ERCP	10
大腸内視鏡	内視鏡のみ	7
	大腸ポリペクトミー/生検	6
	直腸バルーン拡張	1

(8) 新生児外科症例

病名	患者数	死亡
横隔膜ヘルニア	6	1
先天性食道閉鎖症	6	1
肥厚性幽門狭窄症	1	
十二指腸閉鎖、狭窄症	2	1
空回腸閉鎖症	3	
胎便性腹膜炎	1	
ヒルシュスブルグ病	2	
直腸肛門奇形	5	
総排泄腔外翻	2	
メコニウム病	1	
消化管穿孔	4	
臍帯ヘルニア	1	
腹膜破裂	2	
卵巣嚢腫	1	
腎腫瘍	1	
その他	4	2
合計	42	5

## 15. 心臓血管外科

### スタッフ紹介

部長 大嶋 義博 (昭和57年卒)、心臓血管外科専門医、胸部外科指導医

吉田 昌弘 (平成5年卒)、心臓血管外科専門医

島津 親志 (平成9年卒)

松久 弘典 (平成11年卒)

日隈 智憲 (平成12年卒)

高橋 宏明 (平成13年卒)

2005年度は、4月に人事異動があり、山口眞弘副院長退職、後任に、富山医科薬科大学（現富山大学）第一外科 大嶋義博助教授、島津親志助手が赴任、交代に芳村直樹（昭和62年卒、現講師）と村上博久（平成7年卒）が富山大学第一外科へ赴任。田中陽介（平成11年卒）は愛仁会千船病院に転勤。また8月より愛媛大学より高野信二をスタッフに迎えたが、2006年4月に愛媛大学へ復職。

### 診療体制

外 来：月、水、金の午後2診

手 術：月～金（開心術）、水または金（非開心術）

手術症例の増加に伴い、開心術週5日の体制に移行した。手術時間の短縮にも積極的に取り組み、夏休みには、1日に軽症開心術2例を定時に終えた。2005年の体外循環を用いた手術は213例（新生児8例）、体外循環非使用の心臓手術は78例（新生児14例）、その他11例であった。また、外来の待ち時間の短縮を図るため、診療時間を午後の2診枠に変更した。1診では、手術前後の説明に十分な時間を充て、2診は再診専用としている。

新生児・乳児の重症手術、特にノルウッド手術の成績は、近年、施設の実力を測る目安といわれ、3例全例を救命した。今後も、手術成績の向上とともに、大動脈離断、縮窄症や心内膜欠損症の一期手術、低年齢化を進めていく方針である。

学会活動：英文論文 編、邦文論文 編が掲載され、胸部外科学会、心臓血管外科学会、小児循環器学会、その他、多数の学会、研究会にて発表した。

疾患	新生児	乳児前期	乳児後期	幼児前期	幼児後期	学童以上	計
心房中隔欠損症	0	0	0	6	7	17	30
・+肺動脈狭窄	0	0	0	2	0	0	2
・+部分肺静脈還流異常症	0	0	0	1	1	0	2
・+動脈管開存	0	0	1	2	0	0	3
・+動脈管開存 + 肺動脈弁狭窄	0	0	0	1	0	0	1
心室中隔欠損症	0	1	2	11	13	15	42
・+心房中隔欠損	0	0	0	0	0	0	0
・+心房中隔欠損・肺動脈狭窄	0	0	1	0	0	0	1
・+心房中隔欠損・動脈管開存	0	1	0	0	0	1	2
・+肺高血圧	0	12	5	0	0	0	17
・+動脈管開存 + 肺高血圧	0	2	1	0	0	0	3
・+右室二腔症	0	0	0	1	1	0	2
・+肺動脈狭窄	0	0	0	1	0	0	1
・+僧帽弁閉鎖不全	0	0	0	1	0	0	1
・+肺動脈絞扼解除	0	1	1	0	0	1	3
多発性心室中隔欠損症	0	0	0	0	0	1	1
・+肺動脈絞扼解除	0	0	0	4	0	0	4
・+肺動脈スリング	0	0	1	0	0	0	1
心内膜症欠損症	0	1	1	5	0	0	7
ファロー四徴症	0	0	2	12	0	0	14
・+肺動脈弁欠損症候群	1	0	0	0	0	0	1
・+異型左鎖骨下動脈	0	0	0	1	0	0	1
肺動脈閉鎖兼心室中隔欠損症	0	0	0	3	2	1(1)	5
両大血管右室起始症	0	3	0	2	1	0	6
・Taussig-Bing 奇形	0	1	0	0	0	0	1
完全大血管転位症	1	1	0	0	0	0	2
総肺静脈還流異常症	3	2	0	0	0	0	5
肺静脈狭窄	0	1	0	0	0	0	1
総動脈幹症	1	0	0	0	0	0	1
左心低形成症候群(ノーウッド型手術)	1	1	0	0	0	0	2
両方向性グレン手術							
三尖弁閉鎖症	0	0	1	1	0	0	2
共通房室弁口	0	0	0	2	0	0	2
単心室症	0	0	1	0	0	0	1
両大血管右室起始症	0	0	2	0	0	0	2
純型肺動脈閉鎖症	0	0	0	0	1	0	1
完全大血管転位症	0	0	0	1	0	0	1
・+房室弁置換術	0	1(1)	0	0	0	0	0
・+房室弁形成術	0	0	1	1	0	0	2
フォンタン型手術(TCPC)							
三尖弁閉鎖症	0	0	0	1	0	1	2
単心室症	0	0	0	2	0	0	2
純型肺動脈閉鎖症	0	0	0	0	1	2	3
エプスタイン奇形	0	0	0	0	0	1	1
左心低形成症候群	0	0	0	1	0	0	1
・+房室弁形成術	0	0	0	2	1	1(1)	3
大動脈弁疾患	0	0	0	0	0	2	2
・+大動脈弁輪拡大	0	0	0	0	0	1	1
大動脈弁下狭窄	0	0	1	0	0	1	2
僧帽弁疾患	0	1	0	2	1	1	5
三尖弁疾患	0	0	0	2	1	0	3
大動脈縮窄(ECC 使用)	0	1	0	0	0	0	1
・+心室中隔欠損	0	3	0	0	0	0	3
・+両大血管右室起始症	1(1)	1	0	0	0	0	1
冠状動脈閉鎖	0	0	1	0	0	0	1
体肺動脈短絡術(ECC 使用)	0	1	0	0	0	0	1
先天性気管狭窄(ECMO 補助)	0	2	0	0	0	0	2
・+肺動脈スリング	0	1	0	0	0	0	1
肺動脈スリング	0	0	0	1	0	0	1
計(30日以内の死亡)	8(1)	38(1)	22	69	30	46(2)	213(4)



## 16. 脳神経外科

2005年度の脳神経外科スタッフは、長嶋達也（部長）、秋山英之（医長）、山本浩隆、岡村有佑、河村淳史の5人である。2005年4月1日には山本浩隆が公立豊岡病院に転出し、西神戸医療センターから岡村有佑（平成14年卒）を専攻医として迎えた。11月1日より、神戸大学より河村淳史（平成2年卒）を新たに医長として迎えて4人体制となった。

診療活動では三次救急開設とともに頭部外傷例の増加が認められる。在院日数短縮が進んでいる。悪性脳腫瘍の集学的治療を求めて紹介症例が増加しており、また頭蓋顔面奇形の手術や二分脊椎の治療など、集学的なアプローチを要する分野の手術が増加している。過去5年間に手術件数は増加を続けており、年間手術件数は180例を超えた。秋山英之医長は手術と病棟管理の中心となって活躍しており、もやもや病の手術を担当し学会発表も活発に行っている。新たに加わった河村医長は、神戸大学において脳腫瘍部門の研究責任者、病棟医長を経験した悪性脳腫瘍治療の専門家であり、今後の活躍が期待される。来年度も国際的な水準を維持する手術成績を積み重ねていきたい。

学術活動としては、2005年4月に長嶋が会長として第51回近畿脊椎外科研究会を主催した。

分類(日本脳神経外科学会)	数
脳腫瘍摘出手術	23
バイパス手術	9
開頭脳内血腫除去	3
急性硬膜外血腫	4
急性硬膜下血腫	7
慢性硬膜下血腫	8
頭蓋・脳奇形	19
脊椎・脊髄奇形	29
水頭症脳室シャント	43
脊椎・脊髄腫瘍	8
脊髄空洞症	4
その他	29
計	186

## 17. 形成外科

2005年中は西本聡、大山知樹、戸田直歩の3人体制であった。12月末をもって専攻医武田匡弘が転出、2005年1月より戸田直歩を迎えた。

診療に関しては従来の外表奇形手術に加え、脳外科との連携協力の下、骨延長術を応用した頭蓋顔面矯正手術、顎裂への骨移植でTissue Engineeringの概念を取り入れ、低侵襲で安定した成績を残せる手技、血小板、幹細胞の応用などを発展させてゆきたい。

手術数では水痘や満床により予定手術の患者が入院できないことが何度かあり、やや減少した。2005年には血管腫治療用レーザーが導入されることになり、外来患者の増加が見込まれる。

		入院	外 来		小 計	計
		全 麻	全 麻	局 麻		
新 鮮 熱 傷	全身	6			6	
	局所のみ				0	6
顔 面 骨 骨 折	顔面骨骨折	3			3	
	顔面軟部組織損傷		5	5	10	13
口 唇 裂		60	4	2	66	
口 蓋 裂		35			35	101
手 足	先天異常	52	4		56	
	外傷	1		4	5	61
その他の先天異常		34	45	4	83	83
母斑・血管腫・良性腫瘍		30	74	12	116	116
悪性腫瘍、再建		0			0	0
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド		10	4	4	18	18
褥創、難治性潰瘍					0	0
美容外科					0	0
そ の 他		24	4		28	28
計		255	140	31	426	426

含外来処置室  
含他科関連

	入院手術	外来手術	計
新 鮮 熱 傷	1		1
顔 面 骨 骨 折	1		1
口 唇 裂	46	10	56
口 蓋 裂	39		39
手足の先天異常	51	9	60
頭蓋顔面骨異常	8		8
その他の先天異常	37	47	84
母斑・血管腫・良性腫瘍	28	57	85
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	4	6	10
そ の 他		17	17
計	215	146	361

手術室利用分

## 18. 整形外科

2004年6月に康医師が中町赤十字病院に転出し代わりに岸本医師を田中整形外科から迎えた。手術件数は前年とほぼ同様の216例であった。先天性内反足の治療法として取り入れた Ponseti 法だが低侵襲の割りに効果が大きく乳児期にアキレス腱の切腱術を行うことで1歳ごろに距骨下関節全周解離術が必要な患者は明らかに減少した。今後も新しい治療法を試みていきたい。

### 手術

	病名	術式	手術数
	環軸椎脱臼	ハコ-装着	1
	環軸椎脱臼	頭蓋、頸椎固定術	1
	後湾症	固定術	2
	転移性骨腫瘍	後方固定術	0
体幹	斜頸	切腱術	1
	側弯症	矯正術	4
		ロッド延長	1
		イリザロフ	1
股関節	先天性股関節脱臼	Ludloff	6
		前方進入	1
		全周解離	0
		SA+OR	1
		内転筋切離	0
	股遺残亜脱臼	ソルター	6
		ソルター + OR	1
	大転子高位	大転子下降術	1
	ペルテス病	大腿骨内反骨きり術	3
	P F F D	大腿骨外反骨きり術	1
	内反股	大腿骨外反骨きり術	2
	化膿性関節炎後遺症	大腿骨転子下内反骨切り	0
	骨頭すべり	大腿骨屈曲骨切り術	1
	骨頭すべり	ピンニング	8
	麻痺性股関節脱臼	大腿骨頭切除術	2
		DVO+臼蓋形成	1
		観血的整復術（内側）	2
		観血的整復術（前方）	1
		骨盤骨切り	1
	膝関節	習慣性膝蓋骨脱臼	観血整復
J R A		鏡視下滑膜切除	0
足部	先天性内反足	後方解離	2
		アキレス腱切腱(Ponseti)	27
		距骨下関節全周解離	4
		Evans	0
	麻痺性変形	後方解離	0
		ATL	3
		後内方解離	5
		距骨摘出術	1
		下腿変形	0
		腱移行 (TP を外側に)	0
		腱移行 (TA を踵骨に)	2
	(踵足)		
	先天性垂直距骨	距骨下関節全周解離	0
	足趾変形	矯正術	0
	尖足	後方解離術	1
	脛骨列形成不全	距骨摘出術	2
外反母趾	矯正術	0	
先天性外反母趾	矯正術	0	

	病 名	術 式	手術数
上 肢	先天性橈骨頭脱臼	観血的整復術	
	裂手，裂足	形成術	3
	橈側列形成不全	矯正・延長	1
	足根骨癒合症	癒合部切除	0
	膝蓋骨脱臼	整復術	1
	絞扼輪症候群	形成術	0
下 肢	先天性偽関節	bone transport (イリザロフ)	0
		骨移植	0
		髄内釘	0
	脚 長 差	脚延長 (イリザロフ)	7
		骨移植	0
		脚延長 (EBI)	1
絞扼輪症候群	形成術	1	
外 傷	上腕骨外顆骨折	整復固定術	2
	上腕骨内顆骨折	整復固定術	1
	上腕骨顆上骨折	整復固定術	2
	陳旧性モンテジア	尺骨骨切り術、橈骨頭整復術	1
	肘 関 節 脱 臼	徒手整復	0
	大 腿 骨 骨 折	観血的整復術	2
	肘 頭 骨 折	骨接合術	0
	関 節 脱 臼	徒手整復ギプス固定	1
		鋼線牽引	5
	内 反 肘	矯正骨切り術	3
	その他骨折(含む徒手整復、ギプス)	整復固定術	10
	腱 断 裂	腱縫合	1
	化膿性関節炎	穿刺術	0
		関節内洗浄	3
炎 症	骨 髄 炎	生検術	1
	腫 瘍	骨	5
軟部		2	
そ の 他	多・合指(趾)症	余剩指(趾)切除	11
		指(趾)間形成	13
	母 指 変 形	矯正骨切り術	0
	癬 痕 拘 縮	形成術	0
	剛 直 母 指	腱鞘切開	7
	抜釘(内反足術後も)		23
	そ の 他		13
年間手術件数			216

## 検 査

	部 位	方 法	検査数
	股 関 節	アルトロ	30
	そ の 他	アルトロ	1

## 19. 眼科

本年の異動は4月に飯塚視能訓練士が新規採用者として着任、6月に鎌尾専攻医が1年の研修を終えて神戸大学へ戻り、代わりに大島医師が専攻医として着任した。

診療のトピックとしては、先天無眼球症に対して眼窩、眼瞼の発達誘導を目的に、厚労省未認可の米国製 implant を使用する機会をもった。親液性素材で生体内に移植すると膨潤拡大する特性を有する expander であるが、この装具の情報はインターネットで先天無眼球症について調べられたご両親からもたらされたものである。先天無眼球症は発現頻度が1～10/100,000（臨床的無眼球つまり眼球痕跡は認める極小眼球を含む。これに対し、自験例は視索、視交叉、視神経も無形生のため、optic vesicle の段階から発生のない真性無眼球症と考える。）という極めて稀な疾患で、私自身、過去の経験は10年以上前に遡る。当時は今回、使用した implant など存在せず、眼窩発達管理に大変、苦労したことを記憶している。しかし、稀少疾患ということは両親に対して、何の言い訳にもならない。疾患自体の知識だけではなく、管理法や装具など疾患周辺の情報についても適宜、アップデートしておく必要があると感じた次第である。

眼科新患患者数

	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	合計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
屈折異常		12	24	185	178	93	50	22	564
斜視及び疑い		13	39	144	104	54	20		374
未熟児網膜症	2	23	2	4	2	1			34
未熟眼底									
眼瞼疾患	2	7	20	61	64	33	13	2	202
涙器疾患		31	32	36	2	4			202
結膜疾患		3	6	10	4	1	2	1	27
角膜・強膜疾患	1	4	1	6	2	1		1	16
ブドウ膜疾患		3	1	7	7		1	1	20
網膜・硝子体疾患		3	8	8	8	3	1	1	32
水晶体疾患	4	16	1	13	14	12	2	1	63
眼窩疾患				1	1	1			3
遺伝性疾患						1	2		3
視神経及び視路の障害 (眼振他)		14	6	20	16	2	8	3	69
緑内障	2	4		3	4	1	2	5	21
外傷			1	4	1	1	3		10
症候群		2		2	2	2			8
心因性視力障害						4	1		5
腫瘍	1		1	1	1	1			5
その他	1			2	1	1	1		6
合計	13	135	142	507	411	216	106	37	1567

## 入院手術

	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	合計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
斜視	1	1	12	27	73	82	32	16	244
内反症				13	19	15	5	3	55
眼瞼下垂				2	5	1			8
眼瞼・眼窩疾患	2	3	1	1	8	1			16
結膜疾患(腫瘍)		1		1	1	1		1	5
角膜疾患									0
網膜疾患(腫瘍)						1			1
硝子体			3			1			4
鼻涙管閉鎖及び異常			5	5		1			11
眼瞼形成									0
緑内障	4	1	2					1	8
白内障	1	3	5	5	16	8	5	3	46
未熟児網膜症	4	4							8
眼球振盪症									0
外傷・検査・その他		1	5		1	3	1		11
合計	12	14	33	54	123	114	43	24	417

## 日帰り手術

	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	合計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
内反症			1	7	22	11	5		46
霰粒腫			3	11	10	3		1	28
斜視					4	1	4		9
その他								1	1
合計	0	0	4	18	36	15	9	2	84

## 特別検査・訓練患者数

屈折矯正・弱視・その他検査・訓練	371
視野検査	248
合計	619

## 実習生の受け入れ状況

学 校 名	実習生数	実習期間	実習場所
メディカル総合学園大阪医療専門学校 視能訓練士学科	4	3月7日～3月11日	眼科外来及び手術室
神戸総合医療介護福祉専門学校 視能訓練士学科	5	5月9日～5月31日	
大阪医療福祉専門学校 視能訓練士科	1	6月6日～7月6日	
九州保健大学 保健学部 視機能療法学科	2	6月9日～7月6日	

## 20. 耳鼻咽喉科

### 人事と概要

1月から8月まで兼任常勤医師1名、非常勤言語聴覚士1名の体制で外来診察、聴力検査、手術等を担当した。9月には常勤医師1名が加わった。

具体的には、2005年8月まで阪本浩一が県立加古川病院と兼任で週3回月・火・金曜の外来を担当した。9月に大津雅秀が科長として着任し、引き続き週2日外来出務する阪本と協力して外来体制を整備した。外来診療体制を見直し、手術日の水曜日を除く週4日外来を開く体制となった。医師不在日がなくなったことにより、院内他科や病棟、救急外来からの対診依頼、関連医療機関からの診療依頼に終日対応できるようになった。また一時期3ヶ月近くあった外来初診予約待ちが解消されつつある。

手術は火曜日の日帰り手術を中心に、スタッフの増員により徐々に入院全身麻酔手術が増えてきており、現在約3ヶ月待ちの状態である。

非常勤の言語聴覚士の穴川英美が週5日の乳幼児聴力検査、言語外来および週1回の補聴器外来を担当した。2006年度には懸案だった言語聴覚士の常勤化がなされる予定である。

### 診療内容充実への取り組み

#### 1. 外来診療

新患の内訳としては、例年同様、急性中耳炎、反復性中耳炎、滲出性中耳炎、鼻アレルギーなどが多い。新生児聴覚スクリーニングの普及とともに先天性難聴を疑われた症例や、マスコミ報道の影響でいびきや睡眠時無呼吸の症例も増加してきている。難聴や精神発達遅滞、自閉症を背景とした言葉の遅れが多いのも従来と同様である。言語聴覚士の週5日勤務によりによって言語発達遅滞、構音障害症例に対してより密度の濃い診療が可能となった。補聴器外来を週1日行っているが、対象患者増により予約が取りにくい状況になっている。

#### 2. 手術

現在、日帰り手術では滲出性中耳炎に対する鼓膜チューブ挿入術が最も多く、口唇粘液貯留嚢胞摘出、先天性耳ろう孔摘出術など。

入院手術は、年少児の重症睡眠時無呼吸症候群に対する扁桃摘出、アデノイド切除術が中心で、先天性嚢胞性疾患などが続く。特に前者は周術期の呼吸管理が重要であり、麻酔科各医師とHCU看護スタッフの多大の協力に支えられている。いびきのみで症状が軽度の単純性の扁桃肥大は手術予定が入りにくい状況である。

#### 3. 診療内容充実への取り組み、地域連携への取り組み

今年度に導入された ASSR (聴性定常反応) 装置は、ABR とともに乳幼児他覚的聴力検査として頻用 (合計 370件) され、聴力閾値の推定に活用されている。また補聴器特性測定装置は週1回の補聴器外来で活用され年間約150件の補聴器適合検査を行った。

睡眠時無呼吸に対する2台の携帯式アプノモニターは検査約4ヶ月間待ちの状況であり、今後増設ないし短期入院での検査体制を考慮する必要がある。

医師2人 (うち1名は兼任) 体制となったが、現在は耳鼻科診療ユニットが1台しかない。増設を行ない外来の待ち時間短縮を図る必要性がある。

来年度懸案だった言語聴覚士の定数配置がなされる予定であるが、すでに非常勤とはいえ週5日フルタイムの体制下で遊戯聴力検査・純音聴力検査等あわせて1500件、言語療法600件、心理・発達検査120件に加えて上述の補聴器適合検査等を一人で総計4000件以上の検査を行っている。そのため検査や言語指導の予約が入りにくく患者様にご迷惑をおかけしています。今後嚙下障害などへの取り組みを行っていくためにも言語聴覚士の増員が是非とも必要である。

前年度に引き続いて兵庫難聴カンファレンスを当院で開催した。県内各聾学校、難聴児通園施設の教員、言語聴覚士と共同で、2ヶ月に1度のペースで、医療機関と療育機関との相互理解を図りつつ患児の指導について検討を行っている。

長期にわたる治療や経過観察が必要になる滲出性中耳炎、アレルギー性鼻炎、慢性副鼻腔炎の症例を中心に、地域医療機関の先生方と連絡を取って患者紹介を行ない、病診連携を進めた。

## 手術

### 入院手術

両口蓋扁桃摘出	13
アデノイド切除術	10
鼓膜形成術	1
舌小帯形成術	1
正中顎のう胞摘出術	3
鼻涙管チューブ挿入術	10(眼科と共同)

### 日帰り手術

鼓膜チューブ挿入術	25
鼓膜チューブ抜去術	15
鼓膜レーザー開窓術	10
鼓膜穿孔閉鎖術	3
咽頭異物摘出術	2
下口唇のう胞摘出	2
舌小帯形成術	1
舌腫瘍切除術	1
先天性耳ろう孔摘出術	1
鼻涙管チューブ抜去術	10(眼科と共同)



2005年耳鼻咽喉科初診外来患者数（紹介元内訳） 初診時の疑い含む診断名

病 名	症例数	院 内	耳鼻科	小児科	産 科	検 診	な し
言語発達遅滞	34	14	7	5		6	1
構音障害	10	5	2	2		1	
難聴	192	52	75	10	19	27	9
心因性難聴	4	1	3				
慢性中耳炎	1		1				
急性中耳炎	34	33	1				
滲出性中耳炎	101	26	50	12		4	7
外傷性鼓膜穿孔	3		3				
外耳道外傷	1	1					
耳垢塞栓	20	18			1		1
外耳炎	6	5					1
小耳症	13	5	5	2	1		
先天性耳ろう孔	6		1	3		1	1
外耳道閉鎖症	3	2	1				
耳介腫瘍	2	2					
外耳道異物	2	1	1				
めまい	3	2		1			
側頭骨骨折	1		1				
顔面神経麻痺	5	2	1	2			
アレルギー性鼻炎	9	8	1				
副鼻腔炎	16	12	3	1			
鼻出血	8	7	1				
鼻異物							
外鼻奇形	1		1				
鼻骨骨折	2		2				
舌小帯短縮症	3	1		1		1	
下口唇粘液嚢胞	7		2	5			
アデノイド肥大	5	1	4				
扁桃肥大	9	3	5	1			
慢性扁桃炎	6	2	1	3			
睡眠時無呼吸	44	14	19	5			6
咽頭異物	5	1	3	1			
咽頭外傷	1		1				
口腔咽頭腫瘍	4	2	2				
がま腫	1		1				
唾石	3		3				
耳下腺腫瘍	2		1	1			
喉頭外傷	1	1					
咽頭喉頭炎	1	1					
喉頭軟化症	16	12	1	2	1		
反回神経麻痺	13	12	1				
声帯結節、ポリープ	8	4		1	1		2
嚥下障害	8	6	1	1			
気管内肉芽	4	4					
唾液腺炎	2	1	1				
頸部リンパ節炎	7	2	3	2			
正中頸嚢胞	3		2	1			
リンパ管腫	1		1				
下咽頭梨状瘻	1			1			
合 計	632	263	212	63	23	40	28

## 平成17年度 (耳鼻咽喉科 言語聴覚外来)

検 査	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	(計)
気導純音聴力検査	7	2	12	12	4	7	6	14	2	4	6	9	85
簡易聴力検査													0
標準純音聴力検査	6	7	12	8	7	5	16	23	5	7	5	12	113
標準語音聴力検査		1			1				1	7	1	5	16
遊戯聴力検査	76	78	78	61	86	74	52	55	67	55	73	62	817
誘発耳音響放射(EOAE)	11	20	20	17	16	17	2	11	9	14	3	1	141
結合音耳音響放射(DPOAE)	48	49	65	41	40	71	100	98	50	38	44	33	677
聴性誘発反応検査	29	34	36	22	33	28	37	34	27	32	36	24	372
内耳機能検査		2				1							3
ティンパノメトリー	38	52	70	35	53	88	107	143	68	56	94	82	886
耳小骨筋反射								1				1	2
補聴器適合検査1回目	8	4	4	8			2	5	1	5	5	4	46
補聴器適合検査2回目以降	4	10	8	13	18	10	5	7	9	8	8	13	113
音声機能検査	2	1	3	1		1	3	4	5		4	1	25
発達及び知能検査 容易	8	4	4	5	6	14	17	6	6	5	5	2	82
発達及び知能検査 複雑	6	2	2	7	3	5	1	6	7	7		1	47
心理検査 極複雑													0
言語聴覚療法	98	91	103	49	57	60	76	7	63	43	46	40	733
( 計 )	341	357	417	279	324	381	424	414	320	281	330	290	4158

## 21. 泌尿器科

2005年度の泌尿器科における人事異動では3月に渡邊仁人が関西医科大学附属男山病院への赴任と、4月に高木志寿子の大阪医科大学付属病院からの着任があった。現在当科では泌尿器科指導医一名、専門医三名による診療体制が可能となっている。高度尿道下裂や複雑な尿路変更を必要とする症例等、他院で治療困難と判断され遠方の病院からの依頼で治療を行うケースが増加しており、一般泌尿器科医には対応困難な小児泌尿器科領域における高度専門医療のニーズに応えられるよう引き続き充実した医療体制で臨みたい。

今年度は2004年度を中心に行った膀胱尿管逆流症の内視鏡的治療である Deflux の臨床治験の短期成績が明らかとなり、当院における尿管拡張を伴わない軽度 VUR では欧米での報告と同じく75%の有効性があった。従来より内視鏡的治療に用いられている GAX コラーゲンでは体内で吸収されてしまうために長期成績が悪いことが問題であったが、Deflux は長期にわたり吸収されにくいことが特徴とされ、欧米では軽度 VUR 治療のスタンダードとなりつつある。Deflux が本邦において認可された場合、開腹手術に代わる低侵襲治療として急速に普及が進む可能性があると思われ、当科においても積極的に普及に努めていきたい。

### 日帰り手術

停 留 精 巢	精巢固定術	88
	精巢摘出術 (vanishing testis)	20
陰 の う 水 腫	herniorrhaphy	19
包 茎	環状切除術	6
か ん と ん 包 茎	背面切開術	2
埋 没 陰 茎	陰茎形成術	12
外 尿 道 口 狭 窄	外尿道口切開術	1
外尿道口のう腫・陰茎縫線のう腫	摘出術	6
尿 道 下 裂 術 後 尿 道 皮 膚 ろ う	ろう孔閉鎖術	11
水 腎 症	DJ カテーテル抜去	13
尿 道 狭 窄 ・ 血 尿 ・ 排 尿 困 難 な ど	膀胱鏡・逆行性尿管造影	9
前 置 陰 嚢	陰嚢形成術	1
尿 道 狭 窄	レーザー切開術	1
そ の 他		4
手術件数合計		193

### 入院手術

#### 尿路系

膀 胱 尿 管 逆 流 症	逆流防止術	44
巨 大 尿 管	尿管形成+膀胱尿管新吻合術	1
水 腎 症	腎盂形成術	20
	DJ カテーテル挿入・抜去	2
	腎ろう増設術	1
異所性尿管瘤・重複腎盂尿管など	腎盂尿管吻合術	3
	尿管形成+膀胱尿管新吻合術	3
	尿管瘤レーザー切開	1
	上半腎摘除術	4
無機能腎・異所開口尿管+低形成腎など	腎摘除術	3
神 経 因 性 膀 胱	腸管利用膀胱拡大術	1
後 部 尿 道 弁	内視鏡的切開術	4
尿 道 狭 窄	内視鏡的切開術 (レーザー含む)	3
	バルーンカテーテル留置	1
副 尿 道	副尿道摘除術	1
尿 道 狭 窄 ・ 女 性 仮 性 半 陰 陽 な ど	膀胱鏡検査	5
腎 不 全 ・ 腎 腫 瘍	開放腎生検	2
総 排 泄 腔 症 ・ 膀 胱 外 反 症	膀胱閉鎖術	3
尿 失 禁	内視鏡的コラーゲン注入	3
手術件数合計		105

## 性器系

尿道下裂	一期的根治術	57
	口腔粘膜利用尿道形成術	3
	下裂術後尿道形成術	3
	下裂術後ろう孔閉鎖術	4
埋没陰茎・屈曲陰茎	陰茎形成術	3
二分陰のう・前置陰のう	陰のう形成術	4
精巣留精	精巣固定術	41
	精巣摘出術 (vanishing testis)	7
	腹腔鏡検査 (性腺摘除含む)	2
	腹腔鏡下精巣固定術 F-S 一期	2
	腹腔鏡下精巣固定術 F-S 二期	2
精索静脈瘤	精巣血管低位結紮術	2
陰の水腫	herniorrhaphy	3
女性仮性半陰陽	外陰形成術	3
尿道脱	尿道脱切除術	1
包茎・かんとん包茎	包皮背面切開・環状切除術	2
	精巣捻転	修復固定術
精巣捻転	精巣摘除術	1
	陰嚢外傷	縫合
インターセックス	腹腔鏡	2
手術件数合計		144

## 22. 小児歯科

人事面の異動はなく、常勤歯科医師一名の体制で診療を担当している。

全身疾患を有する患児や心身障害児の齲蝕予防・治療を行うことが大きな診療の柱となっていることに変化はない。

唇顎口蓋裂児の術前顎矯正に関して、形成外科と共同で、矯正歯科的なアプローチによる新しい治療法を試みている。従来から行われている術前顎矯正法と比較して、治療の予知性が高く概ね良好な治療結果が得られている。今後は形成外科とより緊密な連携を取りながら、対外的にもアピールしていきたいと考えている。

また、摂食嚥下障害児の指導・訓練を毎月非常勤医（歯科医師）により実施しているが、受診する患者の質、数ともに、非常勤歯科医師一名では対応できる状況ではなくなっている。他科と情報を共有できるような集学的な連携が必要と考えている。

新患内訳		院内紹介	院外紹介		紹介なし	計
			歯科	医科		
小児歯科関連	口腔内検診希望	99	3	0	1	103
	齲蝕	38	26	5	6	75
	乳歯晚期残存	10	3	0	5	18
	先天性歯	0	1	1	0	2
	その他	1	0	1	1	3
矯正歯科関連	不正咬合	9	4	0	0	13
	術前顎矯正	9	0	0	0	9
	その他	1	0	0	0	1
口腔外科関連	外傷	6	5	1	6	18
	小帯異常	1	2	2	0	5
	埋伏歯	1	0	1	0	2
	その他	6	5	4	0	15
摂食嚥下障害		17	2	1	0	20
計		198	51	16	19	284

全身麻酔下処置	歯科単独	他科合同	計
入院手術	3	12	15
外来手術	40	5	45
計	43	17	60

## 23. 麻酔科

### 1. 人事異動

神戸大学関連では当院に7年間勤務した阪井医師が開業のため退職した。

香川大学からは佐野医師の代わりに澤登医師に、大阪医大からは荘園医師の代わりに土居医師に、それぞれ6ヶ月間研修に来ていただいた。しかしながら各大学とも後任を派遣することはできず、全国的な麻酔科医不足を反映していると思われる。当院は後任医師の確保のため学会や麻酔関連雑誌にて公募を行い、幸いにも、福岡徳州会病院から三浦医師、小倉記念病院から池島医師、熊本大学病院から吉村医師、の3名に来ていただくことができた。スムーズに後任が決まった理由として、小児麻酔という特殊な領域を研修したいという医師が潜在的にはいること、麻酔医が集まっているところには麻酔医が集まってくる可能性があること、そして病院には麻酔科医の人事にフレキシブルに対応していただいたこと、などの要素が関与していると考えられた。

ほか、短期研修として富永医師（小児科）および数名の見学医を迎えた。

2006年1月の時点では香川、鈴木、高辻、大西、魚川、三浦、栗原、西山、池島、吉村に村田部長を加えた11名で業務を行っている。

### 2. 活動状況と反省

2004年から開始した病棟麻酔サービスは2005年には360件となり患者サービスとして定着した。これを年間麻酔件数に組み入れたことにより本年の総麻酔件数は4476件となり、件数は毎年増加している。これに対し、看護部や外科系各科からは様々な協力をいただいたことにこの場を借りて感謝を申し上げたい。

2005年3月からは、手術室前の診察室で麻酔科術前診察を開始した。入院の際に麻酔科診察を完了することができるようになった。これに伴う利点として、入院後の麻酔科医の診察により手術がキャンセルとなることが減ったこと、親が麻酔科医の訪問を病棟で待つことがなくなったこと、があげられるが、患者の動線や診察の準備などの点で改善の余地があると考えている。

### 3. 展望

多くの件数を抱える一方で、安全かつ快適に手術・麻酔を行うことは大命題である。麻酔科医の教育や知識技術の向上、麻酔業務の効率化、そして麻酔科医の確保により手術件数の増加に対応したい。とくに麻酔科医の確保は今後も重要な課題となるが、各大学との関係を保つとともに積極的に公募を行い、小児麻酔を志願するものに来ていただけるようにしたい。

総麻酔件数（2005年）

4476件
-------

入院区分による内訳

入院手術・検査の麻酔	3014
日帰り手術の麻酔	1102
病棟麻酔サービス	360
計	4476

麻酔法による内訳

全身麻酔 (伝達麻酔や硬膜外麻酔を併用したものを含む)	4221
脊椎麻酔	254
その他（単独での硬膜外麻酔など）	1
計	4476

麻酔業務の場所による内訳

手術室	2603
日帰り手術棟	1102
検査室（血管造影室、透視室など）	402
病棟（ICU、産科病棟、他）	369
計	4476

診療科別内訳

	手術室 他	日帰り棟	病棟麻酔	科別計
外科	782	447	3	1232
心臓外科	312	2		314
循環器内科	340			340
脳神経外科	202		4	206
泌尿器科	239	191		430
整形外科	185	39	1	225
眼科	408	174		582
耳鼻科	18	49		67
形成外科	237	156	33	426
歯科	3	44		47
放射線科	2			2
産科	270			270
内科	16		319	335
計	3014	1102	360	4476

年齢別内訳

～1ヶ月	101
～12ヶ月	896
～5歳	1888
～18歳	1291
～49歳	300
計	4476

## 24. 新生児科

### 1. 医師の異動

勤務医師の交替が多い一年であった。研修制度の変更にもない、今後も医師の交替は繰り返される事が予想され、研修体制と診療体制の充実を図る良い契機としたい。常勤医は7名の枠を満たすことが困難であった。吉形、溝淵、芳本、中尾は引き続き在任した。石川 依子が県立淡路病院へ、橋本 崇が聖マリア病院へ4月に転任した。両名とも新生児科医としての、十分な経験を重ねた後の旅立ちであり、新任地での活躍が期待される。替わって、神戸大学より柄川 剛が着任した。研修のため派遣されていた小幡 岳が4月に兵庫医科大学へ、高橋 理子が岡山大学に帰任した。両名とも今後の医療施設間の降雨隆を深める大きな役割を担ってくれそうで、期待するところが大きい。岡山大学からは替わって、赤堀洋一郎が研修を開始した。院内の専攻医は、千田麻里子、笠井和子、森雅樹、小林真之、福島雅子と所属した。本年度からの新しい試みである初期臨床研修医も各2ヶ月ずつ在任し、新たな息吹を供給してくれ、我々も得るところが大きかった。研修体制の充実に向け、常勤医の確保は喫緊の課題となっている。

### 2. 診療活動

新生児病棟は重症児、長期入院児が引き続き多く、業務は上限を超えつつある。

医療の安全には充分留意して、全員の意志疎通を計り、患児の最善の利益が尊重できる診療行為の遂行に勤めている。入院患児の重症化を反映して、在宅患児を対象とする外来業務も重症児の管理が増加するため、担当医の負担はますます大きくなる。他の医療機関との連携、役割分担の相互理解も引き続き重要な案件である。集学的治療を要する重症児の診療については、関連各科の御理解と御協力をいただき、厚く感謝するところである。

### 3. 学会活動

課題となっている、前方視的臨床研究の成果も全国学会で発表する機会が増加した。また、海外の学会でも研究成果や臨床成績を示すことができ、各科員のたゆまぬ研鑽を外部にも発信していく目標の一端を果たせた。



2005年新生児科統計

・ 新生児病棟統計

1) 月別入院数

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
55	38	47	53	48	57	54	66	53	50	53	53	627

2) 診療科別入院数

新生児科入院	616	新生児科からの転科	46
他科入院	11	一般外科	9
一般外科	5	循環器内科	29
脳神経外科	5	脳神経外科	6
循環器内科	1	代謝内分泌科	2

3) 入院形態

	神戸	阪神南	阪神北	東播磨	中播磨	西播磨	北播磨	淡路	丹波	但馬	県外	
院外出生	226	128	42	10	21	6	1	5	1	1	4	7
一次搬送	190	121	36	9	18	1	0	5		0	0	0
(14日以上)	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
二次搬送	36	7	6	1	3	5	1	0	1	1	4	7
院内出生	401	307	17	11	25	10	0	7	10	4	2	8
緊急母体	160	107	13	7	16	2	0	2	7	2	1	3
非緊急母体	228	187	4	4	9	8	0	5	3	2	1	5
院内出生	13	13										
日齢14未満一次搬送+院内出生	588	425	53	20	43	11	0	12	10	4	2	8

a) 院内出生と院外出生(日齢14未満一次搬送+院内出生)

出生体重	患者数	院内	率	帰院	週数	患者数	院内	率	帰院
500g未満	2	2	100%	0	22, 23	3	3	100%	0
500~749g	17	17	100%	0	24, 25	11	11	100%	0
750~999g	16	15	94%	0	26, 27	13	13	100%	0
1,000~1,499g	70	66	94.3%	0	28, 29	27	26	96%	0
1,500~1,999g	108	91	84.3%	1	30, 31	44	41	93.2%	0
2,000~2,499g	153	110	71.9%	12	32, 33	69	58	84.1%	0
2,500g以上	222	100	45.0%	20	34~36	181	142	78.5%	7
計	588	401	68.2%	33	37~	240	107	44.6%	26
					計	588	401	68.2%	33

b) 分娩方法

出生体重	患者数	帝切例	率	週数	患者数	帝切例	率
500g未満	2	2	100%	22, 23	3	1	33.3%
500~749g	17	14	82.4%	24, 25	11	10	90.9%
750~999g	16	14	87.5%	26, 27	13	12	92%
1,000~1,499g	70	63	90.0%	28, 29	27	25	92.6%
1,500~1,999g	108	83	76.9%	30, 31	44	36	81.8%
2,000~2,499g	153	113	73.9%	32, 33	69	54	78.3%
2,500g以上	222	99	44.6%	34~36	181	145	80.1%
計	588	388	66.0%	37~	240	105	43.8%
				計	588	388	66.0%

## II. 新生児科統計

対象：新生児科入院（日齢14未満一次搬送入院及び院内出生症例，転科例を含む）

## 1) 生存率，死亡率

出生体重	患者数	死亡数	生存率
500 g 未満	2	2	0.0%
500 ~ 749 g	17	1	94.1%
750 ~ 999 g	16	0	100%
1,000 ~ 1,499 g	70	5	92.9%
1,500 ~ 1,999 g	108	2	98.1%
2,000 ~ 2,499 g	153	4	97.4%
2,500 g 以上	220	0	100%
計	586	14	97.6%

週数	患者数	死亡数	生存率
22, 23	3	1	66.7%
24, 25	11	1	90.9%
26, 27	13	1	92.3%
28, 29	27	1	96.3%
30, 31	44	2	95.5%
32, 33	69	2	97.1%
34 ~ 36	181	4	97.8%
37 ~	238	2	99.2%
計	586	14	97.6%

## 2) 多胎割合（品胎3組）

出生体重	患者数	多胎	率	品胎
500 g 未満	2	1	50.0%	0
500 ~ 749 g	17	2	11.8%	0
750 ~ 999 g	16	5	31.3%	0
1,000 ~ 1,499 g	70	26	37.1%	5
1,500 ~ 1,999 g	108	44	40.7%	3
2,000 ~ 2,499 g	153	57	37.3%	1
2,500 g 以上	220	12	5.5%	0
計	586	147	25.1%	9

週数	患者数	多胎	率	品胎
22, 23	3	0	0.0%	0
24, 25	11	1	9.1%	0
26, 27	13	6	46.2%	0
28, 29	27	11	40.7%	0
30, 31	44	16	36.4%	6
32, 33	69	29	42.0%	3
34 ~ 36	181	54	29.8%	0
37 ~	238	30	12.6%	0
計	586	147	25.1%	9

## 3) 人工呼吸管理の割合

出生体重	患者数	MV	率	HFO	CPAP
500 g 未満	2	2	100%	1	0
500 ~ 749 g	17	17	100%	4	14
750 ~ 999 g	16	15	93.8%	3	15
1,000 ~ 1,499 g	70	31	44.3%	1	40
1,500 ~ 1,999 g	108	15	13.9%	0	24
2,000 ~ 2,499 g	153	27	17.6%	1	18
2,500 g 以上	220	32	14.5%	5	15
計	586	139	23.7%	15	126

週数	患者数	MV	率	HFO	CPAP
22, 23	3	3	100%	0	2
24, 25	11	11	100%	3	8
26, 27	13	13	100%	5	11
28, 29	27	20	74%	1	23
30, 31	44	20	45.5%	1	25
32, 33	69	14	20.3%	0	22
34 ~ 36	181	21	11.6%	1	19
37 ~	238	37	15.5%	4	16
計	586	139	23.7%	15	126

## 4) 特殊治療

PDA 結紮術	8 例	DEX	20例
NO 吸入療法	5 例	steroid 吸入	21例
ECMO	2 例	ROP レーザー	1 例

## 5) 新生児搬送出動回数：79回

入院	76	分娩立合い	10
転院	3	時間外搬送	33

## 6) 双胎生存率，死亡率

出生体重	患者数	死亡数	生存率
500 g 未満	1	1	0.0%
500 ~ 749 g	2	0	100%
750 ~ 999 g	5	0	100%
1,000 ~ 1,499 g	21	1	95%
1,500 ~ 1,999 g	41	1	98%
2,000 ~ 2,499 g	56	1	98%
2,500 g 以上	12	0	100%
計	138	4	97.1%

週数	患者数	死亡数	生存率
22, 23	0	0	
24, 25	1	0	100%
26, 27	6	1	83.3%
28, 29	11	1	91%
30, 31	10	0	100%
32, 33	26	1	96%
34 ~ 36	54	1	98%
37 ~	30	0	100%
計	138	4	97.1%

## 25. 産 科

本年は、母体胎児集中治療管理室開設工事をおこない、5月より開設した。また母児同室体制の推進のために産科新生児室を改修し、5床分の母児同室を可能にした。

あいかわらず、緊急母体搬送依頼285件のうち受入れ可能であったのは165件（受入れ率：58%）と前年より改善することはなかった。受入れ不能理由のなかで産科満床が33%から56%へ急増した。県内の2次産科病院の相次ぐ閉鎖による可能性が考えられ、県内周産期システムの見直しと周産期医療センターの緊急搬送受入れ容量を早急に増大させる必要があると考えられる。

母体胎児集中治療管理室は98%の稼働率であったが、母体胎児集中治療管理室室料加算請求可能期限の2週間を超えて収容しなければならないハイリスク妊婦があり、その調整に苦勞させられた。しかし、母体胎児集中治療管理室における密度の高い治療が功を奏したのか、本年の1000g未満出生体重児数は16年の59人から42人に減少した。

7月に新谷医師が県立淡路病院へ転勤したが、その補充医師を大学医局から獲得するにあたっては大いに難渋させられた。結局常勤の補充医師が確保することができず、とりあえずは日々雇用の医師の短期間交代制で対応することとなった。当産科の勤務拘束時間が他の病院よりも長いこと、取り扱い疾患のリスク度が高くストレスの多い勤務であること、それに比して給与面などの待遇が悪いことなどが、若手医師に敬遠される原因である。

産科勤務医師の待遇改善なくして今後の周産期医療は成り立たないことをまざまざと実感させられた年であった。

### (1) 平成17年産科診療状況

延べ入院患者数	533
うち母体搬送依頼電話によるもの	271
紹介元へ返送または他院紹介	180
分娩母体数（22週以降）	350
正期産	108
早産	242
過期産児	0
多胎妊娠	67
うち双胎	65
うち品胎	2
うち要胎	0
経膈分娩	89
うち鉗子・吸引分娩	14
うち骨盤位牽出術	5
帝王切開術	261
出産児数（22週以降）	418
正期産児	114
早産児	304
過期産児	0
低出生体重児（2500g未満）	310
巨大児（4000g以上）	0
その他	4
流産	2
子宮外妊娠	0
産後出血・DIC	2

### (2) 依頼施設所在地別受信件数

大分類	地区	件数	率	大分類	地区	件数	率
阪神南	尼崎市	8	2%	中播磨	姫路市	15	3%
	西宮市	20	4%		飾磨郡	0	0%
	芦屋市	8	2%		神崎郡	1	0%
	小計	36	7%		小計	16	3%
阪神北	宝塚市	3	1%	西播磨	相生市	0	0%
	三田市	3	1%		龍野市	0	0%
	川西市	10	2%		赤穂市	0	0%
	伊丹市	1	0%		揖保郡	0	0%
	川辺郡	0	0%		赤穂郡	0	0%
	小計	17	3%		佐用郡	0	0%
神戸市	須磨区	74	14%	但馬	宍粟郡	0	0%
	中央区	78	15%		小計	0	0%
	西区	58	11%		豊岡市	3	1%
	垂水区	43	8%		城崎郡	0	0%
	灘区	23	4%		出石郡	0	0%
	東灘区	10	2%		美方郡	0	0%
	北区	29	5%		養父市	2	0%
	兵庫区	3	1%		朝来郡	0	0%
	長田区	14	3%		小計	5	1%
	小計	332	62%		篠山市	2	0%
東播磨	明石市	44	8%	丹波	丹波市	0	0%
	加古川市	7	1%	小計	2	0%	
	高砂市	6	1%	淡路	洲本市	10	2%
	加古郡	1	0%		津名郡	0	0%
小計	58	11%	南あわじ市		1	0%	
北播磨	西脇市	4	1%	小計	11	2%	
	三木市	2	0%	他府県	大阪府	4	1%
	小野市	21	4%		京都府	0	0%
	加西市	1	0%		奈良県	1	0%
	美嚨郡	0	0%		和歌山県	0	0%
	加東郡	0	0%		滋賀県	0	0%
	多可郡	1	0%		他	9	2%
	小計	29	5%		小計	14	3%
			院内紹介		11	2%	
			計	533	100%		

(3) 疾患別 (重複あり)

疾患名	件数	率
切迫早産	230	38%
他科合併症	17	3%
多胎	103	17%
うち双胎	97	16%
うち品胎	6	1%
羊水検査	59	10%
前期破水	61	10%
子宮内胎児発育遅延	93	16%
羊水過多・過少	76	13%
妊娠中毒症	48	8%
胎位異常	36	6%
既往帝王切開	61	10%
胎児異常	108	18%
切迫流産	20	3%
胎児奇形	98	16%
胎児仮死	84	14%
子宮筋腫合併	12	2%
他感染症	12	2%
子宮内胎児死亡	15	3%
糖尿病合併	8	1%
前置胎盤	18	3%
甲状腺疾患合併	8	1%
胎盤早期剥離	17	3%
心疾患合併	3	1%
産後出血・DIC	2	0%
ウイルス性肝炎	7	1%
自然流産	2	0%
T T T S	7	1%
胎児不整脈	9	2%
膠原病合併	2	0%
discordant twins	20	3%
胎盤機能不全	2	0%
子宮外妊娠	0	0%
子宮奇形	5	1%
その他	23	4%
計	1369	229%

入院母体 1 人あたり平均2.5件の疾患を有す。

(4) 入院時間帯

時間帯	件数	率
時間内	398	75%
平日日勤帯	398	75%
時間外	135	25%
休日日勤帯	39	7%
全日夜勤帯	96	18%
計	533	100%

(5) 分娩時間帯 (22週以降)

時間帯	件数	率
時間内	216	62%
平日日勤帯	216	62%
時間外	134	38%
休日日勤帯	36	10%
全日夜勤帯	98	28%
計	350	100%

(6) 帝王切開時間帯

時間帯	件数	率
時間内	193	74%
平日日勤帯	193	74%
時間外	68	26%
休日日勤帯	26	10%
全日夜勤帯	42	16%
計	261	100%

(7) 出生時体重(児)(22週以降)

児体重	件数	率	累積率
~ 499 g	7	2%	2%
~ 999 g	35	8%	10%
~ 1499 g	68	16%	26%
~ 1999 g	92	22%	48%
~ 2499 g	113	27%	75%
~ 2999 g	63	15%	90%
~ 3499 g	32	8%	98%
3500 g ~	8	2%	100%
計	418	100%	
平均		1997 g	

(8) 入院時妊娠週数 (母)

週数	件数	率	累積率
~ 21週	96	18%	18%
22~ 24週	36	7%	25%
25~ 28週	85	16%	41%
29~ 32週	115	22%	62%
33~ 36週	111	21%	83%
37週~	88	17%	100%
産後	2	0%	100%
非妊娠	0	0%	100%
計	533	100%	

(9) 分娩時妊娠週数 (母)

週数	件数	率	累積率
~ 21週	2	1%	1%
22~ 24週	10	3%	3%
25~ 28週	27	8%	11%
29~ 32週	64	18%	29%
33~ 36週	141	40%	69%
37~ 41週	108	31%	100%
42週~	0	0%	100%
計	352	100%	

(10) 妊娠延長期間 (母)

(入院から22週以降の分娩まで)

延長期間	件数	率	累積率
当日	92	26%	26%
~ 1日	53	15%	41%
~ 1週間	67	19%	61%
~ 2週間	31	9%	69%
~ 4週間	37	11%	80%
~ 8週間	43	12%	92%
~ 12週間	22	6%	99%
12週間~	5	1%	100%
計	350	100%	
平均	14.8日間		

(11) バックトランスファー

(紹介元医へ戻す)

および他院紹介件数

	件数
外来患者	130
入院患者	50
計	180

(12) 緊急母体搬送依頼電話受信状況

月	依頼件数	受け入れ不可件数	受け入れ不可率
1	17	7	41%
2	18	12	67%
3	22	7	32%
4	24	3	13%
5	24	11	46%
6	20	6	30%
7	36	19	53%
8	26	13	50%
9	22	4	18%
10	22	12	55%
11	22	11	50%
12	32	15	47%
計	285	120	42%

## (13) 年次別受け入れ不可状況

年	依頼件数	受け入れ不可件数	受け入れ不可率	備 考
平成6年	66	12	18%	10月開設 (22床)
平成7年	240	38	16%	阪神・淡路大震災
平成8年	312	76	24%	
平成9年	340	111	33%	
平成10年	324	105	32%	
平成11年	326	55	17%	フルオープン (32床)
平成12年	362	100	28%	総合周産期センターに指定
平成13年	328	60	18%	
平成14年	394	110	28%	
平成15年	367	140	38%	
平成16年	298	126	42%	
平成17年	285	120	42%	MFICU 6床整備

## (14) 依頼施設所在地別受信件数

大分類	地区	件数	率	大分類	地区	件数	率
阪神南	尼崎市	2	1%	中播磨	姫路市	4	1%
	西宮市	33	12%		飾磨郡	0	0%
	芦屋市	5	2%		神崎郡	0	0%
	小計	40	14%		小計	4	1%
阪神北	宝塚市	5	2%	西播磨	相生市	0	0%
	三田市	0	0%		龍野市	0	0%
	川西市	6	2%		赤穂市	0	0%
	伊丹市	2	1%		揖保郡	0	0%
	川辺郡	0	0%		赤穂郡	0	0%
	小計	13	5%		佐用郡	0	0%
神戸市	須磨区	46	16%	但馬	宍粟郡	0	0%
	中央区	26	9%		小計	0	0%
	西区	18	6%		豊岡市	1	0%
	垂水区	27	9%		城崎郡	0	0%
	灘区	14	5%		出石郡	0	0%
	東灘区	9	3%		美方郡	0	0%
	北区	17	6%		養父市	2	1%
	兵庫区	0	0%		朝来郡	0	0%
	長田区	13	5%		小計	3	1%
	小計	170	60%		篠山市	0	0%
東播磨	明石市	30	11%	丹波	丹波市	0	0%
	加古川市	2	1%	小計	0	0%	
	高砂市	1	0%	洲本市	4	1%	
	加古郡	0	0%	津名郡	0	0%	
	小計	33	12%	南あわじ市	2	1%	
北播磨	西脇市	3	1%	小計	6	2%	
	三木市	0	0%	大阪府	2	1%	
	小野市	6	2%	京都府	1	0%	
	加西市	0	0%	奈良県	2	1%	
	美嚨郡	0	0%	和歌山県	0	0%	
	加東郡	0	0%	滋賀県	0	0%	
	多可郡	0	0%	他	2	1%	
	小計	9	3%	小計	7	2%	
計						285	100%

## (15) 依頼元施設種類別

施設種類	件数	率
総合周産期センター	3	1%
地域周産期センター	10	4%
一般病院	154	54%
診療所	108	38%
助産院	6	2%
消防隊	4	1%
他	0	0%
計	285	100%

## (16) 受信時刻

勤務帯	件数	率	
時間内	平日・日勤帯	128	45%
時間外	平日・夜勤帯	85	30%
	休日・日勤帯	37	13%
	休日・夜勤帯	30	11%
不明		5	2%
計		285	100%

## (17) 搬送理由 (重複あり)

搬送理由	件数	率
切迫早産	134	47%
前期破水	73	26%
妊娠中毒症	29	10%
IUGR	29	10%
多胎	26	9%
胎児仮死	18	6%
胎児異常	18	6%
既往帝切	15	5%
骨盤位	10	4%
前置胎盤	10	4%
切迫流産	8	3%
早期剥離	6	2%
出血多量	4	1%
難産	3	1%
他科合併症	2	1%
胎児死亡	2	1%
ショック	1	0%
胎児奇形	1	0%
子宮外妊娠	0	0%
その他	22	8%
計	410	144%

%は受診件数を100とした率

(18) 妊娠週数別

妊娠週数	件数	率
24週以前	43	15%
25～28週	75	26%
29～32週	69	24%
33～36週	67	24%
37～40週	22	8%
41週以降	0	0%
分娩後	7	2%
不明	2	1%
計	285	100%

(19) 受け入れ可否返事所要時間

所要時間	件数	累積率
～ 1 分	191	67%
～ 3 分	33	79%
～ 10 分	33	90%
～ 20 分	13	95%
～ 30 分	3	96%
30分を越える	2	96%
不明	10	100%
計	285	100%

(20) 受け入れ不可理由

理由	件数	率
NICU 満床	28	23%
産科 満床	67	56%
両方 満床	4	3%
対象外	7	6%
その他	14	12%
計	120	100%

(21) 受け入れ可能施設の紹介件数

紹介先	件数	率
神戸大学医学部付属病院	17	45%
神戸医療センター	7	18%
神戸市立中央市民病院	4	11%
済生会兵庫県病院	3	8%
加古川市民病院	3	8%
千船病院	2	5%
姫路赤十字病院	1	3%
兵庫医科大学	1	3%
計	38	100%

## 26. 検査・放射線部（放射線部門）

### 1 組織の変更について

平成17年4月より診療科の一部門である放射線科と診療放射線技師などの診療技術部門が診療部から分離し検査・放射線部として発足し検査部門・放射線部門として運営されることになった。

(検査・放射線部長 金川 公夫 検査技師長 重田 裕司 放射線技師長 田淵 仁春)

### 2 人事異動について（平成17年4月1日）

転入者氏名	転入者. 前所属	転出者氏名	転出者. 所属
田淵 仁春	県立西宮病院	佐藤 正明	退職
小林 信郎	県立姫路循環器病センター	宮野 安弘	県立塚口病院
小田 敏彦	県立西宮病院	北坂 佳之	県立姫路循環器病センター

### 3 機器・装置の更新・変更について

平成17年はなし。

周産期センター設立時の平成6年に設置したMRI，核医学検査、デジタルX線TV、リニアック、アンギオ装置など12年を超過し老朽化も目立ち日進月歩で進化する現代医療で適正な画像を提供することが困難に成りつつある。機器の更新は総ての診療科に関わる問題であり今後とも計画的な更新が望まれる。

### 4 学術活動など

各種学会については自己啓発や最新の知見を深めるためにも参加を奨励しているが、新年度の放射線関連学会が、人事異動期、学校の休み期間など小児病院の繁忙期と重なるため参加困難である。

県立病院で業務上の最新知識や技師としての勉強の機会として各種部会がその役割を担っており、部会への参加は可能な限り全員参加を追求している。

技師室内勉強会は第1・3水曜日に輪番で行なっているが、17年度末にプロジェクターを購入したのでプロジェクターの使用も視野に入れた勉強会を実施する。

## 平成17年 年報放射線検査業務状況

月		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年同月
区分															累計増減
単 純 撮 影	一般撮影	1,270	1,207	1,797	1,502	1,374	1,506	1,446	1,931	1,388	1,354	1,326	1,407	17,508	
	前年度	1,412	1,253	1,852	1,451	1,247	1,466	1,525	1,973	1,495	1,282	1,417	1,381	17,754	
	前年比 (%)	89.9	96.3	97.0	103.5	110.2	102.7	94.8	97.9	92.8	105.6	93.6	101.9	98.6	-246
撮 影	ポータブル	582	524	585	513	543	630	496	642	441	548	532	644	6,680	
	前年度	671	561	657	536	533	605	677	669	534	484	601	512	7,040	
	前年比 (%)	86.7	93.4	89.0	95.7	101.9	104.1	73.3	96.0	82.6	113.2	88.5	125.8	94.9	-360
撮 影		24	21	39	28	27	33	38	46	17	21	30	25	349	
	前年度	12	13	29	23	20	28	39	47	16	19	18	19	283	
	前年比 (%)	200.0	161.5	134.5	121.7	135.0	117.9	97.4	97.9	106.3	110.5	166.7	131.6	123.3	66
単純撮影合計		1,876	1,752	2,421	2,043	1,944	2,169	1,980	2,619	1,846	1,923	1,888	2,076	24,537	
前年度		2,095	1,827	2,538	2,010	1,800	2,099	2,241	2,689	2,045	1,785	2,036	1,912	25,077	
前年比 (%)		89.5	95.9	95.4	101.6	108.0	103.3	88.4	97.4	90.3	107.7	92.7	108.6	97.8	-540
造 影	消化器	33	18	31	32	37	27	33	29	26	38	29	32	365	
	前年度	25	30	27	25	16	18	35	29	26	22	26	34	313	
	前年比 (%)	132.0	60.0	114.8	128.0	231.3	150.0	94.3	100.0	100.0	172.7	111.5	94.1	116.6	52
撮 影	脳血管	1	0	1	1	0	0	1	2	5	0	0	0	11	
	前年度	0	0	1	2	0	1	4	2	2	0	5	1	18	
	前年比 (%)			100.0	50.0		0.0	25.0	100.0	250.0		0.0	0.0	61.1	-7
撮 影	心臓血管	27	25	30	29	28	35	25	38	30	34	29	30	360	
	前年度	33	26	41	33	24	32	25	32	32	26	30	26	360	
	前年比 (%)	81.8	96.2	73.2	87.9	116.7	109.4	100.0	118.8	93.8	130.8	96.7	115.4	100.0	0
撮 影	その他の血管	1	1	2	5	0	0	1	0	0	0	0	0	10	
	前年度	1	0	0	0	1	2	2	0	0	0	0	0	6	
	前年比 (%)	100.0				0.0	0.0	50.0						166.7	4
撮 影	泌尿器系	38	38	49	46	38	41	34	62	49	41	38	42	516	
	前年度	40	27	40	40	39	47	43	50	36	36	42	29	469	
	前年比 (%)	95.0	140.7	122.5	115.0	97.4	87.2	79.1	124.0	136.1	113.9	90.5	144.8	110.0	47
撮 影	その他の造影	4	5	4	3	4	2	3	7	1	1	3	3	40	
	前年度	2	6	7	2	0	3	3	2	2	5	6	7	45	
	前年比 (%)	200.0	83.3	57.1	150.0		66.7	100.0	350.0	50.0	20.0	50.0	42.9	88.9	-5
造影撮影合計		104	87	117	116	107	105	97	138	111	114	99	107	1,302	
前年度		101	89	116	102	80	103	112	115	98	89	109	97	1,211	
前年比 (%)		103.0	97.8	100.9	113.7	133.8	101.9	86.6	120.0	113.3	128.1	90.8	110.3	107.5	91
C T 撮影		159	140	221	152	200	173	187	177	179	180	182	172	2,122	
前年度		120	165	174	130	121	162	182	185	170	168	145	172	1,894	
前年比 (%)		132.5	84.8	127.0	116.9	165.3	106.8	102.7	95.7	105.3	107.1	125.5	100.0	112.0	228
M R I 検査		110	103	139	137	104	126	117	147	133	131	127	109	1,483	
前年度		123	118	142	123	112	121	121	135	124	95	131	131	1,353	
前年比 (%)		89.4	87.3	97.9	111.4	92.9	104.1	96.7	108.9	107.3	137.9	96.9	83.2	109.6	130
核医学検査		32	29	43	35	27	27	55	86	36	32	26	34	462	
前年度		42	31	45	26	23	31	48	83	44	34	37	28	472	
前年比 (%)		76.2	93.5	95.6	134.6	117.4	87.1	114.6	103.6	81.8	94.1	70.3	121.4	97.9	-10
放射線治療		1	26	53	19	20	21	36	5	32	45	49	14	321	
前年度		22	39	33	17	19	54	45	48	69	45	28	18	437	
前年比 (%)		4.5	66.7	160.6	111.8	105.3	38.9	80.0	10.4	46.4	100.0	175.0	77.8	73.5	-116
超音波検査		268	226	334	250	258	280	321	405	270	268	256	240	3,376	
前年度		275	237	352	319	239	265	313	390	251	240	266	253	3,400	
前年比 (%)		97.5	95.4	94.9	78.4	107.9	105.7	102.6	103.8	107.6	111.7	96.2	94.9	99.3	-24
D U P 処理		23	29	27	24	27	21	16	27	16	25	11	16	262	
前年度		11	28	22	17	17	21	12	22	21	17	22	26	236	
前年比 (%)		209.1	103.6	122.7	141.2	158.8	100.0	133.3	122.7	76.2	147.1	50.0	61.5	111.0	26
骨塩定量		7	8	6	5	2	4	3	3	2	4	7	10	61	
前年度		0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	3	7	
前年比 (%)											133.3	700.0	333.3	871.4	54
月合計		2,580	2,400	3,361	2,781	2,689	2,926	2,812	3,607	2,625	2,722	2,645	2,778	33,926	
前年度		2,789	2,534	3,422	2,744	2,411	2,856	3,074	3,667	2,822	2,476	2,775	2,640	34,210	
前年比 (%)		92.5	94.7	98.2	101.3	111.5	102.5	91.5	98.4	93.0	109.9	95.3	105.2	99.2	-284

## 放射線科総患児数(平成17年度)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
外来人数	1,494	1,416	2,139	1,823	1,659	1,829	1,827	2,496	1,739	1,626	1,611	1,661	21,320
入院人数	1,295	1,118	1,283	958	1,036	1,101	986	1,111	917	1,145	1,069	1,115	13,134
人数合計	2,789	2,534	3,422	2,781	2,695	2,930	2,813	3,607	2,656	2,771	2,680	2,776	34,454



## 27. 検査・放射線部（検査部門）

### 1) 検査部門の人事異動

【転出者】主任検査技師	綿岡 恭子	県立塚口病院へ	(平成17年4月1日付け)
主任検査技師	中山 亮一	県立成人病センターへ	(平成17年4月1日付け)
主 査	瀧本 良実	県立成人病センターへ	(平成17年4月1日付け)
【転入者】主任検査技師	中内 美穂	県立淡路病院から	(平成17年4月1日付け)
主 任	川畑 順子	県立尼崎病院から	(平成17年4月1日付け)

### 2) 活動状況

本年、検査部門が実施した活動を以下に示す。

#### 院内感染対策

- ・院内感染対策の中核である感染対策チーム（ICT）への参画
- ・院内の細菌分離状況ウィークリーレポートの発行
- ・MRSA 保菌者の推移、時系列的分析結果を週単位でレポート  
診療支援、患者サービスの向上
- ・甲状腺機能検査を委託検査から院内検査に移し、結果報告の迅速化を図った。
- ・病・診連携強化を目的に7月から胎児超音波スクリーニング検査の外来検査予約枠オープン化を実施。  
地域の産科施設から胎児超音波スクリーニング検査を直接予約できるようになった。

#### 医療事故防止の強化

- ・定例的に検査部内事故防止委員会を開催し、ニアミスの集計、原因分析、対応策を周知
- ・始業前の朝の会で準夜・深夜時間帯の検査実施状況の確認、情報の共有
- ・検体受付時の照合、確認を徹底し、検体取り違えの防止を強化する。

#### 資質向上と教育

- ・検査部内勉強会の充実（本年は8回：8演題実施）
- ・医療技術職員の連携を目的とした「第3回院内合同セミナーの開催」
- ・口述発表：6題（県立病院学会：1題、学会：2題、院内合同セミナー：1題）
- ・感染対策の技術向上を目的として病院検査室定点観測点技術者研修会へ参加
- ・地域検査技術講習会（血液形態学セミナー）へ講師を派遣
- ・検査技術科学専攻学生臨地実習の受け入れと指導  
神戸大学医学部保健学科（初期体験実習：2名、選択実習：2名）  
常盤短期大学衛生技術科（臨地実習：2名）

### 3) 来年の展望と予定

- ・輸血検査・輸血用血液管理体制の一元化を進め、24時間稼働体制を構築する。
- ・検査オーダリングシステムの設計と実用化に向けて取り組む。

## (1) 平成17年検査件数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
外来	一般	5,193	4,578	6,070	5,937	5,483	5,925	7,337	8,584	5,664	5,651	5,696	5,699	71,817
	血液	5,711	5,703	6,938	5,913	6,512	6,352	6,965	8,181	6,057	6,333	5,922	6,041	76,628
	細菌	429	484	523	561	510	492	349	344	334	363	385	448	5,222
	血清	1,203	1,081	1,613	1,411	1,771	1,548	1,851	2,040	1,433	1,522	1,541	1,323	18,337
	生化学	10,044	9,277	12,372	10,779	11,871	11,529	13,498	15,450	11,498	11,939	11,818	11,289	141,364
	病理	10	29	43	25	25	17	17	30	20	25	14	14	269
	生理	789	838	1,368	1,104	905	1,081	979	1,554	978	854	853	1,053	12,356
	内分泌	1,018	1,030	1,335	1,118	1,156	1,043	957	1,275	890	904	1,275	784	12,785
	ウイルス	485	420	698	433	527	431	442	471	458	372	471	421	5,629
	特殊検査セット	28	31	44	47	45	35	12	14	2	4	14	6	282
合計	24,910	23,471	31,004	27,328	28,805	28,453	32,407	37,943	27,334	27,967	27,989	27,078	344,689	
入院	一般	2,966	2,378	3,216	3,338	3,863	3,625	3,304	3,923	3,165	3,247	2,656	2,612	38,293
	血液	10,624	10,626	10,812	10,820	11,728	11,677	12,473	11,758	10,425	10,887	11,912	11,779	135,521
	細菌	1,829	1,389	1,795	2,064	2,024	2,189	2,209	2,163	1,936	1,998	2,147	2,044	23,787
	血清	3,030	2,442	2,837	2,858	3,000	2,929	3,018	3,133	2,652	2,662	2,803	2,921	34,285
	生化学	19,970	16,403	20,269	19,855	21,193	21,819	22,974	22,239	18,964	20,020	21,459	21,623	246,788
	病理	299	265	182	140	203	153	138	113	71	120	107	158	1,949
	生理	197	196	218	232	257	271	228	316	267	258	254	278	2,972
	内分泌	259	174	203	365	328	327	311	230	336	338	230	271	3,372
	ウイルス	177	138	192	234	214	220	286	278	222	209	278	229	2,677
	特殊検査セット	21	10	20	38	28	29	30	37	36	20	37	24	330
合計	39,372	34,021	39,744	39,944	42,838	43,239	44,971	44,190	38,074	39,759	41,883	41,939	489,974	
総数	一般	8,159	6,956	9,286	9,275	9,346	9,550	10,641	12,507	8,829	8,898	8,352	8,311	110,110
	血液	16,335	16,329	17,750	16,733	18,240	18,029	19,438	19,939	16,482	17,220	17,834	17,820	212,149
	細菌	2,258	1,873	2,318	2,625	2,534	2,681	2,558	2,507	2,270	2,361	2,532	2,492	29,009
	血清	4,233	3,523	4,450	4,269	4,771	4,477	4,869	5,173	4,085	4,184	4,344	4,244	52,622
	生化学	30,014	25,680	32,641	30,634	33,064	33,348	36,472	37,689	30,462	31,959	33,277	32,912	388,152
	病理	309	294	225	165	228	170	155	143	91	145	121	172	2,218
	生理	986	1,034	1,586	1,336	1,162	1,352	1,207	1,870	1,245	1,112	1,107	1,331	15,328
	内分泌	1,277	1,204	1,538	1,483	1,484	1,370	1,268	1,505	1,226	1,242	1,505	1,055	16,157
	ウイルス	662	558	890	667	741	651	728	749	680	581	749	650	8,306
	特殊検査セット	49	41	64	85	73	64	42	51	38	24	51	30	612
合計	64,282	57,492	70,748	67,272	71,643	71,692	77,378	82,133	65,408	67,726	69,872	69,017	834,663	

## (2) 平成17年生理検査状況

		心電図検査	マスター負荷心電図	トレッドミル負荷心電図	ホルター心電図	心音図	心臓超音波	脳波検査	脳誘発検査 (ABR)	その他 (ERG等)	周産期エコー胎児エコー	合計
平成14年度		5,073	2,700	50	160	10	4,736	1,043	384	4		14,160
平成15年度		5,245	2,695	53	138	0	5,039	992	363	32		14,557
平成16年度		5,222	2,902	40	129	1	5,269	993	557	58		15,171
平成17年度		5,042	2,669	47	111	0	5,358	677	768	52	604	15,328
平成17年度月別内訳	1月	373	164	3	5	0	309	76	51	5		986
	2月	379	170	2	6	0	342	70	63	2		1,034
	3月	482	367	9	13	0	575	68	68	4		1,586
	4月	455	253	6	7	0	459	41	46	4	65	1,336
	5月	414	174	2	11	0	382	38	77	4	60	1,162
	6月	448	209	1	6	0	499	44	68	3	74	1,352
	7月	366	233	6	10	0	400	38	92	3	59	1,207
	8月	431	500	10	13	0	692	80	73	3	68	1,870
	9月	477	136	4	9	0	439	54	55	3	68	1,245
	10月	398	134	0	14	0	393	62	57	4	50	1,112
	11月	389	116	2	7	0	377	56	59	8	93	1,107
	12月	430	213	2	10	0	491	50	59	9	67	1,331
	合計	5,042	2,669	47	111	0	5,358	677	768	52	604	15,328

## (3) 平成17年職員健康診断

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
一般													
血液							131						131
細菌	52	52	52	55	55	55	112	112	169	112	55	55	936
血清							1,112						1,112
化学							1,136						1,136
合計	52	52	52	55	55	55	2,491	112	169	112	55	55	3,315

## (4) 日、当直 検査件数

検査項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
血液一般	468	307	412	436	518	412	562	415	424	413	468	592	5,427
TP	357	247	425	337	389	324	430	304	299	297	324	425	4,158
ALB	354	247	331	327	389	320	422	299	300	293	329	423	4,034
BUN	379	253	349	333	397	321	455	330	324	326	373	449	4,289
T-Bil	358	237	331	331	397	325	440	331	323	328	363	453	4,217
GOT	394	275	353	348	414	340	473	341	344	336	382	466	4,466
GPT	395	276	352	450	415	341	471	340	343	335	382	465	4,565
LDH	389	247	339	344	397	336	467	332	335	329	377	459	4,351
CK	335	213	303	316	368	305	408	298	296	298	340	415	3,895
GLU	285	220	284	262	297	230	319	236	262	253	279	380	3,307
Na	374	274	353	366	416	336	459	315	353	342	355	450	4,393
K	374	274	353	366	416	336	459	320	353	343	355	450	4,399
Cl	374	274	353	362	416	336	459	320	353	342	355	450	4,394
Ca	329	227	314	315	464	278	390	293	313	305	320	411	3,959
クレアチニン	377	250	341	333	393	320	445	327	326	337	370	453	4,272
UA	243	133	196	218	263	206	282	218	227	207	231	273	2,697
CRP	450	291	403	400	487	392	546	390	411	395	455	559	5,179
HBs-Ag	19	24	25	28	30	21	28	19	34	28	33	33	322
HCV	21	24	25	29	31	17	28	20	34	28	27	33	317
PT	122	103	142	125	156	122	186	113	134	122	134	168	1,627
APTT	119	101	141	125	156	121	184	114	134	126	136	167	1,624
フィブリノゲン	114	98	135	121	137	99	175	111	127	111	130	152	1,510
ATIII	92	75	119	110	118	93	138	87	97	89	114	137	1,269
Dダイマー	97	84	127	116	115	99	155	98	95	93	120	136	1,335
髄液細胞数	6	6	2	2	9	2	3	3	2	1	5	4	45
AMY	71	45	56	46	63	58	85	53	48	62	56	80	723
アンモニア	15	17	17	16	7	18	11	8	4	6	16	12	147
TB、UB	20	15	16	26	13	14	34	20	24	23	22	23	250
血液型	50	34	46	55	52	25	38	31	40	30	41	50	492
血液ガス	93	53	80	91	93	88	65	48	49	38	54	102	854
血液培養	9	8	23	10	11	23	9	14	11	18	16	12	164
HPL	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
尿 ER	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0	5
クロスマッチ	33	58	41	47	48	24	38	26	38	27	20	48	448
インフルエンザ	36	111	94	32	12	1	0	1	2	0	8	29	326
Mg	26	9	17	37	36	30	49	25	58	37	31	61	416
RSウイルス	9	3	2	2	1	1	0	0	0	0	2	7	27
アデノウイルス	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
件数合計	7,190	5,114	6,900	6,863	7,924	6,314	8,713	6,200	6,517	6,318	7,026	8,827	83,906

依頼人数	566	459	554	639	600	498	648	501	491	475	525	687	6,643
------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-------

(5) 細菌検査統計

材料別検査件数

	件数
膣分泌物	1,661
気管洗浄液	1,538
咽頭粘液	866
尿	505
血液培養	641
GBS 増菌培養	481
トリコモナス	73
インフルエンザウイルス抗原	520
鼻腔粘液	1,191
喀痰	436
その他	791
便	524
IVH 先端	287
ドレーン排液	208
髄液	194
口タ・アデノウイルス抗原(便)	50
膿	111
臍帯血	30
耳漏	78
羊水	31
RS ウイルス抗原	31
CD-1抗原	9
穿刺液	2
合計	10,258

細菌分離菌内訳

	菌名	分離株数	分離頻度(%)
グラム陽性菌	腸球菌	129	9%
	黄色ブドウ球菌(MRSA)	153	10%
	B群溶血性連鎖球菌	137	9%
	黄色ブドウ球菌(MSSA)	118	8%
	表皮ブドウ球菌	101	7%
	その他の連鎖球菌	21	1%
	肺炎球菌	18	1%
	その他のブドウ球菌	12	1%
	A群溶血性連鎖球菌	4	0%
	リステリア菌	2	0%
小計	695	46%	
グラム陰性菌	緑膿菌	110	7%
	大腸菌	127	8%
	クレブシエラ	129	9%
	ガードネレラ	52	3%
	アシネトバクター	62	4%
	エンテロバクター	83	6%
	その他の非発酵菌	45	3%
	ヘモフィルス	16	1%
	マルトフィリア	37	2%
	セラチア	34	2%
	セバシア	10	1%
	シトロバクター	10	1%
	プロテウス	8	1%
	モルガネラ	8	1%
	ブランハメラ	5	0%
	キャンピロバクター	2	0%
	サルモネラ	1	0%
小計	739	49%	
その他の菌	76	5%	
総計	1,500	100%	

真菌分離株内訳

菌名	分離株数	分離頻度(%)
アルピカン	92	68
グラブラータ	36	27
その他	1	1
パラプシロシス	2	1
アスペルギルス	2	1
トロピカーリス	2	1
総計	135	100

主要菌種の入外別薬剤感受性率 \*\*\*薬剤名

MPIPC	オキサシリン	EM	エリスロマイシン	FMOX	フロモキシセフ	CTX	セフォタキシム
ABPC	アンピシリン	CLDM	クリンダマイシン	ST	ST合剤	AMK	アミカシン
PIPC	ピペラシリン	ABK	アルベカシン	CAZ	セフトラジウム		
CEZ	セファゾリン	MINO	ミノサイクリン	CPZ	セフォペラゾン		
CTM	セフォチアム	VCM	バンコマイシン	CPR	セフピロム		
CMZ	セフメタゾール	FOM	ホスホマイシン	SBT/CPZ	スルバクタム・セフォペラゾン		
IPM	イミペネム	CCL	セファクロール	AZT	アザクタム		
GM	ゲンタマイシン	LVFX	レボフロキサシン	TOB	トブラマイシン		

入 院

黄色ブドウ球菌(MSSA)	薬剤名	CEZ	CFDN	CLDM	CTM	EM	GM	IPM	LVFX	MINO	ST	VCM
株数91	感受性 (S)	97%	97%	94%	97%	88%	81%	99%	90%	99%	100%	100%
	中間値 (I)	1%			1%	5%	3%		2%	1%		
	耐性 (R)	2%	3%	6%	2%	8%	15%	1%	8%			

黄色ブドウ球菌(MRSA)	薬剤名	CEZ	CFDN	CLDM	CTM	EM	GM	IPM	LVFX	MINO	ST	VCM
株数142	感受性 (S)			17%		7%	60%		13%	64%	100%	100%
	中間値 (I)			2%		15%	3%	1%	24%	35%		
	耐性 (R)	100%	100%	80%	100%	78%	37%	99%	63%	1%		

表皮ブドウ球菌	薬剤名	CEZ	CFDN	CLDM	CTM	EM	GM	IPM	LVFX	MINO	ST	VCM
株数88	感受性 (S)	86%	57%	60%	100%	60%	71%	71%	57%	100%	100%	100%
	中間値 (I)		14%				14%		29%			
	耐性 (R)	14%	29%	40%		40%	15%	29%	14%			

外 来

黄色ブドウ球菌(MSSA)	薬剤名	CEZ	CFDN	CLDM	CTM	EM	GM	IPM	LVFX	MINO	ST	VCM
株数27	感受性 (S)	100%	100%	96%	100%	70%	72%	100%	96%	96%	100%	100%
	中間値 (I)									4%		
	耐性 (R)			4%		30%	28%		4%			

黄色ブドウ球菌(MRSA)	薬剤名	CEZ	CFDN	CLDM	CTM	EM	GM	IPM	LVFX	MINO	ST	VCM
株数11	感受性 (S)			57%		29%	12%		63%	88%	100%	100%
	中間値 (I)								12%	12%		
	耐性 (R)	100%	100%	43%	100%	71%	88%	100%	25%			

表皮ブドウ球菌	薬剤名	CEZ	CFDN	CLDM	CTM	EM	GM	IPM	LVFX	MINO	ST	VCM
株数13	感受性 (S)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	中間値 (I)											
	耐性 (R)											

入院

大腸菌 株数105	薬剤名	AMK	AZT	CAZ	CCL	CEZ	CPZ	CTM	CTX	CZOP	FMOX	FOM
	感受性 (S)	100%	98%	98%	81%	87%	100%	91%	95%	100%	97%	90%
	中間値 (I)			1%	6%				1%			5%
	耐性 (R)		2%	1%	14%	13%		9%	4%		3%	5%
	薬剤名	IPM	LVFX	MINO	PIPC	S/C	TOB					
	感受性 (S)	100%	94%	82%	58%	98%	100%					
	中間値 (I)			4%	3%	2%						
	耐性 (R)		6%	14%	38%							

緑膿菌 株数96	薬剤名	AMK	AZT	CAZ	CCL	CEZ	CPZ	CTM	CTX	CZOP	FMOX	FOM
	感受性 (S)	96%	76%	90%			86%			89%		2%
	中間値 (I)	2%	17%	2%			3%		100%	4%		6%
	耐性 (R)	2%	7%	8%			11%			7%		92%
	薬剤名	IPM	LVFX	MINO	PIPC	S/C	TOB					
	感受性 (S)	72%	95%	35%	93%	92%	97%					
	中間値 (I)	7%	4%	30%		7%						
	耐性 (R)	21%	1%	35%	7%	1%	3%					

外来

大腸菌 株数21	薬剤名	AMK	AZT	CAZ	CCL	CEZ	CPZ	CTM	CTX	CZOP	FMOX	FOM
	感受性 (S)	100%	100%	100%	95%	95%	100%	100%	100%	100%	100%	90%
	中間値 (I)					5%						10%
	耐性 (R)				5%							
	薬剤名	GM	LVFX	MINO	PIPC	S/C	ST					
	感受性 (S)	86%	95%	86%	81%	100%	81%					
	中間値 (I)			10%								
	耐性 (R)	14%	5%	5%	19%		19%					

緑膿菌 株数9	薬剤名	AMK	AZT	CAZ	CCL	CEZ	CPZ	CTM	CTX	CZOP	FMOX	FOM
	感受性 (S)	100%	78%	100%			89%			100%		
	中間値 (I)		11%									
	耐性 (R)		11%				11%					100%
	薬剤名	LVFX	MINO	PIPC	S/C	ST						
	感受性 (S)	78%	11%	100%	89%							
	中間値 (I)		56%		11%							
	耐性 (R)	22%	33%									

## 材料別分離菌

### 【腔分泌物 1509件】

第1位	起炎菌認めず・細菌認めず	849株	56.2%
第2位	ガードネレラ菌	111株	7.4%
第3位	カンジダアルピカンス	117株	4.8%
第4位	大腸菌	45株	3.0%
第5位	エンテロコッカスフェカーリス	46株	3.0%
	* GBS 陽性率	111/481件	23.1%

### 【気管洗浄液 1002株】

第1位	正常細菌叢・細菌認めず	212株	21.1%
第2位	MRSA	191株	19.0%
第3位	CNS	170株	16.9%
第4位	肺炎桿菌	156株	15.5%
第5位	緑膿菌	141株	14.0%

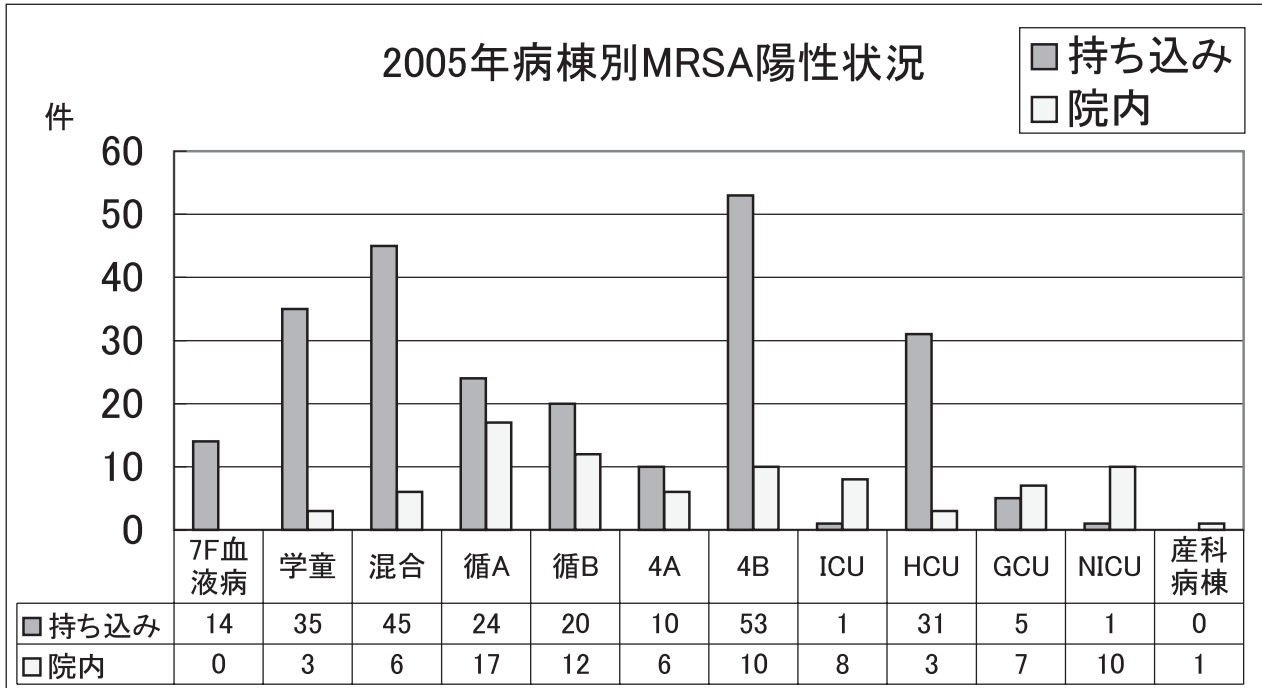
### 【血液培養 591件】

第1位	細菌認めず	588件	98.3%
第2位	GPR	8件	1.4%
第3位	MSSA	4件	0.7%
第4位	表皮性ブドウ球菌	3件	0.5%
第4位	MRSA	3件	0.5%

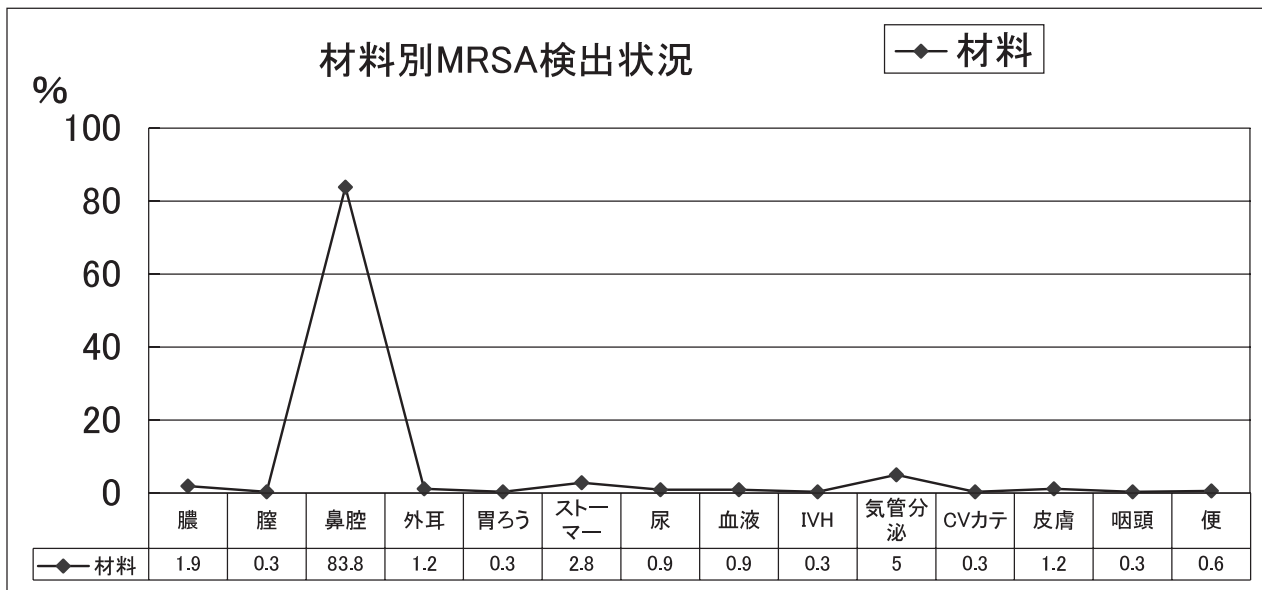
### 2005年における当院の耐性菌について

- ・ VRSA および VRE の検出菌はなし。
- ・ PRSP は 4 例検出され、咽頭粘液 2 例、気管洗浄液 1 例、膿 1 例の分離であった。
- ・ 多剤耐性緑膿菌は 1 例検出された。(他院よりの持ち込み)
- ・ ESBLs が 2 例検出された。(尿 1 例、便 1 例)
- ・ 耐性ヘモフィルス菌(BLNAR)が 5 例検出され、内 2 例は血液由来であった。
- ・ 稀な菌として、髄膜炎菌 1 例、リステリア菌 1 例、ノカルジア菌 (放線菌科) 1 例検出された。

MRSA陽性入院患者発生届出票より



2005年は全病棟で322件のMRSA届出あり。  
全陽性のうち、持ち込み239件(74.2%)、院内83件 (25.8%)



材料別検出状況

- 鼻腔 84%
- ストーマー 3%
- 膿 2%
- 外耳・皮膚 1%



## 28. 薬 剤 部

### 1 薬剤部員異動

(平成17年4月1日付)

【転出者】	課長補佐	大西加代子	県立光風病院	(平成17年4月1日付)
【転入者】	薬剤部次長	加古 学	県立成人病センター	(平成17年4月1日付)
	技術吏員	山口 明恵	新規採用	(平成17年4月1日付)
【退職者】	技術吏員	西海 一生	(臨時的任用)	(平成17年3月31日付)

### 2 平成17年活動報告

平成17年の入院調剤は昨年と比較して処方せん枚数0.7%増、延調剤数6.0%増、注射薬処方せん枚数6.8%増、血液処方せん枚数6%増と患者数増加に伴う増加となった。

外来調剤は処方せん枚数が30.8%減、延調剤数が26%減と院外処方せん発行(H17.2.1)に伴う減となっており、注射薬処方せん枚数10.7%増、血液処方せん枚数14.3%減となった。

本年の主な取り組み概要を下記に記す。

#### (1) 院外処方せんの発行

外来患者様の薬待ち時間の短縮を図り、患者サービスの向上を図ることを目的に平成17年2月1日から院外処方せんの発行を実施した。(発行率74.9%)

院外処方せん発行に際し、院外処方箋用FAX機を医事課前に設置し、患者様が保険調剤薬局で薬を早く受け取って頂ける様にした。

#### (2) 入院内服処方オーダーリングの実施

手書き記載による記載ミスや記載漏れを防ぎ、安全性を向上させ、電子媒体での情報伝達による業務の迅速化・効率化を図ることを目的に平成17年9月5日(月)から入院内服オーダーリングを開始した。

薬包紙や入院薬袋に患者名や医薬品名を印字し、安全性のさらなる向上に努めた。

#### (3) 抗がん剤のプロトコール管理に伴うリスク回避

抗がん剤による医療事故防止に向け、プロトコールの収集・保管管理を行い、患者毎の治療レジメンと投薬スケジュール表や処方せんとの照合確認を行い、安全性の向上に努めた。

#### (4) 抗がん剤及び高カロリー輸液の無菌調製業務

従来、外来や病棟で医師及び看護師が調製していた抗がん剤や高カロリー輸液の無菌調製を薬剤部に設置の安全キャビネットです薬学的に実施することで安全性、無菌性、確実性、コスト減を図ることを目的に平成17年5月から順次実施した。

#### (5) 薬剤管理指導業務の拡充(1,987件 3,066件)

患者様やご家族の方への説明資料の充実を図るとともに、服薬指導マニュアルの充実を図り、後進への指導育成を行った。

カンファレンスに参加し、医師・看護師に医薬品情報や患者情報を積極的に提供することで、病棟薬剤師としての活動を充実させた。

#### (5) 専門薬剤師の育成

血液腫瘍科病棟での服薬指導の実施、治験コーディネーター養成研修やモデル病院での研修、ICT活動への参加を実施するなかで、専門薬剤師の育成を図り、基盤作りを行った。

## 3 来年の展望と予定

輸血用血液の一元管理、入院注射オーダーリングシステムの円滑な実施に向けた取組み、治験ネット事業への参画等を積極的に実施していく予定である。

## 17年年報

## (1) 調剤件数

区 分	処方箋枚数	合 計			内 用 薬			外 用 薬		
		処方数	調剤数	延調剤数	処方数	調剤数	延調剤数	処方数	調剤数	延調剤数
入 院	34,214	48,139	56,057	273,071	36,423	43,591	226,985	11,716	12,466	46,086
外 来	8,148	14,843	44,265	302,141	10,363	39,785	261,469	4,480	4,480	40,672
計	42,362	62,982	100,322	575,212	46,786	83,376	488,454	16,196	16,946	86,758
一日平均	172.9	257.1	409.5	2,347.8	191.0	340.3	1,993.7	66.1	69.2	354.1

## (2) 注射薬・血液取扱件数

区 分	注 射 薬		血 液	
	処方箋枚数	延本数	処方箋枚数	延本数
入 院	41,508	450,543	3,233	14,984
外 来	4,591	6,601	1	2
計	46,099	457,144	3,234	14,986
一日平均	188.2	1,865.9	13.2	61.2

## (3) 薬剤管理指導料 件数

診 療 科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
産 科	119	58	67	112	143	126	118	126	128	110	97	93	1,297
心外・循内	41	72	92	83	69	92	80	95	70	74	79	65	912
血 内	32	55	70	79	76	87	72	72	65	77	76	75	836
眼 科	0	0	0	10	4	2	2	3	0	0	0	0	21
計	192	185	229	284	292	307	272	296	263	261	252	233	3,066

## (4) 退院指導料 件数

診 療 科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
産 科	6	5	24	37	29	42	36	41	25	21	24	22	312
心外・循内	33	23	27	29	28	30	28	34	24	16	25	24	321
血 内	0	1	0	1	5	9	3	2	2	5	2	0	30
眼 科	0	0	0	7	3	2	2	1	0	0	0	0	15
計	39	29	51	74	65	83	69	78	51	42	51	46	678

## (5) 薬剤情報提供料 件数

診 療 科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
全 科	1,782	386	443	288	346	350	329	409	322	406	427	489	5,977

## (6) 血液集計

科名	I R - R C - M A P			F F P			I R - P C			その他		
	予 約 単位数	使用数	廃 棄 単位数	予 約 単位数	使用数	廃 棄 単位数	予 約 単位数	使用数	廃 棄 単位数	予 約 単位数	使用数	廃 棄 単位数
心 外	1,290	837	3	2,963	2,427	12	1,085	1,085	0	0	0	0
循 内	67	66	0	84	72	4	90	90	0	0	0	0
新生児	156	135	0	325	320	4	270	270	0			
IR-WRC										1	1	0
血 内	758	712	0	65	65	0	7,025	6,975	40			
IR-WRC										8	8	0
IR-WPC										385	385	0
aWB										6	6	0
一 外	167	126	4	255	233	12	40	40	0	0	0	0
産 科	101	51	1	52	52	0	40	40	0			
aWB										17	7	10
泌尿器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整 形	24	12	0	0	0	0	0	0	0			
aWB										14	13	1
脳 外	188	124	4	82	53	0	70	70	0	0	0	0
形 成	33	16	2	22	20	2	0	0	0	0	0	0
救 急	211	174	13	431	388	17	710	710	0	0	0	0
その他	3	1	0	0	0	0	10	10	0	0	0	0
計	2,998	2,254	27	4,280	3,631	51	9,340	9,290	40			
IR-WRC										9	9	0
IR-WPC										385	385	0
aWB										27	17	10

IR - WRC : 照射洗浄赤血球、IR - LPRC : 照射白血球除去赤血球

IR - WPC : 照射洗浄血小板、aWB : 自己血全血保存、aMAP : 自己血赤血球 MAP

## (7) 無菌製剤調製業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
抗がん剤					30	26	165	153	95	175	187	173	1,004
高カロリー										153	180	115	448
計					30	26	165	153	95	328	367	288	1,452

(8) 院内D I 業務

電子メールによる情報提供

送 信 日	件 名
2005.1.31	医薬品・医療用具等安全性情報 209
2005.2.28	医薬品・医療用具等安全性情報 210
2005.4.8	医薬品・医療用具等安全性情報 211
2005.4.28	医薬品・医療用具等安全性情報 212
2005.5.30	医薬品・医療用具等安全性情報 213
2005.7.1	医薬品・医療用具等安全性情報 214
2005.7.12	院内採用薬品一覧(音順・薬効順)平成17年7月現在
2005.7.28	医薬品・医療用具等安全性情報 215
2005.9.02	医薬品・医療用具等安全性情報 216
2005.9.16	新医薬品薬価収載品目一覧
2005.10.7	医薬品・医療用具等安全性情報 217
2005.10.31	約束処方; AB-P、AM-W、Diarrhoe 中止について
2005.11.1	医薬品・医療用具等安全性情報 218
2005.12.1	医薬品・医療用具等安全性情報 219
2005.12.20	薬事委員会結果; ガスター散からファモチジン細粒への変更について
2005.12.26	薬事委員会結果; カスター錠10mg からファモチジン錠10「サワイ」への変更について
2005.12.28	医薬品・医療用具等安全性情報 220

主な問い合わせ内容

問 い 合 わ せ 内 容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 注射薬配合変化について</li> <li>・ 注射薬のフィルター透過性について</li> <li>・ 薬剤の母乳への移行について</li> <li>・ 薬品の投与方法について</li> <li>・ 内服医薬品の飲み易い飲み方について</li> <li>・ ワクチンと抗がん剤の相互作用について</li> <li>・ 貼付剤使用中のMRI 検査について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 注射薬溶解後の安定性について</li> <li>・ 食品と薬剤の相互作用について</li> <li>・ 薬剤の小児用量について</li> <li>・ ワクチン接種後の患部について</li> <li>・ 冷所保存医薬品の常温保存での安定性について</li> <li>・ 坐薬の連用による影響について</li> <li>・ 新規採用医薬品について</li> </ul>

(9) 薬物の血中濃度測定

	抗 て ん かん 薬					ジゴキシシン	シクロスポリン	メソトレキセート	その他 ( )はその内のタクロムリス	総検体数	
	フェニバル	フェニトイン	カルバマゼピン	バルプロ酸	その他						
16年	136	41	168	326	213	24	255	89	168(163)	1420	
平成16年の月別内訳	1月	13	6	10	20	13	2	12	0	8(8)	84
	2月	16	4	11	34	23	0	14	13	16(16)	131
	3月	20	6	17	48	25	5	17	13	10(10)	161
	4月	12	3	9	26	15	3	30	13	9(9)	120
	5月	10	3	10	23	17	4	24	11	4(4)	106
	6月	15	5	16	31	23	0	26	8	5(5)	129
	7月	10	1	14	31	19	2	25	6	12(11)	120
	8月	8	4	20	27	23	5	23	8	22(20)	140
	9月	9	3	14	18	16	2	18	5	24(22)	109
	10月	6	0	10	15	14	1	22	6	21(21)	95
	11月	10	1	19	30	14	0	22	2	14(14)	112
	12月	7	5	18	23	11	0	22	4	23(23)	113

## (10) 院内製剤

## 内用液剤

製 剤 名	製剤量 (単位 / ml)
内服用ルゴール液	90
AM - W(原液)	7,700

## 内用散剤

製 剤 名	製剤量 (単位 / g)
AB - P	3,000
Diarrhoe - P	2,100

## 軟 膏

製 剤 名	製剤量 (単位 / g)
バリアー	120,000
10%テストステロン軟膏	400
0.4%エストラジオール軟膏	2,400

## 外用液剤

製 剤 名	製剤量 (単位 / ml)
アセモトール	16,000
カプトドロップ	480
25%グリセリン液	8,000
2%ボール水	1,500
20%硝酸銀	80
30%硝酸銀	150
40%硝酸銀	50
10%ピオクタニン青液	100
1%ピオクタニン青液	100
0.2%ピオクタニン青液	200
30%アルコール	600
50%アルコール	600
ツェンテール液	150

## 予製剤

製 剤 名	製剤量 (単位 / g)	製 剤 名	製剤量 (単位 / g)
(倍散 倍散)		ワーファリン(×500)	10,500
0.01%ジゴシン散	3,000	フラジール散(×4)	300
(錠 散)		メキシチール散(×10)	200
10%イムラン散	100	プロタノールS散	240
コートリル散(×20)	1,200	ロングス散(×100)	1800
0.1%デカドロン散	500	フロリネフ散(×1000)	100
ポラキス散(×100)	450	ダイクロトライ(×10)	125
ドルナー散(×50000)	3,000	グリチロン散	420

## 29. 栄養指導課

### 1. 栄養指導課員の異動

[退職者] 主任調理員松本昭子 (平成17年3月31日付)

[転入者] 主任調理員豊福 諭 (平成17年4月1日付) (県立淡路病院から)

### 2. 平成17年の活動

平成17年の主な活動報告として以下の点が上げられる。

- ・医療事故防止対策の充実 (医療事故防止標準マニュアルの活用)
- ・外来患者様を対象とした待ち時間の有効利用として「栄養知識の普及啓蒙」を図る為の「栄養と食生活の絵本展」の開催。計6回開催。
- ・第3回県立病院学会発表  
「当院の入院患者における食事性アレルギー患者の実態調査について」
- ・第44回全国自治体病院学会発表  
「栄養と食生活の絵本展」 - 患者サービスの向上と食育の推進への取り組み -  
「食物アレルギー対応食におけるリスク対策」(優秀演題 協議会雑誌掲載)

### 3. これからの展望

平成18年に向けては、引き続き「安全な食事の提供」という栄養指導課の基盤整備と患者サービスの向上を中心に業務を推し進める。

- ・適時適温給食の実施
- ・栄養管理実施加算の取得
- ・小児救急医療センターにおける対応について
- ・医療事故防止対策に関する取り組み。(ひやりはっと報告)
- ・褥瘡対策プロジェクト及びクリニカルパス委員会に積極的な参画を実施し、NST (チーム医療) への取り組みを推し進める。
- ・IT化の推進 (栄養給食関係オーダーリングシステムの構築等)
- ・アレルギー児の両親対象の勉強会「両親教室」への参画
- ・「ひょうご食の健康大作戦」の中のひとつとしての「食育」の推進を図る。  
「栄養と食生活の絵本展」の開催  
「食べ物の育ちを感じる能力」を養うため地産地消に関する情報を提供する。
- ・知識や技能の資質を向上させるための課内研修会の充実。
- ・栄養管理業務に関する研究の成果として学会等への積極的な発表。

4. 給食

(1) 調製乳・食事月別延数

1) 患者

調製乳人員

(単位 人)

区分	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	%
調乳のみ人員		2,154	1,866	1,942	2,158	2,035	2,042	2,178	2,280	2,109	1,978	2,226	2,417	25,385	66.9
調乳・食事人員(調乳)		400	376	342	373	460	490	413	430	310	323	330	415	4,662	12.3
小計		2,554	2,242	2,284	2,531	2,495	2,532	2,591	2,710	2,419	2,301	2,556	2,832	30,047	79.2
調乳・食事人員(食事)		531	605	585	622	728	679	662	544	649	805	817	687	7,914	20.8
計		3,085	2,847	2,869	3,153	3,223	3,211	3,253	3,254	3,068	3,106	3,373	3,519	37,961	100.0

(注)調乳・食事人員.....調製乳と食事が重複するもの

加算・非加算調乳人員

(単位 人)

区分	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	%
加算調乳人員		253	226	212	214	197	193	233	231	201	236	226	223	2,645	7.0
非加算調乳人員		2,832	2,621	2,657	2,939	3,026	3,018	3,020	3,023	2,867	2,870	3,147	3,296	35,316	93.0
計		3,085	2,847	2,869	3,153	3,223	3,211	3,253	3,254	3,068	3,106	3,373	3,519	37,961	100.0

調製乳種類及び本数

(単位 本)

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	%
13%レーベンスミルク		12,481	11,948	12,748	14,879	14,342	13,733	13,466	12,974	11,704	13,550	13,466	14,457	159,748	56.4
15%LW		6,085	4,034	4,245	4,880	5,297	5,345	6,121	6,578	5,618	5,231	6,036	6,323	65,793	23.2
13%720														0	
14%721														0	
15%508														0	
8%S-23														0	
10%S-23														0	
15%S-23														0	
14%817-B														0	
14%817-B + 2%滋養糖														0	
14%817-B + 3%滋養糖														0	
14%817-B + 7%滋養糖														0	
15%817-B + 2%滋養糖														0	
22%817-B + 1%滋養糖														0	
15%レーベンスミルク							198	279	162				88	727	
17%レーベンスミルク									117	270	262	163		812	
20%レーベンスミルク														0	
治 10%滋養糖		465	420	465	457	466	462	465	474	450	476	469	515	5,584	
滋養糖(粉体)												88	317	405	
療 5%MA-1				45										45	
7%MA-1				30										30	
10%MA-1					20				75					95	
12%MA-1					130	155	171							456	
14%MA-1														0	
15%MA-1		271	395	48	280	820	985	1,019	997	91	32	426	513	5,877	
17%MA-1									50	192				242	
18%MA-1														0	
19%MA-1									39					39	
20%MA-1									39	390	403	263	310	1,405	
13%E 赤ちゃん		106	214	315	259	289	554	611	211	54	14	120	382	3,129	
7%ラクトレス														0	
14%ラクトレス		30	41											71	
13%GL(無乳糖粉乳)		196	183											379	
15%GL(無乳糖粉乳)							161	21						182	
13%MM-2(低カリウムミルク)						63								63	
13%MM-5(低リン乳)										8	118	195	317	638	
17%エレメンタルフォーミュラ											210	300	310	820	
12%110ガラクトース除去フォーミュラ							120	193	244	201				758	
12%S-1フェニルアラニン チロシン除去乳							120	193	244	201				758	
15%8806低K・中リンフォーミュラ												100		100	
14%ペプディエット														0	

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	%
10%MCT フォーミュラ														0	
13%MCT フォーミュラ										9	42	24		75	
14%MCT フォーミュラ		8	20	143	271	410	148	165	316	472	115	418	262	2,748	
15%MCT フォーミュラ				18	99					269	12			398	
15%605MCT(MCT アミノ酸フォーミュラ)							42	7						49	
14%必須脂肪酸強化 MCTフォーミュラ														0	
6%エレンタール		35	4											39	
10%エレンタール			15		20								6	41	
13%エレンタール											26	36		62	
14%エレンタール														0	
15%エレンタール					5									5	
17%エレンタール														0	
18%エレンタール												48		48	
20%エレンタール		83	154	155	86	167	206	248	35		96	93	48	1,371	
22%エレンタール														0	
23%エレンタール														0	
25%エレンタール		151	112	124	120	124	120	124	124	120	124	120	124	1,487	
26%エレンタール			63	28								21	3	115	
27%エレンタール				6				68	158		66		30	328	
5%エレンタールP									18	126				144	
7%エレンタールP														0	
9%エレンタールP														0	
10%エレンタールP		161	196	217	210	231	132	10						1,157	
11%エレンタールP														0	
12%エレンタールP		42	78	92										212	
13%エレンタールP				112	58	124	132	127	105	69	62	42	54	885	
14%エレンタールP		326	168	186	180	180	190	305	271	484	488	428	555	3,761	
15%エレンタールP		150	161	186	108	56	14	24			40			739	
16%エレンタールP														0	
18%エレンタールP				68								40		108	
20%エレンタールP		158	126	242	52	39	28	12	32					689	
21%エレンタールP				41			42							83	
23%エレンタールP														0	
24%エレンタールP														0	
25%エレンタールP		3	196	147										346	
26%エレンタールP									14					14	
27%エレンタールP													5	5	
34%エレンタールP														0	
マクトンオイル										48				48	
小計		2,185	2,546	2,668	2,355	3,124	3,825	3,871	3,725	3,454	2,586	3,394	3,839	37,572	13.3
加算	サンエット N3	727	640	737	716	719	720	753	791	720	737	703	768	8,731	
治療	アイソカル	758	444	538	616	492	349	286	168	150	295	333	186	4,615	
乳	80%アイソカル														
	インパクト	54	131	3	0	0	0	135	123	46	62	42	54	650	
小計		1,539	1,215	1,278	1,332	1,211	1,069	1,174	1,082	916	1,094	1,078	1,008	13,996	4.9
牛乳		183	132	140	161	151	145	245	211	210	254	243	219	2,294	0.8
滅菌水		550	429	326	336	273	248	384	433	444	287	141	124	3,975	1.4
計		23,023	20,304	21,405	23,943	24,398	24,365	25,261	25,003	22,346	23,002	24,358	25,970	283,378	100.0
空瓶200cc		2,767	2,421	1,959	2,571	2,818	2,726	2,287	3,409	4,202	4,145	4,556	4,697	38,558	37.0
空瓶100cc		4,944	4,392	4,968	6,264	5,712	5,808	6,240	7,080	5,544	5,232	5,424	5,048	66,656	63.0
計		7,711	6,813	6,927	8,835	8,530	8,534	8,527	10,489	9,746	9,377	9,980	9,745	105,214	100.0



食事数

(単位 食)

食種	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	%
保・検査食		372	336	372	361	373	362	374	374	362	374	362	374	4396	3.6
非加算特別食	離乳食	710	853	737	677	754	851	867	646	592	640	890	899	9116	
	幼児食	921	1178	1009	864	864	976	943	782	797	665	715	602	10316	
	学童食	780	734	915	841	677	857	1002	1430	883	931	748	1107	10905	
	粥	76	104	79	63	78	74	57	118	198	152	121	105	1225	
	流動食	12	26	30	3	13		9	23	4		2	10	132	
	自由食	2579	2333	2962	3002	3392	3220	3261	3248	3042	3758	3496	3054	37347	
	口蓋裂食	47		43	7	7		13	27	13				14	171
	アレルギー食	257	377	402	362	606	335	366	401	495	480	442	456	4979	
	ペースト食	258	186	231	202	208	194	175	105	87	163	166	36	2011	
	肥満食	125	64	96	91	116	210	158	60	14	102	3		1039	
	歯科食														0
	検査食(非)								2	25	36	90	82	235	
	妊産婦食	1928	892	765	1752	2402	1860	2203	1686	2063	2562	2238	1797	22148	
	妊産婦粥食	73	39	48	61	62	64	69	87	66	55	81	60	765	
妊産婦高血圧食							3						3		
妊産婦アレルギー食	32		25	11	6	15	145	223	298	123	116	266	1260		
妊産婦検査食(非)				71	54	26	2				1		154		
小計	7798	6786	7342	8007	9239	8682	9273	8838	8577	9667	9109	8488	101806	82.8	
加算特別食	腎臓食	20	99	233	166	126	174	53	79	42	40	12	85	1129	
	肝臓食	82	1		31		18	13	6	19	105	6	68	349	
	糖尿病食	52	75	64		83	7		206	114	9			610	
	乳糜食		29	51	34	107	82			98	8	98	3	510	
	心臓病食	803	671	1091	918	940	733	968	1123	762	862	762	796	10429	
	潰瘍食							25	8	41	42	7	36	159	
	検査食(加)		14	10							2			26	
	妊娠中毒症食	479	103	251	255	284	336	322	395	168	115	154	242	3104	
	妊産婦糖尿病食	41			74	34			51	53		54	100	407	
	妊産婦肝臓病食													0	
高尿酸血症食													0		
小計	1477	992	1700	1478	1574	1350	1381	1868	1297	1183	1093	1330	16723	13.6	
合計	9647	8114	9414	9846	11186	10394	11028	11080	10236	11224	10564	10192	122925	100	

おやつ数

(単位 食)

区分	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
おやつ数		5,184	4,596	5,403	5,240	5,947	5,563	5,730	5,754	5,353	5,652	5,502	5,247	65,171

2) 患者外

食事数

(単位 食)

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
保育児食		233	240	293	149	117	159	145	127	118	147	155	134	2,017

## (2) 栄養指導月別種類別件数 平成17年

(単位 件)

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
糖尿病食		29	31	37	28	27	31	27	36	23	19	24	19	331
耐糖能異常														0
肥満食		11	13	14	13	10	20	14	13	15	18	12	7	160
高インスリン血症食														0
腎性尿崩症食		4	2	5	3	3	5	4	4	3	5	4	4	46
フェニルケトン尿症食			4	4		4		5	2	6	2	4	2	33
高メチオニン血症食			2			2			1			2		7
高アンモニア血症食			1	1		1		1		1	1		1	7
ガラクトース血症食		1	1			1			1				1	5
高脂血症食			1	1		1			1			1	1	6
高尿酸血症食				1					1	2	1	2	2	9
くる病食			1	1				1	1	1				5
低身長														0
アレルギー食		13	19	19	19	31	23	20	20	18	23	25	19	249
妊娠中毒症食		2		3	1						2		1	9
妊娠糖尿病食									2	1				3
妊産婦食														0
肝臓病食											1			1
腎臓病食				2	6	2		3	2					15
心臓病食														0
乳び胸食										1				1
ケトン食														0
特殊調乳食		1					2	3	1	1				8
特殊離乳食					1			1	2		1	1		6
摂食障害									1					1
体重増加不良			1	1						3				5
偏食														0
貧血食										1	1			2
便秘症食												1		1
難治性下痢症食														0
低残渣食														0
口蓋裂食														0
潰瘍性大腸炎食				1								3	4	8
胆道閉鎖症食							2	1						3
造血幹細胞移植食														0
ヨード制限食							1							1
蛋白漏出性腸症														0
短腸症候群(術後)											2			2
上腸管膜動脈症候群														0
クローン病									1	1		2	4	8
胃ろう														0
じょく創アセスメント														0
ヒルシュシュプリング病			1			1					1		1	4
経管栄養						1								1
腸管切除後吸収不良									1			1		2
件数 外 来 (件)		44	57	75	57	56	63	65	62	57	56	61	47	700
人数 外 来 (人)		85	114	149	103	113	113	128	114	101	102	119	90	1331
件数 入 院 (件)		7	3	8	9	18	5	6	19	7	11	7	9	109
人数 入 院 (人)		10	6	9	20	41	10	11	34	15	23	16	15	210
件数 病棟訪問 (件)		10	17	7	5	10	16	9	9	13	10	14	10	130
人数 病棟訪問 (人)		24	34	17	12	20	30	19	17	26	21	33	20	273
合 計 (件)		61	77	90	71	84	84	80	90	77	77	82	66	939
合 計 (人)		119	154	175	135	174	153	158	165	142	146	168	125	1814

## アレルギー両親教室 集団指導

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
件 数		8	7	7	23		5		10		7	5	72
人 数		13	14	14	50		8		10		9	6	124



## 30. 指導相談・地域医療連携部

### ． 組 織

平成17年4月1日に、相談担当の課長は、植杉チヨ子看護次長が看護部長に昇任し、かわって池尻操子看護次長が兼任となった。連携担当の課長は、依田孝男医事課長が加古川病院に転出となり、尼崎病院から転入した小島崇文医事課長が兼任となった。

### ． 平成17年活動状況

引き続き、患児、家族が安心して治療・療養に専念できるように様々な相談に応じ、個々のニーズに沿って問題解決に向け支援を行っている。今年、地域医療連携部門が地域医療連携室として、9月より新たに開設された。患者様の初診予約等、病病、病診連携の推進に努めている。また、重症心身障害児に対する在宅療養支援や長期在院児への施設入所など、これまでより一層、院内・地域にひらかれた活動を展開している。

### 今年重点的に実施した活動

重症心身障害児に対する在宅療養支援のさらなる推進。

長期在院児に対する施設入所支援のさらなる推進。

昨年に引き続き、厚生労働省・神経疾患研究委託費 発達期に発症する外因性脳障害の診断・治療ガイドラインに関する臨床的実証研究「超低出生体重児にみられる行動異常の診断に関する検討」における演者及び共同演者として、さらなる探求。

### 今年実施した新たな活動

地域医療連携室が創設されたため、電話、FAXを通しての初診受付による病診連携・病病連携の推進。厚生労働省委託研究「新生児期～小児期における心疾患侵襲治療の安全性向上に関する研究」における心理判定的貢献。

全国こども病院保健師連絡会の主催。

「兵庫県の被虐待児に対応するための病院内および地域医療システムに関する研究会」において『こども病院における被虐待児への対応システムについて』発表。

### ． 来年の展望

今後、さらに地域にひらかれた連携が行えるよう、地域医療連携室の連携活動をさらに安定し発展させていく必要がある。また、虐待における取り組み等、地域とのネットワーク作りもこれまで以上に密にしていかなければならない。また、在宅療養生活に向けた患児・家族への支援についても、より推進していく所存である。院内では、当部の役割をより明確にし、院内全体に支援を提供できるような体制作りの強化がさらに必要と思われる。また、地域からのニーズに対し、当部が指導的な立場で活動を行うことを視野に入れることも課題と考える。現在、依頼数が増え続けている中、質の高い支援を維持していくためにも、個々の部員の資質向上・教育育成の推進、マンパワーの増大を図っていかねばならないと考えている。

・指導相談部門

1. 業務実績

(1) 職種別業務実績

業務実績	
医 師	150
心 理 判 定 員	2336
保 健 師	1167
精神保健福祉相談員	2150
計 (総件数)	5803

(1)の職種別業務実績は、当部の活動の総件数を示す。(2)、(3)、(4)の依頼科経由のみの業務件数は、電話相談・メール相談・発達外来を除く、当部の活動件数を示す。(他機関経由による、直接患児に関連しない相談・調整業務が含まれているため)

(2) 依頼科別業務件数 (依頼科経由のみ)

依頼科別業務件数	
総合診療科	711
新生児科	571
脳神経内科	762
循環器科	274
腎臓内科	54
代謝内科	280
血液腫瘍科	144
アレルギー科	67
遺伝内科	1
小児外科	716
心臓血管外科	39
脳神経外科	593
形成外科	10
眼 科	35
精神神経科	985
膚 科	0
泌尿器科	21
耳鼻咽喉科	130
整形外科	16
産 科	20
歯 科	1
発達行動外来	24
そ の 他	5
計 (総件数)	5459

(3) 年齢別業務件数 (依頼科経由のみ)

年齢別業務件数	
乳 児	495
幼児前期	1321
幼児後期	1587
学童前期	672
学童後期	511
思 春 期	519
思 春 期 以 上	354
計 (総件数)	5459

(4) 入院外来別業務件数 (依頼科経由のみ)

入院外来別業務件数	
入 院	2116
外 来	3343
計 (総件数)	5459

2. 診療部門

(1) 発達外来

担当：山崎武美指導相談・地域医療連携部長、宅見晃子のじぎく療育センター小児科部長

受診患児の主な主訴：発達障害（言語発達遅滞、精神発達遅滞、広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害等）

21trisomy における発達全般のフォロー 等

依頼相談経路		件数
主治医	総合診療科	64
	循環器内科	11
	脳神経外科	10
	眼科	10
	新生児科	7
	小児外科	6
	血液内科	6
	耳鼻科	4
	心臓血管外科	4
	脳神経内科	1
	整形外科	1
	代謝内科	1
	電話相談	17
その他	4	
総件数	146	

年齢区分	件数
新生児	0
乳児前期	5
乳児後期	6
幼児前期	63
幼児後期	55
学童前期	14
学童後期	0
思春期	3
総件数	146

(2) 遺伝相談

担当：山崎武美指導相談・地域医療連携部長 院内診療科より依頼 4件 実施

3. 治療関係部門

(1) 心理療法

心理療法対象者 依頼時の症状・状態：情緒障害、不登校、摂食障害、身体表現性障害、不安障害、  
転換ヒステリー、場面緘黙、強迫状態、神経症、ターミナルケア

心理療法・遊戯療法	
心理療法（精神神経科依頼）	47
心理療法（その他診療科依頼）	115
遊戯療法（精神神経科依頼）	77
遊戯療法（その他診療科依頼）	198
計（総回数）	437

(2) 心理検査

心 理 検 査		
発達検査	新版 K 式 発 達 検 査	216
	Bayley 乳 幼 児 発 達 尺 度	2
	津 守 式 発 達 質 問 紙 検 査	186
	K I D S	4
	社 会 生 活 能 力 検 査	5
	フ ロ ス テ ィ ッ グ 視 知 覚 検 査	4
知能検査	W I S C -	229
	田 中 ビ ネ ー 知 能 検 査	84
	W P P S I	1
	W A I S - R	10
性格検査	YG 性 格 検 査	29
	幼 児 ・ 児 童 性 格 診 断 検 査	5
	H T P	3
	パ ウ ム テ ス ト	40
	人 物 画 ( コ ビ ッ ツ 法 ) 検 査	1
	S C T 文 章 完 成 法	37
	P - F ス タ デ ィ	76
	M M P I	0
	ロ ー ル シ ャ ッ ハ テ ス ト	16
	C A T	3
その他の検査	絵 画 語 彙 発 達 検 査	68
	C M A S	1
	TK 式 診 断 的 親 子 関 係 検 査	6
	両 親 意 見 診 断 検 査	4
	C A R S	13
	CBCL・子 ども 総 研 式 育 児 支 援 質 問 紙	76
	ベンダーゲシュタルトテスト	17
計	1136	

・発達追跡群

(人)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
10	10	13	11	8	8	7	4	2	7	9	6

代謝内分泌科のクレチン症、一過性甲状腺機能低下症の患児を中心に、年齢に応じた発達・知能検査を誕生日月に行い、12才になるまで発達のフォローを行う。

(3) 発達障害児の集団療育事業

対象：就学までの発達障害児

目的： 患児の家族に発達および障害についての理解を促す（障害の理解と受容）

患児の成長に保護者が喜びを見出し、患児に適した対応を図れるよう援助する（発達の促進）

幼稚園・保育所・通園施設等への集団参加に向けてステップをふませる（社会参加へのステップ）

発達障害児の集団療育(40回)	
のべ参加人数(人)	333

3ヶ月に一度、カンファレンスを行い、状況と今後の方針を確認した。

場所：指導相談部事務室兼カンファレンスルーム

参加者：当部部长・脳神経内科医師・精神科医師・当部部員

実施日：3月18日,6月10日,9月27日,12月20日

#### 4. 相談業務

相 談 業 務		
依頼科 経由相談	子どもの発達に関する相談・指導	704
	子どもの疾病・障害に関する相談	30
	在宅療養に関する支援	264
	医療費、障害者手帳等の福祉サービスに関する相談	128
	療育施設、児童福祉施設に関する相談・施設紹介	157
	被虐待児に関する支援・家族関係に関する相談	283
その他	家族、院内他部門、関連機関からの電話相談等	194
計（総件数）		1760

院外業務 31件

#### 5. 連携業務

連 携 業 務		
家	庭	164
外	来	268
病	棟	604
保	育 所	30
幼	稚 園	4
学	校	100
保	健 所	42
市町	保健センター	75
精	神保健センター	0
福	祉 事 務 所	108
児	童 相 談 所	166
児	童 福 祉 施 設	180
病	院 ・ 医 院	62
警	察	0
教	育 委 員 会	10
訪	問看護・ヘルパーステーション	98
そ	の 他	76
計（総件数）		1987

院外業務 32件

#### 6. 神戸市立友生養護学校 病弱児訪問教育部 わらび学級

当院では、治療や疾病の児童を考慮し、神戸市立友生養護学校 病弱児訪問教育部 わらび学級による訪問教育を行っている。入級・主治医面談等、学校との連携を指導相談部が担っている。

わらび学級のべ入級依頼患児数	
血液腫瘍内科	33
循環器科	3
新生児科	3
脳神経内科	1
アレルギー科	1
小児外科	1
計	42

(2005年新規依頼患児26名)

#### 7. 被虐待児症例等養育支援に関する業務

被虐待児等症例数（人数）	総合	脳内	脳外	新	循	精神	泌	腎	外	整	眼	産	その他	合計
臨時委員会（症例検討会）開催	5		2	1										8
院内より支援依頼	8	9	1	3	2	1	1		1	2				28
児童相談所等他機関からの支援依頼	2	1						2		1	1	1	1	9
合 計	15	10	3	4	2	1	1	2	1	3	1	1	1	45



今年も臨時委員会（症例検討会）を8例について開催し、患児の処遇について検討を行なった。児童相談所への通告は4例、保健所連絡が1例、既に児童相談所が関与している事例が2例であった。そのうち、母子分離が必要となり施設入所になった事例が1例あった。

一時保護委託の依頼相談については、満床もしくは当院での治療対象ではなかったことより、受理にならなかった事例が5例あった。

法改正とともに病院の求められている役割が変化してきている。さらなる対応の向上とともに、ネットワークシステムの再構築が急務となっている。

## 8. ひょうごユースケアネット

日 時	議 題	場 所	内 容	出 席 者
6月3日	平成16年度第2回推進会議	神戸市	平成16年度、平成17年度事業について	山崎 武美
3月5日	平成16年度第4回専門研修	姫路市	「軽度発達障害を理解する」	藤井美有
6月14日	平成17年度第1回対策研究会	神戸市	平成16年度事業の結果報告、平成17年度事業	藤井美有
10月19日	平成17年度第2回対策研究会	神戸市	研究集会について、交流学習会について 専門研修について	藤井美有
12月16日	平成17年度第1回専門研修	明石市	「思春期の精神病理」	藤井美有

## 9. 教育研修活動

### (1) 小児精神・神経ネットワーク勉強会主催

日 時：原則毎月第2（火）

参加者：指導相談・地域医療連携部長、脳神経内科医師、精神神経科医師、外来看護師、指導相談・地域医療連携部員

実施日	内 容	担 当（敬称略）
1月11日	在宅 ～事例紹介～	指導相談・地域医療連携部 保健師 行 祥子
2月8日	脳と可塑性	脳神経内科医師 相馬 收
2月22日	統合失調症	精神神経科医師 前田宏章
3月8日	神経性食思不振症の事例検討	指導相談・地域医療連携部心理判定員 宮崎美知恵
3月22日	日本子どもの虐待防止研究会 第10回学術集会福岡大会 報告と虐待防止システムの再検討について	指導相談・地域医療連携部精神保健福祉相談員 長岡美佐
5月10日	こども家庭センターの業務紹介	西宮こども家庭センター心理判定員 川口 智
5月24日	拒食症児についてカンファレンス～拒食症児へのよりよい関わりに向けて～	脳神経内科医師 丸山あずさ 永瀬裕朗
8月23日	広汎性発達障害についての講義	精神神経科医師 前田宏章

### (2) 講 師

広島看護協会 平成17年認定看護師教育 新生児看護アセスメント

日 時	議 題	講 師
9月5日	新生児集中ケア	指導相談・地域医療連携部長 医師 山崎 武美

看護部 平成17年度 新任オリエンテーション

日 時	議 題	講 師
4月4日	こども病院の特色	指導相談・地域医療連携部長 医師 山崎 武美
4月5日	こども病院診療部の特色	指導相談・地域医療連携部長 医師 山崎 武美

## 看護部 平成17年度 こども病院ジェネラリスト教育(役割モデルの育成)研修 講師

日 時	議 題	講 師
12月20日	当院での在宅療養の実際	技術吏員 保健師 行 祥子

## (3) 講演および発表

平成17年11月21日、国立精神・神経センター

超低出生体重児の発達行動に関する検討

部長 医師 山崎 武美

## (4) 全国こども病院保健師連絡会

平成17年9月30日 兵庫県立こども病院にて、全国のこども病院・小児総合保健センターなど9施設が参集し、当院紹介・見学、保健活動に関する情報および意見交換を行った。

## ・ 地域医療連携部門

## ・ 相談件数

相談・苦情内容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
保険・制度に関すること	120	153	177	220	155	149	122	119	108	89	98	63	1573
苦 情	0	0	0	1	1	2	1	1	2	0	1	0	9
その他	14	25	14	8	10	6	8	4	9	5	8	2	115
計	134	178	191	229	166	157	131	124	119	94	107	65	1695

## ・ 相談経路

相談経路	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
継続のケース	14	38	50	43	40	21	28	30	25	18	19	10	336
医師・看護師からの紹介	40	50	53	58	37	47	27	37	26	25	31	13	444
受付職員からの紹介	29	31	41	34	18	31	36	30	18	13	18	11	310
直接窓口での問い合わせ	45	47	47	39	32	23	22	11	24	18	28	17	353
その他	6	12	0	24	12	8	3	1	5	4	2	3	80
再来(対応終了者より別件相談)				31	27	27	15	15	21	16	9	11	172
計	134	178	191	229	166	157	131	124	119	94	107	65	1695

# ボランティア部門の動き

## 1. 兵庫県立こども病院 ボランティア部 2005年度 活動報告

ボランティア部の主な活動は(1)こども病院の患者さんが関係する患者・家族会のいろいろな活動の際の「保育ボランティア」と(2)入院中のこどもたちに楽しみを提供する院内での「お楽しみ会」の主催です。

こども病院の患者・家族会は、胆道閉鎖症の「ひよこの会」、永久ストーマをもつ患児の「タンポポの会」、在宅中心静脈栄養管理を受けている患児の「かくれんぼの会」の3つが対象となっています。

院内での「お楽しみ会」では去年と同様、2月に神戸女子大学、9月に神戸大学の学生たちによる人形劇などを行いました。学生たちも本院の子供たちに会えることを楽しみにしています。

また定例化されたアレルギー両親学級の保育ボランティアにも神戸女子大学の学生に協力していただいています。

須磨区ボランティアセンターの登録はひきつづき行い、活動を地域にも広げたいと考えています。

### 活動報告

No.	月 日	内 容
1	2月23日	院内お楽しみ会 (神戸女子大学 キッズリーダー部)
2	4月8日	アレルギー両親学級 (保育)
3	6月7日	フィーリングアーツ
4	6月25日	花の植え替え
5	7月8日	アレルギー両親学級 (保育)
6	7月27日	院内お楽しみ会の打ち合わせ (神戸大学)
7	8月7日	ひよこの会 日帰りキャンプ
8	9月21日	院内お楽しみ会 (神戸大学 児童文化研究会)
9	12月8日	クリスマス会 (神戸ハーバーロータリー)
10	12月9日	アレルギー両親学級 (保育)

(今井・西島・伊賀)

# 一年の歩み

## 1年のあゆみ (2005.1.1～12.31)

- 2005.2.18 参議院少子高齢社会に関する調査会実情調査
- 7.15 県監査委員による平成15年度本監査の実施
- 8.23 神戸市保健所による平成17年度医療監視の実施
- 12.14 院内消防訓練の実施